

420  
41



始



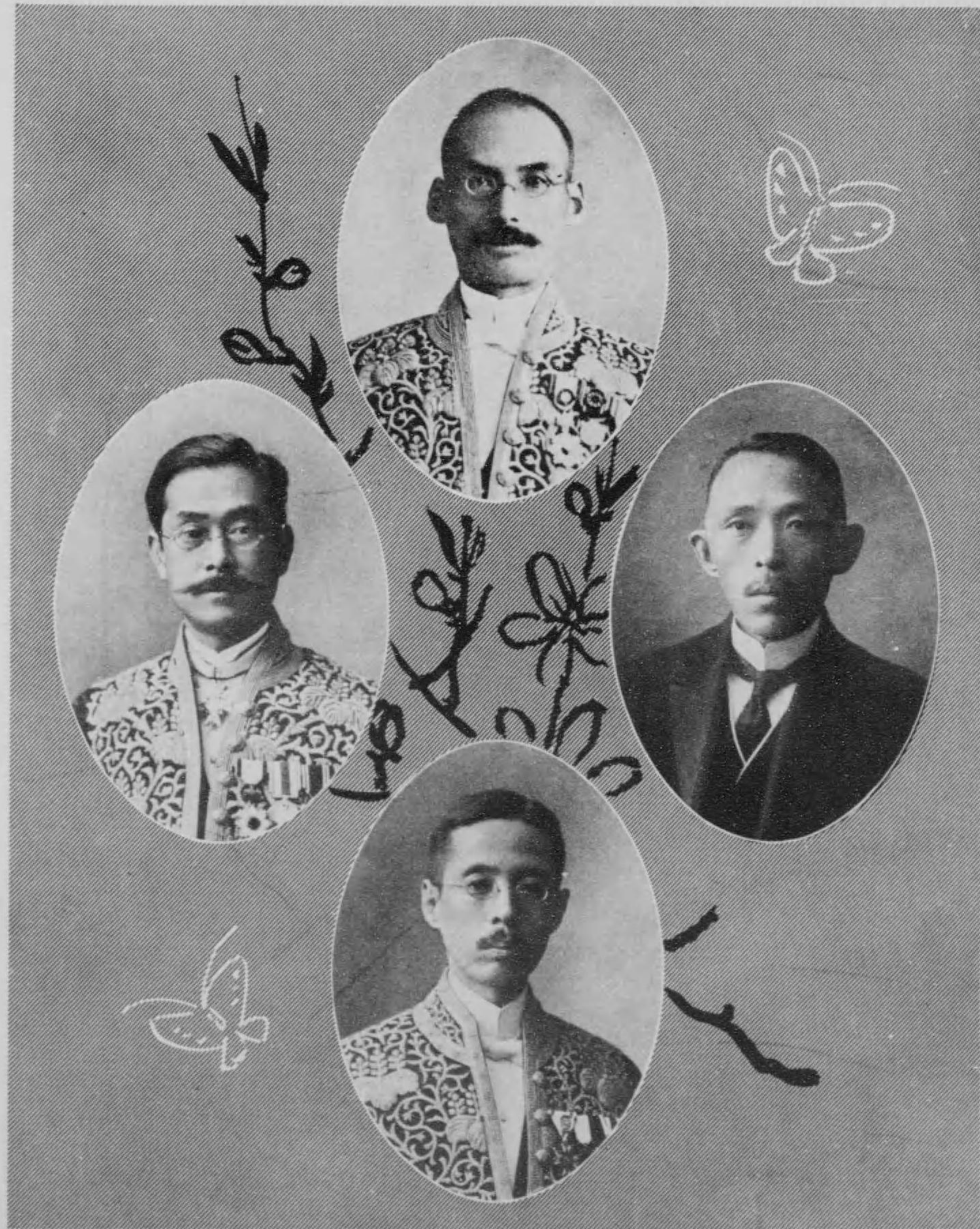
IT2V20

420-49



四國大觀

大正  
8 3.17  
内交



下圖 藏貴林若事知縣 媛愛  
 下圖 雄竹沼柿事知縣 知高  
 下圖 助之源宅三事知縣 島德  
 下圖 太幹田坂事知縣 川香



國  
 大  
 藏

#### 四國大觀自序

由來四國の地は氣候風土及宗教的關係に於て、民情概ね質朴不羈にして勸業慷慨の氣象に富むの處、海南、志士多く蹶起して以て王政維新の功業を成就するに共に、自由民權を唱導して、遂に其の志を遂ぐるや、更らに轉じて殖産興業に全力を傾注し、今や農商國として四州の聲價は海内に藉甚たるに至れり、就中、農、漁業、海運、製鹽、製紙、蠶糸業等の發達の如き長足の發展は亦以て人目を駭すに足るものあり、多く海内に匹儔する處あるを見ざるなり。

然かるに余、偶、筆を載せて四州を過ぎ、其の實狀を目睹するに及んで、更らに大いに駭然たるものあり、偶々之が弘く世に紹介せんか、我國産業上に裨益する所少からざるを思ひ、具さに其の現狀を調査するに共に各縣市郡當局を煩して其政界并びに産業界の中心人物の推薦を受け、親しく訪ねて其の主義懷抱を叩き、附するに余の人物評を加へ、輯めて以て**四國大觀**と題す。然れども之が必らずしも斯界知名の士を網羅して剩すところ無しと云ふべからず、人物、評論得て亦遺憾なしと云ふ可からず、されど調査正鵠、批判亦當らずと雖も遠からずは余の深く自ら信じて疑はざる所なり。願れば日子、三百有四十余日、四州の山河を踏破して剩す處なく、あらゆる名士に見ゆるの好機會を得て名論卓説を聽き、得るところ多かりしは、亦余の深く光榮とする所なり、今輯めて、一卷漸く成り目を閉むれば、親しむべき海南の山河は瞭然として眼前に展開し、亦名士商傑の風手は將に髣髴として目に映す、蓋し此の深刻なる印象は永遠に余の腦裡より去ることなからむ、敢て記して序云爾。

大正八年三月

都大觀社長

平塚 啓



# 四國大觀

## 目次

### 香川縣

總說	地理之沿革	行政之自治	財政	產業(農業、林業、水産工業、商業)	縣下の重要な會社	附屬下の銀行	交通	宗教	社	郡	名	縣下の代表的人物
大森財藏	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎

### 愛媛縣

總說	地理之沿革	行政之自治	財政	產業(農業、林業、水産工業、商業)	縣下の重要な會社	附屬下の銀行	交通	宗教	社	郡	名	縣下の代表的人物
大森財藏	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎	小野伊三郎

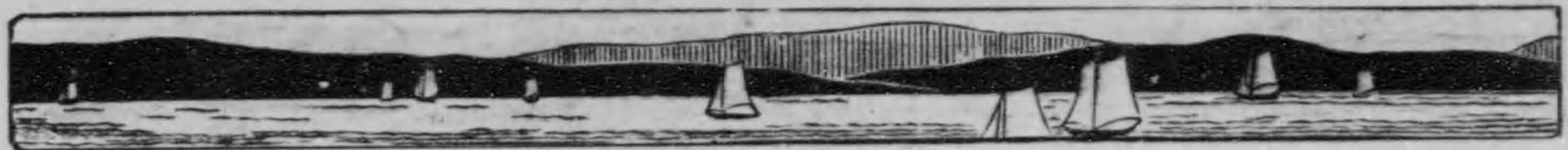
### 名譽贊助員 (イロハ順)

法學博士	今井嘉幸君
前衆議院議員	今西林三郎君
衆議院議員	生田和平君
德島縣警務部長	細川長平君
德島縣會議長	岡順次君
愛媛縣知事	若林資藏君
高知縣知事	柿沼竹雄君
貴族院議員	鎌田勝太郎君
前衆議院議員	高山長幸君
衆議院議員	成田榮信君
法學博士	政尾藤吉君
衆議院議員	松田三德君
前愛媛縣知事	後藤隆三君
衆議院議員	小西和君

### 特別贊助員 (順序不順)

香川縣知事	坂田幹太君
香川縣內務部長	岸本正雄君
德島縣知事	三宅源之助君
香川縣大川郡長	小川正作君
同 木田郡長	矢野庄太郎君
同 小豆郡長	石栗巍君
同 同前仲多度郡長	山口利文君
同 丸龜市長	樋口德太郎君
同 三豐郡長	末澤平吉君
愛媛縣新居郡長	片岡淑人君
同 周島郡長	天谷虎之助君
同 越前郡長	黒田懿十郎君
浮穴郡長	山下雅君
同 温泉郡長	井上恒藏君
愛媛縣多度郡長	倉根是親君
同 西宇和郡長	新名鍋吉君
同 東宇和郡長	國安清次君
同 北宇和郡長	松田虎次郎君
同 南宇和郡長	二見弘造君
同 代理助役	三神伸太君
德島縣名東郡長	宮城庄三郎君
同 名西郡長	香川甚四郎君
同 勝浦郡長	武井堅次君
同 坂野郡長	國友德芳君
同 美馬郡長	河名正名君
德島市長	一坂俊太郎君
高知縣吾川郡長	谷秀次君
高知市市長	川崎幾三郎君
高知市市長	中島和三君





目次

香川縣	香川縣
徳島縣	徳島縣
高知縣	高知縣

香川縣	香川縣
徳島縣	徳島縣
高知縣	高知縣

# 香川縣

## 總說

古來諸國なる國名は世に著しき信仰を以て迎ひられたる命刀比羅宮の鎮座します所なるのみならず、攝代の名僧智識たる弘法大師の孤堂を此地に築き、四國八十八ヶ所の太靈場を開きたる所とし、荷くも生きて此地を踏まざるものは、相共に歸せざるが如き習俗を維持するに至れるは、以て香川縣の誇りたるべく、四國に一光彩を添ふるもの云ふべし、然して如斯く、光彩を有せる本縣は、獨り、精神的尊嚴たるの譽あるのみならず、瀬戸内海運の便、瀬戸内海を通過して從ひ、山岳中央の盆地は益々深く掘られて、農産の改良、著しく、海産の鹽田は益々廣く拓かれ、製鹽工業の發達、顯著なるものあり、加らば、岡山縣と抗して其の譽を辱し小豆島の醬油は千葉、兵庫二縣の產



總論

香川の三田尻の製鹽工場

額に及ばざるも九州を凌駕して、愛媛縣と共に香川を争ふ其地、大豆の産額目録るべきもの然らば、其の生産産業の第一關門たる高松市は勿論、多度津、丸龜其他の諸港の發展して、物産の香叶多々益々増大するの傾向を有し、通商として呼ばれたる諸州の發展は、兎も山頭頂の威風凛凛の雄姿と共に進歩せり其地にして、社會の耳目を惹く然して其の人口の漸々として、阪神の密度に劣らざる、眞に偶然ならず云ふべし、是つて史蹟を探る、我が國明治維新前に於ける唯一の海戰地たる屋島あり、以て人生の歴史社會の變遷を眺めしむ、亦、弘法大師は昔に宗興の北平たるのみならず、一面には、殖産、興業、文藝、教育の施設、著せしめて遠く國運發展の基を創設したり、更に又天然の配置より之を觀れば、九州州都府の奇蹟、關東妙峯の性山と、鼎立並稱せられたる慶長は、大自然の妙技にして、地理學上の一大資料たらざるは、斯の如く、自然の巧緻と史蹟の證明とは、世人をして最も驚嘆高揚なる意志を興致せしめ、猶如して海戰悲劇の念慮を促し、亂對意ある發達を遂げしめ、是れ、我々の望みならずんば、況んや今上陛下尊極の御大典に際し、其地、香川の地に、古の光榮を踏ひし、後世に、本縣をして更に榮光をして永劫に傳へしむべく、愛媛、高松、徳島、香川、四縣の支脈にして、分水嶺を以て、平野、其の中央に介在して、濠洲、其の亦少からざるも、舟楫、海運の便なく、地味、精高なるに、加ふる大小一萬八千石の湖池を、益々、其の地味、其の成り。

## 地理と沿革

●地理 香川縣の位置は四國全島の右翼として東北の一隅を劃し、東に海、西に山、南に瀬戸内海、北に讃岐山脈を以て、西に徳島縣、南に高松市、東に丸龜市、北に高松市と接する。香川縣の面積は、約一千九百九十五平方キロメートルに達する。香川縣の地形は、概して、北に讃岐山脈、南に瀬戸内海、東に丸龜市、西に高松市と接する。香川縣の気候は、概して、北に讃岐山脈、南に瀬戸内海、東に丸龜市、西に高松市と接する。香川縣の人口は、概して、北に讃岐山脈、南に瀬戸内海、東に丸龜市、西に高松市と接する。



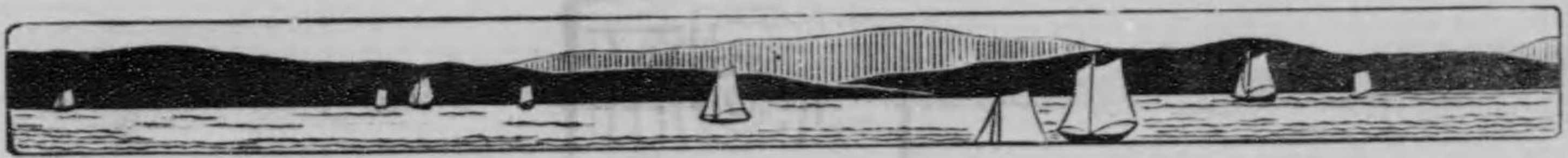
香川縣の風景

## 徳島縣

徳島縣	徳島縣
高知縣	高知縣

## 高知縣

高知縣	高知縣
香川縣	香川縣
徳島縣	徳島縣



地理 沿革

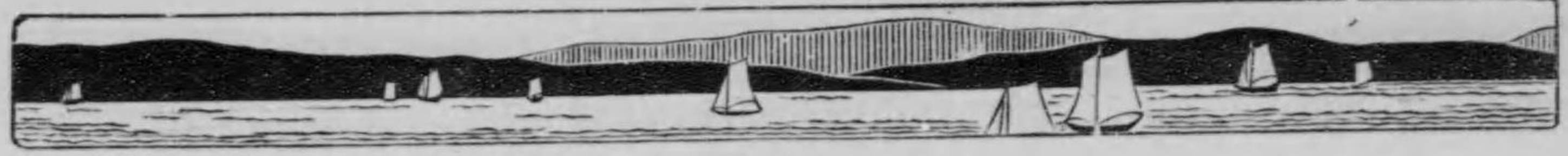
沿革 讃岐は往古に在ては依古之謂ひ亦謂ひ稱せり... 三野物及平賀朝臣の命等の子孫世々統治せし...



(左望ヲ橋月儀リヨ橋合迎庭南)園公林栗

炭村)に入る、紀元千九百九十五年(後醍醐天皇建武二年)細川定... 讃岐を平定し、爾後、頼朝、頼朝之、頼元、満元、持氏、勝元、...

て政務を整理せしめ、翌年、山崎宗茂を九郎に封じ、五萬石を... 與へたるも、後、治績に傳へ同くして終す、(紀元千三百一十...



行政 自治

本縣は其の地積比較的狭小なり、之を他の各縣と共同救済... すべくもあらず、況んや國風ニ民俗ニは徳島、愛媛、高知の諸縣...

Table with columns for year (e.g., 同二十八年十一月), position (知事), and name (深野一三).

戸口 本縣戸口は土地積而に比し頗る稠密にして、現任人... 戸數一割六厘の増加に過ぎず、本縣人口八十七萬七千五百...



大いに人心を奮... 七人、略者六百... 五十五人、合計...

吏員 縣職員は勲任官一、委任官十八、聘任官九十六、... 吏員百廿七、雇員七、合計百七十四人、...

財政

由來山川の美は標榜の甚し、税賦相付ふものにあらず、高松、丸... の二市を除き只之れ殆んど地方に於ける物資の轉換地たるに過ぎ...



百六十四回、教育費一千八百五十九回、警費十八百二十七回、...

農業

産

順次に四國に於ける香川縣の地勢は既に詳述せる如くにして、川流の潤滑、人口の過密等、天然に人為の甚く農業経済は最も、不利多きに拘はらず、現在耕地反別五萬町歩、農産の富、漸次増加し來...

甘蔗 所謂甘蔗三白の一たる白糖の原料にして、古來其の製造に關しては苦辛慘憺たる歴史をなす、按るに德府の初め、平賀源内あり、香川縣事濱村花畑に試裁してより、寛政年間、向山周慶之を轉き、天保年間に至り其の産額を増加したりしが、明治維新後、科擧の進歩に伴ふ洋糖業者の製品に壓倒せられ、一時衰退に傾きしも、幸にして當局の指導導達ニ、當業者の勉勵努力に依り、順勢を挽回したるは悦ぶべく現時甘蔗生産高五百五十六萬六千八百四十六百担、...



社會式株油醬庄土

蠶業 桑畑反別七百七十七町歩、飼養數五千存蠶五千四百四十戸、蠶繭三百九十三、秋蠶四千五百十二、生蠶繭六千二百五十五、蠶額二千八百九十九、...

畜産

馬の飼養を主とする家の總数は實に尙るべからざるものあり、...

りたるは悦ぶべきこと、云々、されど、明治三十八年以來の大水利組合の設置されてより、地水利の理渠を敷くに至る、爰に於て積年の苦痛たる旱暵の患、漸く除去されて、晴の地、晴に變じて肥沃の土に化せんす、即ち天然の不利は人為の努力に俟ちて順次面目を改めたり、...



部一ノ園公林琴町津津莊別氏野上

米 農産物の首位にあり、作付は反別三萬五千七百卅三反、其の由來ある所を考察すれば、一は古來の農本主義に基き近くは明...

林業

本縣は縣内の總面積に對する五割六分の森林帯を見ずも、森林の施行に先づ之を急務したるため、國庫に資すべき著名の森林なく其たしきに至つては、...

の三千七百七十七町歩、...

大豆

作付反別千五百廿八町四反、...

麥

作付反別四萬五千九百九十五町四反、...

甘藷

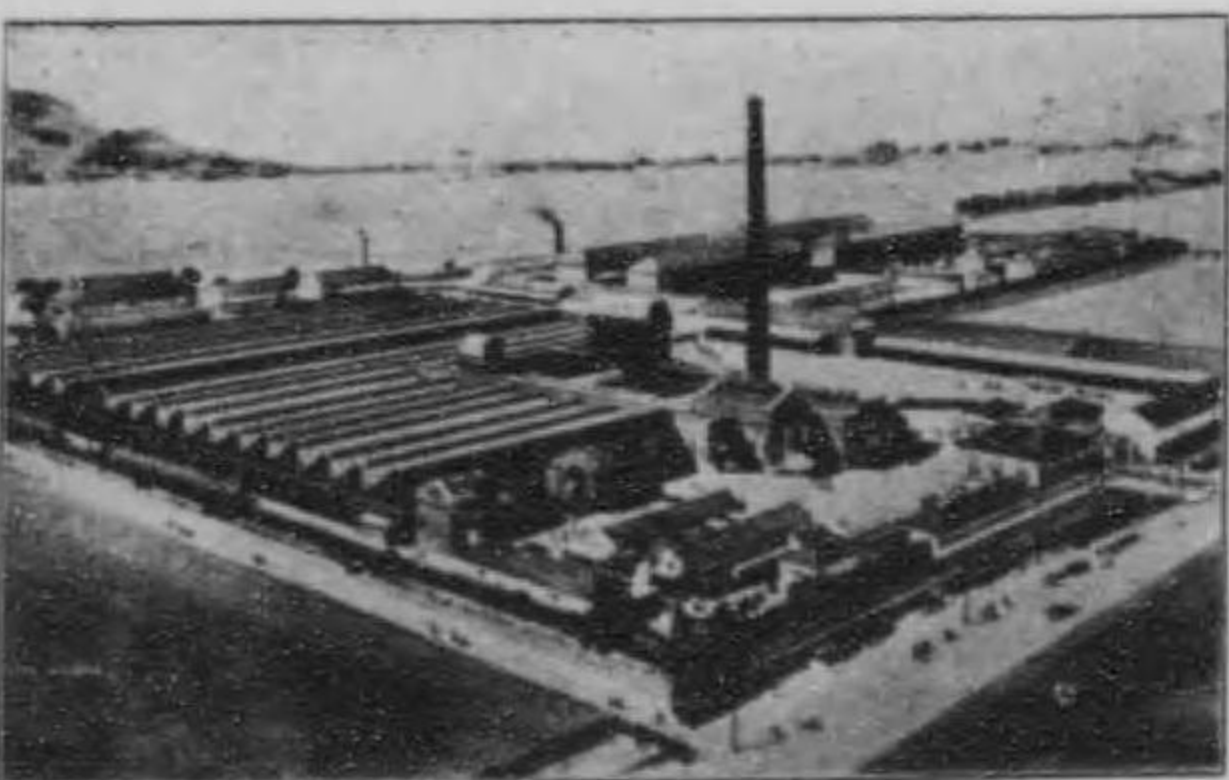
本縣特産の一にして年産額九百四十四、...

山林面積

本縣に於ける山林面積は九萬五千八百九十三町七反なり。

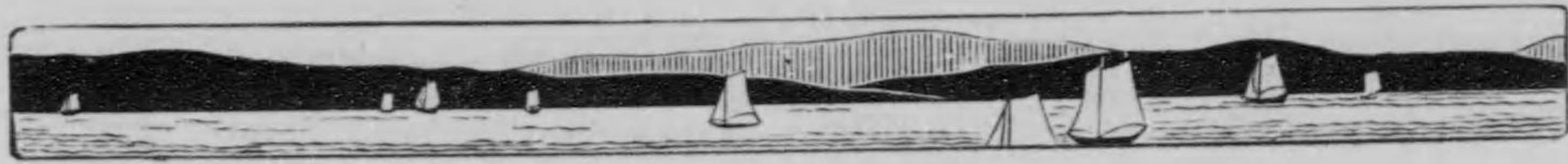
林産

總生産額は九十八萬六千二百七十九圓にして、...



水産 本縣の水産業は大いに見るべきものあり、...



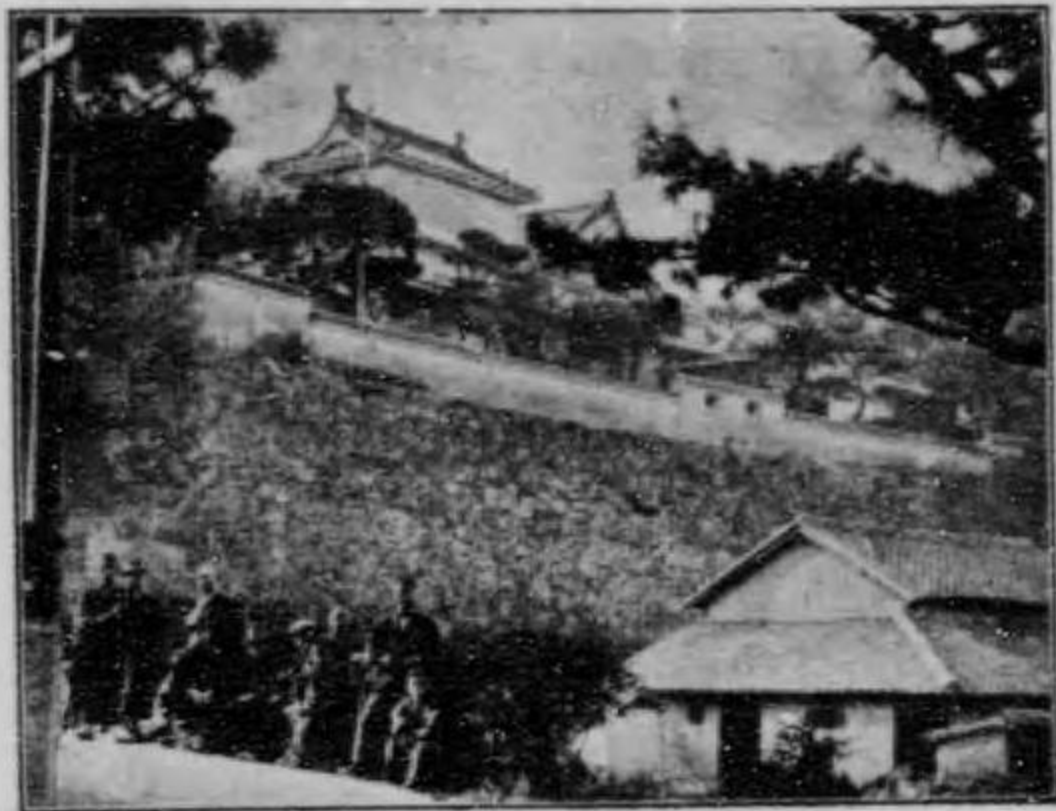


生ず。されば本縣の水産が幾ばくの増進あるかを見るに、總水産額五百萬五千八百四圓の多きを示せり、以て本縣の富を増大するに多なるもの云ふべく、又旺んたり云ふべし。

●製鹽業 鹽田反別は一千百廿三町(二市六郡、千七百町村)にして製造高は二萬六千七百七十九萬八千四百三十六斤、此金額三百十四萬二千六百四十三圓なり、然して其の産地は殆んど沿岸一帯を占め産額は本邦の首位にあり。

●漁獲物 總額百十五萬四千二百廿餘圓にして、小豆、三豐、大川、仲多度等の各郡は各十萬圓以上を産し、魚類は、真鱈、鱒、鮭、鰯、其他十九種九十八萬三千四百五十五圓、貝類は、牡蠣、蛤、其他にて小豆郡産額最も少く、九領市最も多く産額十五萬九千九百七圓にして、三豐郡の五萬六千圓を最大とし、歌郡の三千五百圓、一八八圓を最少とす。

●水産製造物 總額廿二萬九千九百六十一圓にして、主産地は小豆郡、高松市、三豐郡、大川郡を以て、其の大部分は食品に屬し、素乾四百八十八圓(鱈類其他)、鹽乾三千七百七十四圓(海苔、鰯)、鹽物一千二百七十五圓(鰯其他)、魚粉水産物には、鰯、鱒、鮭、鰯の類を産す、蓋し如斯に富に一縣の富源なり云ふべし。



寺妙木山中宗蓮日

●瓦斯業 日本瓦斯株式會社、關西瓦斯株式會社の經營にして瓦斯管延長二千三萬八千九百二十九呎、燈數七千八百八十八燈、燃料消費口數二千八百二十三口、動力供給二百五十三馬力、燃料金四萬五千四百圓なり。

●團扇 丸扇團扇株式會社、同社は元、尾池松太郎君の經營に係るものなりしが、明治二十七年七月、株式會社組織に變更し、事業を繼承したるものにして、一時、恐慌に陥りしに、非に非すとも、時勢の進運に伴ふ對策の隨に當りし、非凡なる尾池氏の努力に依り、漸次小康を安んじたりしが、今や大いに發展して一箇年の輸出并に移出總額十萬圓に達し、大阪其他、近畿地方並びに遠く南米方面に一大販路を有す、蓋し其前途は多々金貨を好望なり云ふべし。

●倉敷紡績株式會社坂出工場 是元、倉敷紡績株式會社(明治三十年十二月創設、資本金四十五圓)を買収したるものにして、既に製品の優秀し設備の完備し、於て斯界に有名なるものなり、蓋し買収後の倉敷は、同社及松山紡績の買収に依つて殆んど三國の紡績會社を統一したるものにして、倉敷の將來は、大いに數目に置するものなくんばあらず。

●丸金醬油株式會社 小豆郡高野村、創業明治四十年二月、資本金三千萬圓、一株五十圓、株數六十餘萬圓、高野村、資本金十一萬圓。

會社

社長 木下忠治郎 専務取締役 黒島 廣市 金融機關

工業

たるのみならず、國家の一大財源たるもの云ふべし。

工業は國家繁榮の基礎にして之が發展と衰退は以て國家興亡の岐路なり、今次の歐戰に於て獨逸が歐戰四年の久しきに亘つて世界の列強に敵ひ得たる所以のものは、悉く以て、獨逸工業の發達に期す、吾人の工業を獎勵所以のものは實に愛に存す。本縣の工業は總產額千三百一十一萬九千九百九十一圓にして、戶數七千五百十三、従業者三萬九千九百六十八、内直接間接を納むる製造業者八百四十二、印刷業者二千九、官製業者一にして其の設備に至つては工場法に依るもの百七十七ヶ年、内五十六工場は動力を有し、蒸機四百六十三馬力、動力機七十五馬力、動力機、六百九十六馬力合計千二百三十四馬力を以て作業せるもの百十四工場は動力を有せず、而して以上百七十七工場に使用せる職工は男工一千七百二十六人、女工二千九百二十四人、合計五千六百五十九にして別に勞働人夫三百四十六人を配屬す、其の現産總額は六百八十四萬四千六百七十六圓を算し、千二百八十八萬二千二百九十八斤の石炭を消費せる。

●醬油 本縣の醬油製造戶數は總數減少の傾向あるも製造戶數三百四十六戶、醸造高十六萬四千四百廿七石、價額五百五十五萬四千八百七十二圓にして、二十五圓五十三錢七厘に當り、而して本縣は一縣、麥及び大豆良質なるを以て各郡殆んど醸造を爲さざるものなく、就中小豆郡は、石高價額の最低廉を以て全縣の七割を造りし、小豆醬油の名は全國に著しく、而して内地各府縣及び遠く外世に輸出せられ、千並野田三東西相稱せらる、自家用醬油醸造は他縣に比し、著しく少く、一萬一千五百五十八に過ぎざる。

●砂糖 製糖三廠の各は遠く大いに糖業者より忘れられたるも千九百廿六の製造業者あり、榨取數千五百十五を有し、白糖五百七十七萬九千五百卅四斤、白糖糖二十五萬五千八百三十三斤、糖蜜十四萬九千九百一十一斤其の價額六十一萬、合計六百七十七萬八千四百九十九斤、價額七十三萬五千四百三十三圓を、大川郡、三豐郡、高松市の一を以て、木下郡に當り。

●電燈業 高松電氣株式會社、小豆郡電氣株式會社、四國水力電氣株式會社の經營にして線路延長七十四里十五町二丁四間燈數六萬七千七百九十三燈、料金は三十五萬九千六百九十九圓なり。

●酒 釀造戶數百十三、造石高は清酒四萬五千八百五十五石、額八百八十七萬七千五百八十七圓、啤酒四十五萬五千八百四十四石、額四百五十一石、額九千五百六十一圓、白酒五十一石、額三千三百八十八圓、合計四萬六千五百六十六石、百九十一萬八千八百九十八圓にして、小豆郡、高松市を除き、他は十萬圓以上を産し、仲多度郡は其の首位を占む。

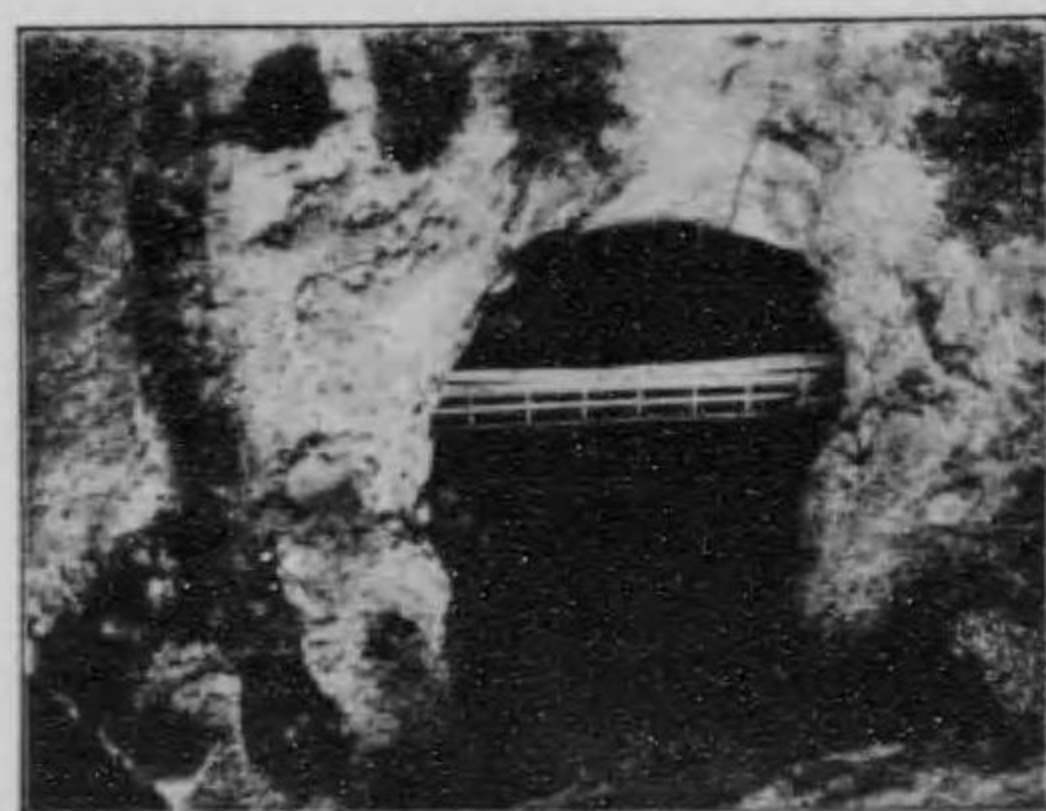
紡績綿絲



●紡績綿絲 織造部坂出町織造紡績株式會社のみの製品にして、動力六百五十馬力、女工八百五十八人、男工百七十七人を使用し、製絲二千手及び十手を製造し、年産額六十六萬四千七百四十七圓、價額百五十二萬四千七百六十二圓なり。

●砂糖 製糖三廠の各は遠く大いに糖業者より忘れられたるも千九百廿六の製造業者あり、榨取數千五百十五を有し、白糖五百七十七萬九千五百卅四斤、白糖糖二十五萬五千八百三十三斤、糖蜜十四萬九千九百一十一斤其の價額六十一萬、合計六百七十七萬八千四百九十九斤、價額七十三萬五千四百三十三圓を、大川郡、三豐郡、高松市の一を以て、木下郡に當り。

●島醬油株式會社 小豆郡高野町創業明治廿九年七月、資本金三十萬圓、一株五十圓、株數六十餘萬圓。



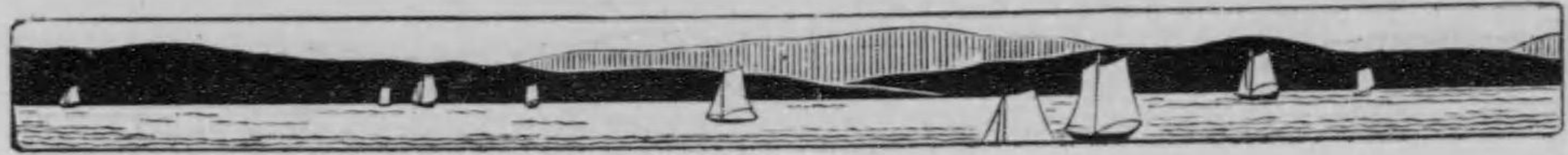
洞師大溪霞島豆小

●ジャパンカラーズ株式會社 同社は香川縣琴平町にあり、大正五年四月の創立にして資本金十萬圓(二萬五千圓) 取締役社長 中田 延次 同 八木 榮十郎 同 長西 長次郎 同 菅 豊三郎 同 藤 出 寛一 同 阪本 定五郎 同 水野 邦次郎 同 高橋 重太郎

金融機關

●株式會社東譜銀行 大川郡高野町、本縣の金融機關は愛媛縣に及ばざるも高知、徳島の二縣を凌駕し相當發展の著しきものあり、銀行に於ける一箇年間の出納高三億七千八百七十三萬二千三百三十六圓、年末預金現在九百四十六萬七千二百二十一圓、貸付金現在七百八十二萬六千六百七十七圓、通算現在、百一萬四千六百六十九圓、貯金現在、百五十八萬八千六百四十六圓、郵便貯金現在、百三十三萬七千三百九十九圓にして銀行は縣下を通じて十九あり、四、





創業明治廿六年十二月、資本金十萬圓(拂込済)一株五十圓、諸積立金一萬四千圓、諸預り金七十九萬五千圓、利益配當前期及前々期年七分

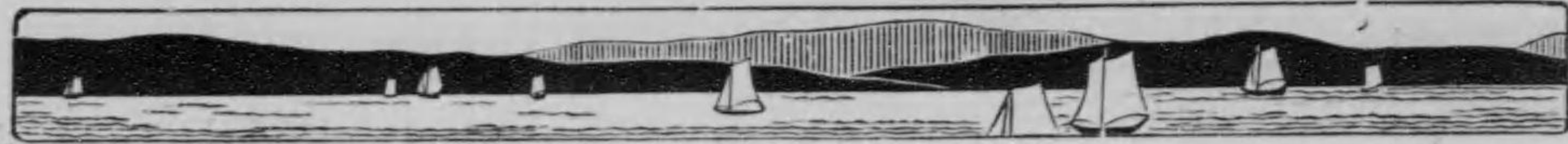
專務取締役 近藤 泰平  
 取締役 對馬 清平  
 同 間島 九平  
 同 岡坂 政五郎  
 同 佐藤 昌善  
 同 織田 安太郎  
 同 業務部長 坂 延衛  
 同 監査役 廣田 宗三郎  
 同 津田 支店 大川郡津田町  
 ●長尾支店 大川郡長尾町

●株式會社大内銀行

創業明治三十年十二月、資本金十二萬圓(拂込済)一株百圓  
 頭取 藤田 虎太郎  
 取締役 佐野 新一平  
 同 林 恒三郎  
 同 堀 岩三郎  
 同 沼田 兼三郎  
 同 監査役 谷口 潤藏  
 ●引田支店 大川郡引田町  
 ●津田支店 大川郡津田町

●株式會社多度津銀行

創業明治二十四年八月、資本金二千圓、諸積立金十萬五千二百圓、諸預り金一萬二千四百六十九百二十七圓、利益配



營業部長 額田 安太郎  
 ●玉瀧町支店 高松市玉瀧町  
 ●丸瀨支店 丸瀨市玉瀧町  
 ●草壁支店 小豆郡草壁町  
 ●長尾支店 大川郡長尾町  
 ●善通寺支店 仲多度郡善通寺町  
 ●觀音寺支店 三豐郡觀音寺町  
 ●栗林出張所 香川郡栗林村  
 ●丹生出張所 大川郡丹生村  
 ●豐濱出張所 三豐郡豐濱町  
 ●平木出張所 木田郡平木村  
 ●池田出張所 小豆郡池田村  
 ●上高瀬出張所 三豐郡上高瀬村

●株式會社宇津津銀行

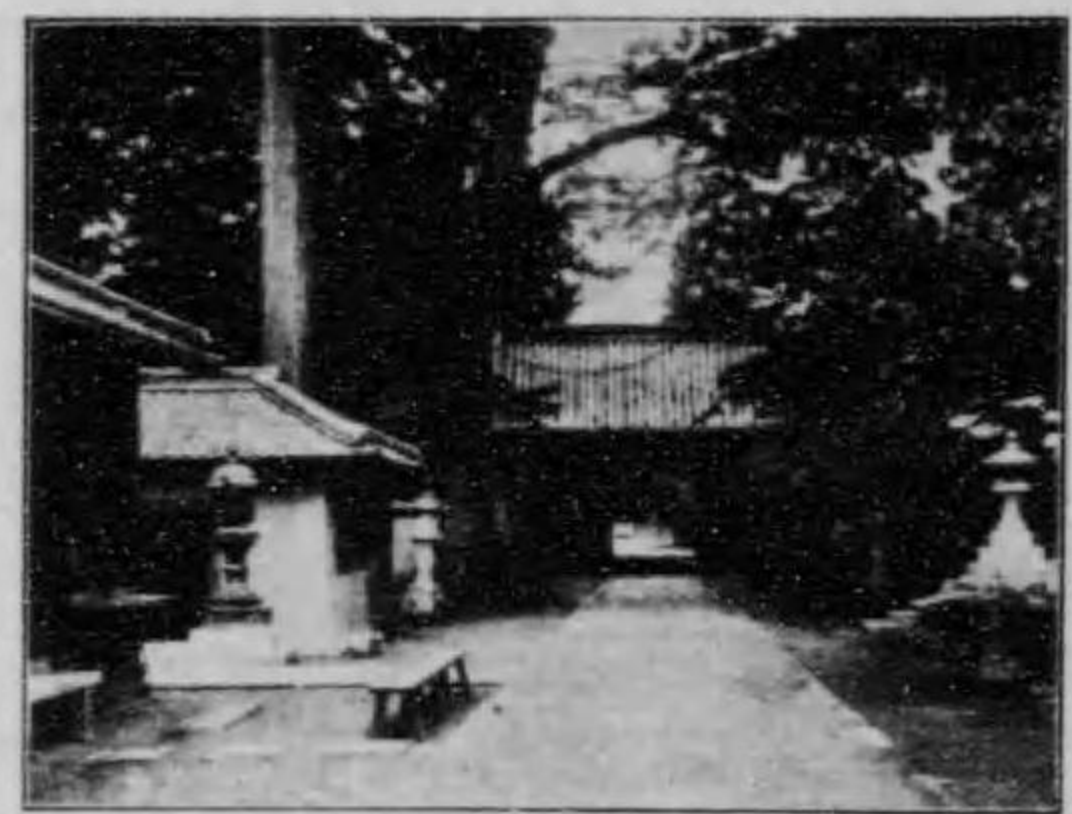
創業明治三十一年四月、資本金十五萬圓、一株五十圓、諸積立金六萬圓

●合名會社松山銀行

創業明治四十一年四月、資本金三萬圓、諸積立金一萬一千三百圓、諸預り金三千四百三十一圓、利益配當前期及前々期年一分

●株式會社琴平銀行

創業明治廿八年六月、資本金三千萬圓、一株五十圓、諸積立金一萬七千五百圓、諸積立金一萬三千三百圓、諸預り金一十五萬四千

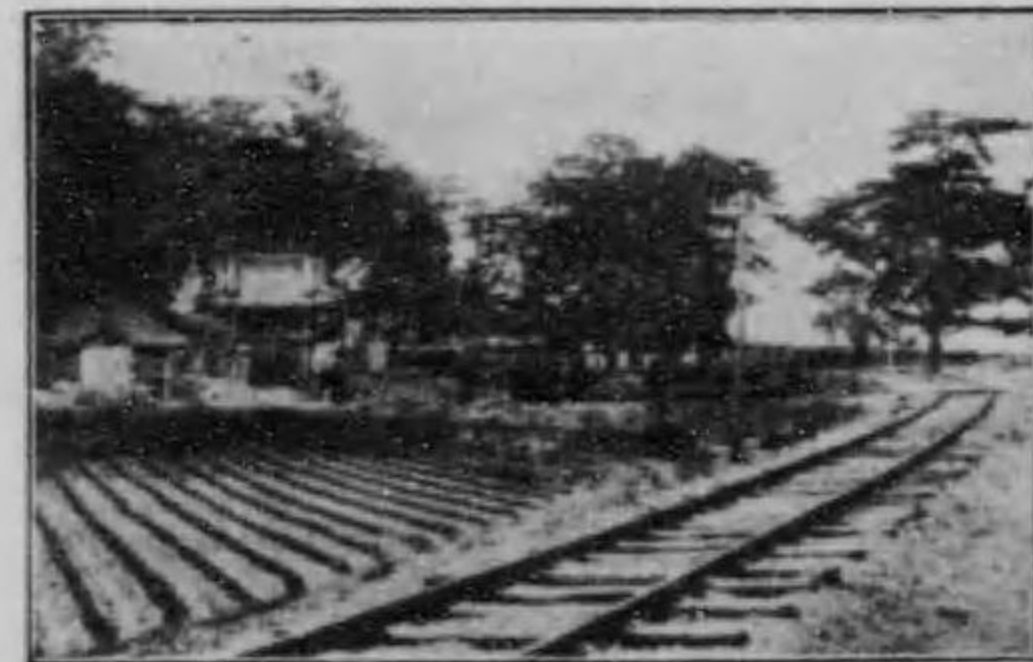


四十六圓、利益配當前期年七分、前々期年六分  
 專務取締役 石井 茂吉  
 取締役 石井 茂次  
 同 安達 八郎  
 同 山崎 三郎  
 同 增田 一平  
 同 監査役 國田 寅彦  
 同 齋藤 治彦  
 同 石井 禮太

●株式會社丸龜商業銀行

創業明治二十九年十一月、資本金十二萬圓(拂込済)一株五十圓、諸積立金一萬二千二百圓、諸預り金六十一萬四千五百三十八圓、利益配當前期年六分、前々期年七分

專務取締役 岩澤 眞一  
 取締役 長島 重吉  
 同 氏家 照一  
 同 合田 政重  
 同 田中 寅一  
 同 監査役 田中 寅一



創業明治廿九年七月、資本金五十一萬圓(貯蓄兼營)一株一百圓、諸積立金二十六萬五千五百圓、諸預り金三百六萬二千圓、利益配當前期及前々期一分

●株式會社高松銀行

創業明治廿九年七月、資本金五十一萬圓(貯蓄兼營)一株一百圓、諸積立金二十六萬五千五百圓、諸預り金三百六萬二千圓、利益配當前期及前々期一分  
 專務取締役 伊藤 三郎  
 常務取締役 宮武 恒造  
 取締役 七條 之助  
 同 品川 少吉  
 同 鎌田 治太郎  
 同 監査役 尾好太郎  
 同 今井 傳大

●株式會社高松百十一銀行

創業明治十一年十一月、資本金一百十三萬圓(貯蓄兼營)一株五十圓、諸積立金五十一萬五千圓、諸積立金三十九萬五千圓、諸預り金九百一十一萬四千三百九十八圓、利益配當前期及前々期年九分

頭取 藤田 房治  
 專務取締役 井上 其房  
 同 片山 高治  
 同 高山 高治  
 同 監査役 北村 高吉  
 同 山北 高吉

●株式會社綾歌銀行

創業大正四年六月、資本金五十萬圓、一株五十圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸預り金一六六萬九千一百九十四圓、利益配當前期年七分、前々期年六分四厘



(行銀歌綾社會式株)

頭取 藤田 房治  
 專務取締役 井上 其房  
 同 片山 高治  
 同 高山 高治  
 同 監査役 北村 高吉  
 同 山北 高吉  
 ●琴平支店 仲多度郡琴平町  
 ●山田出張所 綾歌郡山田村  
 ●栗熊出張所 綾歌郡栗熊村  
 ●法勤寺出張所 同 法勤寺村



金融機関

● 瑞岡出張所 同 瑞岡村

● 飯野出張所 同 飯野村

株式會社 謙岐農工銀行

高松市南新町

創業明治三十一年二月、資本金八十萬圓、一株二十圓、積立金六十一萬圓、諸積立金十九萬四千二百五十七圓、諸積り金四十六萬五千五百七十八圓、利息配當、前期及前期々々期年八分

頭取 細 溪 宗 治 郎  
専務取締役 湖 尾 等  
取締役 鎌 田 勝 太郎  
同 景 山 甚 右 衛 門  
同 加 藤 謙 吉  
同 山 田 惠 一  
監査役 渡 瀬 岩 太郎  
同 鳥 取 治 郎 八  
同 上 野 彌 九 郎  
營業部長 牧 伴 五 郎

株式會社 謙岐銀行

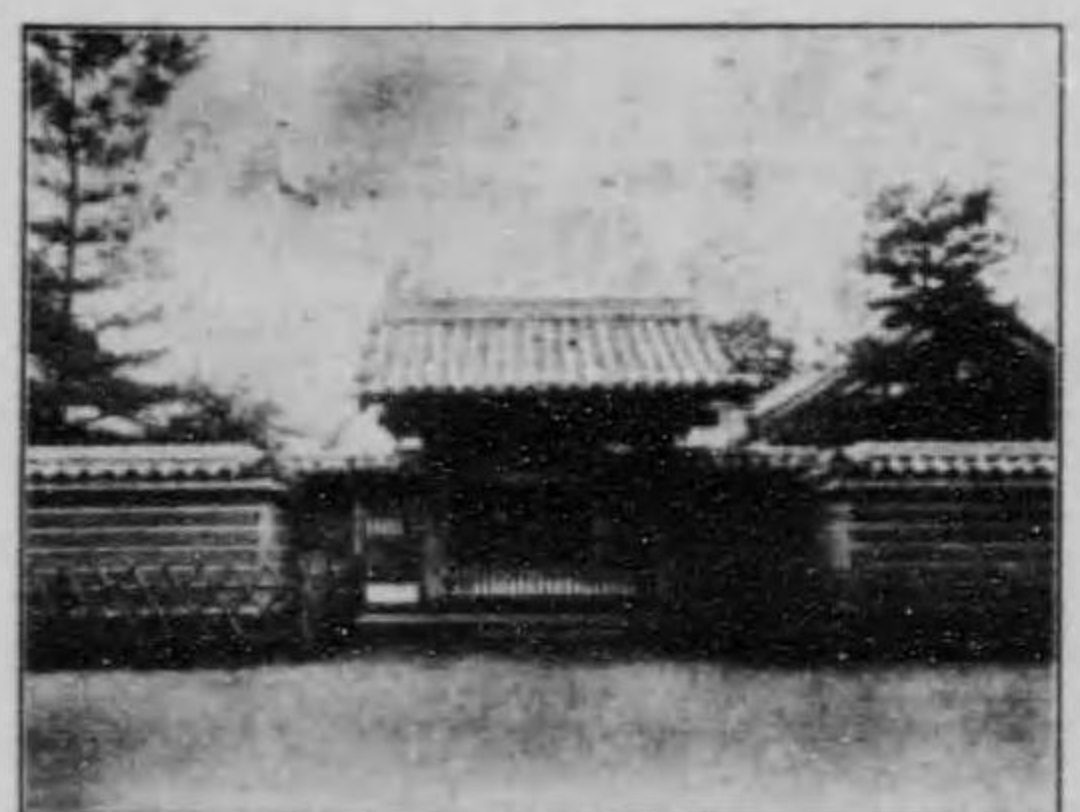
仲多度郡多度町

創業明治三十三年十一月、資本金一萬圓、一株一圓、諸積立金七千一百圓、諸積り金四千五百圓、千三百四十九圓、利息配當前期は前期々々期年八分

頭取 村 井 岩 吉  
取締役 眞 嶺 長 平  
同 後 藤 豊  
監査役 村 井 彌 平 治  
同 村 井 半 助  
取出支店 饒 部 郡 飯 出 町  
● 高柳出張所 同 飯野村

株式會社 坂出銀行

饒 部 郡 坂 出 町



創業明治廿六年六月、資本金二千圓、一株一圓、諸積立金五十四圓、諸積り金七十八萬圓、諸積立金十一萬九千圓、諸積り金七十八萬四千圓、利息配當前期年五分、前期々々期年七分

頭取 鎌 田 勝 太郎  
常務取締役 鎌 田 大 三 郎  
取締役 多 田 羅 龜 之 丞  
監査役 津 久 井 金 太郎

株式會社 坂出同盟銀行

饒 部 郡 坂 出 町

創業明治三十五年七月、資本金十五萬圓、諸積立金四萬一千二百圓、諸積り金六十三萬四千八百圓、利息配當前期年九分、前期々々期年八分

頭取 洲 崎 眞 一  
取締役 高 宮 用 平  
同 高 木 甚 一  
同 清 水 礎 五 郎  
同 津 島 辰 治  
同 後 藤 武 八  
監査役 平 田 喜 平 太

株式會社 三豐銀行

三 豐 郡 觀 音 寺 町

創業明治廿九年一月、資本金十五萬圓、一株五十圓、諸積立金五萬一千五百圓、諸積立金四萬五千圓、諸積り金十一萬四千八百一圓

頭取 廣 瀬 滿 正  
取締役 櫻 井 海 正  
同 田 内 榮 三 郎  
同 村 瀬 正 敬  
同 藤 田 利 三 郎  
同 安 藤 賴 彦  
監査役 福 田 新 十 郎  
同 山 本 義 晴  
同 藤 田 勝 治

株式會社 明正銀行

仲多度郡觀音寺町

創業大正二年一月、資本金五十萬圓、一株五十圓、諸積立金五萬圓、諸積立金一萬四千五百圓、諸積り金五十五萬一千九百十圓、利息配當前期及前期々々期年八分

頭取 高 木 次 郎  
取締役 後 藤 田 千 一  
同 鷗 岡 孝  
同 高 橋 三 保  
同 山 崎 三 省  
同 山 崎 昌 功  
監査役 豊 島 卯 兵 衛  
同 秋 山 吉 太 郎

小豆高銀行

小豆郡土庄町

創業明治二十九年十月、資本金六萬圓(拂込)一株五十圓、諸積立金四萬三千六百圓、諸積り金二萬八千五百五十七圓、利息配當前期及前期々々期年八分



寺 山 本 村 山 本

頭取 大 森 財 藏  
同 森 達 造  
同 中 塚 吉 朗  
同 三 枝 林 造  
監査役 岡 上 喜 平  
同 大 森 貞 資  
同 太 田 喜 郎  
支配人 池 本 金 八

重なる銀行

● 株式會社 高松百十四銀行(高松市丸の内)は明治十一年の創立にして、資本金百十三萬圓(五十一萬五千圓拂込)積立金三十六萬二千圓を有せる香川縣有数の銀行にして、夙に堅實なる發展を招き、前期の如き九割の配當を呈しつゝあり、蓋し同地方金融状態

金融機関

の緩急に依り時に消長ある可し、雖も、既にして固たる基礎を成るを以て、同銀行の發展は期して待つべきものあるべし、同社重役左の如し、

● 頭取 鎌田勝太郎 常務取締役 井上真作 取締役 片山高義、和泉勝三、片山高治 監査役 小田知雄、北村菊吉、山内徳藏 相談役 中野武彦

● 株式會社 高松銀行(高松市通町)は明治二十九年八月の創立にして資本金五十二萬圓(二十九萬四千圓拂込)積立金二十四萬四千五百圓(大正七年上期現在)を有し前期は一期一分の配當を可決せり、同銀行は頭取鎌田勝太郎氏の發願創業に係るものにして、開業以來順況の發展を招きし今日に至りたるが、斯は全く頭取鎌田氏の手腕と努力による所多し、三六、亦専務増田伊三郎氏が銀行家として多年の経験あり、加ふるに天性數理的頭腦ありて取引の正確を期せると同時に、亦社務の方面に特異の手腕あり頭取を輔けて行務運用の妙を得たるが爲めに他ならず、増田専務の功勞又決して辭きにあらざるなり、因に同銀行は南新町、田町、坂出、平井、内海に支店の設けあり

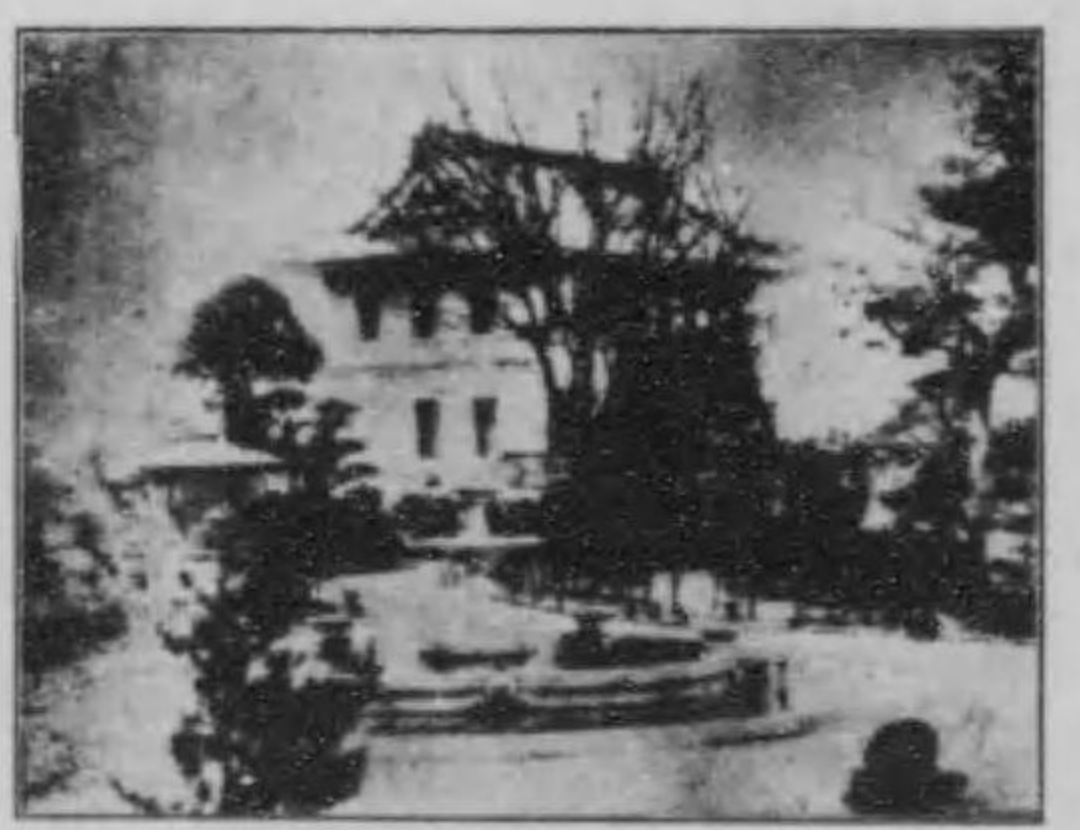
● 株式會社 饒部銀行(香川縣饒部郡坂出町)は大正四年九月の創立にして資本金五十萬圓(十一萬五千圓拂込)を有し同郡屈指の銀行にして普通一般銀行業を営む、琴平に支店を、端岡、山田、栗原、法勤寺、飯野各村に出張所を設け相當に發展し信用亦可成實し、然れども創業尙ほ日淺き故を以て發展は率々今後に待つべきもの多し、同銀行の重役左の如し、

頭取 木村幸吉、取締役 大西彌吉、大石昌一、末澤潤吉、土岐安平

株式會社 丸龜商業銀行

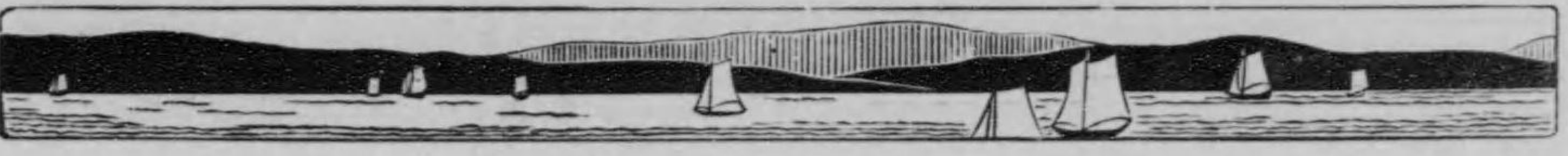
丸 龜 郡 水 通 町 百 四 四 町 行

● 創業明治廿九年十一月地方有志の創業に係るものにして資本金十二萬圓(拂込)積立金一萬六千圓(大正七年上期現在)を有し前期は年六分の配當を可決せり之に依つて之を見れば同銀行は一見其の發展の感なきに非ず、蓋し山來同地方は金融不振の土地猶なるを以て同銀行現在の資本金は決して少なるものに非ず、又配當は前記の如く常に高率を見ず、且増資を爲したるに乏し、雖も、斯は同銀行が一時の射利的思惑を以て小生利地方人士の投資を誘ひ常に堅實なる營業方針を採れるが爲にして、同銀行が、丸龜市に於ける一流銀行として多大の信望ある所以なり、然る近來同地方は金融の旺んるものあり、従つて金融界の趨勢は漸く射利を帯び來りたるを以て、同銀行將來の運命亦期して待つべきものあるなり、因に同銀行は前記本店の外、豊濱、仁尾、饒間に出張所を設けあり



場 馬 櫻 新 比 刀 金

● 創業明治廿九年十一月地方有志の創業に係るものにして資本金十二萬圓(拂込)積立金一萬六千圓(大正七年上期現在)を有し前期は年六分の配當を可決せり之に依つて之を見れば同銀行は一見其の發展の感なきに非ず、蓋し山來同地方は金融不振の土地猶なるを以て同銀行現在の資本金は決して少なるものに非ず、又配當は前記の如く常に高率を見ず、且増資を爲したるに乏し、雖も、斯は同銀行が一時の射利的思惑を以て小生利地方人士の投資を誘ひ常に堅實なる營業方針を採れるが爲にして、同銀行が、丸龜市に於ける一流銀行として多大の信望ある所以なり、然る近來同地方は金融の旺んるものあり、従つて金融界の趨勢は漸く射利を帯び來りたるを以て、同銀行將來の運命亦期して待つべきものあるなり、因に同銀行は前記本店の外、豊濱、仁尾、饒間に出張所を設けあり



交通

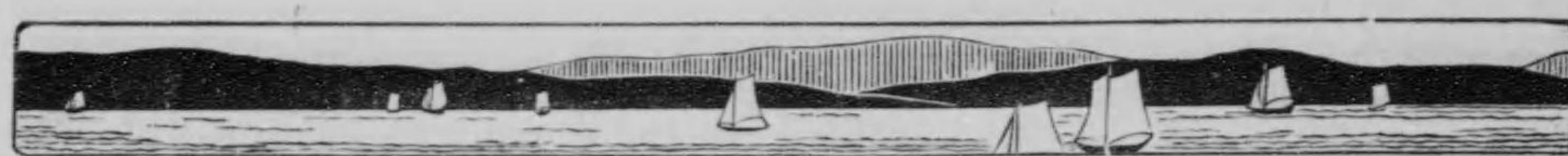
り、向同行重役の氏名を挙げれば左の如し
頭取 平澤平、取締役 岩瀬一、氏家昭市、長島重吉
監査役 田中富之助、西井宗吉、同支配人 山下愛治

道路

本縣は大小十二の浪港より古來船舶の便に乏しからず雖も、陸
の交通は山嶽險阻して、各地の連絡充分にあらずしが、
漸次改修をなし、國道は悉く車輛を通じ得るに至り、従つて
産業の發達を助成するも亦少からず、現時に於ける交通、運輸
通信機關の大略を詳説すれば左の如し。

鐵道

鐵道院建設線は高松市を起點として、西南觀音町に
五百四十は悉く十間以下なり。



教育

本縣中等以上の教育は地勢の狭小なるに加ふるに交通の不便なる
ものあるを以て、師範、中學、實業の各教育機關は比較的多数の設
備を要せず、乃ち師範學
校一、女子師範學校一、
中學校五、高等木學校八
工業學校二、農林學校二
實業學校二にして特に船
海學校を有せるは關西福
に見る所なり。



町村に於て尋常小學校百
十三、尋常高等小學校百十六、高等小學校九にして、不識字兒童僅
々六百五十三人に過ぎず、就學式合九九、三九にして成績最も良好
なり。
公學費の負擔は縣費三十二萬六千六百餘、市費六萬八千餘、市費
六萬四千餘、町村費六十六萬九千餘、合計百一十八萬八千九百餘圓
にして、現任一戸對り約八圓に該當す。

教育、社制宗教

至五十四哩九分にして、運轉時間一時間半を要し、鬼無、端岡、
國分、鴨川、坂出、宇多津、丸龜、中津、多度津、海津寺、説間、
上高瀬、本山、觀音町の各驛あり。更に多度津より分して、金藏
寺、萬通寺の、驛を經、六哩九分を走り、三十分間にして琴平町終
驛に達す、而して右兩線一ヶ年乗客二百五十四萬七千四百八十八、手
小荷物百二十九萬三千九百九十四、發送貨物八萬三千三百二十四噸
到着貨物八萬六千四百四噸、總賃金五十五萬八千五百五十圓なり。



社本宮二羅比刀金

海運

本縣の海運は大坂商船會社、尾崎商船會社、尾崎商船會社、尾崎商船會社
私立學校は僅かに十一に過ぎず内中學一、高等女學校二にして、他
は各種學校に屬す。

社制宗教

●社制 講義なる金刀比羅宮を初として、本縣には餘多の社
祠は野に星に輝るるを、郷土の守護神として奉祀せられ、國土衆
民の敬愛尊崇の念を高めつゝあり、今之を舉げれば、國中社二、
縣社九、郷社七八、村社四四、無格社四四、〇計七七三の多
きに及ぶが、就中金刀比羅宮は神徳いやちにして、世の信仰篤
く我國土の靈顯たる今少しく其の聖元の概略を記す所あるべし。

●金刀比羅宮は香川縣仲多度郡琴平山に鎮座します國幣中社にし
て祭神大物主神なり、永萬元年に至り、崇徳天皇を奉祀し奉る
譯んで按ずるに、大物主大神は建速須賀男の御子大國主神の
和魂神に準じし風、大八洲の國々を巡りて御心を領行せ給ひ農
業殖産に漁業航海に御努力給し給へるものにして、爲めに事業大いに
興れり、後世其餘徳を被らぬはなし、又大神は英武絶倫にましま
し國土大いに治まりたり然して尊嚴なる國を奉けて、悉く之を天
孫に授け給ふ、神威赫々たる亦宜なりと云ふべし、亦御相殿に鎮座
まします崇徳天皇は鳥羽天皇の皇子にして諱は順仁申し保元四年
正月、寶算五才の御時御即位ありしが永治元年十二月崩ありて御讓
位あらせられ、保元元年の亂に際し、宗國松山に遷らせ給ひ、九
五の歳を以て松山に遷り給ひ、松山に遷居あらせ給ひしは長し
とも長し、當宮鎮座は太古に屬し年月、詳ならず、古記に依れば、古
二千年に垂んずるあり、維新前は龜山金刀比羅大社と稱し、古

通信

●通信 一等局一、二等局三、三等局七十三、合計七十七、
局にして八百五十六の電報三、明手電報局八百二十四ヶ所を有し、
其の一ヶ年の引交通常郵便物は約千六百六十三萬六千、配達約千八
百七十三萬七百通、小包郵便物引受約十六萬二千、配達約十九萬八
千九百あり。又電報取扱所は四十九にして其の取扱は内國電報
發送約二十八萬七千通、押付約三十四萬四千三百通、外國電報發送
百十四通に達せり、又電報取扱局は十ヶ所ある外別に六個の自動電
話の設備ありて、現在加入者千三百餘名、通話數四百二十五萬五千
八百餘度年未新設申込者約二百人ありたり。

●旅籠出木子(岡崎兼人君) 國幣は坂出第一流の商
たるを失はす待望切設備の整然たる三件及調理は云々迄もなく
何となく清爽の安福せるものあり、庭園雅趣あり、風光の明媚に
して、坂出の正産なるを以て好評を博しつゝあるが、同館は其
の先代の經營時代は財政上の都合其他に依つて不振の狀態を續けた
るものなるも、當今岡崎兼人君の經營に移りて以來、鋭意改修に努
めし遂に今日の發名を贏ち得たるなり、岡崎君は素、相當事業界に
活躍せしこある人物にして、識見もあれば、才能もあり、今や君
が全力を傾注して自ら理想的旅籠として之を任し記者亦賞讃の結果
理想的高等旅籠たるを疑はざるなり。

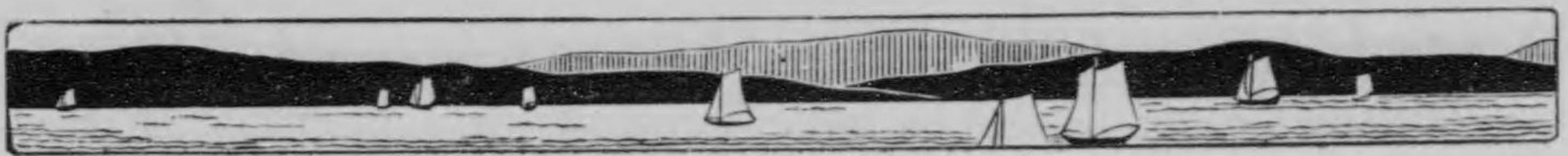


景全の館美

より來歴の歎仰深きは素より感佩皇宮の御座敷、後醍醐天皇御
宇重元年勅命を以て祭儀を定めし給ひ、一保天皇の御宇長保元
年には、藤原實秋、詔を奉じて社殿を修築せらるるあり、近世に至
りては寶曆三年十二月勅願所御出され、同十年五月日本一社勸進所
たるべき旨、繪圖を賜ひ爾來御進進に至るまで毎年春秋一奉中より
御供物を當宮別當等に下して寶曆文を奉進せし賜ふ、孝明天皇
の御宇文久三年陸奥宣
を賜ひ國家安寧の祈禱を
仰付かる、明治元年七月
特に宣旨御出され金刀比
羅宮を御改稱あり四年六
月國幣中社に列せられ十八
年六月國幣中社に歸格あ
り其他十六年四月、天皇
御下より御進進を以て短
縮され金刀の御下賜ありたり、然して御進進までは別當金毛院南
部神道を以て奉仕せしが其後宮司、權宮司、權神官等の神官を設か
れ後更めて宮司、權宮司、主典等の神職を設かれ以て今日に及びり。

宗教

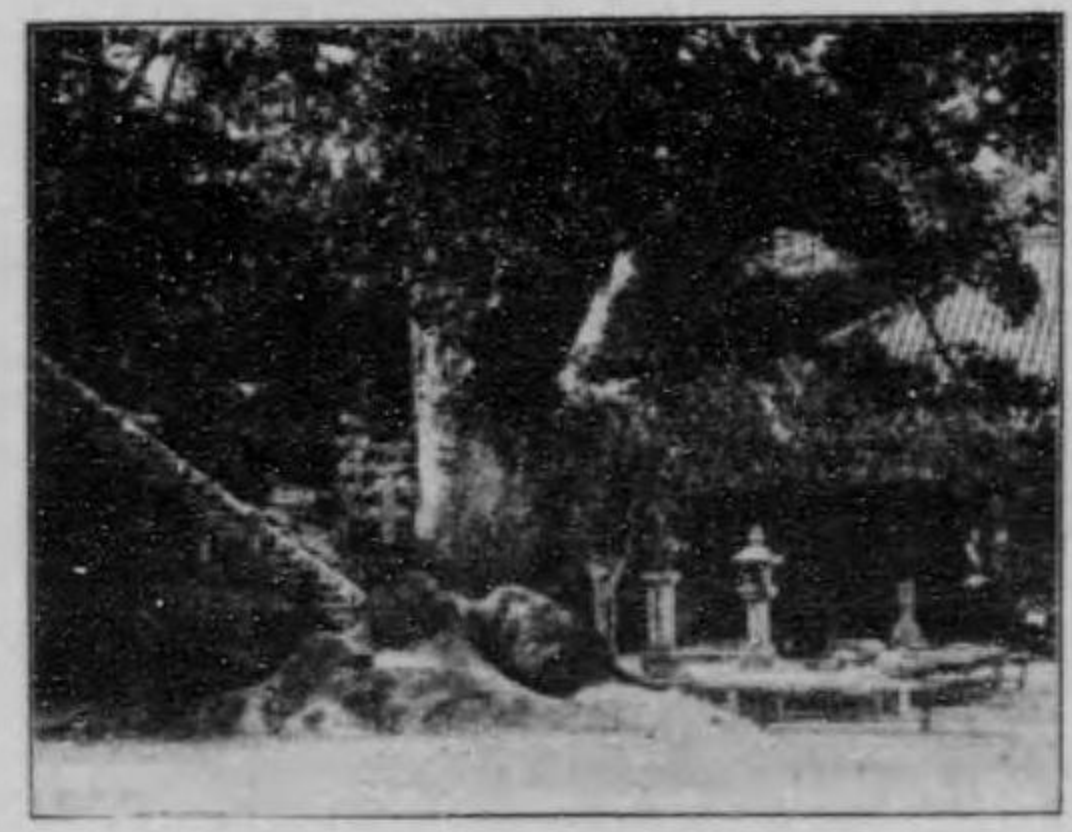
●宗教 由來講義は名僧高僧、時代相違き専門の顯業一世を
風靡するの數あり、聖法大師は法教一世の明星にして、實智今に絶
し、我國最古の大開祖にして高野山金剛峰寺に無量の法燈を傳ふ
眞理正法は空海の第一なり、深觀皇后の御過に會ひ御法を修して
宗教を興ふし、圓融たる實證大師は道深深淺、天臺宗にして密教を
兼ね、理源大師は實證大師より勝り三論宗を興し、空海の最良眞觀大師



は河内の名勝心亭の建立者なり、其の他善通寺の法燈大師、道雄僧都、自然僧正等あり、證じ来れば湖たる一州にして被然として一世の師表に起つ碩徳の頭目教徒、前後幾十名、佛敎史上未だ曾つて其比を缺かず、風敎の盛、文化の隆、一世に燦々として異彩を放てり、然し、善通寺梵鐘の響音に存し、寺度寺標蓋の餘香、かんなばしく、蓋し今日同郷が風敎の美、文化の盛大に見るべきものある所以たらんばあらざるなり、今各宗派に屬せる寺院敎を舉げんか、即ち天臺宗二、眞言宗二六八、淨土宗二五、臨濟宗二二、曹洞宗四、日蓮宗三、時宗一とす。

都 邑

**高松市** 往古香田郡美原郷に屬す、大正十八年生駒近見の居城を此地に創建するや高を高松と改稱して松平氏に及びり明市二十二年市町村の施行に際し、香川郡中の五十九町を割き、高松市を置く、面積〇、三七六方里、人口約四萬六千なり。海上は中國及び四國航路の船舶輻輳地なり、北は突入たる岡山縣兒島半島の宇野港に相對して、海路山陽の鐵道幹線と連絡す、讃岐鐵道線は更に出發して西走直野海岸を繞り、更に東進、高松の二電軌道線は共に大川郡に伸びて東面の重要交通機關をなす、明治二十八年市費を以て築港の計劃に着手し、遂に五年工費二千有六萬圓、突堤の延長六百餘間、港内面積八萬餘坪、干潮水深十四尺、四國唯一の連絡港は爰に完成を告げ、日夜大船巨船を吞吐し、百貨は出入し、文物は來往す、四國北門の要港は疑なくして隆盛を見るに至れる。其を電じて市井を御せんか、街頭人目を惹くものゆからず、就中



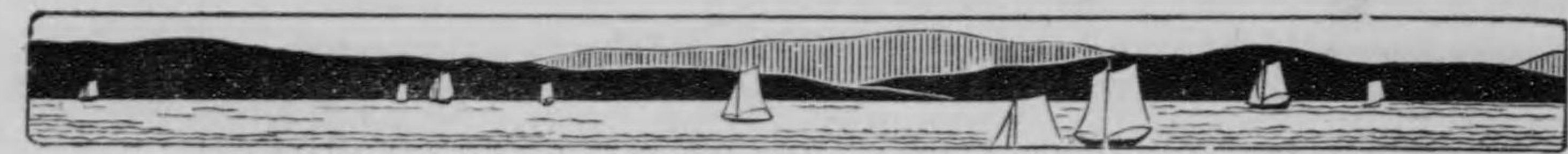
技術の妙技、彫刻の奇を以て愛せらるべきは後藤太水氏の創意に發達したる彫刻盆なり之を意匠の高雅、品質の堅牢を以て稱讚せらる、調音の精妙を以て、優る双美の工業品たるに恥ず、双時を轉すれば、特設の織法を以て夏季の衣料と稱へらる、保多織を能ひべし組成織法、大いに其の研鑽に努む云ふ又喜ぶべきなり、更に注目すべきは、手の産出して、扇も雅致風流に富みたる諸種の竹製品は、防水法に最も意匠を凝したる三徳摺燈と共に、實用携帯の便を以て風に洋人の視線を惹き兩來貿易品としての聲譽を擧けたるは、看過すべからざる事とす。

常市特産の土産品として、  
 玉露餅、五色餅  
 魚餅、魚餅  
 油、半家鹽、鹽  
 石、千金丹等に  
 して、年々地方に傳布せられ最も世人に贈答せらるるもの多し

入城に當り、要人商工各所より轉來し、萬治元年京極高和の入府に及び勃然として一郡を治す、明治二十二年市町村の施行の際郡中の二十七町四ヶ村を併合して丸龜町と稱へし、同三十二年四月市制を施行し、西讃の要津として高松市に對峙するに至れり、面積〇、二方里、人口約三萬ありて日だ此處海濱、巨船の寄附未だ自由ならざるを遺憾とするのみ。市井を散策して歸すべきもの先づ團扇の製作を推さざるべからず、團扇は古來の名産にして、而も價格の低廉、輪廓の改竄は、都に於て銷路を擴大し、今や重要貿易品として昔々各地方に輸出せらる、特に人意を強ふべきものは最近の創設に成れる米袋食成なり、就て其の内容を附せば委託、保多織常に二萬石を賣す、蓋し小島島村に對する資金融通に關する特種機關なり。市内に丸龜稅務監督局、稅務署、區裁判所、郵便局、警察署、職工部全部、中學校、高等女學校あり。

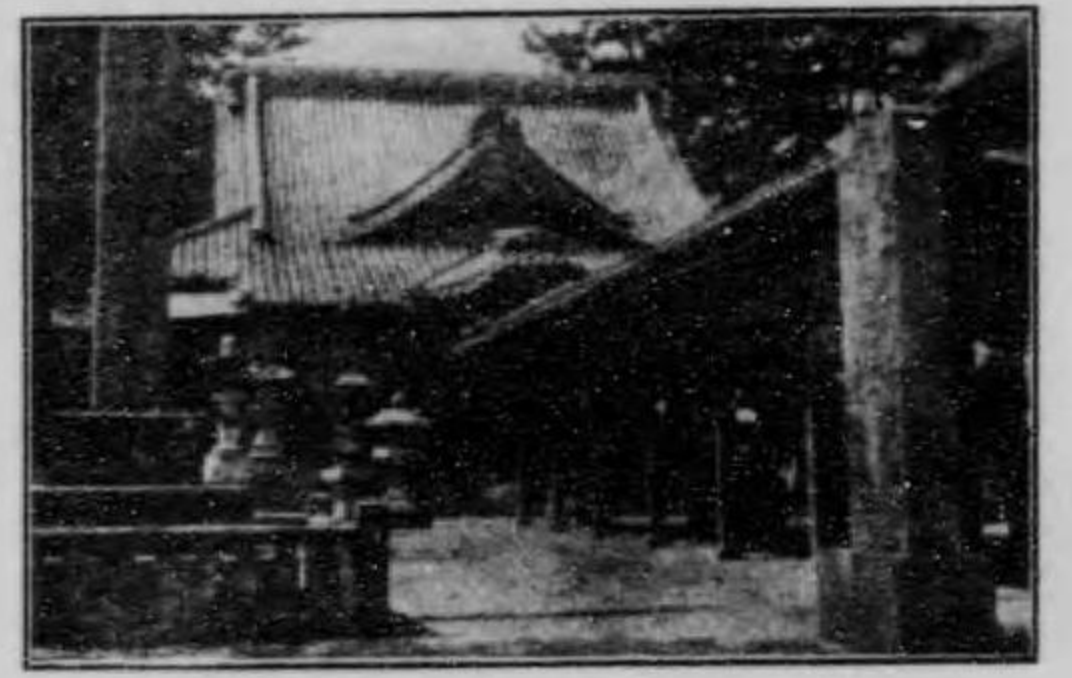
**多度津町** 丸龜の西端路傍に、唯人口約七千六百、尙くも金刀比羅宮を拜し、善通寺に詣らんとする全國萬の香客は、古來必ずや、此の地に上陸する例としたり、所謂多度津の名稱は實の實たり、明治四十四年、築港完成し海濱の關係を遂げ、船舶の出入益々増加し、陸上は安藝、高知、徳島等の要地に直通し、更に海上の運輸と相俟つて商賈多々益々繁榮を極む、實に西讃の一要港なり、此地遊園の序として標るべきものに中津公園あり、且つ丸龜藩主京極公家の跡にして、今尙松籙々として、翠雲を白砂に印し、泉石清澗にして水清し、盛夏極くが如きの時、最も熱風を避くるに適す、町内に一等郵便局、警察分署、郵便局等あり。

**琴平町** 多度津を辭してより南する三七哩餘、機車の



々煙一吹の間下車すれば、街面全く其の趣を異にし、屏樓傑閣軒を交へ、舟に彫鏤畫棟を以てす、恰も繁華なる宮公廟市の如し、地方稀に見るの結構なり、左顧右望、途に變路を際すれば、須臾にして變者たる老朽古松の間、酒殿高推の殿宇を拜すべし、蓋し桃園天皇日本一社の繪巻を眺びてより、象頭山頭の瑞雲を莊嚴を感じ、神社を以て海内に治し、所以ある哉、賽者百萬、旅舍常に閑室なし、琴平町の繁榮一に爰に基し、町内に繁榮者、區裁判所出張所郵便局あり。

**屏風浦別格本山善通寺** 四國通稱第七十五番の札所、善通寺町大字善通寺にあり大同二年の創立にかゝり、東寺、高野と合せて三跡の一なり、五岳山、山麓生院と號す、五岳山の名は同寺背後に香色山、峯山、中山、我拜師山、火上山を總稱し、屏風浦とせば此五山の屏風の如く立並び居れるを以て其稱あり、弘法大師の父善通の宅跡にして大師誕生の地たるを以て善通寺と名づく、大師歸朝後父祖の遺蹟且つ布敎の爲創立し、父の諱を探りて寺號せり、堂宇宏壯、楠の大古木あり、古書、古文書等頗る多し、大師傳來金剛杖外佛諸佛象の國寶あり。



寺通善浦風屏

**坂出町** 香川郡の名邑にして海濱を有し、鹽の産出を以て名高く、次に鹽務局あり、高松へ五里、千六百、丸龜へ一里、千五百

名所舊蹟

名所舊蹟

**高松舊城** 一に正善城と云ひ市の北端海岸あり天正十六年國主生駒親正善通の黒田氏に謀り築城したるものなるが、四世高松俊宗ありて出羽に移され、寛永十一年、松平親重代りて城主となりて明治維新に至るまで、千餘世継せり、城は今も尙、依然として樓櫓外壁を存し、潮戸内海を航するものは、船中よりも之を望み得べく、昔松粉殿の空際を望むるは即ち是れなり。

**栗林公園** 高松に接したる栗林村に在り、藩主松平氏の別墅にして茂林四方を繞り紫雲山は後に築の、園内は樹木奇ならざるはなく、石の珍ならざるはなく、一徑窮まるころ又忽ち開け歩々其趣きを異にし、處々に花子を散り、休憩に便せる等、日に日本三公園の一たるを失はず。

**白鳥神社** 縣社にして大川郡松原村大字松原にあり、境内廣く攝社數あり、社の後は一帯の松原にして四國風光絶佳なり且つ小豆島の海上に浮べる山陽燧波の間に隱見するを指顧の間に見るべく、東北なる淡路島山も亦歴々拘すべし。

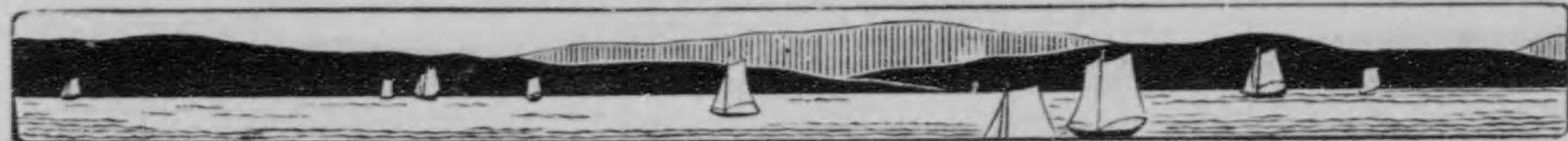
**壇ノ浦** は源平の古戰場として人々瞻望せる所にして歴史上著名の地たるのみならず亦天下の一大勝蹟、附近に訪ふべき古蹟少からざれば探史的遊覽を試むる價值を存す。

**八島寺** 木田郡元村屋島山にあり、眞言宗にして、天平勝養年唐僧眞和尙の創建に傳り、戒律に準上たり、弘仁元年弘法大師七堂伽藍を再興し、今の所に改む、第八十六番の札所なり。

**寒霞溪** 小豆島にあり、奇岩奇壑の妙を極め四時を殊に紅葉の候は風景殊に絶佳にして、遠く耶馬溪と共に並稱せらる、山上に登れば、四國中國を眸中に收むべし、爰には一歩一蹠にして詩人の吟詠多し。

**琴弾八幡** 三郡郡數ヶ寺町にあり、縣社にして琴弾山上に鎮坐す、山は海岸に突起せる小島にして瀨田松林極なり、西鑑を有明の浪を呼び、眺望絶佳なり、南鑑には一の鳥居、藤神門あり、一の砂路を過ぐれば左右に本社あり、社は西北に山陽の懸崖を望み近くは瀨灘の群島を俯瞰し、風光眞に高の如し。





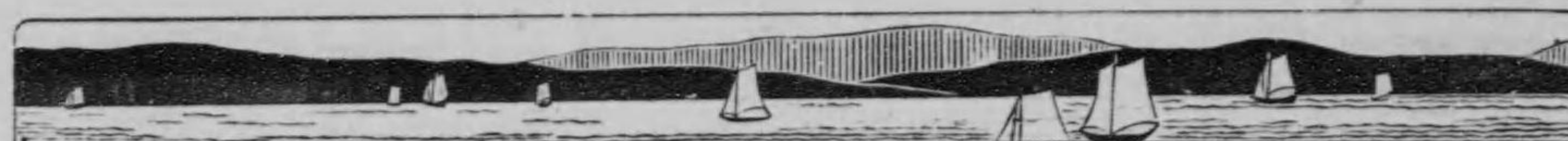
### 大内銀行頭取 鎌田虎太郎君

大川郡 白鳥村



君は同地方實業界の大立物にして元治元年飯下屋指の豪家に生る。性來、學を好み十二歳の時、當時の大庄屋にして且つ豪農たる叔父阪東三藏氏に引取られ、同地方に於て有名な漢學塾に學ぶ。三十三年に及びしか、休日には家賃をせりりて勞役に勤し且日に困苦を伴つたり、後大阪に出で、義決塾に於て更に又三年間漢學を修め、父を了へて郷に歸り父母の膝下において家事を手傳ひつゝ、ありしが、東郷道學の志、持たして歸する能はず、或る時に父の金五百金を携帶して歸せんせしが、途中徳島に於て發見せられ、直ちに引き戻されたれば、君は之を大いに遺憾とし、懇々父母に許しを乞ひしも許されず、止むなく家業を手傳ひつゝ、幾月かを過せしかども、東郷道學の志は毫も止むことなく、亦々人を介して父に五百金を借入れしめ、上京して慶應義塾に入學し、宿志漸く熾ひられて、頼りに勉學に餘念なかりしが時憲法發布せ

られ市内の雜聞するを見るべく市中を漫歩しつゝ、ある時、途中、偶々、郷里の人に發見せられしが、其人は兼ねて一應君に歸郷を勧告する所ありしも、辭令を盡して固辭するや、兼ねて乃父の依頼ありしものを見へ、折角勉強すべしとて、高城の面稱を見て歸れり。伊つて君は自由の勉學するを得、業成りて郷里に歸り、再び家事を手傳ふることになりしが、間もなくして同父の卒去するに及び社會に出で、或る公共的事業に表裡し、町村の實務せらるゝや二十



### 帝國製藥株式會社專務取締役

### 赤澤忠太郎君

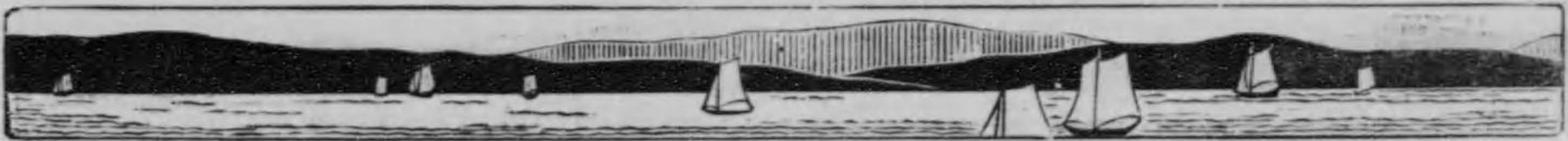
大川郡 三本松町



由來、南海の地は山紫水明の郷土にして、人傑を質朴漁民、進取の氣象に富むものあるが如く、南海に於ける各種の事業界は、近來頗る發展を招來し居れり、就中製造工業に於て殊に其たしきものあり、在來、同地方は製藥工業の著しく進歩せる所にして、既に早くより、家内工業として製業の發達の見るべきものありしが、今この歐洲戰亂以來、漸次規模を擴大し、家内工業は轉じて工場工業となるの趨勢を示せり、帝國製藥株式會社の如きも亦、以前、赤澤忠太郎君の個人經營に係りしものを、株式組織に変更したるものにして、或る意味に於て此の趨勢に先鞭を付けたるの感なくばあらずる也。

將來大いに發展せんことを欲すれば、須らく大規模なる工場工業組織ならざる可からずと云ふ宿年持論を有し、時機を伺ひつゝ、ありしが、近來愈々之が必要を感じするに至りたるを以て、地方の有志、謀り東西大いに奔走して、遂に自己從來の業務を基礎とし、同社の創立を見るに至りしものなるが、既にして確固たる基礎あり、且つ地盤を有するものなるを以て、同社の發展は亦明して俟つべきものありと云ふべし。

君は元來宗教を信するに深く、常に親聖聖人に歸依し、眞宗の教義を信奉して以て之を自家の憲法とし、善く體習し、身を修め家を善くつゝ、ある人にして身は粉々たる俗界にあれども、殆ん君が行動は宗教家と同じにして、救世済人を人間未來の要務と心得、平生公共事業及慈善的の事業に奔走し殆ん一層進まるの速なく、其熱誠の努力は殊に人の推服する所たり、君の資性濃厚にして人格誠實共に高く、眞に一世の儀表たるべき人物にして、徳性を以て聞へ是非曲直は如何に小事たりと雖も之を曲にせず、自ら是非信じ或ひは非を信すれば前念之を排絶せざれば止まず、然も斯は唯に平生の言行たるのみならず、又事業に於ても殊に然りしとす、されど一面に於ては極めて、温情に富み、慈悲の心厚く、社員の如き、責むべき所は大に之を責むるも、責すべき所は大に之を譽め愛撫せざるなきを以て君に慕するに深く殆ん君が手足となりて懸命に活動し居れるを見る、君の如きは蓋し稀に見るの人物と云ふ可く信望の噴々たる又故ありと云ふべし、然して君は、帝國製藥株式會社専務取締役の外理に大阪手袋株式會社副社長、徳島製糖株式會社専務として實業界に活躍し、地方警察調査委員、所得税調査委員、三本松實業協會長、三本松町會議員、香川縣製藥同業組合長等の要職に在りて香川實業界の巨人として之を知るゝに至れり、蓋し君の業績は活目に顯すべきものあるは信じて疑はざるなり。



貴族院議員 鎌田勝太郎君

綾歌郡阪出町

同家は香川縣に於ける有数の舊家にして代々醬油の醸造に従事し、夙に製品の優秀なるを以て、世に鎌田醬油の著名あり、君は事業家として先天的天賦の手腕ある人にして、明治三十八年資本金十萬圓を以て、同家の十萬圓醬油の鎌田産業株式會社を起し、(本店兼京都坂出町支店、朝鮮本浦南浦支店)朝鮮に於て農産及林業の經營を爲しつゝあるが、君の經營的手腕は著々國に當り、今や一大發展を招來するに至り、爾の如き一割二分の配當を爲すを得たり、然れども同社並に鎌田君の事業は唯に君の努力のみに依りて發展せ



るものに非らずして別に好箇の女房役として、久井金太郎氏のありて補佐の宜し

を鎌田君が其の手腕を見込みて招聘せるものにして人格、手腕共に超越せるものあり、始終に君を補ひて其の短の補ひて餘温なし又好箇の女房役たるを失はざるものと云ふ可し、君は同地方に於ける名望家にして名譽職を兼り、香川縣會議長の要職を経て現に貴族院議員たり、又各種銀行會社の重役たりしも其他枚舉に遑あらざるが、目下議政刷新取組取組會長、株式會社坂出銀行頭取、朝鮮産業株式會社社長、多津田株式會社社長、坂出合資株式會社社長、宇多津化學工業株式會社社長、其他高松銀行、讃岐鐵道、四國水力電氣、東洋生命、日本興業、南洋殖産、房敷工業株式會社等の取締役或は監査役、元治元年の出生にして勳三等を有せり。

大阪手袋株式會社社長 棚次辰吉君

大阪北區鷺洲町浦江

君は香川縣大田郡白鳥生町の人にして幼少の頃東京府小倉に在りしが時勢を運轉して遷徙し、志を立て、大阪に轉き、某大小商に雇はる、時年十二才なりしが、勤勞努力して後進を知らざりしを以て、業に愛され、漸次信望を得るに至りしが、君思へらく一人間は獨立自營するにあらずんば成功せずと、後遂に獨立して莫大小商を營むるに至れり、然も、多年の經營あり、且つ事に臨んで熱心なるものありを以て幾ばくもなくして幾十萬圓の富を得るに至れり、爰に於て一回に於りて歐米の新業界を視察し大いに得る所あり、歸來、他に比類なき、シン・ボウ・ボウを發明し、内外に特許權を得せり、之可して之を專ら自家の工



場で使用し、たを以て優良なる製品を製造するに至り大いに聲譽を得し事業は益々旺盛に

要に迫られたるを以て、之を變更して株式會社となすべく歸郷し株式會社に從事せしが、有志は君が大に於ける信用の富の程度を知らざるを以て大いに之を忌むるに人をして調査せしめ初めて其の真相を知りて驚嘆し、大いに之を援助することに申合せ大田郡に二ヶ所の工場を設け、易々として株式組織變更は成功を遂ぐることを得たり、同社は大阪市浦江にあり、新業界の雄にして夙に製品を海外に輸出せるが近來大いに發展を招來し居れり、棚次君は實情濃厚にして努力の人、眼中唯事業あるのみ、君が今日の成功亦決して所なきに非ざる也、年餘四十五、氏の簡潔亦明して見るべきものあらん。

東京丁西銀行頭取 成瀬正恭君

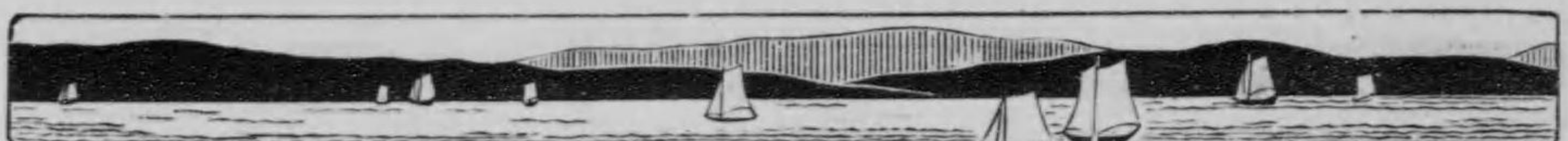
東京芝罘白金三光町

君は明治元年、香川縣木田郡井戸村に生る、長じて慶應義塾英文科に學じしが、業を了るや更に米國に留學してしてシカゴ府ブライマント、トラツチン商業學校に入り明治二十年(在學一年)優等の成績を以て卒業し直ちに紐約州イサカコルにて大學法科に入り二十三年之を卒業して、パチエラーオブローの稱號を得たるが、更に同校大學院に入り研究を積むこと一年明治二十三年之を了へてマスターオブローの學位を得て歸朝し、廣正金銀行に入りたり、蓋し斯は君が今日大成するに至れる原因にして、且つ君が銀行家とされるの初めなり、而して同行に於て手腕を試みたるは明治二十八年日本實業銀行

東京盛興會社神戸支店長 成瀬正忠君

東京府荏原郡平塚村

成瀬正忠君は、我國海運界の好況に伴ひ、所謂船成金の擲出せること多く、曩に一世を驚愕せしめたるが、君も亦、其一人にして、傑かの間に數萬圓の富を蓄積し、有数の船成金として知らる、然れども君は元來、温厚にして且つ著實なる人物にして、儲け得たる巨萬の財を儲けて淫せず、専ら自己が經營せる事業を擴張し基礎の鞏固を期すると共に慈善其他公共事業等に財力を利して之を提供し、功勞顯著なるものあり、喫味粉々として世の指評を蒙りつゝある成金界の異彩を放ち、大いに世の信望を

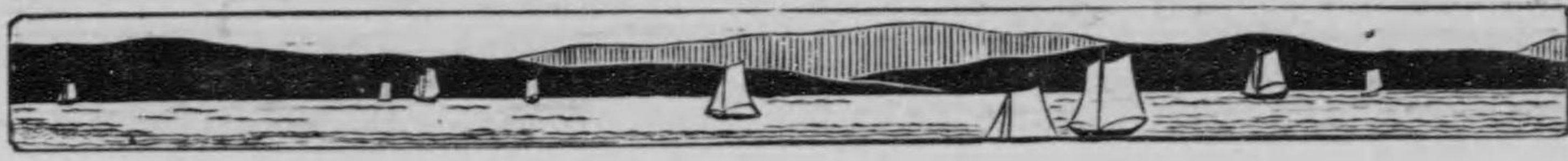


未 着

行の招聘に應じて入つて支配人となり、精勤格勤、大いに手腕をせしが發揮せしが、後園田榮吉氏の知遇を得て三十二年轉じて十五銀行に入り副頭取となり大いに其の才能を發揮し、聲望を得るに至り、次に同行取締役たる外、丁西銀行頭取、千代田火災保險株式會社取締役、帝國倉庫株式會社取締役たり君は元來所謂才力人物にして、觸らば切るゝ名刀の如き手腕に著なれども、毫も輕率浮華の風なく、實情温厚にして、人格高潔にして且つ至誠の人を動かすに足る所あり、夙に社會に聲望を博し、今や本邦の銀行界に於ける重鎮重きを爲せり、君は元來、政治、外交、文學等に趣味を有し其の識博たる識見と理解は、優に堂々たる専門家を凌駕するものあり、就中外交は君の最も長所とする所にして、君が今日の成功もある點は、之が賜に外ならず、又以て如何に卓越せる手腕あるを知るに足るべし君、年齒僅五十一、

未 着

聚む、君は香川縣木田郡井戸村の産にして、明治二十八年、慶應義塾卒業後、英國ケンブリッジ大學に學び、大いに東西の文物を研究する所あり、歸來専ら實業界に身を投じ、嵐山電氣軌道株式會社を設立して社長たり、夙に天賦の手腕を振ひつゝありしが、大正七年京電三併合するに及んで解散し、目下兄正行氏と共に神戸盛興會社支店を經營し、鐵道業に従事しつゝあるが、近來一戰下界の好況に伴ひ頗る好況を呈し大いに發展の道程にあり、且つ戦後は最も有望なるべしとて新業界を注目し、蓋し君の卓越せる手腕、超風の識見、不拔の勇氣は、當該事業の發展を期せざるはまざるべく、今日熾烈なる發展を招來せる亦、決して偶然にあらず也、然して君は平生、東京府荏原郡平塚村に住み趣味は馬術を以て其最たるもの、年齒未だ三十八にして前途蒼蒼に富む小社實業家なり。



中村猪三郎君

天王寺常盤通

君は香川県志度町の名門中村氏の長子に生れ小學校を卒業し間もなく父を失ふて大阪に來りて後高等商業學校に入學せしも中途にして神戸商業學校に轉校同校卒業後日清開戦に際し氏は一年志願兵として出征し彼の難關の苦戦に於て首領なし抜群の功績を擧ぐ進んで少尉となり功五級金種章を授けらる。退役後氏は戦後に於ける我海運業の發展を畫し四十二年三隻の汽船を實收し尙一隻を備へし内海及支那海に航運し益々活躍せんを期せしも時代は戦後の不況に際り海運界の悲境又著しく日下不幸にして氏の持船の難船沈没するの境遇に達し氏の事業の根柢を覆へすに至れり而も剛毅なる氏は屈せず海運業に起つる念を斷せず大に畫策する處ありしを先觀の言を容れ自らも語れ遂に大阪電燈株式會社に入り進んで

未着

高津營業所 長となり 然るに事業 繁榮に輝く の才ある氏 は現位置を 去り神戸英 一番ストロ ン商會輸入 部支配人ニ

なり目下大阪出張を擔任せり。君の經營事業として中松石炭店、丸中船具店、實力の充實せる店として又時局による利益を博せり其他尾崎、三井、三井物産株式會社、旭通船所、阪神商業株式會社の重役又大阪電燈株式會社の株主の大なる者として權威を有せり。資性剛直にして果敢に當つて動せず自己の信條に向ひ其主義を徹底的に敢行する處に長所を見る常に能く人を理解し温情に厚く能く語つて自己を誇らず先聲に對し常に謙遜の念を有せり。特に愛郷心に富み地方公共に盡す處からず。時に財を投じて公共徳育の範を示して之れを獎勵せり殊に氏が教育事業に對しては其思想の高邁にして感服の熱誠なる常に學費を投じて秀才を養ひ、學校を視察して教導を鞭撻するが如き或は教育基金を提供して圖書費に充て教員の智徳開發に資する等以て氏の人格を窺ふ可く實に東洋富豪の一人者として將に前途の活躍を期待するに足る。年齡三十九。

大阪株式取引所仲買人 靱 仲次郎君

大阪市北濱二丁目



君は明治七年香川県木田郡西柳村に生れ、幼くして夙に轉徙を出で大阪に於て米穀取引所仲買人の家に雇はれ其間に難苦を嘗の斯業に關する経験を積みて、明治三十三年愛島に於て仲買人を開業し、鋭意斯業に努力する所あり、其間勢力の消長ありし難、而も基礎を固め、大いに聲望を得、漸又年々共に増加せり、併して後、現在の明和北濱に轉じ、更に大いに活躍する所あり、米界の飛將軍として知られ、巨萬の資産を有するに至れり、君、資性濃厚にして、事に臨んで熱誠を以て始終其の硬骨は斯界に見るの處なる、従つて浮沈常ならず、屢ば難境に介在するに當りも毫も之を感せず、幸ら當初の主義方針を採つて敬むことなし、蓋し君が大阪に於ける株式仲買人の自居として偉大の信望あるは顧客の信頼最も厚き所以なり、君近來屢ば錦衣食行して郷に歸り、公共的の事業に盡力するに少からず、村民間に於ても多大の信望を有す、人生功成り名遂けて郷里に遊び公共事業に貢獻す亦快たさざる可けんや蓋し亦君の前途多幸ならん

一貫し、如何に難境に沈吟すも自ら足すに足ることを怠せず

上野驥九郎君

大川郡津田町



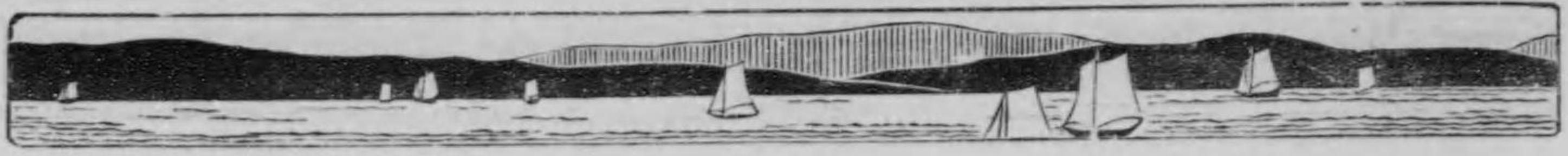
君は大川郡津田町の舊家に於て代々大庄屋を勤めし舊家に生れたが長じて同郡津田町なる豪農上野家に養子となりし人にして、夙に産業に興味を有し、國民經濟的の事業として具體的の製造を企てたるも失敗に歸したるを以て、後クラックス（野草）の製造をなし之を海外に輸出せんことを企圖し之が製造工場を設立して地方の細民に業を授け大いに産業の発展に努力する所ありたるが、元來、實業に先天的才能あり、經營實績しきを待たざるを以て遂に日清開戦に罹り、今や其重要國策として注目せらるゝに至り、製造業の如きも年々増加するの趨勢を示しつゝあり、亦、君は常に意を公共事業に用ひ盡力し、理に當るならんを無償提供して以て公園地となせしものにして現の津田町公園が地方に於て見る可き地として夙に夏草此地に根を曳かしむるに至りし所以のものは全く君の功勞に負ふ所少からざる也、然りも君は公共的の事業に對して其の表面に出づること多きを忌み多くが裏面にありて盡せらるゝ蓋し新は君は謙遜の美德ある所以にして常人に大いに其趣を異にする所あり、君は資性濃厚實業にして其の言動は人の敬服する所なり、然れども一言一度事業に至らんか影々論じて盡くる所を知らず、百端大を吐くかと思はる、頗る勇氣の勃たるものあるを思はしむ、蓋し君が面目知らずや、現に津田町工銀行監督役、朝鮮製紙株式會社取締役たり、年五十五有、氏の前途亦注目し値すべきなり。

東洋紙布加工株式會社社長 森 久太郎君

東京市赤坂區水川町



君は明治十三年、香川県木田郡高松村に生れ、夙に職山學に造詣する所深く志を立て、上京し東京赤坂區水川町に本店を設け、職山業に従事しつゝありしが、近來、斯業の隆昌に伴ひ、大いに發展して巨萬の富を作りしが、近時時勢の運進に伴ひ、規模の擴大を必要とするに至りたるを以て、事業に一大改革を加ふるに共に資本金一百萬圓の株式組織に改むるの計畫あり、若くは準備中の處、今同全く目論見完成し東洋紙布加工株式會社を創設し東洋サンデーパー製紙の株式會社を買収合併せり、併して同社はサンデーパーを主として製造するものなるが、該社は多量に金銀を使用する文明國に於て需要甚だ多きものにして、本邦に在りても、陸軍砲兵工廠、海軍砲兵工廠、鐵道院及陸軍の各部隊を首め各造船所、其他、各種の會社等家、馬、木の如き便宜材料を使用する方面に在りては、之が需要大なり、君は、影し、ひざるに拘はらず、近時漸く二三の製造を試むるものもあるも、然も其の方法皆古にして且つ規模狭小、本だ以て職山業に轉換し之を防護するに能はざるなり、然るに同社の製品は彼氏の長製原料の良香を比較し、科學的研究を重ね多年の苦心を積みて、完全なる方法を案出したる結果により、現に公私工場の新評を博しつゝあり、然して包裝紙類は一般包裝紙の外、表紙、糊紙、摺紙、傘紙、天幕、其他に使用するものにして、從來専ら手工に依りたるものなるが、專賣特許株式會社製造法に従ひ、機械力を應用するに於ては、常に生産額を大ならしむるに止まらず、其費用を減するのみならず、寒暑衣食を問はず間隙なく品質卓越し體裁優美のものを製造し得るなり、蓋し各種工業の勃興に伴ひ斯業の將來の發展は亦明して候べきもの有らざるべし。







### 今井傳太君

高松市四番町

今井家は縣下屈指の豪封家にして、夙に公共事業に並進し、聲望の曠々たるものあり、今其一例を挙げんか、居村々民の貧乏のため租税の負擔に苦しむものあるを見て半視するに忍びず、私財數萬圓を割いて同村役場に供託し、租税の滞納せるものあるときは之が利子を以て支出するは勿論、勸業、農事、教育其他公共的事業に對して必要に依り、機宜の處置を講ずべく、全然之を居村の常事者に一任する等奇特の行爲少からず、依つて村民は君を敬慕するに封建時代に於ける君主よりも篤し、然のみならず君は温厚にして一少此事も公共の事と云へば之を放任にせず夙夜精勵せるを以て徳望愈々加はり村民は其の徳に推服し居り、君の如き地方赤福に見る奇特の人と云ふべし、年齒四十四。



君は慶應元年の生れにして流石の才氣を温厚なる人物にして夙に地方自治政に興味を有し、大いに公共事業に並進し理に同村々長として清新の手腕を振へり、然して、後進子弟の教育は君が最も樂事とする所にして、邸内に自費を以て圖書館を設け、之を居村青年のために開放して、智識發達に資する所あり、其他、産業、教育方面に於ける君が功勞は殆んど此處に遡らざらず、従つて地方民の信望極めて篤く、人呼んで大旦那と稱し、其の徳に推服し、易々として君が教を俟つところ、殆んど親子の如き關係あり、一味の春風始終に兩者の間に賑々として薫くる所を知らず、村民、和衷共同各業を樂しむ、蓋し同村の如きは亦稀に見らるる徳福村と云ふべく吾人の羨望に堪へざる所にして斯かる美譽は全く氏の賜なり。



### 渡瀬岩太郎君

大川郡福栄村

君は慶應元年の生れにして流石の才氣を温厚なる人物にして夙に地方自治政に興味を有し、大いに公共事業に並進し理に同村々長として清新の手腕を振へり、然して、後進子弟の教育は君が最も樂事とする所にして、邸内に自費を以て圖書館を設け、之を居村青年のために開放して、智識發達に資する所あり、其他、産業、教育方面に於ける君が功勞は殆んど此處に遡らざらず、従つて地方民の信望極めて篤く、人呼んで大旦那と稱し、其の徳に推服し、易々として君が教を俟つところ、殆んど親子の如き關係あり、一味の春風始終に兩者の間に賑々として薫くる所を知らず、村民、和衷共同各業を樂しむ、蓋し同村の如きは亦稀に見らるる徳福村と云ふべく吾人の羨望に堪へざる所にして斯かる美譽は全く氏の賜なり。



### 龜井長太郎君

丸龜市木町

君は丸龜市に於ける有数の實業家にして陶磁器商を營み兼ねて實業界に於ける重鎮たり、君は平素一定の主義方針を持し、如何なる場合も、亦之を曲ぐるこなき氣概を以て、夙に公共的の事業に並進し、明治三十二年來市會議員に推され爾來引續いて其職にあり理に市會議員として快腕を揮へり、君其人格の上に於ては

高風歎すものもあれども何事にまれ餘りに打撃的に流るゝの嫌ひあり、爲めに稍もすれば其性情を變ぜらるゝは其君のため遺憾に堪へざる所にして、反省を望まざるべからざるも、人物に於ては一職の非難すべき點あるを見ず、頑固明瞭にして手腕亦非凡なる家ら一大事業家として其手腕を信し格と共には丸龜市に於ける中堅人物たるを失はざるべし。

### 中村石松君

丸龜市通町

中村石松君は丸龜藩の人にして情に篤く義に強し、明治維新の時、當り、長瀬の士と相往來して大いに國事に盡す所ありたり、後大阪に赴き官に仕ふ然れども力筆の技に閑はず、思へば我其業にあらず世間自ら人あり、遂に辭して故山に歸り、幾年無事を送り偶、西南の役起るに及び軍人救護の目的を以て起る博愛社が萬國赤十字社の同盟に加はり、大いに我が同胞の協力を求むる奮



然として卒先之に應じたり蓋し同郷に於ける憾欠たり、爾來一身を投じて赤十字事業の爲めに貢獻し理に佩有功賞特別社員として香川支部幹事に就任し、大いに努力しつゝあり、然も聞く處に依れば、平素國家を思ふ家情より死後死体を解剖して醫學上の参考に供し聊か學界に貢獻する所あらしむべく、之が許可を乞ひて開棺けられたり云ふ、亦奇特の事と云ふべし、徳久丸川縣知事且つて曰く、「予十赤十字に盡す人多きを見る但し未だ中村氏の如きを見ず」一言以て萬語に換ふる可き也。

### 中田熊次君

君は香川縣高松市の出身にして、明治四年を以て生る、幼少より繪畫に興味を有する所より、是して印刷業に入り次に日本繪版印刷株式會社取締役たり、資性温厚にして業務に熱心、夙夜致々として怠ることなく専ら斯業の研究に没頭しつゝあり、蓋し同郷が、印刷の精巧にして信望あり、今や大阪、神戸、京都其他に於て、精秀、レオテールの印刷を一手に引受け、斯業界に翹然一頭角を擡げる所以のものは、又以て君が多年努力精勵の功に歸するものと云はざるべからず、今日君が華城の斯業界に於て、第一流の人物として信望あるは決して過言に非ざるなり然して君の今日を顧み得たるは全く殉業的意志の發動を以て終始一貫したるに依るものと云ふべく、斯業界君の如きは又以て稀に見る所なりとすべし、君年齒尚ほ四十有八、大いに春秋に富む亦前報の行版は活目して見るべきものあるべし、



君は香川縣高松市の出身にして、明治四年を以て生る、幼少より繪畫に興味を有する所より、是して印刷業に入り次に日本繪版印刷株式會社取締役たり、資性温厚にして業務に熱心、夙夜致々として怠ることなく専ら斯業の研究に没頭しつゝあり、蓋し同郷が、印刷の精巧にして信望あり、今や大阪、神戸、京都其他に於て、精秀、レオテールの印刷を一手に引受け、斯業界に翹然一頭角を擡げる所以のものは、又以て君が多年努力精勵の功に歸するものと云はざるべからず、今日君が華城の斯業界に於て、第一流の人物として信望あるは決して過言に非ざるなり然して君の今日を顧み得たるは全く殉業的意志の發動を以て終始一貫したるに依るものと云ふべく、斯業界君の如きは又以て稀に見る所なりとすべし、君年齒尚ほ四十有八、大いに春秋に富む亦前報の行版は活目して見るべきものあるべし、

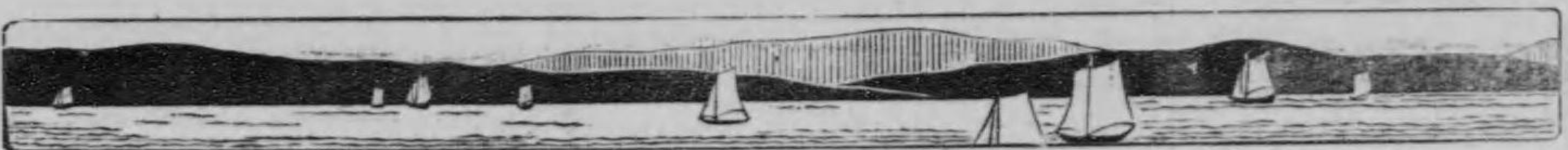
### 中田延次君

島傳油株式會社社長 小豆郡草野町

島傳油株式會社は明治二十九七年七月の創立にして、香川縣小豆郡草野町にあり、資本金三十四萬圓、積立金一萬九千餘圓を有し、同縣斯業界の精華たり、社長中田延次君は明治二年の生れにして、夙に社文的手腕に長じ、資性温厚なる領袖の事業にして信望を一身に聚め、聲望大いに曠々たるものあり、兼に同業に従事するや、苦心研究を重ねること多年、釀造法に大いに改良を加へて優秀なる製品を産出せんことを期し、鋭意努力したる、結果、夙に製品の精良なるを以て、江湖に多大の聲望を博し、理に廣く海内の津々浦々に移出しつゝあるが、尙將來に於ては尙來方面に對して大いに輸出すべき方針なりと云ふ、蓋し前途の發展は期して候つ可きものありと云ふ可く、又以て同縣斯業界の爲めに大いに貢献せんばあらざる也。

未着

蓋し君の如きは、僅に同縣の代表的人物と稱するを得べく、吾人は切に君の健闘を望んで止まざる也。



### 大喜多二郎君

三豊郡河内村

大喜多家は、有数の富豪にして十五代連綿たるの族なり、然して現に多額納税者として同地方に重きを爲せり、君は一見、人の如き感あるも、交際するに從ひ温情の拘すべきものあり、蓋し斯は君が既に百萬の産を有し何等事業の活躍を爲すことなく従つて地方人の接觸するの機会に乏しが爲めに自ら辭令を構へ、或ひは従從し、人の意を迎ふるの必要なく、質朴淳良、眞面目なる青年の面のみを

### 未着

露出せるが爲にして少く外に出て活動し、人に接觸すること多きに至らば、自然に角まれて、四方喧嘩の人物たるを得べし、併して君は、華威ひ懸けきも悲しく、水鏡雲霞に春を置くの境涯にあるを以て、悠々長閑を樂しむの機会多きを以て、夙に書畫音楽を愛し、之が鑑賞に餘念なし、従つて金に飽かして集めたる諸大家の書畫の山積すこと云々蓋し座して名畫の山水を見ることを得べし、纏々たる松風の音を聞くの境、眞に豪傑に堪へべき云々べし。



### 矢野岩太郎君

丸龜市新町

君は實家に生れ一代の間に百萬の富を蓄積したる立志傳中の一人にして其過去に於ける困窮經營は又以て能く事紙の盡す所に非ず、蓋し君が今日成功せる所以のものは皆て其後に繼せられて朝鮮にありし時一頭の山嶺を捕獲し歸來之を發物として百萬の利益を占めたるを動機として、動物飼育に興味を覺ゆ、爾來世界の珍奇なる動物を集めて矢野興業部を起し、各地に轉々する間、常に物産已れを持し遂に大産を築き遂に今日あるに至れるものにして、遠東家産の邸宅を造り邸内に骨董品を集めつゝあるが、就中出羽六代將軍の櫛、毛利公



### 合田梅太郎君

三豊郡大野原村

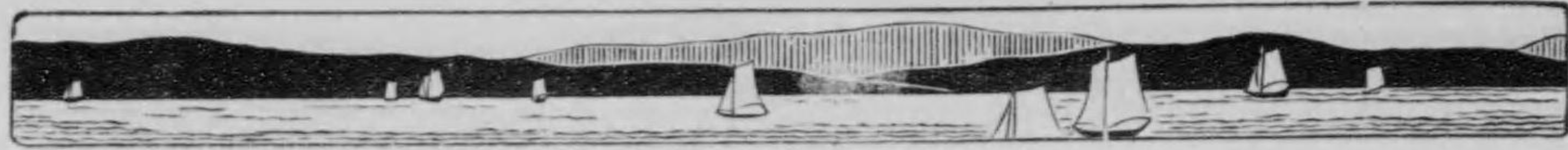
の香爐等は天下一品のものにして夙に好事家の嗜賞品なり、所なり君近來公共事業に熱心あり、令夫人千代子氏現に延命温泉を經營せるが斯は讃岐唯一の理想的温泉にして好評を博せり。



### 眞鍋米五郎君

木田郡林田村

眞鍋家は木田郡の邊境にして代々宗教を重んずるの家柄たり、蓋し其の宗教云々は、佛院の味のあるものに非ずして「人道は即ち宗教也」云々解釋を下せるものにして、一の家風なり居れり従つて君も亦深く宗教に心を寄せつゝあるが、一見するに君は益々宗教の徒の如くならず、能く語り、能く讀み、極めて快調なる人物なり、併して質樸淳厚にして夙に地方の公共事業に熱心あり、現に村會議員、信用組合長たるが、君は非常に謙讓の人なるを以て之に推さるゝや固辭して受けざりしと許されず、遂に除名なく就任を許せり云々、又以て君が人物の一面を知るに足るべし因に道が宗教家だけに君が家の構間は非常に壯麗な佛の寺院にあるもの以上ものにして數千金を出せしものなりと稱せらるゝ、年齒四十有一、地方模範人物たるを疑はず。



### 松田三徳君

三豊郡詫間村

君は慶應義塾の出身にして夙に政界に活躍し、縣會議員たりしこと一ならず、現に代議士として、憲政會に屬し、且比谷原田の立役者たり、君は資性豪放にして調達、義に勇み、常に侃侃の論を唱へ、一歩も譲る所なく、十年苦節を守つて政界に終始するところ方に、好箇の國士たるを失はざるなり、然も身を持するに謙直にして、



自ら受くる所薄く、専ら國事に奔走し、敢て己れを顧みず、宜なるかな郷黨の崇拜の中心として夙に聲望あり、君の如きは亦國士の面目躍如たるもの云々云々、選挙民の誇りたるはずばあらざる也、君は香川縣三豊郡詫間村の人、本年三十有三、前途尙大いに遠達たるものあり、蓋し君今日の如くして終始する所あらんか、近きは將來に於て、中央政界に於ける小政治家として驍目に躍するの機運を試み得べく、津々たる興趣の湧くものなくばあらざるなり。

### 合田梅太郎君

三豊郡大野原村

君は地方の大地主にして、現に多額納税者たり、農業に従事す由來地主たるものは多く無爲の愚民にして平生日那風を吹かして得



意とするの外何等の才能なきを以て常きこと雖も、君は之等の輩に大に其趣きを異にし、夙に公共的事业に熱心し、且つ地方産業の發達に努力する處少からざるものあり、現に五郷山分村、大野原外七ヶ村の組合長に選ばれ、功績多く、地方の民望を厚くして、説教新聞し、其の巧術は大に著しきもの少からず、資性温厚、質樸にして、世間書畫音楽を愛玩し、鑑賞中々の非凡なるものあり、蓋し人格の上たる君の如きは、以て社會の儀表と稱するに足るべく、吾人は更に大に公共的事业に努力奮闘し有終の美を濟さんことを望まざるを得ざる地方模範人物たり。

### 遠藤多喜男君

木田郡東横田村

同家は郡内著名の豪族なり、由來地方の豪族なるものは概ね保守的にして進取的氣概なく、唯之を祖の産を守るに汲々たるもの多きが例なれども君は實て及を負て東郷に遊び早稲田の學園に進取的自由の空氣を吸ひたる人なるを以て、豪も貴に擬はるゝ事なく、大正二年乃至の辛去後を享けて家業を繼承して以來、年少にして公共事業に熱心する所少からず、大に功績を樹立し、郡民の信望を荷へり、君が出生地は同縣同郡三谷村大字西三谷明治二十四年の出



生二十八にして、業餘の就進して學藝を樂しむ外亦他を顧す蓋し君の如きは最も多望なる前途を有する青年紳士云々云々也



### 赤澤新吾君

大川郡白鳥町

君は幼にして嚴父を失ひ母空の手に撫育せられて成長せしが、母堂は縣下に於ても有名なる醫婦人にして夙に表彰せられたる事あり君に對して平生、家名を承けよ、乃父の名を恥かしむるゝまなかるべしと懇に訓誨するが常なりしかば、君も大いに心に勵まれて勉學に熱中し以て人物を練磨したるを以て夙に俊秀の聞あり、二十九年にして既に郡會議員に推舉せられ、爾來郡農會評議員、農産組合長、香川縣香川港組合會長等の公職に歴任し、大いに功績ありたり就中特筆すべきことは君が該地整理に關する功勞にして大正元年白鳥町地整理委員となり大正七年に到る迄、縣下唯一の難問題と稱せられたる同地の地地整理の衝に當り見事之を完成したることを、現在には郡會議員、赤澤手袋株式會社社長、大阪手袋株式會社取締役たり、兼て農事改良に趣味を有す、年齒四十有一。



### 佐藤員善君

大川郡鴨庄村

君は明治三十九年の明治大政刷新にて新選氣鋭の俊材たり、夙に農事改良に趣味を有し、地手對小作人間の融和を圖り、産業の發展に努力する等、公共的事業に並進し、現に所得稅調查委員兼倉庫組合長たるが、亦實業界にも相當活躍し、超風の手腕を揮ひ、事業銀行取締役に於て殊腕を認められつゝあり、人物は温厚にして然も勇氣溢れるものあり、且つ進取的な氣概あり、事に臨んで誠意を有す、されば夙に聲望の取たるものあり、地方の模範人物として推服せられ、其の活動は常に後進子弟の軌範たり、年齒未だ三十有四、爾來大いに森林に富あり、蓋し君が將米は大いに多量なり云ふべく大成亦期して俟つべき也。



### 佐野新平君

大川郡引田村

君は縣下有数の實業家にして鴨油鹽産業を興つゝあるが、元來獨氣瀟灑の人物なるを以て夙に各種の事業に關係して實業界に活躍し、其重なるものは現に大川郡引田村株式會社社長大阪手袋株式會社取締役手袋株式會社取締役、帝國製鹽株式會社社長其他諸社役員として大いに手腕を揮ひつゝあるが、資金豊富なるを以て、運賃低しきを以て各種の關係事業は著々發展を招來し、君は現に、事業家としての先天的天分を有せるが、餘りに獨斷獨行あり、人に接するにしては、利益ある人に對しては、與んで之を避ふるも、利益なき人に對しては、力めて避けるの風あり、且毛織ひするの弊あるを以て、其の信譽を傷つけること少ならず、君の爲めに煩る情むべき事云ふ可し、蓋し君にして、之を自覺し、感念を改めんか、聲望に於ける可く、我が人物の大を加ふに至らべしと信ず、其愛に出でずして、依りて終せんか、地方の小事業家として小成を遂げずして、過ぎざる可し、君たるもの大いに影響する所なかる可からざる也。

### 未 着

### 木下忠次郎君

小豆郡苗羽村

小豆島の醬油は由来古時醬油として世に知られたるものにあるが、同社は小豆郡苗羽村にあり、明治四十年の創業にして資本金三十萬圓(千一萬圓)種立金八萬七千餘圓を有し、同地産業界の

### 未 着

重鎮として島醬油會社と相立せらる。同社の取締役社長木下忠次郎君は、代々醬油産業界にして、斯業に關する造詣深く、常に之が研究に専心し、専門家を避及ばざる智識を有せり、従つて、製造上幾多の改良を加へ、鋭意製品の向上に努力せるを以て製品極めて優秀にして販路は内地に於ては京都、大阪を中心に全国各地に及べるが、尙滿鮮地方にも多大の移出を爲し社運頗に旺なるものあり、木下君は資性朴直にして、一見親しみ得ざる底の人物なれども交際するに從ひ妙味に接し大いに親淑するに至らしむるを常とす、蓋し君が實業的手腕に至りては殆んど天賦と稱し得べく夙に人の稱嘆する所なり、年齒四十有九

### 木村榮吉君

綾歌郡 村

君は綾歌郡に於ける實業界の雄にして現に綾歌銀行頭取、綾歌郡會社社長、徳島水力電氣株式會社 取締役、所得稅調查委員たり、資性温厚にして社交に長じ、公共的事業に對しては身を忘れて能く奔走し、夙に聲望の隆々たるものあり、然して君は頗る現代化せる人物にして其關係せる綾歌銀行の如き外觀内容共に新しき試みを用ひ



居れるが、又實業方針も従つて大いに新氣象を帯び居れるもの、如し蓋し同行の如きは四國唯一の現代的銀行云ふの至當なるべく、又以て君が人物を推知し得べし。

### 木村彌代二君

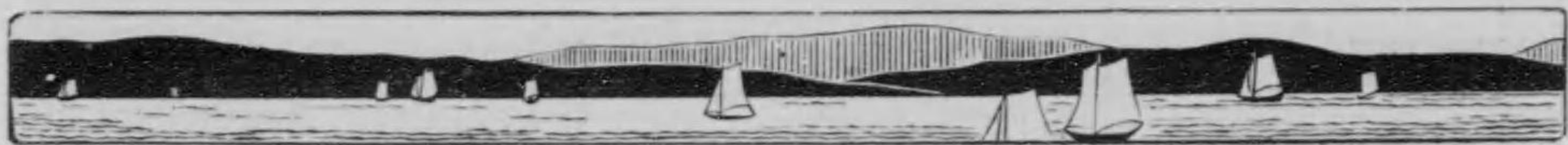
大川郡丹生村

君は縣下に於ける有数の實業家にして大正に中學を卒、後明法館に學べり、然して一時村長たりし事あり、現に郡會議員、縣會議



員等の公職にあつて地方自治政のために貢献せるが、實業家として夙に一見識を有し、條理に合はざることは死すとも之を裁かず、平素、猛虎の勢ひを以て君が唯一の武器たる雄辯を利用し、大いに脚々吼しつゝあり、然して君は亦名方の如き手腕を有し、苟くも事に當る以上、之を成就せずんば、爲めに兎角批評を蒙ることをあるは惜しむべし然れども斯は全く君の名刀が切れ過ぎるが爲にして、實に氏の如きは地方の利器にして敬服すべきなり





### 石川五平君

綾歌郡 宇多津町



君は明治三十年の大坂高商出身にして三十七八年の役には陸軍三等少尉として出征し殊勲を奏したるが間もなくして陸軍二等少尉に進みしも官を辭して郷に歸り、専ら實業に従事せり、君は性温良にして進實常に年未だ四十有六、前途尚春秋に富めり、

### 前代議員 原岡永江君

綾歌郡 富熊村



原岡家は百萬の資産を有し土地屈指の舊家にして豪傑也、君は性温厚眞摯の紳士にして會て縣會議員たり一度は代議士たりしこともあり、學徳二つ共に全く將來政界に於て能く巨匠たり得るの素質を帯び輝るは君の爲めに甚だ惜むべし云ふ可し年未だ四十有六、前途多岐云ふべし。

### 石田甚吉君

綾歌郡 長峯村



君は當世橋に見るの驚聞にして、年少より夙に幾多の幸福を嘗め聞者皆以て百萬の富を積みたる人なるを以て、人情の機微を捕得して幾多なきものあり、又夙に數學の天能を有す是に琴平銀行の権理自出にして如何にもすべからざるに及び専務に就任し、今日漸く賤々の信望を得るに至れる所以のものは一に氏が努力の賜云ふ可き也、君は資性温良、能く人を容るゝの度量あり其の事務を見るや熱心精勵十年一日の如く汝々として倦むことを知らず、君の如きは亦好箇の銀行家として最も未來ある人物云ふべし。年未だ四十有二

### 法學士 原友巳君

綾歌郡 宇多津町



山來味噌の味噌は上味噌に非ず、原友巳君の如きは學士にしては愛し學士の職味なく、専ら自家業製菓業に努力して亦他を顧みることなし時に人の君に、爲すなきを向ふものあるも、大身の楯は九尺二間の長屋に於て使ふべきもに下り、岡山農學、廣澤正金銀行等職に極要の椅子を占めたる事あり、性一見眞實高貴し謙遜も辛直にして温情あり、夙に聲望を有せり。

### 蓮井藤吉君

大川郡 神前村



同家は相當資産ある舊家にして農業に従事す、然して君は進んで幾多の公職に就任し、公共的事業に幹しても表面大いに忠實なるが如くなるも事に誠意なく、元來片々たる小才士肌にして人格として見るべきもの乏しく、要するに君の人格を傷つけ或は自我の感情に克て、客の誘いを享くるが如き君が地方人士に輕視される、所以たり氏にして思ひ手に過ぐるものあらば社會の爲め大に益するものあり云ふ可きなり。

### 長谷川嘉壽助君

大川郡 王寺南河堀町



君は丸龜市藤原町の人なるが幼にして實を以て東都に遊びしが其間幾多の幸福を嘗めたる人にして夙に聲望を有する、是は高深く斯界のオーソリティーとして知らるゝ、曩に聘せられて矢野製菓株式會社に入らしが、其の誠實なる學識も非凡なる手腕もは驚かしにして社内的重要を得、今や同社の重役として、大いに得意の手腕を振ひつゝあり矢野製菓株式會社がの雅量に富み、且つ一見識を備ふ、然して社交は君が最も得意とする所にして、對人をして敬服せしむ、蓋し斯は多量幸福を離れて社會を遂観せし賜にして氏の前途や遠望なり。

### 橋本安兵衛君

大川郡 白鳥町



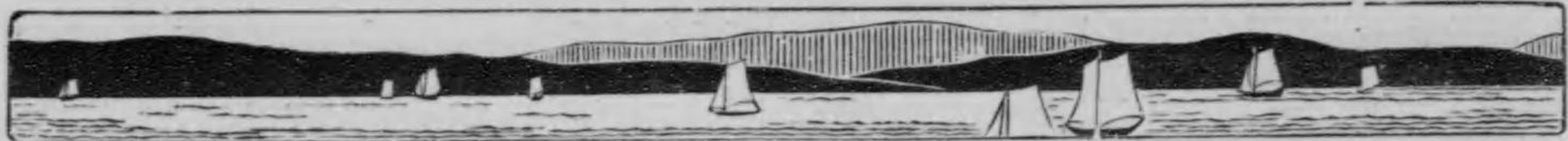
橋本家は白鳥有数の舊家にして今を溯る二百五十年前より醬油醸造業を營み今日に至れるものにして屋號を江戸屋三稱す、君は性温厚實朴權勢等に着かず、舊家を誇らず只一心に公共的事業に従事するに餘元年の半れなるも老來意氣を々々旺にして今尚壯者を凌ぐの概あり。

### 濱垣行太郎君

大川郡 垣生村



濱垣家は代々大庄屋たりし家柄にして維新以來も有数の舊家として知らる、然して君は年二十五歳にして既に村會議員に當選し、爾來村長及び部會議員たり成ひは耕地整理組合長たりしことあるも、今は總ての公職を辭し、大阪手袋株式會社に盡したる功勞は甚だ顯著なるものある也、聲望の隆々たる亦所以なきに非ざるべし。





徳島郡会副議長 西村佐織君

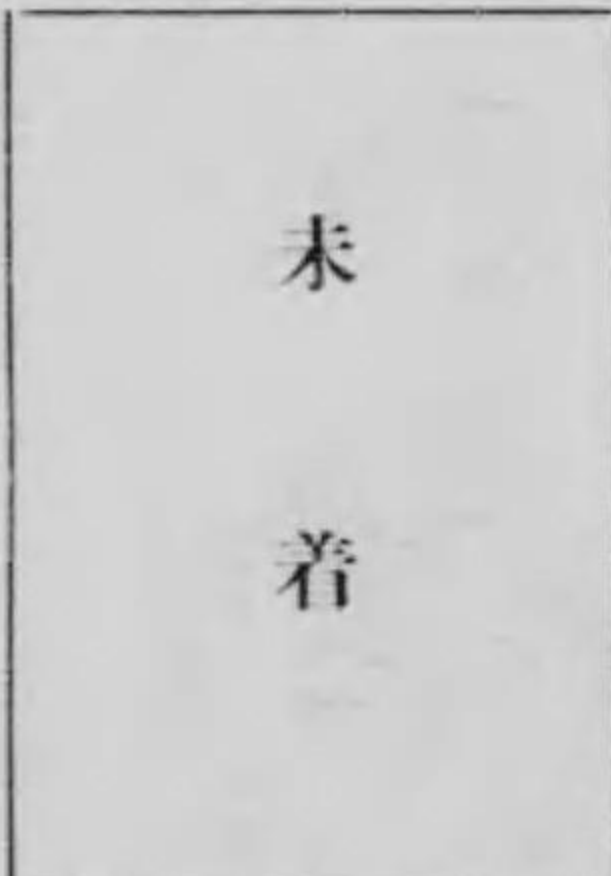
徳島郡 道田村



徳島郡の徳望家として、西村氏の信望を荷へるもの、西村佐織君は、若くは久二年の生れにして、既に郡会副議長、徳島郡教育会長、郡農會評議員等の公職にありて、克己精勵、能く地方自治に奔走し、功績、郡民の中心たり、君を以て家業を承継す、國家の爲め、君の健康を祈る。

徳島警察部長 細川長平君

徳島市警察部官舎



君は明治十七年香川縣木田郡に生る、明治四十二年七月帝大法科の出身、京都府に司法官試験たりしが、後、東京警視廳事務官を経て、徳島警察部長に榮轉、君生來熱心努力の人にして、從て朝野望厚し、然れ共、道徳務の登山は亦以て君の最も嗜むところにして、休日屢々外遊の行を見るに云ふ。

多摩郡会議長 堀家嘉造君

多摩郡 奥北村



君は幼より漢學を修め、長じて國史に博識し、和歌を大藏卿に學び、識識する所深し、家業は農にして、専ら之に努力せらる、一方地方自治に盡心し、能く地租改正に際し、小區總代表顧問人となり、大て副小

富志家 富羽政吉君

丸龜市 濱町



君は丸龜市唯一の徳望家にして、弘化三年に生る、現に市會議員たり、油商を営みつゝあるが、性業志の念深くして、風に公共的事業に盡心し、各方面より賞状及び褒稱を授けられたるに、殆んど枚挙に遑なし、

鳥取治郎八君

三豊郡 笠田村



君は有名なる勤儉力行家にして、屈指の豪傑であり、且つ多額納税者なるに不慊、未だ嘗て納税以外ものを用したる、ミなく、平生自ら農事に親しみ、然れ共、努力し亦、修む所を知らず、然らば、斯くして常に、虚飾を去り、克己を志す、

前土庄町長 大森貞資君

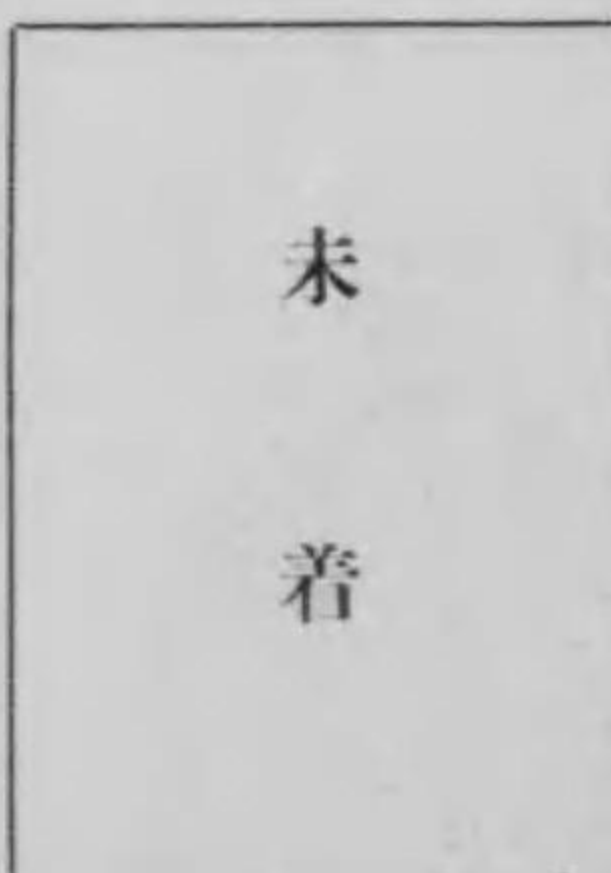
小豆郡 土庄町



君は小豆郡土庄町の名門にして、百萬の資産あり、鹽元富、肥料、石材、穀物業等を營業し、常地方實業界に於ける重鎮たるのみならず、亦地方政界の大立物にして、明治三十二年郡會議員に當選し、翌三

株式会社高松銀行頭取 都崎秀太郎君

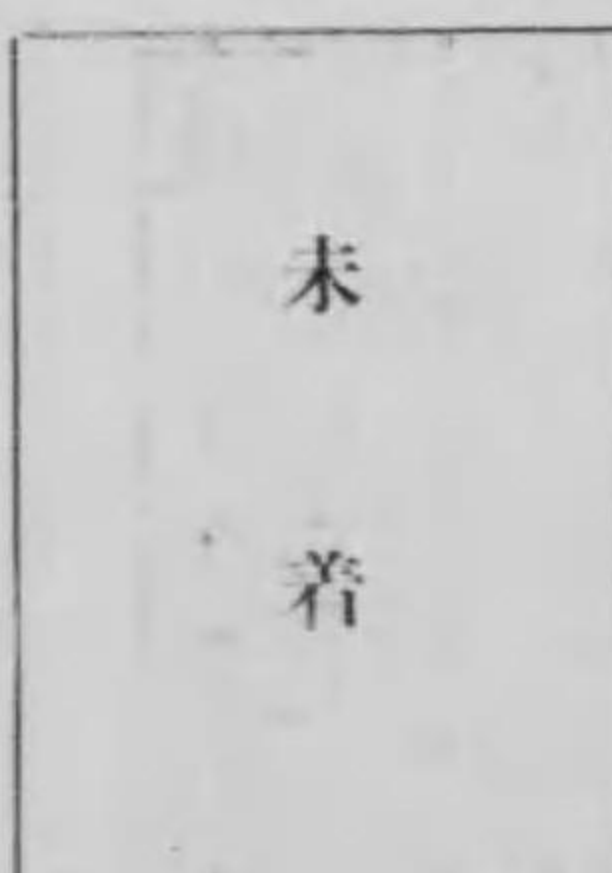
徳島郡 金山村



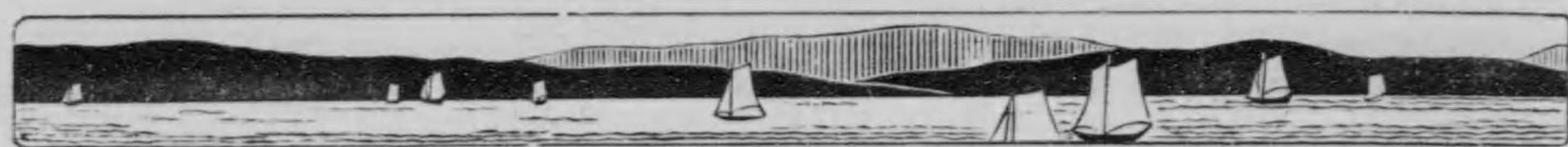
君は嘉永五年徳島郡金山村の農家に生れたるが、幼にして漢學を修め、長じて、東都に遊學し、歸來、實業界に身を投じ、率先して各種の事業を起せしが、君が祖傳の手腕は、一處にして可ならざるは、不

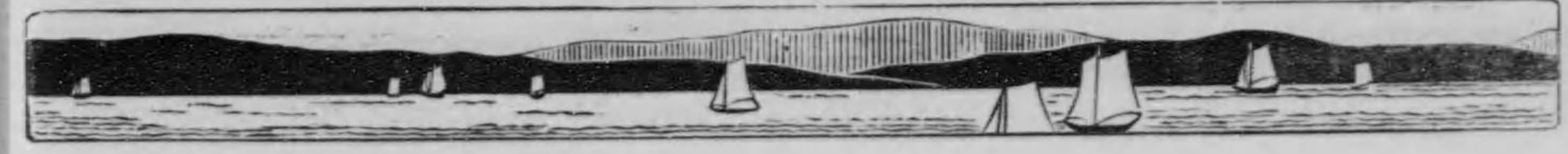
株式会社土庄銀行頭取 大森財藏君

小豆郡 土庄町



君は大正二年早稲田縣高松市に生れたるが、學識博識に業に造じ、語言極めて爽快、然も何處かに時流に超越せる所ありて、年少なるを、横し、區々たる公職に就くを肯せず、平生





### 大喜多満壽治君

三豊郡 辻村

由來、香川縣は醤油醸造の本場として其名全國冠たる所なるが、同家も亦醤油醸造家にして、縣下屈指の富豪なり、然して君は少くも學を好み、長じて及を東都に負ひ明治大学法学部に學びつゝありしが、在學中乃父の不幸に逢ひ、家事ひに春秋に當り青年紳士にして、今後更に大に修養せんか、人物漸々に圓熟するに至るべく、近き將來に於て同地方の代表的人物たるに至るべきは當然の事にして、前途大いに輝かすべき人物云ふべし。

### 未着

### 綾歌製絲株式会社社長 小田伊三郎君

綾歌郡 千疋村

君は綾歌郡千疋村の名門として由來公共的事業に熱心なる人物にして農事改良等に盡力して大いに功勞顯著たるは人の知る所なり、然かして同郡の産業發達は君が續年の意志にして夙に之が獎勵に努力しつゝ、あるが然し其經營頗る宜しきを以て同社は非常に好成績を示せり、君の如きは亦同郡になる可からざるの人物たるを失はず。



### 工學士 鴨井清三君

泉北郡 濱寺町

同君は明治四十三年京大出身の工學士にして前に東京製糸社に入り技術員として大いに手腕を揮ひたるも、感する所ありて之を辭し最近香川縣の發明に没頭しつゝ、あり、蓋し君は元來頭腦鋭密にして慧敏なる發香川縣本郡井戸村は其の出世地なれば、郷人は君が成功を大いに期待し居れり左ある可し。資性良温にして年輪四十三、前途多幸たり。



### 竹内照雄君

丸龜市 中府

同君は西京の實業界に於て最も回達を昭せられたる、ある小社實業家にして、現に丸龜市に於て獨力、太陽製鋼社を經營し專ら洋機、硝子器具、物理化學器械及び蒸氣機、機等の製造廠に從事せる外、丸龜製糖株式會社、丸龜米倉倉庫株式會社、丸龜米倉倉庫株式會社があるを見均すなり、年齒未だ二十有餘歳の青年たり。



### 四國水力電氣株式会社 小野麟吾君

三豊郡 上高瀬村

香川縣に於ける各種工業は近來頗る目覺しきものあり、從つて之が動力を供給すべき水力電氣工業も亦著しく其の勃興を見るに至り、四國水電の如き空前の盛況を見せり、君は同社が未だ建設氣三稱せし時代より同社にあり、現に取瀨村の村長たりし、こゝより後無會議員に擧げられ大いに地方自治を刷新せり、人物たるを失はざる也。

### 未着

### 和氣智典君

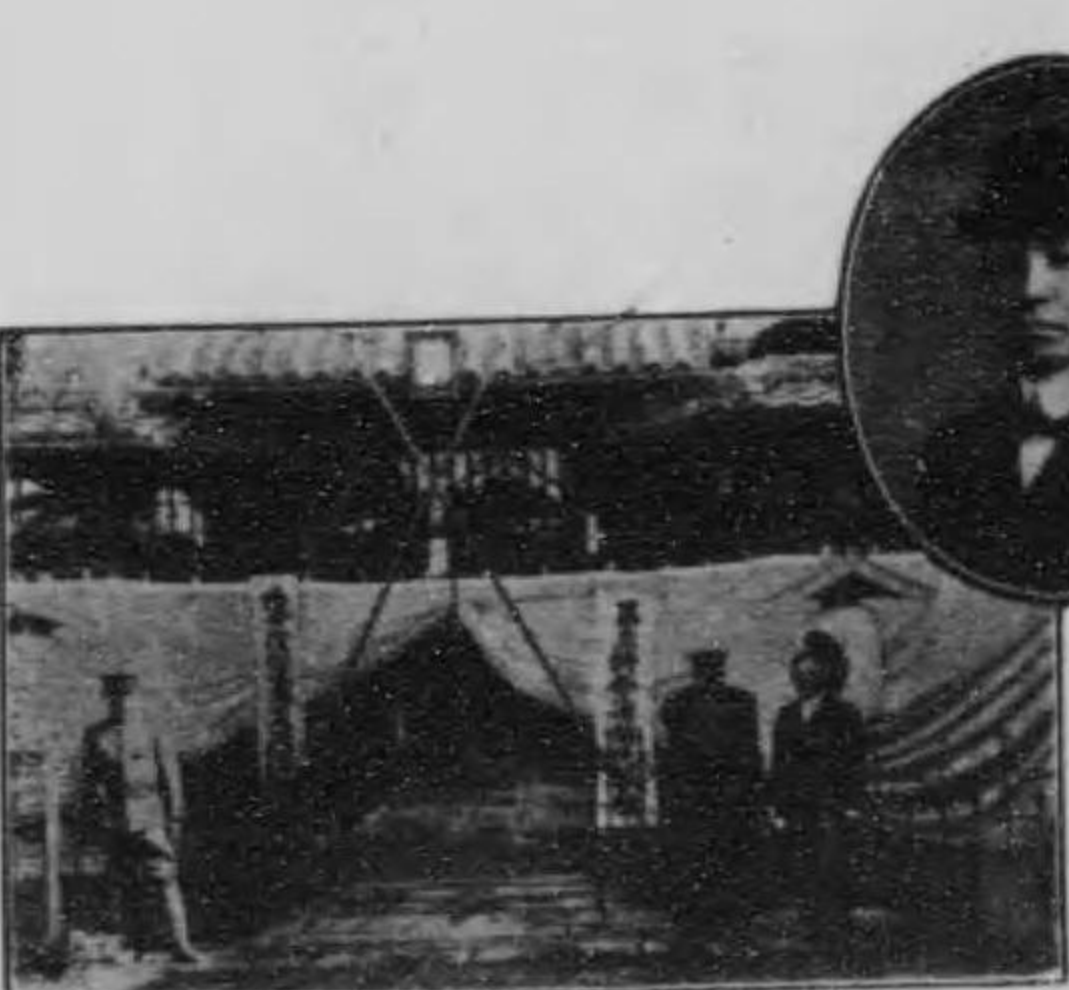
仲多度郡 豊原村



和氣君は人皇四十三代元明天皇の御宇入江乙長智氣道隆公の輔政に係り、豊原村を奉安せらるるものにして、第三世法光大師、第四世智達大師、第五世親賢大師の住職したる遺蹟にして、夙に由緒ある伽藍として知らる、現任和氣智典君は眞宗高野山派を奉安せる中世にして本年五十才前に高瀬村の智識として著明な地方有志大に望し

### 吉尾喜平治君

丸龜市 濱町



君は丸龜末通の士族にして、兼ねて高等商業學校畢業にして當郡第一流たり、其天性、熱心、勇氣、且其に亦、任侠的人物なるを以て當地産業界の領袖的人物として、君が推されて丸龜消防組長、株式會社丸龜檢驗所社長、丸龜發取組等たるが特に、君が推されて其職に、君が推されて功勞顯著なるものあり、君が推されて香川縣知事より賞状及賞金を授與して之を表彰されたり、云々、亦推して君が平生の一般を知るに足るべし、内に要領、君が推されて。

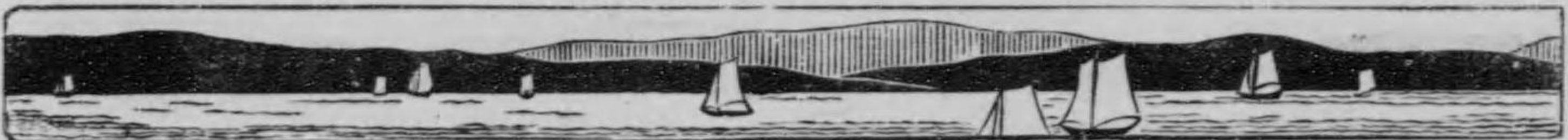
### 竹内義太郎君

大川郡 白島水町



同君は祖父八郎氏の時代より、醤油、酢の醸造業を営めるものなるが、君亦斯業に對して大いに興味を有し、苦心研究の結果、幾多の改良を爲せるを以て、醸造業は比較的尠なり、品質は、極めて優秀なるものあり、宛して、醸造業の精華たり、資性温厚にして且つ質朴、家に右數の富を蓄へ、常に公共事業に盡力して功績多からず、從つて人望頗る厚し、且君の製法は最近京阪神に好評を以て迎へらる盛況を招來せり。





### 山野貞一君

木田郡 三谷村

山野家は木田郡に於ける大地主にして、明治二十七年早稲田大農政講習科に學びしも、中途にして家事の都合に依り退學し爾來父母の膝下にありしが、大正五年三月乃父の卒去に逢ひ、遂に亡父の遺産を繼承せり、然して君は元來地方殖産に興味を有する所より、夙に農事改良等に盡心し功勞著しきものあり、茲に木田郡會議員、三谷村長、同郡養蠶組合副組長等の公職に歴任せり、資性温良にして重厚、稀に見るの豪傑者にして、滋學の素識深く、地方青年指導に尤も熱心にして其功空しからず衆望を負へり君は大地主なるに不憚、道に新しき教育を受けた人なるを以て、深も之を愛に著るこなく、懇に村民を指導發しつゝあるを以て、人等頗る驚く噴々の聲あり、且小作人を愛撫するこ宛然兄弟に於けるが如きものあるを以て、彼等は大地に之を徳とす、蓋し君の如きは亦一個の高潔的人物として推賞するに値すべし。

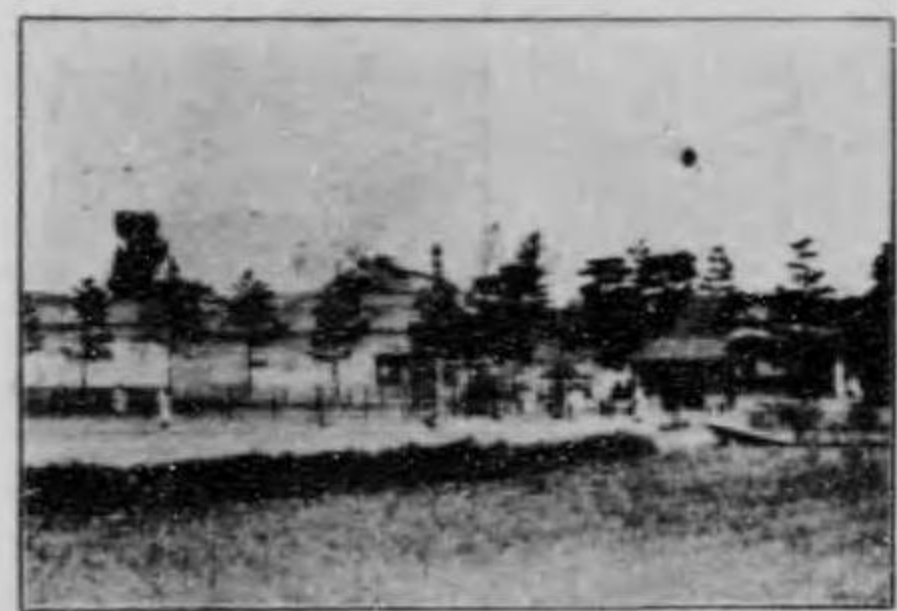


未着

### 山田惠一君

木田郡 前田村

山田家は當地屈指の豪農なり、君は郡立三高等學校を卒業するや、更に大體に入るべく準備中なりしが家事の都合に依り廢念するの止むなきに至りしを以て、爾來郷里にあり、種樹殖林、道路開墾、農事改良、養蠶奨励等地方の公共的事業に盡心し、幾多の公職に歴任して功績偉大なるものあり、萬人の信望を一身に聚め村民呼んで日那の譽稱を用ひ居れり、以て君が人物を推賞するに足るべし、然して君は亦大地に實業界にも活躍し現に讀賣電燈、高松電氣軌道、讃岐鐵道に取締役たり、年四十六



山田君之邸

年四十六

### 山本林藏君

三友 多度津町

山本林藏君は温厚實直の人物にして父祖傳來の酒造家なり、然して同君は博識に富み造詣深きを以て常に在來の醸造法に研究を加へたる結果幾多の精進なる改良を施し現に權造しつゝある清酒「友の國」の如きす、各地の共進會其他に出品し、悉く金銀牌或は賞状等を得つゝあるを見る、も嗜之を推賞するこを得べし



### 増田一良君

三友 多度津町

増田家は同郡屈指の豪農にして、同君は宛然地方的職業の中心人物を以て目せらるゝ、然も資性温厚にして人格高尚潔、高風亮節す可きものあり、さば常に衆望を一身に聚め、あやむなき功績を大久保先生に師事し、遺訓する所深し云ふ、年四十六



### 問島四郎君

大川郡 長尾町

問島家は縣下有数の醸造家にして清酒「峰の雪」の醸造元として知らるゝ、然して君が家業を繼承したるは明治十九年にして、爾來之が醸造上に幾多の工夫を凝らし大いに聲譽を高からしむるに至れり、資性温良にして公共的事業に盡心し功績を大に著せり、蓋し大川郡長尾町に於ける實業界の雄たるもの云ふべし。



### 藤村五郎君

三友 多度津町

藤村家は縣下有数の名門にして巨萬の富あり、同君は資性温厚にして清酒の醸造に造る處味を有せり、さば同地方に於ける醸造の新案或は増産の問題起らんか、常に率先して専心其衝に當り、時教育界は爲めに大いに其面目を一新せり、蓋し、君が大の信望ある、亦決して所なきにあらざる也。(年齒又元元年生れ)



三七



### 丸尾重雄君

仲多度郡 榎井村

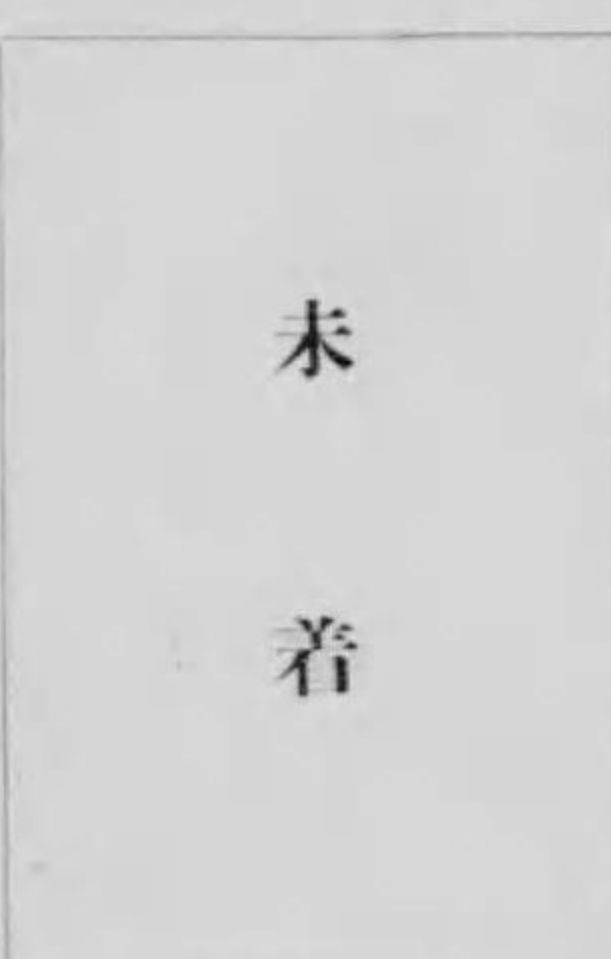
君は非常な大家にして巨萬の富を有し酒造業を發達して元來生業を發達して政治家に歴たるの人物にして、夙に衆望を負ふて縣會議員、縣農事會議員、所得稅調査委員、縣農會議員、同評議員、務あり美に郷村々長の満期退職するや、村民は君に懇請して止まず、現に同村長を兼ね居れり、蓋し人望ある君の如きは又其た少し、年四十四有八



### 松本傳治君

丸尾市 木町

同家は實物文具商を營みつゝある萬家にして、現在の商舖は今より約百年前の建築になりしものも稱せらるゝ、蓋し同地第一等の巨商也、君は、資性温良、夙に公共事業に奔走し所請身を捨て、仁を爲す程の人物にして、感なくんばあらざるが、如斯は其の爲めに決して取らざる可からざる所にして、人は君が再び推士重来、大に公共的事業のために勇躍せんことを望まざるを得ざるなり。



未着





### 丸米券倉庫組合長 藤田政男君

丸米市

君は丸米市中府の人農を業とし相當の資産を有せるが夙に農業倉庫の必要なるを感し、大いに之が研究に没頭するに共に全国に行動して視察する所あり、遂に完全なる米券倉庫を設立し得たるものにして丸米の米券倉庫は君が半生努力の結果にして且つ我國此種施設の嚆矢たり、故に千里を遠しこそす、進々同倉庫の視察に来るもの多し

君は丸米農科大學の出身にして既に代議士に當選するに二回、香川縣政界の大立物たり、且て東京朝日新聞記者たりしことあるも、近來主として實業に従事し、南滿洲製糖株式會社、大日本製糖株式會社の創立なき間諷の人、兼に「日本の高山植物」「瀨戸内海」等の著あり。氏は香川縣長尾町の出身なり。

未着

### 代議士勳四等 小西和君

東京青山原宿



君は丸米農科大學の出身にして既に代議士に當選するに二回、香川縣政界の大立物たり、且て東京朝日新聞記者たりしことあるも、近來主として實業に従事し、南滿洲製糖株式會社、大日本製糖株式會社の創立なき間諷の人、兼に「日本の高山植物」「瀨戸内海」等の著あり。氏は香川縣長尾町の出身なり。

未着

### 小西元君

大川郡長尾町

小西家は代々豪農にして土地所有の名望家なるが、同氏は政治經濟等に興味を有する所より長じて早稲田の法科に學び明治二十九年業了へて歸郷せしが、後間もなく乃父の死に會ひ家業を繼承するにこゝなりたる爲め止むなく業志を擲り人皆深く之を敬慕するに至り蓋し如斯く亦人世の本懐ならずこそす、年餘有る四

### 請川本治君

讃岐徳丸株式會社取締役

人各一長一失あり、請川君の如き農家の出なるも、種族たる勇氣事業家の卓越せる手腕は、以て軒を切つて感々乎たること能はず別に事業界に出で、大いに活躍し今や讃岐徳丸株式會社取締役、三豊郡同業組合長、同業組合長、所得稅調査委員として縣下有数の實業家として知らる、然して一方地方自治政に趣味あり、地方自治は國民の信望頗る篤し、蓋し君の如きは亦、地方的一助方たるを失はざるもの云ふ可し、經下三郡郡紀井村大字木之郷の人、學業は専修學校一年の修業にして年餘有る四十三、君の關與せる手腕は寧ろ今後に於て見るを得んか。

未着

### 出口清治君

丸米市鹽飽町

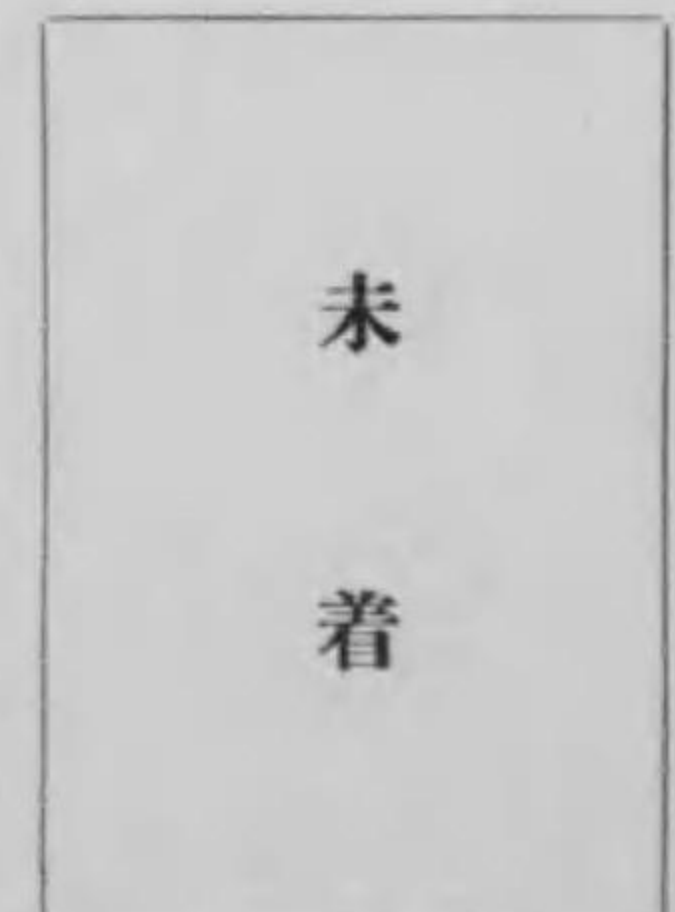


近世社會工業進展に伴ひ油類の需要年々著しく激増しつゝあり、就中歐洲戰亂勃發以來は外國品の輸入全然絶絶するに至りたるを以て製油工業は長足の進歩を遂げ、新業大いに勃興して業界は未曾有の活況を呈するに至り、従つて幾に今父卒去の後を承けて家業を繼承せる年少氣鋭の人材にして、現代的高等の教育を受けて、常識頗ぶる發達せるのみならず、手腕又非凡なるものあり、新進の小壯實業家として嚆望せらる。

未着

### 櫻井求吉君

教生堂藥局



君は讃岐郡宇津野通寺の産にして、丸米市に出で明治三十五年藥種商を開業したるが、經營大いに宜しきを以て、漸次著しき發展を招來し大正六年一月に至つて高松市丸米町に支店を開き、以て今日に至るに關係し大くの私財を別て校務の刷新に努力しつゝあるが、此の含持なる行爲は一般市民の大いに多きする所にして、信望頗る篤し。

未着

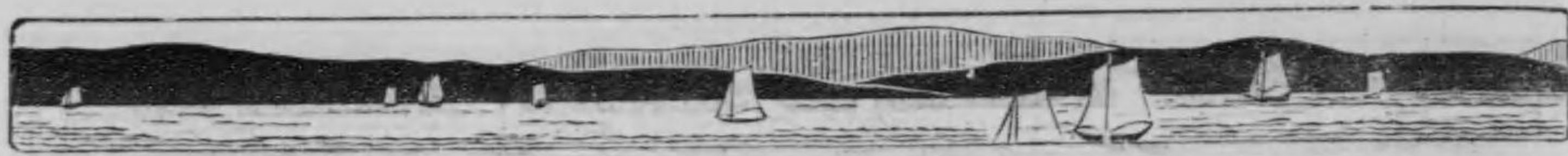
### 三好實言君

白峰寺住職



白峰山白峰寺は弘仁六年弘法智證兩大師の開基せるものにして、崇徳上皇御菩提奉養の靈場たり、千仞の兒嶽は雲に聳へ百圍の樹影は翠り滴る蓋し當山の秀麗は千古の靈場たるに應さはし、住職三好師は讃岐郡御嶽に就任して今日に至り、資性濃厚なる無二の人材にして有徳の聞は高し。

未着



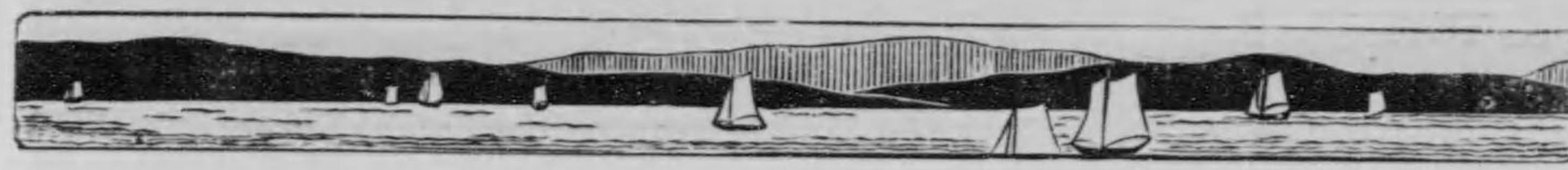
此地に詣でなん輩は一佛淨土の友たるべし「云ひ盡さぬいやちこなるを以て、報恩の巻讀者二六事せるが、一報恩厚く且つて歐米を没遊せることあり、理に中儀正たり。

### 佐伯宥榮君

普通寺住主



別格本山屏風浦普通寺は弘法大師の御誕生の靈地にして、曾つては佛宗の開祖たる圓光大師も「一度時中種を斷つことなし、佐伯師は一世の高徳にして夙に同山の真主として宗務を總執し熱心布教に従



縣會議員 宮井瀬次君

綾歌郡坂本村



君の家は代々農業を以て業とし相當の資産有り、君は明治三十年の中央大業出身にして、曩に大正四年香川縣會議員に當選して以來、終始一貫地方自治に貢献し、公共的の事業に對し私財を投じて其の運用を便重厚淳朴の人にして其の高尚偉麗の人格は、以て人々推服せしむるに足るものあり、小壯なるも同縣會議の重鎮として知らる、年齒漸く三十九

鹽田角治君

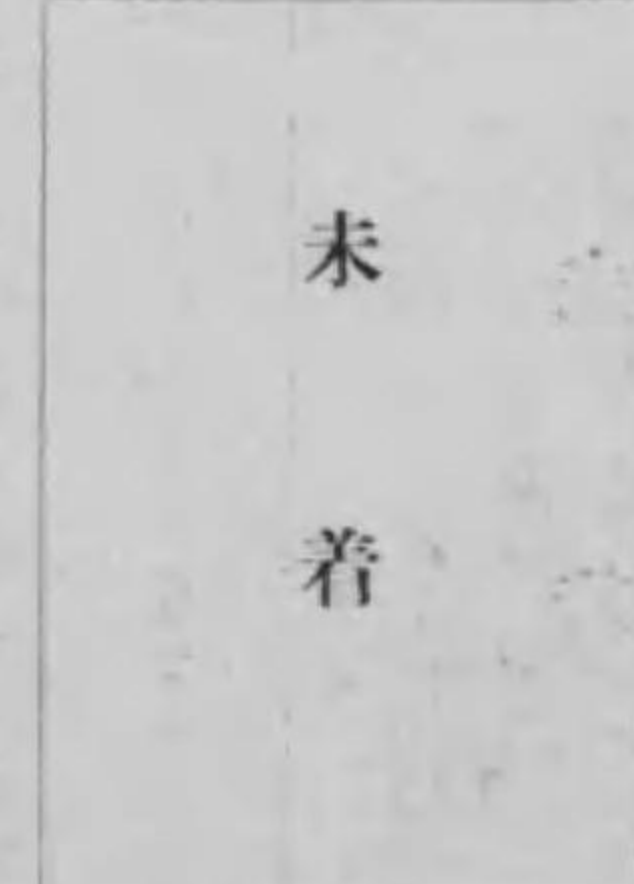
仲多度郡多度津町



同家は同郡屈指の豪農たり理に多額納税者にして、生來慈善心豊く、正公共的の事業に熱心なる人物なるが、君が慈善心の如何に厚きかは曾て小作人に對して先代に定めたる料米を高めし事なき一事を以ても之を推自から適當に信するだけを支出する等種に見るの奇特なる人物なり、故に町民は大いに君に推服し曾て反對に出でたることなし云々。實に同郡の領袖と云ふべし

辨護士 白川朋吉君

大坂市



君は香川縣三豐郡觀音寺町の出身にして、明治六年を以て生る、夙に中央大業、關西大業に業を了へ大坂市東區北濱四丁目にて辯護士を開業し、大坂地方裁判所所長たり、資性謹直にして感服を以て知らる、裁判、法の法律的の諳識なる諳識に至りては、華城法曹界に多く比倫すべき人物を見ず、曠々たる聲名あり、爲後進の途を指し、断界に超然として以て一勢力を爲せるの狀は、政界に於ける、公山縣に相類たるものなくばあらず、蓋し當地法曹界の雄大なるを失はず

坂出町長 島田恭平君

綾歌郡坂出町



由來町村政の施設宜しきを得るは極めて至難の事にして、君は同地方の名望家にして夙に豪傑な一身に負ひ大正三年五月坂出町長に就任したる人にして、重厚淳朴の士、自ら是を信すれば本固にして所信を曲げず、以て必ず之が進行を期す底の人物なり、蓋し斯くて町施設の、縣下町村自治政の模範とせざる可からず、同町最近の發達亦君に負ふ所多し云々云々可也、君年齒未だ三十有八

丸龜商業銀行頭取 平澤平君

綾歌郡土器村



同君は讃州に於ける小壯銀行家にして夙に手腕、聲望あり、君の並に丸龜商業銀行に入るや、經濟界の領袖に相應して常に適切な快腕を揮ひ、大いに行運を隆出すべく努力しつゝあり、蓋し同行今日の發展は又て、同地方多く君に凡庸すべき者を見ず、年齒未だ三十有七、前途多望なり云々云々べし

丸從六位勳六等 樋口徳太郎君

丸龜市



君は明治三年を以て生る天資濃厚明晰の頭腦を有し明治廿六年明治大業を幸へて官界に進ぶ、縣廳事務官部長等に歴任し、大正六年綾歌郡長より丸龜市長に榮轉し、從來振るはざりし丸龜市の市政も君の名方に俟つべきものありて朝野の聲譽亦厚く流所に通材を得たる偉材と云ふべし

綾歌銀行取締役 末澤潤吾君

綾歌郡端岡村



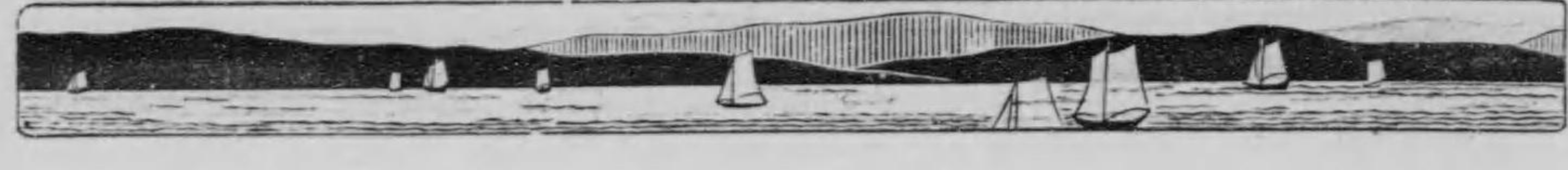
君は小壯實業家にして、計數的天能あり且つ頭腦極めて明晰加ふるに天資の外天的非凡なる手腕を有す、兼ねて綾歌銀行取締役として端岡出張所長を兼ね、精敏なる敏腕を以て行内に重きを爲せり、然して君亦數の資産を以て一家にして一般の厚く大に有爲の小壯たるを先はず

大川郡長 小川正作君

大川郡長尾町



君は資性朴直にして朝氣満々たり多く諸人を知るの權能に富むる任前未だ日淺けれ共其の抱負たるべき地利に適する工業獎勵政策は若くして、其謀略を照し最近一百萬圓の帝國製糖株式會社の成立努力に俟つべきもの多大にして地方の爲大に欽すべき現象なり云々云々べし

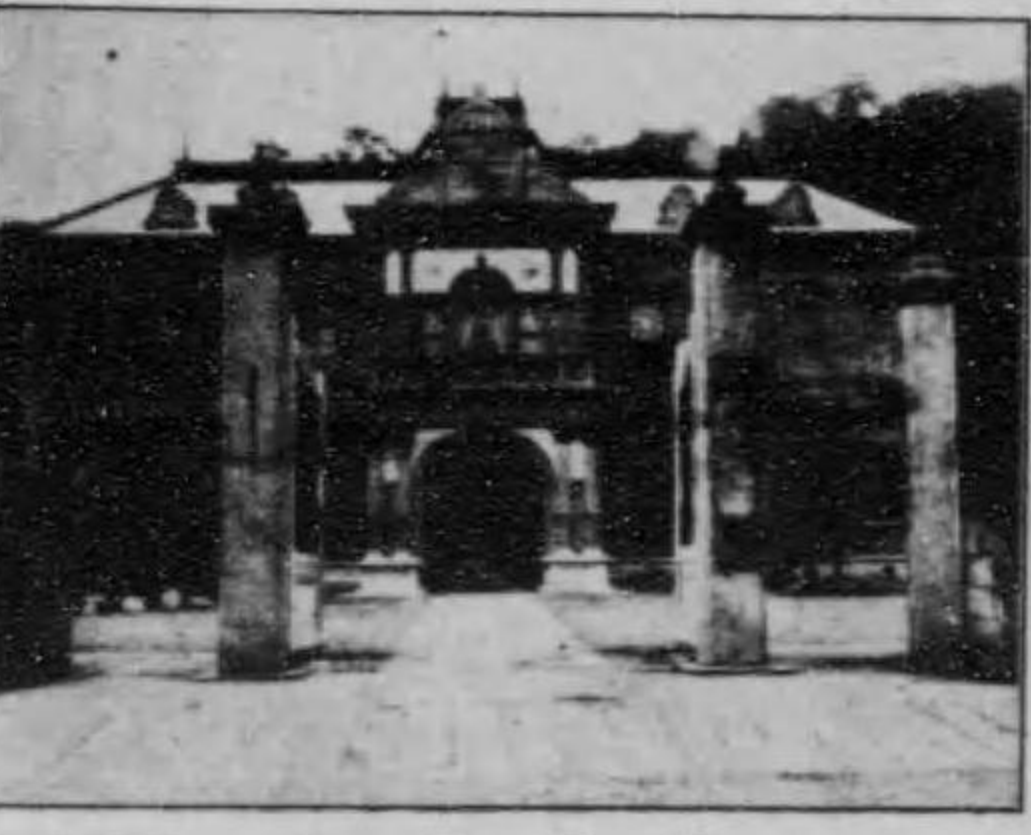


# 愛媛縣

## 總說

北は瀬戸内海の急潮を受け、南は岐門を以て隣縣と交通を絶ち、西は日向灘を隔て、遙かに九州と相對するも、海に來往すべからず之が以て本縣の人心自ら狹介、襟持高くして熱誠時に金鐵を滿がすの概あり、然も嶽々東西六十餘里、東海人の奇才功績は之を西海に求むるを得ず、西海人の温良敦厚は之を東海に望むべからず、松山市を中心として東西十餘里を異にするも、諸に當つては和衷共同共に行を一にす。

本縣は山來、高材逸定の輩出せるのころ、亦秀麗なる山嶽の感化たらんばならず、即ち元大政市會議長として名ありし藤澤士日野國明、二代の文藝種代の大才夏目漱石、少將秋山真之、男爵松尾啓善、男爵法學博士種田重、故法學博士種田八束、故大政市會議長藤澤士日野國明、代議士政尾藤吉、男爵松尾啓善、貴族院議員廣瀬所頭取士井通六、代議士加藤彰康、富安安田三郎、大倉兼馬、高田一、高田三郎、大政市會議長西村三郎、帶平新田長太郎、櫻井の朝香津田五郎氏等數々來れば實に多々傑才たり、本縣の生産は遙に他の三縣に超越し、總生産額一億萬圓を下らず、工業は農産を凌駕して工業立國政策の基礎を自成一にす、蓋し伊豫群三、大洲半紙は江戸時代代行司岩井馬三共に西幕時代の稱として、藤は又宇和島、大洲の兩藩は元勤王の旗幟を顯して佐幕の松山藩に臨り蓋し南北朝時代、土居、得能勤王を尊ぶ、其の遺蹟を異にするものあり、故は即ち一なり、萬高十萬石



總縣媛愛

## 地理と沿革

●地理 本縣は南海の西北部に在りて伊豫半島を貫し、東北より西南に狭長にして延長六十四里、東は僅かに香川縣徳島縣に接し

を以て隣の縣に列せるは三百餘里、伊和島伊達島のみなり。風教に達りては、各藩を通じて、最盛に盛んにして實業繁行、松山に田中一如あり、風に至孝の譽馳して知らる者、近江縣人中江藤樹は大洲藩主の聘に應じ來りて、強々城下に道を通ずる事三年、田中氏の意に背き難く去つて、轉京に歸臥せし、物たる銅像は天皇台の上に温容を流へて千載の松樹は今尚深く緑の色を呈せるあり、松山は豪宏不羈、禮節を極めて武藝に「やめばやみ、鳴けば鳴きだす」との聲を遺して、處世の確決を示し、物外禮の節あり、文教大いに實を發して成彩一世の華とし、今尙遺に落ちたるを拾はざるが如き、所以なきにあらざる云ふべし。

●沿革 舊記の傳ふる所は、太古、伊弉諾神の國を生ませられてより、木土は爰に離れて、爰に實命に由りて治められ、愛媛の名は之に基くあり、降りて、景行天皇遺後、倭皇行幸以來、皇に武國、漢別士之を誦め給ふ、成務朝の漢皇、命、持統朝の田中法皇等の總國司を経て、元龜年間高田成也、天長年間宮野真道、承平年間中友時人等相次ぎて國司に任ぜられしが、武家時代に到りて、藤原朝紀



多田滿仲、源朝義、藤原朝隆後して相討け藤原氏の末裔に及び治承年間、河野通山平氏の目代を取りて之を領し、千通信、相朝に隸屬して、道後七郡の守護職たりしが、後鳥羽上皇の承久役に興したるの故を以て陸奥に配流せられ、佐々木盛綱、代つて守護なる正慶年間、保元通綱、土井通輝等は共に北條氏に叛き義兵を擧げて長門探題、北條時道の軍を扇動し、或るや、國內全く一氏に歸せし、延元元年河野通治、尊氏の命を受けて歸るに及び、幾多の争鬪を経て、道後諸郡を擧げて河野氏の有に歸したり、爾來通治の子孫に依りて治めらるゝこと



園公山松隆伊

明治四年七月	大參事	菅	良	朝
同 五年二月	參事	本	山	茂
同 六年二月	同	江	木	康
同 七年十一月	同	岩	村	高
同 十三年三月	縣令知事	關	新	平
同 二十年三月	知事	藤	村	崇
同 二十一年二月	同	白	根	專
同 二十一年七月	同	勝	間	川
同 二十七年一月	同	小	牧	昌
同 三十年四月	同	牧	孝	次
同 三十年十一月	同	牧	林	眞
同 三十一年一月	同	牧	林	眞
同 三十一年十二月	同	大	庭	寛
同 三十三年四月	同	本	部	泰
同 三十七年一月	同	菅	井	誠
同 三十七年十一月	同	安	藤	謙
同 四十二年七月	同	伊	澤	多
同 大正元年十月	同	深	町	謙
同 五年五月	同	坂	田	幹
同 六年十月	同	若	林	責

## 行政と自治

●行政 區域は頗る廣汎にして、松山市、西條郡、越前郡、周郡、新居郡、宇布郡、伊予郡、喜多郡、西宇郡、東宇郡、北宇郡、南宇郡の十一市十郡を擁するが、當局の施設はしきものあるを得て、政治、教育、産業等頗る進歩するものあり、總生産一億萬圓に上る、之實に縣民が自治の進歩を享受して〇勵進の結果に外ならずはならず、以て同縣の誇るに足れり。

●自治 本縣は地勢東西に狭長して一帯に深山高嶺の大氣を負ひ、三面は悉く波浪を透して豪宕氣、彷彿たる風にして、住民は先天的の自衛の氣風を増長し、論議に走るの癖なき能はず、或ひは剛直林業にして下らず、或ひは強辯強敵にして相争せず、或ひは達者兼にして狹介なるが如き一長一短、自ら東西を爲し、王政維新後は兵馬に代ふるに、論議の論を以てし、彌々論議の風を助長し、政界の分野最も明瞭にして、自治の觀念は之がために異常の發達を遂げ見るべし、蓋し本縣の如きは四國唯一の自治體三稱するも決して過譽に非ざるべし。

## 財政

本縣は四國四縣中最も租税の負擔軽く、然も産業の發達は著しきものあり、従つて財政の基礎極めて厚し、縣政戸數の如き非常に小縣にして、徳島縣一戸當り、兩縣に對し本縣は僅かの一面餘に過ぎず、殆ど其半に均し、以て本縣財政の一斑を窺ふに足るべし。而も之を得納稅者の所得種類別に見るに、牧業採炭業に於て、高知縣に一步を譲るの外、農業、工業、商業、礦業、勸務其他の所



所なも、近し食北新製法の併合に依つは更に一勢力を加へたるもの云ふべし。

●松山綿練製合名會社 松山市京町にありて開業尚未だて日淺れき豫定より上の成績を収めつゝあり...

會社

●伊豫鑛業株式會社

創立大正三年七月、資本金一千萬圓、一株五十圓、擧げ高十二萬圓...

●伊豫鐵道株式會社

創立明治十九年十一月、資本金四百萬圓、一株五十圓、擧げ高四百五十萬圓...

同 長八東喜藏 專務取締役 新野伊三郎
同 取 締 役 買 田 金 三 郎 同 仲 田 傳 之 丞
同 同 本 榮 吉 同 清 水 義 彰

●松山電氣軌道株式會社

創立十四年三月、資本金二百萬圓、一株五十圓、擧げ高七十七萬圓...

同 長 栗 田 光 一 專 務 取 締 役 久 松 定 夫
同 取 締 役 支 配 人 仰 之 木 晋 一 郎 取 締 役 龜 岡 哲 夫

●愛媛鐵道株式會社

創立大正四年六月、資本金百萬圓、一株五十圓、擧げ高九十七萬一...

同 長 高 須 舉 造 專 務 取 締 役 大 石 大
同 取 締 役 村 瀬 正 敬 同 高 木 次 郎

●愛媛水力電氣株式會社

創立明治十四年十月、資本金七十五萬圓、一株五十圓、擧げ高六十...

同 長 阿 部 光 之 助 副 社 長 文 野 昇 二
同 取 締 役 楠 岡 增 平 同 秋 山 光 五 郎

●今治瓦斯株式會社

創立大正元年十月、資本金一千萬圓、一株五十圓、擧げ高六萬六千圓...

●日本織布株式會社

創立大正五年十月、資本金一千萬圓、一株五十圓、擧げ高八萬圓...



園 公 後 道

●宇和水電株式會社

創立明治四十四年六月、資本金二百萬圓、一株五十圓、擧げ高五十五萬圓...

同 監 査 役 渡 邊 松 三 郎 同 河 野 藤 吉
同 取 締 役 長 瀧 嘉 三 郎 同 緒 方 陸 朗

●阿部株式會社

創立大正二年二月、營業目的、綿織物製造販賣、資本金二千萬圓、...

●三津濱煉瓦株式會社

創立大正二年八月、資本金一千萬圓、一株五十圓、擧げ高十二萬圓...



社 會 電 氣 力 水 豫 伊

●株式會社三島紡績

創立大正二年三月、資本金五十萬圓、一株五十圓、擧げ高四十四萬圓...

同 取 締 役 中 西 虎 吉 同 金 田 仁 二 郎
同 取 締 役 中 西 兵 衛 同 前 谷 勝 次

●宇和島運輸株式會社

創立明治十七年十一月、資本金百五十萬圓、一株五十圓、擧げ高八十二萬五千圓...

●宇和島鐵道株式會社

創立明治十四年九月、資本金四十萬圓、一株五十圓、擧げ高四十二萬五千圓...

●松山紡績株式會社

創立明治十五年十一月、資本金七十五萬圓、一株五十圓、擧げ高二十五萬圓...

●松山瓦斯株式會社

創立明治四十三年十一月、資本金三十萬圓、一株五十圓、擧げ高十...

●合名會社宇都宮鑛業本部

創立明治四十年三月、資本金二十萬圓、

金融機關

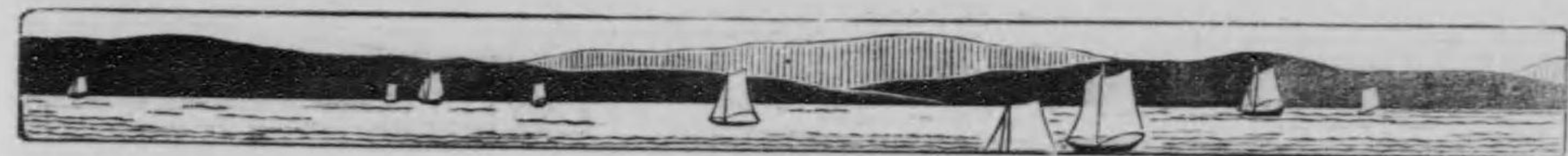
本縣特種の生産として古來より著名ある生絲の製成及び織業界の隆盛は一般商工業の機運を促進せしめ、資本金運用の關係上、金融機關の整備を要するはからず、明治十一年第二十九銀行が川之石町に起り、第五十二銀行が松山市に起り、萬壽時代の遺業たる興産會社は綿織たる銀行制度なる、爰に於て本縣に於ける金融界の三大機關を構構し、殖産興業に幾多の利便を與へ、廣く商界の面目を刷新し、活氣を添へるに至れり、爾來幾多の銀行競ふて設立せられ、今や全縣四十四の銀行を見るに至れり、以て本縣金融機關の繁榮を見るべきあり。

●株式會社伊豫銀行

創立明治三十年六月、資本金九萬八千圓、(擧げ高)

●株式會行伊豫勝山銀行

創立明治三十年六月、資本金九萬八千圓、(擧げ高)



金融機關

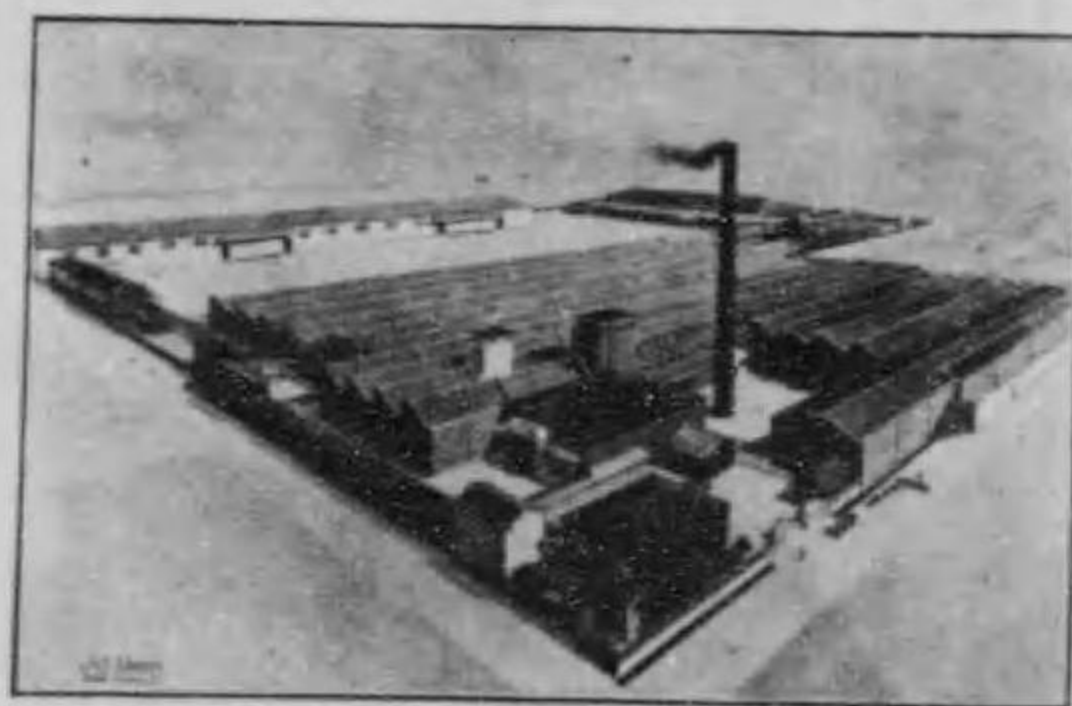
創立明治四十三年八月、資本金六萬五千圓(株五、〇〇〇、債一、〇〇〇) 諸積立金二千五百圓、諸積り金十萬二千六百九十七圓、利息配當期及前々期年七分

取給役(代表) 作 政 孝 同 新野米太郎  
同 永井虎之輔 同 大石傳五郎  
監查役 重松清行 同 石丸峰三郎  
支配人 宮崎林次郎

●株式会社伊豫長濱銀行 東京和郡山形市  
創立明治三十年七月、資本金六萬圓(株三、〇〇〇、債三、〇〇〇)  
取給役 濱田久太郎 同 田中三郎治  
同 松本勝太郎 同 上田與太郎  
同 宇都宮久三郎 監查役 谷川幸太郎  
監查役 谷 廣太郎 同 神崎久吾  
同 宇都宮清五郎

●株式会社伊豫豫農銀行 松山市港町四丁目  
創立明治三十年十月、資本金二百二十萬圓、一棟五十圓、諸積立金十三萬圓、諸積り金三百二十五萬圓、利息配當期及前々期年七分五分  
取給役 上田謙吉  
同 藤岡哲夫 取給役 上田謙吉  
同 兼支配人 黒田伊勢松 取給役 末永四郎平  
同 金澤直次郎 同 滿野大藏  
監查役 三浦嘉三郎 同 上田謙一郎  
加附支店長 上田謙吉

●株式会社伊豫周桑銀行 周桑郡丹原町  
創立明治三十年七月、資本金五十萬圓(株五、〇〇〇、債五、〇〇〇)  
取給役 高橋初太郎  
同 川又敏之進 同 青野岩平  
同 渡邊 謙 監查役 日野松太郎  
同 菅 久太郎 同 高橋初太郎  
支配人 今井清次



金紡山工場

取給役 清水義彰 同 新田長次郎  
同 石崎兵太郎 同 小西莊三郎  
同 兼支配人 逸見安太郎 監查役 矢野市三郎  
同 徳木良一 同 田村安八郎  
郡中支店、古町支店、三津濱支店

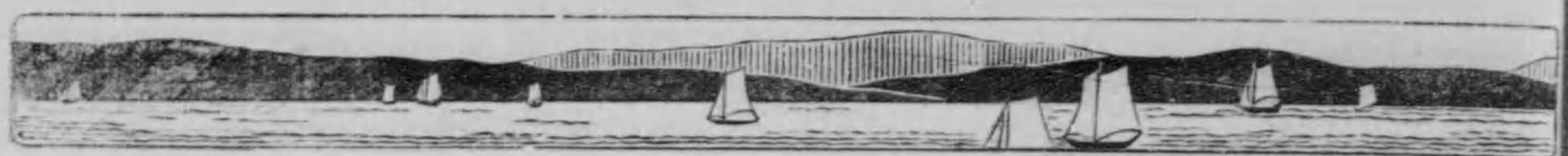
●株式会社伊豫三島銀行 宇都郡三島町  
創立明治三十五年六月、資本金二十萬圓(株二、〇〇〇、債八、〇〇〇) 諸積立金三萬四千圓、諸積り金五十一萬八千七百九十五圓、利息配當期及前々期年八分  
取給役 山中 好夫  
同 近藤嘉三郎  
同 藤谷 武一  
同 井川儀三郎  
同 山中儀三郎  
監查役 藤水長太郎  
同 仁野 晴造  
同 藤谷 豊藏  
支配人 高石 篤  
土居支店、金生支店

●株式会社伊豫三島銀行 宇都郡三島町  
取給役 藤水 保定  
同 近藤嘉三郎  
同 藤谷 武一  
同 井川儀三郎  
同 山中儀三郎  
監查役 藤水長太郎  
同 仁野 晴造  
同 藤谷 豊藏  
支配人 高石 篤  
土居支店、金生支店

壬午川支店、津貫支店、水見出出所、大飯出所、中川出所、三芳出所  
●株式会社伊延銀行 東京和郡多田村  
創立明治三十一年二月、資本金十萬圓、諸積立金四萬五千圓、諸積り金八萬圓、利息配當期及前々期年七分  
取給役 土居 昭澄 同 宮崎權次郎  
同 兵頭清太郎 監查役 高岡地太郎  
同 武内重吉 同 末光圓次

●株式会社今治商業銀行 雄勝郡今治町  
創立明治二十五年五月、資本金一百萬圓(株五、〇〇〇、債五、〇〇〇) 諸積立金三十一萬二千圓、諸積り金四百六十一萬五千圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 八木 龜三郎 常務取給役 馬越文太郎  
取給役 矢野通保 同 八木春樹  
同 長島常一 監查役 越智俊逸  
同 八木光三郎 同 柳 潤之  
支配人 三好龍太郎 副支配人 松岡三左衛門  
同 野口次郎 同 吉田章太郎  
波止濱支店、西條支店、菊間支店、櫻井支店、壬午川支店、新居濱支店、南出所

●株式会社今出銀行 雄勝郡雄生村  
創立明治三十一年六月、資本金三十萬圓、一棟五十圓、諸積立金六萬五千圓、諸積り金五十一萬四千九百三十一圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 谷 良 取給役 新野米太郎  
同 一色 進 同 豐田富三郎  
同 波部金七 同 成田彌太郎  
同 新野金次郎 監查役 中矢八百藏



金融機關

●株式会社新谷銀行 喜多郡新谷村  
創立明治二十九年八月、資本金二十萬圓(株二、〇〇〇、債五、〇〇〇) 諸積立金三萬二千圓、諸積り金三十六萬九千四百八十三圓、利息配當期及前々期年五分  
取給役 河内字十郎 取給役 河野政次郎  
同 栗田邦住 同 久保秋三郎  
監查役 須内實三郎 同 龜岡榮治  
同 篠崎 徹 支配人 村本藤彌  
長濱支店、平岡支店、八多喜出所

●株式会社積積銀行 東京和郡山形市  
創立明治三十年四月、資本金十五萬圓(株一、〇〇〇、債五、〇〇〇) 諸積立金三萬一千八百圓、諸積り金十九萬五千七百圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 三好四郎吉 同 渡邊雅太郎  
同 太宰孫九 同 中川九十郎  
同 田中寅松 監查役 芝 恒三郎  
同 赤松良太郎 同 三好正美  
同 松本平九郎

●合名會社大野銀行 松山市港町二丁目  
創立明治三十二年六月、資本金二十五萬圓(株五、〇〇〇、債七、〇〇〇) 諸積立金二萬八千八百八十圓、利息配當期及前々期年五分  
代表社員 大野 梯 同 大野邦道

●株式會社大洲銀行 喜多郡大洲町  
創立明治二十二年七月、資本金六十萬圓(株六、〇〇〇、債五、〇〇〇) 諸積立金十八萬六千六百四十四圓、諸積り金一百五十一萬七千七百七十八圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 吉元伸太郎 同 河野駒次郎  
同 程野彦太郎 監查役 上田謙吉  
同 池田重雄 同 今岡梅次郎  
支配人 谷山申生  
野村支店、中山支店



大洲市街

●株式會社大洲商業銀行 喜多郡大洲町  
創立明治三十九年四月、資本金六十萬圓(株六、〇〇〇、債五、〇〇〇) 諸積立金五十五萬圓、諸積り金七十五萬五千五百圓、諸積り金四百三十七萬圓、利息配當期及前々期年八分  
取給役 須内實三郎 常務取給役 村上莊三  
同 吉元伸太郎 同 河野駒次郎  
同 程野彦太郎 監查役 上田謙吉  
同 池田重雄 同 今岡梅次郎  
支配人 谷山申生  
野村支店、中山支店

●株式會社吉田商業銀行 北宇都郡吉田町  
創立明治三十三年五月、資本金十萬圓、一棟五十圓、諸積立金一萬三千圓、諸積り金一萬三千圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 藤城彌作 同 木下敏治  
同 古谷長次郎 監查役 西岡彌榮  
同 宮淵吉次郎 同 河野兼太郎

●株式會社二十九銀行 西宇都郡川之石町  
創立明治三十一年一月、資本金二百萬圓、一棟五十圓、諸積立金二萬圓、諸積り金三百八十九萬五千圓、利息配當期及前々期年九分  
取給役 藤城彌作 同 木下敏治  
同 古谷長次郎 監查役 西岡彌榮  
同 宮淵吉次郎 同 河野兼太郎



大洲銀行

合名會社仲田銀行

支店、松山市本町二丁目
創立明治四十一年一月、資本金一千萬圓、諸積立金十萬圓、諸積立金二百四十四萬三千三百七十一圓、利息配當前期及前々期年七分

株式會社宇和商業銀行

支店、東宇和郡宇和町
創立明治卅四年三月、資本金三十萬圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年七分

株式會社宇和島銀行

支店、北宇和郡宇和島町
創立明治三十三年八月、資本金四十五萬圓、諸積立金三十一萬圓、諸積立金九萬三千八百四十五圓、諸積立金九十一萬八千三百四十一圓、利息配當前期年九分

株式會社宇和島共榮銀行

支店、北宇和郡宇和島町
創立明治三十三年一月、資本金六萬圓、諸積立金一萬二千圓、諸積立金一萬九百五十圓、諸積立金六萬七千八百四十四圓、利息配當前期及前々期年七分

株式會社五反田銀行

支店、西宇和郡神山町
創立明治三十年八月、資本金三萬圓、諸積立金一萬二千圓、諸積立金一萬二千六百圓、諸積立金九萬九千五百四十四圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社五十二銀行

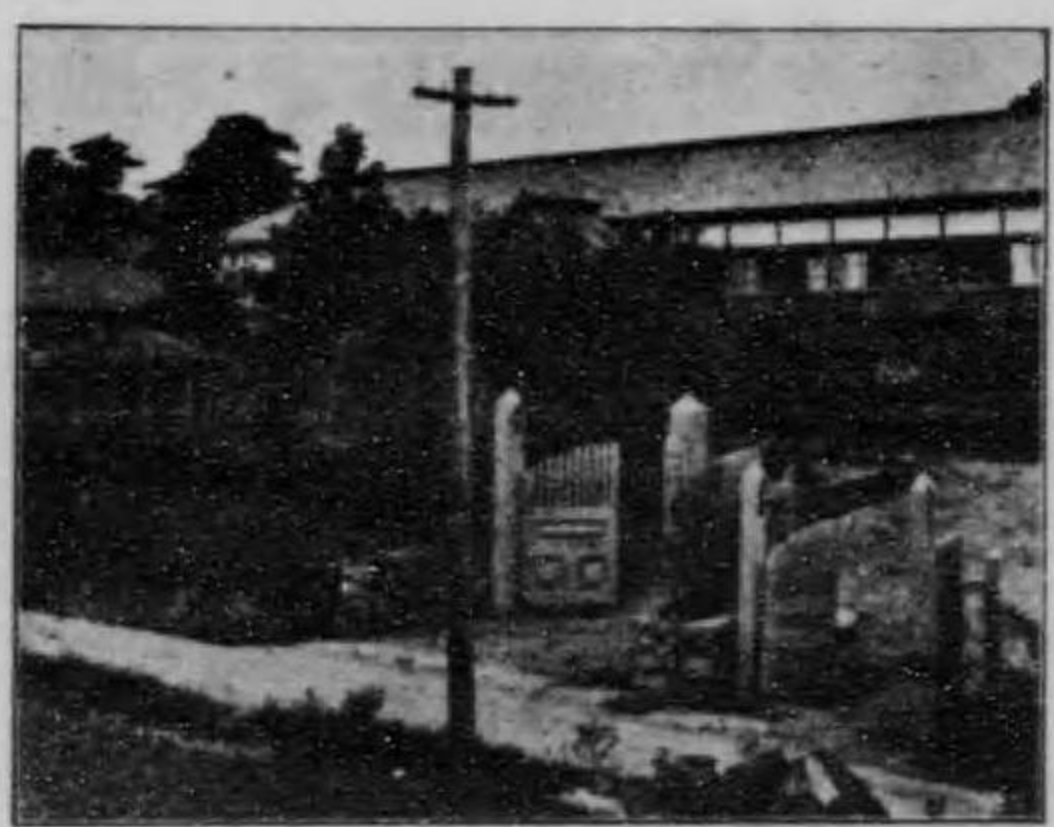
支店、松山市三番町
創立明治十一年九月、資本金二百萬圓、諸積立金七十七萬五千圓、諸積立金七十八萬五千圓、諸積立金七百八十八萬圓、利息配當前期及前々期年九分

株式會社愛媛縣農工銀行

支店、松山市三番町
創立明治三十一年十月、資本金四百四十萬圓、諸積立金一百五十二萬圓、諸積立金一百五十二萬圓、諸積立金一百五十二萬圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社内子銀行

支店、喜多郡内子町
創立明治二十九年六月、資本金五十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金八萬八千七百七十六圓、諸積立金八十一萬三千八百八十六圓、利息配當前期及前々期年八分



東和郡立農學堂
支店、小田

株式會社久萬銀行

支店、上野六郎久萬町
創立明治二十六年一月、資本金十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社八幡濱銀行

支店、西宇和郡八幡濱町
創立明治二十一年十月、資本金三十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社愛媛貯蓄銀行

支店、松山市港町四丁目
創立明治三十三年四月、資本金二十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年九分



大洲商業銀行

株式會社朝屋銀行

支店、西宇和郡三瓶村
創立明治三十三年四月、資本金二十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年九分

株式會社八幡濱商業銀行

支店、西宇和郡八幡濱町
創立明治二十九年六月、資本金六十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社松山商業銀行

支店、松山市本町
創立明治二十九年二月、資本金一百萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年七分

株式會社松山貯蓄銀行

支店、松山市三番町
創立明治二十六年三月、資本金六十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

合資會社佐海銀行

支店、西宇和郡六村
創立明治四十三年七月、資本金二萬圓、諸積立金七千五百圓、諸積立金七千五百圓、諸積立金七千五百圓、諸積立金七千五百圓、利息配當前期及前々期年一分

株式會社西條銀行

支店、新原郡西條町
創立明治二十一年七月、資本金百二十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社喜多銀行

支店、喜多郡大津町
創立明治二十九年五月、資本金二十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分

株式會社三津濱銀行

支店、温泉郡三津濱町
創立明治二十九年十一月、資本金三十萬圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、諸積立金一萬五千圓、利息配當前期及前々期年八分



金融機關

一萬圓、諸積立金五萬八千九百十六圓、諸預金三十九萬一千二百一十九圓、利益配當期及前々期年九分

●株式會社三机銀行 西字和部三机村 創立明治四十年十一月 資本金十萬圓 一機五



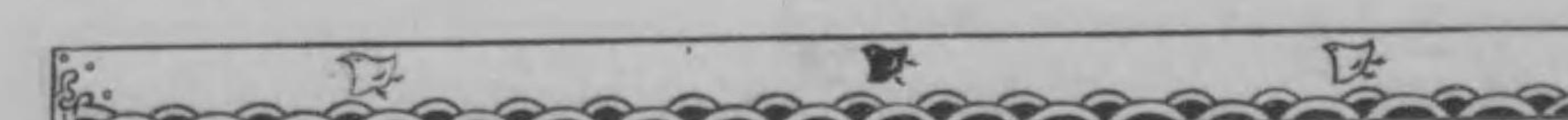
伊豫長濱銀行

●株式會社御莊銀行 南字和部御莊村 創立明治四十五年三月、資本金五十萬圓、一機百圓、諸積立金三萬三千圓、諸預金十七萬六千九百四十一圓、利益配當期及前々期年九分

●株式會社實業銀行 西字和部川之石町 創立明治三十三年三月、資本金十萬圓、一機五十圓、諸積立金一萬七千五百圓、諸預金一十四萬四千四百五十三圓、利益配當期及前々期年九分

●株式會社種生會社 東字和部字和町 創立明治十五年一月、營業目的銀行業、資本金六十萬圓、一機百圓、諸積立金四萬四千四百圓、諸預金一十一萬四千四百圓、利益配當期及前々期年九分

●株式會社西南銀行 西字和部伊佐村 創立明治三十年十二月、資本金二十萬圓(機五機)、一機五十圓、諸積立金八萬八千圓、諸預金三十八萬九千五百五十三圓、利益配當期及前々期年九分



り同庫金及び地方債の取立を爲す事となり十八年には、今治市に支店を設け、同地方金融の調節に盡し、日清戦後我々経済界の発展に連ね資金の需要激増するや三十年七月資本金を六十萬圓に増加し同時に三津濱町に支店を設けて商業資金の供給をなし、以て地方の繁榮の貢獻する所あり、同年七月國立銀行存立期間の満期と共に今日に如く其組織を改めて株式會社となし、在來の業務を繼承するに至りたるものにして、四十年三月、日露戦役の影響を蒙るに至り、是れを更に四十萬圓を増資して、百萬圓となし四十二年、郡中銀行を買収して郡中支店を設け、翌四十四年資本金十萬圓の紙部銀行を併合して、之を紙部支店となし、四十五年又復増資を決定して、資本金を二百萬圓とし、同年西條に、大正五年三島町に支店を開業して、勢力を東條に伸ばし、爾來漸次調達の發展を遂げて、今や支店六ヶ所出張所八ヶ所を有し、實業界の營業方針を以て、縣下金融界に覇を稱し、松山本倉庫、日本銀行松山代理店、愛媛縣倉庫等の事務を取扱ひ、爲替取組先千六百五十個、聯濟爲替取組先四千圓、諸預り金七百十八萬圓、諸貸金七百五十二萬圓を計し、年九分の株金配當を爲して行務の隆盛と成績の優良とを示し居れり、因に同行役員の名を擧ぐれば即ち左の如し、

●陸路 是東西六十四條里、海岸線延長三百里、然して峻山高嶺交通を阻害し國鐵道其間を縫ふて貨客の集散に便す、只海岸は交通機關、教育

●海運 瀨内海の要衝に當れる、今治、高濱、三ヶ濱等の諸港は、中國、九州各港と日夜、交通の連絡を有し、貨客の出入甚大なるものあり、今治東は千生港、西條、新居濱、三島、川之江諸港あり、阪神と直接交通の便を有せざるも、今治と汽船の往來ありて各方面と連絡を有す、三島以西には瀨内海に面して郡中長濱の港あり、伊豫

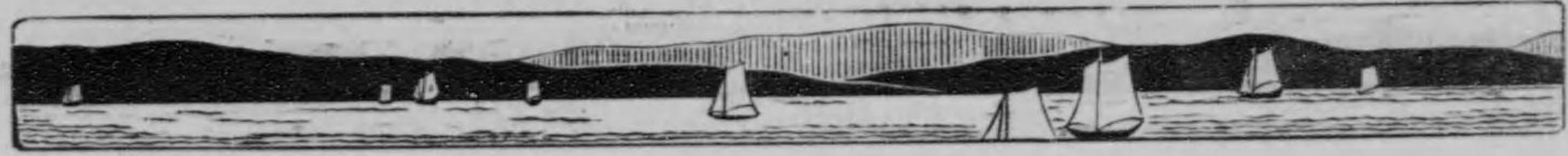


伊豫高濱四十二島

交通機關

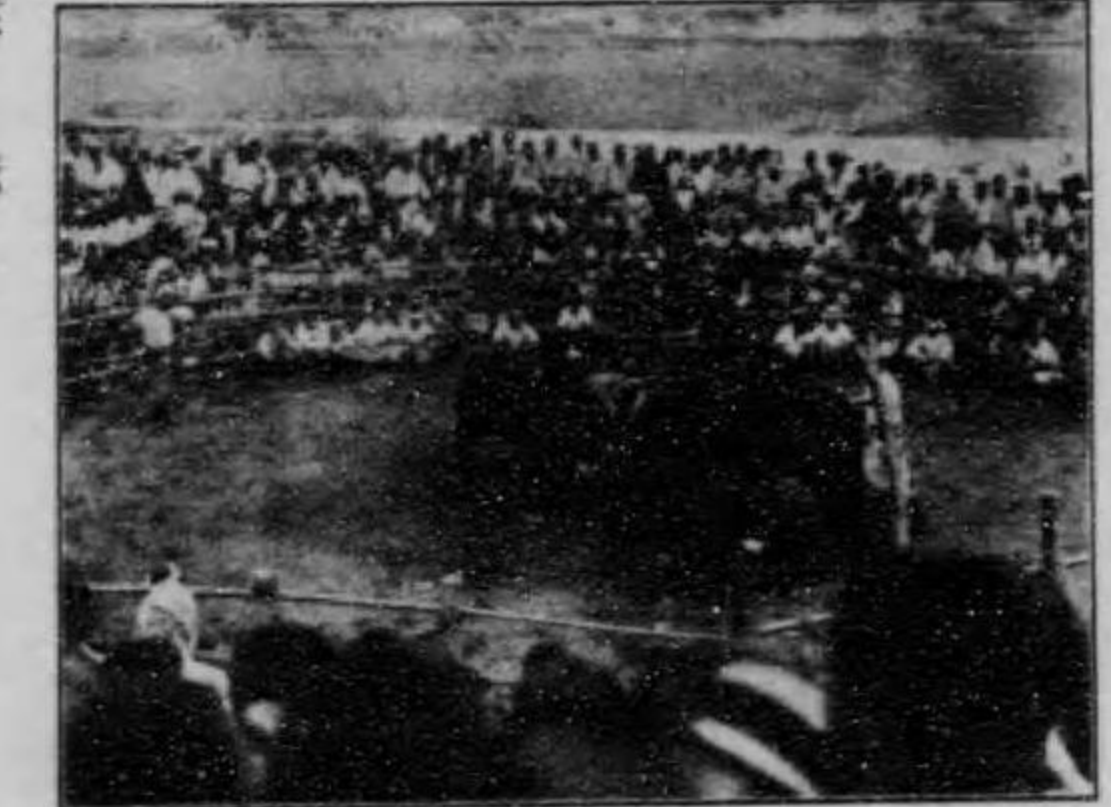
教育





社祠宗教、都邑、名所古蹟

百七十、一なり。私立學校合計十五校にして、風俗改良、勸勉行を目的とする青年會は松山市を離るる各郡を通じて五百十餘を有し、一ヶ年の經費、一萬五千餘圓を支出す、學務に關する市町村史目録は町村長及び書記を通じて約三百人、學務委員約千五百人なり。



伊豫名物之團牛

### 社祠宗教

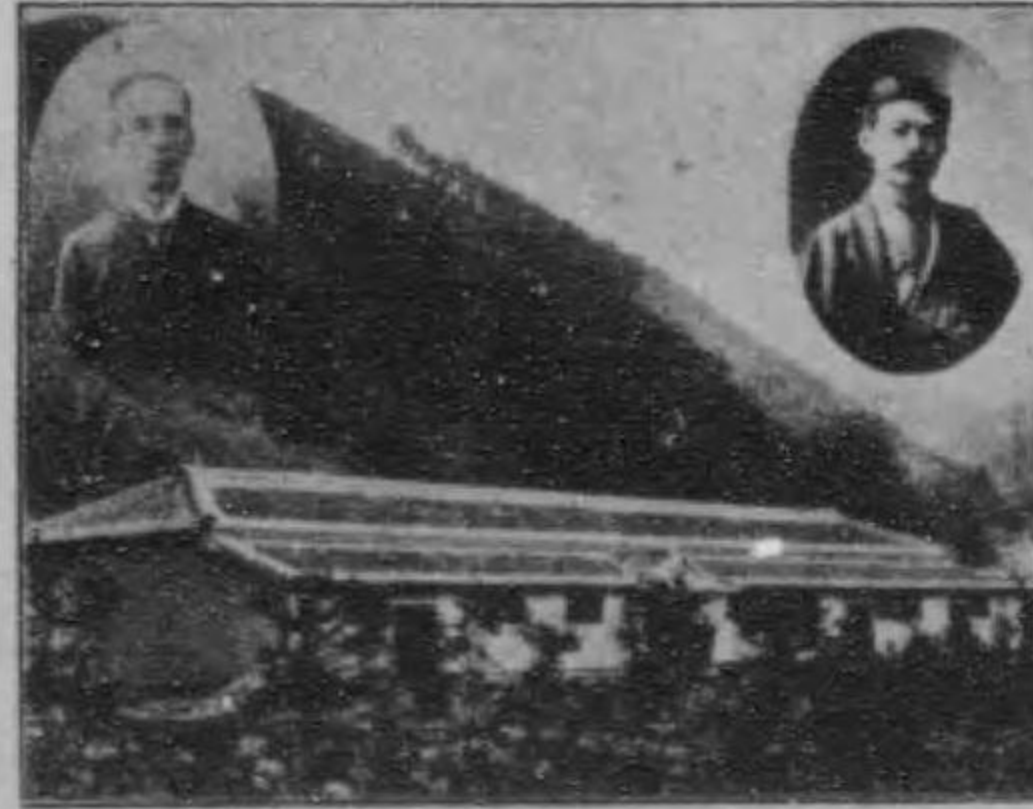
雄圖四海の吞吐し、豪宕一世を瀟灑するの概ある松山は、天助三稱命に至りては、半人間の不可知に處す、其の天助三稱命に至りては、古今を通じて、絶対にして無限の偉力あり、然して此の超自然的觀念に依りて愛に神佛の靈威の自覺したりしなり、之が是非の論、眞否の辨は時代に依り、人に依りて評説せらるることあるも、古來我國は國權に對し困難に處し、靈威の表象を時數の間に、意識せられたる幾多の史實を有したり、吉必ず善け、凶必ず非せられ、千早振る伊勢の靈威は神聖にして表りに語るべからず、何ごさのおはしますかは知らねども、西行の自詠は國民の同じく描き出せる心の文なり、されば皇室の大廟に對せらる、本祀典祭は皆く

### 都邑

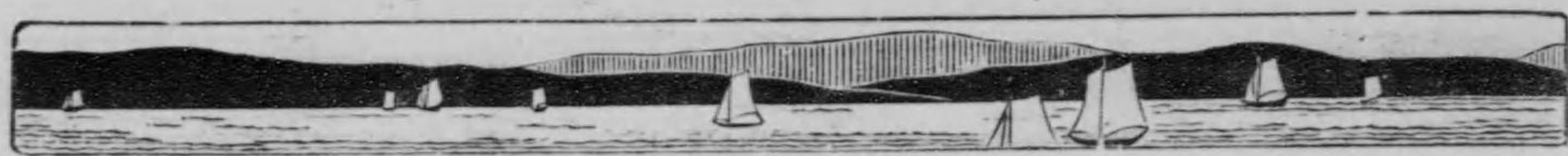
- 松山市 國內第一の都府にして、八松十五萬石の萬城下なり、城は市の中央なる一丘陵の上に在り、三層の樓閣今尙巍然として、封建の昔を知るに足るべし、市場は其麓を圍ひ、東西十五丁、南北十丁を有し、伊豫鐵道は殆ん其周圍を繞り、松山電車は城の南麓を東西に通ず。
- 三津ヶ濱町 本縣北部に於ける要津なり、海陸の風光甚だ麗く、殊に永平元年伊豫守紀叔人、紀友道討の命を受け上陸したるも、戰場として名高し松山電車は此地を起點として松山に向ひ伊豫鐵道は東端に其の終點場を設く。
- 今治町 越前郡北端の一要港にして、最近商業隆盛を極め船泊の出入甚だ多し、四國の大坂たるの譽あり。
- 西條町 新居郡第一の都府にして有名なる別荘山に近ければ市街は散漫にして大いに活氣を帯べり。
- 宇和島町 北宇和郡第一の要津にして松山市に次ぐの繁榮を極む。
- 八幡濱町 西宇和郡の首邑にして人口六千有餘を有し海濱を極む。

### 名所古蹟

- 松山城 郡山城には全縣城も云ふ、慶長二年加藤嘉明の築城せるものにして同十一松平定行十五萬石を以て此地を領し、久松氏に至つて明治維新に及び、後水丸の地を公認せしを明治十年に至つて陸軍省の管轄するところとなり、一時廢園となりしが今は再び公園國民道堂の地となりたり、天守閣及び櫓門等今尙舊日の儘にて現在に實に風景絶佳に逸せり。
- 道後温泉 松山市の東北約半里なる湯之町にあり、松山よりも電車にて往くこと五里、湯は成國に於ける温泉中最も古くより現はれ、神明、仲哀、齊明諸帝の行宮あり、せせせし、あり申す、浴會は壯麗なる三會の樓閣にして、石造の浴槽數區に分つ泉質は無味無臭の平透清の亞兒加性にして慢性皮膚病、貧血、皮膚病を初め諸病に効驗著しければ四時浴絶へることなし。



實業農學校正長



### 動四等

### 今西林三郎君

大阪西區本田三番町



山來實業の大坂は人材進足の雲集する所、非凡の材幹少からず、従つて我國の實業界を代表すべき人物多し、其最も雄たるとも、このして肩に財界及實業界に馳騁し、斯界の巨人として大いに聲名を得せるものを今西林三郎君とす。君は愛媛縣北宇和郡好藤村の産にして、嘉永五年を以て生る幼にして父母に別れ、祖母の教養に成人せしも同胞十二人あり、夙に幾多の辛苦を嘗たり、其稍長するに及んで祖父の家に養はれ家業を手傳ひ其間、實業に興味を有し大いに無窮將來の活躍を期すところありしが、碌々として山間邊土に踞踏して何ぞ後日の成功を期せんや、深く心に感ずる所あり、明治十三年一月便船に乗じて大阪に來り、大阪荷扱所の個人となりし、并は志に非ざりしを以て間もなく上京して豊川良平氏を訪ひ切に三菱會社に入社し庶幾希望を遂べし、氏は三菱商業學校の卒業者に非ざれば能はずこの事なりしを以て、茲らに同校速成科に入り業を了へて明治十三年同社に入社する事を得たり、然も君が出家以來大いに湖恩を受けつ、ある田中平十郎氏が、自家の經營せる船運運送業を成

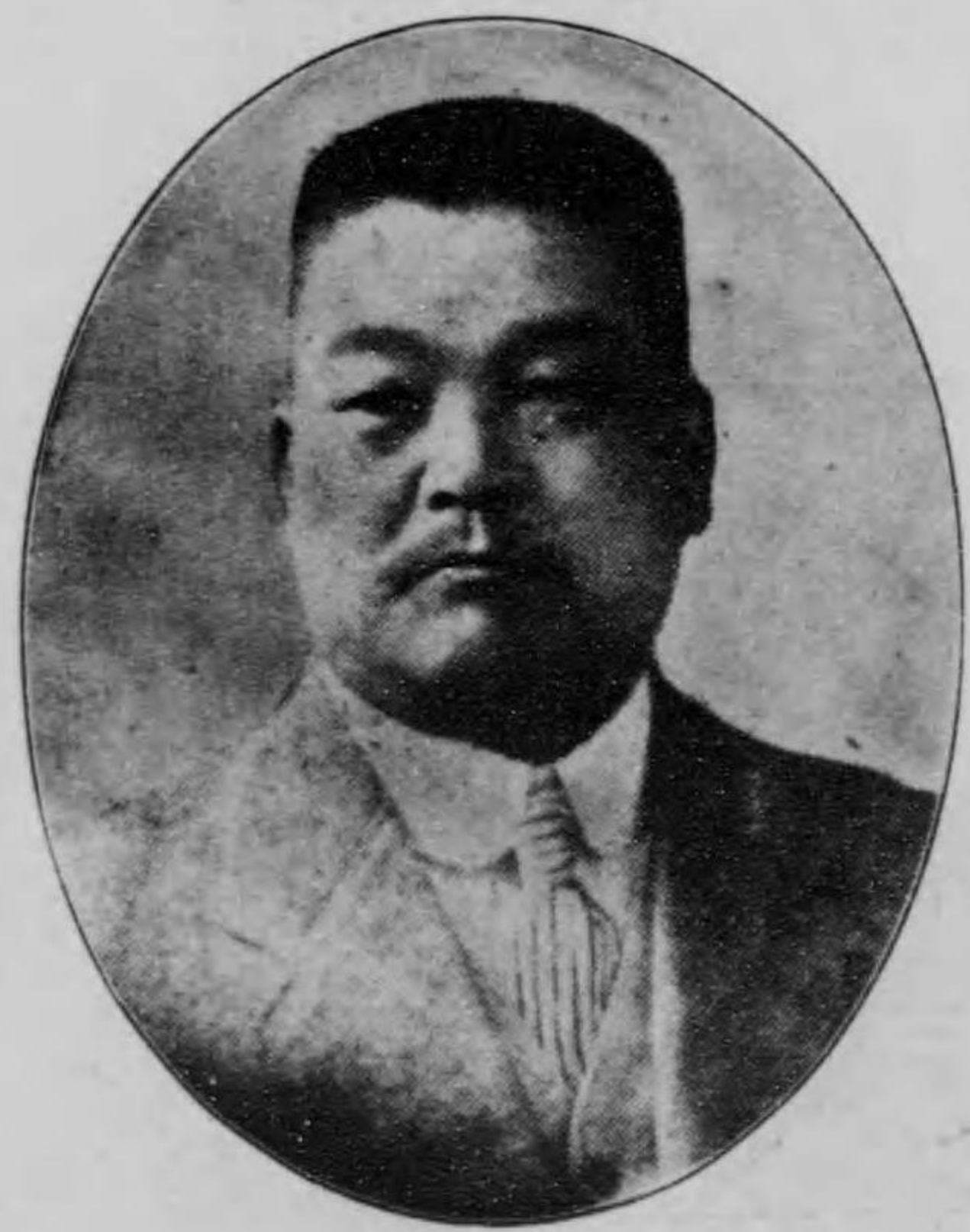
大いに多年の經營を行ひ、實業努力遂に今日あるを得たり、君風に實業界の振興を期し明治二十三年九月商業會議所條例の設けらるるや、時の慶應義塾大學院東伯より之が設立を建議せられ、松本大助、土井通夫、渡氏と共に大いに奔走奮闘する所あり、翌二十四年遂に之が成立を見るに至り、又二十四年四月日本フラン

キル會社の設立に畫して之を創設し、同年又大阪毛織株式會社の創設に奔走する所あり、其他大阪三品取引所、大阪瓦斯、德島鐵道、阪神電氣鐵道、帝國冷蔵株式會社、東洋木材防腐、山陽、阪神、西の各鐵道會社、九州電燈株式會社、和島鐵道等の設立に畫して畫したる、この功績に遑ならず、其間多數會社の取締役、又は監査役或は社長に就任し、獨特の手腕を發揮して大いに實業界に地歩を占め、實業界の扶掖して、今や實業界の重鎮たり、目下關係せる諸會社の重なるを列舉せば、日本貯蓄銀行取締役、日本毛織株式會社社長、阪神電氣鐵道取締役、北澤銀行取締役、東洋毛織株式會社社長、堺瓦斯會社監査役、三品取引所理事長、出羽石油株式會社監査役、南宇和株式會社社長、大阪港土地株式會社社長、明治製糖株式會社取締役、和歌山水電取締役、堺瓦斯取締役、大阪瓦斯監査役、宇和島銀行監査役、阪神土地信託監査役、昌泰銀行取締役、大阪毛織監査役、中央セメント取締役、その他一々枚舉すべからざるものあり、且つ公共事業に對しては大坂貿易協會理事長、大阪商業會議所副議長、南洋貿易協會長、日露貿易協會長、海軍協會議員等に就任し、大いに畫像する所少からず功績顯著なるものあり、若し其の如きは、我が伊豫が生るる世界の人傑云々云々、大いに譽耀の誇りする所ならずんばあらざるなり、實業界に對して實業會議、誠意一徹の人、以て今日其の功績に誇り、夜々實業界に輝耀す、其の如きは又實業界の模範人物たるを失はず、多年の功績に依りて動四等に就せらる。



### 大阪造船株式会社 岩城卯吉君

▲神戸榮町二丁目



幾々たる対支貿易に要する創め當初僅かに石炭業を営むに過ぎざりし其の實なる營業方針に才力に著し、事業界に飛躍の翼を張り遂に今や本邦有数の巨商に伍して其の進色を見ざるに至りしものを岩城商會とす。同商會は遠く明治廿二年の創立に係り先づ九州唐津に本店を、北支支店に支店を設け、置し大陸經營の首途に一步を印したりしが爾來若く發展を招來せるより日露戰役後本店を朝鮮の根拠地として青島に移し昨年四月更に本店を現在の神戸に移轉して現に、大阪、唐津、若松、青島、大連、支那、濟南、威海衛の各地に支店又は出張所を設け、事業界に於て最早宇して抜く可からざる地盤を占むるに至り、隨つて業務の軌跡も著しく擴大され、屋敷常時石炭より棉布、糖、糖菓物等の貿易を遂ふて進歩も益々充實し行く力を舉げて業務の擴張に鋭意努力しつゝ、ありしが、恰もよし事業界に取りて千載一遇の好機も稱すべき艱難の勃發に際し同商會の巨手は艱難業の上に伸び、其經營對策宜

方面に分布され、其の業務多岐多岐にして規模宏大、且つ繁栄たる基礎の上に經營しつゝあり、先づ自己資本中のものたる日本株式會社は鳥取縣下に三千町歩の山林を有し木材製糖事業に從事し又別に操津工所ミセケ所の岡山縣を經營せるが一度、船運に突進せる巨手は更に伸びて大阪造船所の經營に當るに至り、所は大阪市西區泉屋町尾無川の左岸九千坪の地に工場を有せるものにして、以聯合會組合組織なりしが、昨年七月資本金一億圓（拂込済）の株式組織に改め、爾來戰亂に依る好況に依るは云へ其の果敢時機を洞察して之が經營の衝に當りたる結果、今や驚異すべき高揚狂瀾の發展を招來し、收支に於ても相當の積立金及び借入金及び繰越金を制して前年二種五分の配當を行ひつゝありしが、本年五月末には實に一億九千の配當を行ひて尙餘餘積たるものあり、新設會社にして比類なき成績を示せり、君の如き活潑は多々益々發揚せられ、往くころ可ならざるはなく、今や新界を風靡しつゝあり、君年餘尙ほ不惑を感ゆること歎、蓋し其の前途は實に多岐なり云ふべく、第二の岩城たり、大會たる決して速きに非ざるべし。

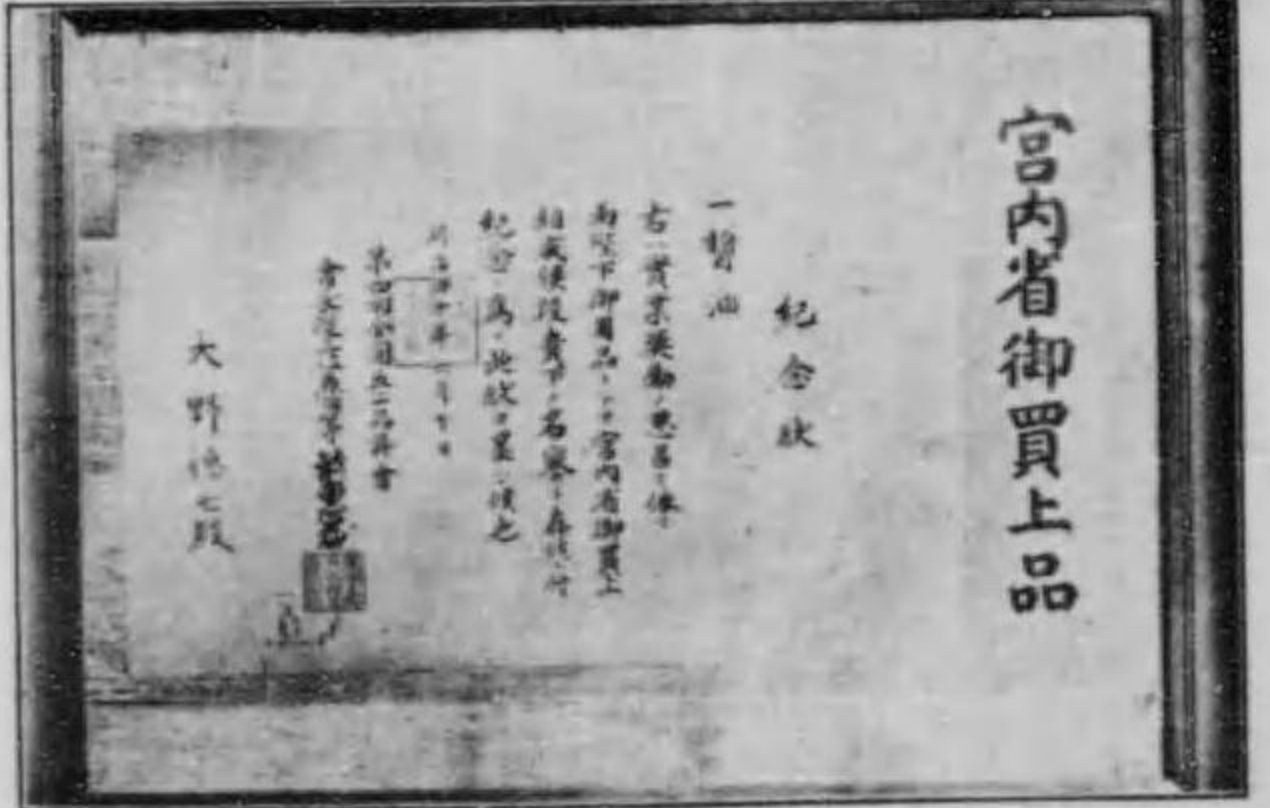
### 醬油醸造家 大野徳七君

喜多郡大洲町



夙に時代の進歩に伴ひ、鋭意改良に努め、多年の経験に加ふるに最も進歩せる學理を應用して之が醸造に努め、製品の芳醇近代無比と稱せられ、從來稍もすれば、關東醬油に一要を輸するの概なきを得ざりし關西醬油の面目を一新して大いに氣を吐くに至りしものを大野徳七君とす

同家の醸造に係る醬油は之を大印醬油と稱し、先代徳七氏、夙に大洲の地が氣候溫和、空氣清澄、水質純良にして、加ふるに古來、品質の優秀を以て大洲大豆の産地にして、最も醬油醸造に最も適せるものなるに拘らず、當時未だ斯業に指を染むるものなかりしを嘆して明治二十一年之が初めて醸造を開始したるに端を發し爾來百折不撓、益々品質の改良に努め、三十七年當代徳七氏其業を繼承するや、亦先代に劣らざる熱心で以て東西の醬油名産地を訪ねて、各地の醸造法を參酌し、大いに發明する所あり、曠に品質を高めて三十九年今日陛下未だ東京に坐せし時、五、其運發行の際、御買上の



光榮に浴し、四十餘年にも宮内省御用を拜命して聲譽を揚がり、夙に陸軍御用醬油として戦地に輸送するに至りしが、君尙、須臾も之が改良を怠らず、同年自製醬油醸造研究所を設け、大阪高工出身の専多國作大野君を聘して原料の分析、醸法の研究に努めて幾多の特許を得

其の施設の完備せる殆んゞ理想に近く、

多の特許を得

醸造高は今や一萬石餘の多きに達し、其の販路は四國一隅九州全道、大阪、神戸を初め、全国各地に亘りて支店を置き、遠野各地に多大の販路を有せるが、大正四年初めて着手せる海外輸出に大いに成功して、今や英領加那院、米領菲律賓、馬尼刺、香港の各地に

新設會社を組織し、商運を促進して、旭昇天の概あり、然れども君は之に向き足すことなく、今回、君は規模の擴張を爲すべく、會社業界に品質の優良なるを以て、好評を博しつゝありし八幡濱の九龍醬油株式會社の解散するや、之を買収し、設備の改善を加へ、多々益々發展を遂げに期しつゝあるが、恰も本年は創業三十年に相當するを以て、之を記念すべく、一大倉庫を建てると共に、一層醸造高を増加すべしと云ふ、

現在徳七君は實情濃厚實業の人にして、夙に大洲町有数の豪封家として重望あり、前記本業の外、成島縣に洋酒會社を、朝鮮に西道會社を経営し、大いに實業界に活躍しつゝあり、君の如きは、四國に於ける醬油醸造界の巨頭たるを失はずと云ふべし。蓋し君が今日の成功は、其の手腕努力の然からしむるに依るは無量なりと雖、終始一日の如く謙遜に於て其の副業に傾け、情熱を注ぎ

君の如き活潑は多々益々發揚せられ、往くころ可ならざるはなく、今や新界を風靡しつゝあり、君年餘尙ほ不惑を感ゆること歎、蓋し其の前途は實に多岐なり云ふべく、第二の岩城たり、大會たる決して速きに非ざるべし。





貴族院議員 勝田銀次郎君

神戸 海岸通

我が日本は由來海洋の發展に快つべきもの多し、蓋し斯は懸りて海運業者の双肩にあり、男に生れて斯業に従事す亦日東男子の本懐にあらずや、勝田銀次郎君は國運の發展、國權伸張は以て海運業の發展如何によるもの多し、斯業に従事して多年、常に國家的見地に立ち努めて斯業の發達を期し、



君は伊豫國松山の人、明治六年を以て生る、郷里の中學を出で、後、父を東都に負ひ、青山英和學校に入りて其業に下ふるや、明治二十年大阪に來り、吉田商店に入り海運及び貿易に従事する、一年、更に神戸に移り足立商店の店員として貨物精勵業に努め、一面斯業の經驗を積むと共に同業者間に多大の信頼を蒙るに至れり、偶、明治三十三年北清事變の起るや、君深く心に期する

所あり、獨立して勝田商會を起し専ら海運業に奮勵し、爾來、國權伸張の如くに斯業の發展を進行し大いに大福を占むるに及びしが間もなくして東洋の風雲急を告げて日露戰役勃發し、海運業勃興の時機に遭遇し更に向上發展を續くるに至れり、然れども海運業者は

を早するに及び、極力積極的方針を取り新造船を製造し、全力を傾注したる結果、忽ちにして數百萬圓の巨富を成し、今や十有餘艘の巨船を有し、山下、内田岩城等と共に以て斯業の一勢力たるに至れり、蓋し君が今日の高福旺達の發展は、時局の好轉に依る所少からざるも有り、蓋し君が今日成功を収め得べけんや、

運載、推されて貴族院議員の候補者となり、鹿を陣頭に擧ぐり、愛ねて徳望の頭々たるものあり、世の所謂成金黨其趣を異にせるものあるを以て、選挙の結果は九票の多數を経て當選し、院議員として、慎重、機謀、誠實に參事するの志を顯へり、其能に候補を決するや、人に語つて曰く、幸に當選することを得ば誠心誠意國家の爲めに盡せん、蓋し今後の君は以上院に於ける花形役者として大いに活躍せらるべく、期して快つべきものあるべし

君が今日の勝田君は既に日本の勝田にあらすして世界の勝田たり轉來の壯圖亦思ふべき也。



川崎造船 工學博士 田中泰董君

兵庫縣 明石郡 舞子公園



我國造船界の霸王として最高權威たるものは神戸の川崎造船たるは疑ふするのなきことなるが、歐州戰艦以來、海運界の好況は悉ひて造船造船界をして未曾有の發展を招來せしめ新造船の建造者しく激増したるを以て同所は空前の盛況を呈し、宏大なる設備を規模を以てして向來の需要を越え、

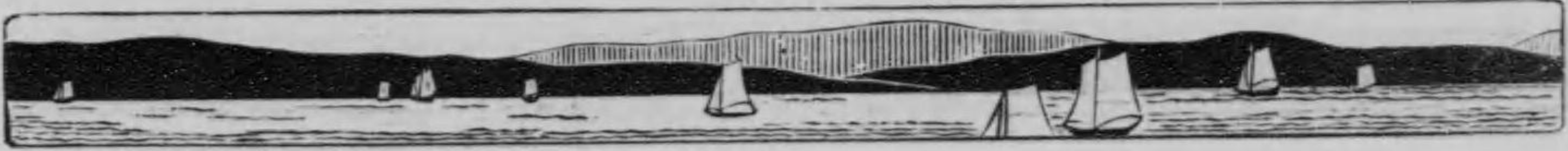
めたり、大正三年、論文を提出して工學博士の稱號を得更に技術家としての光榮を添ふるに至りしが、翌四年には同所の取締役を兼任し、以て今日に至れり、責任甚重なる好人物なれども、聊か偏狹の感あるは言はず、人情上の缺點、稱し得んも、斯は專念斯業に没頭し

由來川崎造船所は道がに斯界のオーブリチーたるに諸君を案めて遺憾なく、亮材逸足、雲の如くに集中し、銳意技術の進歩を期するが、之を統率し、能く綜合して、多々益々手腕を揮はしめつゝあるものは、工學博士田中泰董君なり。

君は愛媛縣西宇和郡川上村宇川名津の産にして文久二年九月九日に以て生る、明治十九年東京帝國大學工科大学を卒業するや、直ちに川崎造船所に入り技術部主任に推されたり、鋭意技術家の中堅となりて奮勵し、且つ自ら經營の事に參じ、結果大いに勞

て餘念なき技術家として成ひは止むを得ざるものなるべく、寧ろ君が技術家として而目の躍如たるを窺ふに過ぎず、夫は毛も角、君任に在るや大いに貨物精勵、不撓不屈、曾て倦む、こあるを知らず、汝々奮々として職を勤ふるにこなし、蓋し川崎造船所以今日の

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆



動三等 山下龜三郎君

東京芝高輪南町

我國海運界の一大巨人として、山下龜三郎の尊名に感服致す。嗚呼の尊名を、増しにせるものを山下龜太郎君とす。

君は伊豫北宇和郡喜佐方村出身にして、夙に海運國の將來が海運

業の發達を招致すべきを洞察するに共に

之を發達せしむるは、國權の伸張、

國運の發展及び國富の増進を圖るの所以

にして、國家的事業なるを思ひ、毅然と

して身を新業界に投じ、拮据經營大いに

創業し且つ努力無間する所あり、多數の

船隻を掌中に收めて、基礎漸く鞏固たる

に至りしとき、歐州戰亂勃發して、新業

界は未曾有の好況を呈するに至り、海運

界は空前の盛況を呈するに至り、日英に巨富を積むに至り、

今や我國屈指の船成金として、一躍大富豪の域に列し、新業界の第

一者たるの聲名を轟かしたるなり、蓋し其が今日ある所以のものは

君の時運の天祐のみに非ずして、全く平生の努力無間と卓抜の傑眼

識見、手腕に依るもの云ふべく、世の所謂成金は其の

雄きを異にするもの云ふべく、且つ一面自家の富を作り、且つ一

面武實の致富に功獻するに至れる國家的功勞は頗る多し云ふべし

寫眞未着

然し君は毫も其の功辛に誇る所なく、以て今日の成功を多く勤勞情  
動精勵の功に歸し、深く之を多しし、昨年末の如き、一百五十萬圓  
を投出して、多年の勤勞に酬ひたるが、斯は、容易に尋常人の  
能くするところには非ず、當時、世間に君を嘆賞して歌まざりしは、

六〇

未だ社會の耳目に新なる所なり、尙君平生教育事業に志し、篤く

義に巨財を投じて轉里に學校を起し、教育振興に資する等、功績の

頗る顯著なるものある也。

之を要するに、君の如きは、富ありて富に任せず、盡きたる成金

輩の類りに形似して社會の風教を害しつゝ、ある中に於て、超然高居

たるもの云ふべく、吾人の推賞して歌まざる所なり。

君、元來氣風瀟灑、機略縱横、氣宇快速にして、明晰なる語言風

骨の談話は、以て能く君が人物を知るに足るものあり、然し蓋し主

角なく、人語つて些かの破綻を設けず、寧ろ觀し易く、聽者の

心情は顔面に流露たるものあるを見るなり、

それにしても、我が海運界の將來は、戰後多々益々好況を招來す

べきは最も明瞭なるところ、更に君が、經營者として、大いにそ

の創業を實行し、新業界に一大雄飛を試むは勿論なり云ふべく、第

一の大尊嚴は以て運轉するに難からざるなり、蓋し今後の君が活躍

思ふべく、渺たる海運四州の地に、君の如き、國家的人物の出でた

ることは、亦郷土の誇りたるべし云ふべし也。

今治商業銀行頭取 八木龜三郎君

越前郡波止濱町

君は越前郡に於ける有数の資産家にして先代より漁業を営みつゝ、

ありしが、其の家業を承くるに及んで、君の先見之識眼は海洋商業

の利潤多大なるを洞察し、遠く北海の怒濤を乗り切つて、風を利を

博し、連年豐饒なる地盤を開拓して、

事業の盛況に之に伴ふ致富の熾烈なる

ものありしが、偶、歐州戰亂の勃發

以來、之が好響を受くるに共に、更に

鋭意努力する所ありたるを以て、今や

多數の船隻巨萬の富を致し、嘗ては非

業上、財産上、君の一步を譲るべきの

諸大家を敵視するの狀勢を呈するに至

れり。

然して一面、地方實業界に活躍して、現に縣下の會社は殆んど無

一なき有様なるが、最も君が心血を注いで拮据經營せる



君は資性濃厚なる高尚優雅の人物にして、巋々、其務に追はれ

乍らも、尙餘暇の餘々たるものあり、且つ流弊の表裏ありて其の道

徳奥地なり。

蓋し君が高尚典雅、高居して以て、時流に離隔たる所はのもの亦

之に依るところ多し云ふべし、そはもあれ、君の如きは眞に名

實相傳の人物云ふべく、其の人格之風範は、大いに稱すべき

ものなくんばならず、然れども君元來名門の出なるを以て、或ひは

人に接見して能く語り能く談じ、其の間何等の破綻を設けず、一脈

の春風融かたるが如き態なく、餘り眞實なるが如く感ぜらるゝは

人目の視るところ、十指の指さす所にして、寧ろは、今少し、

言行にも、態度にも、所謂平民的なることとなり、蓋し君が斯く

の如くなるに到れば、君の人物は所謂謙上更に花を添ふるに到るこ

と必せり、吾人は君の爲めに、切に敬慕せんことを要せざるばあ

らざるなり。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆





大日本紡績 工學博士 菊地恭三君  
株式會社社長 大阪上木町九丁目

由來海南海州は、空に秀麗の雲を垂れし、海に海波の渺茫たるものあり、散て風光の美、氣候の關係のみに非ず、雖も、古來人材の輩出せるもの多く、高材逸足の淵源地たるの觀あるは争はれざる所にして、維新以來、或は政界に名を爲し

實業界に聲名を馳するに至れるもの彼の陸海軍に於ける薩長の夫れに對比すべく、大いに四州の聲譽を奮揚しつ、あるが中にも、最近華城の實業界に活躍して、綿油一噸、名刀の如き手腕を揮ひつつあるものを菊地恭三君とす

寫眞未着



君は愛媛縣西宇和郡川上村字川名津の豪家に生れたるが、同家は代々庄屋を勤めし名門なるを以て其の統を享けし君は、幼にして才氣の煥發たるものあり、最も學を好み、長じて其の學校教育を終るや、實業界に雄飛すべく、得意を以て

實に同社をして今日あらしめたる功績あるのみならず、實に我國紡績界の功勞者にして、大いに推賞するに足るものあるべく、今は、稱して紡績王と稱はるるに至れるは、決して所以なきに非ざるなり。

抑も、由來我國紡績業者の、多くが素養なく實に努力を以てのみ信頼しつ、ある中に於て獨り、君の工學博士として新界のオーソリティーたるは、一異彩たるもの云ふはざるべからず、況んや、本邦の實業界に於て、少藤、和田の二人と共に三輪對して、關渡虎博の聲譽を擁するものある、儼然ならざるはざる可らず。

君、實性温厚の君子にして、小事に拘泥するところなく、學者肌の面目如たるものあり、然も、頭腦明習にして、志慮、綿密に其の事業たるを失はず。

蓋し、新業は將來多々益々發展すべき趨勢あるは故に思ふ所の要なきところ、君の手腕は之より益々發揮するべく、日勤向後の發展は眞に速踏すべからざるもの云ふべく、聲名頼に噴々たるに至るべきは無疑にして、人の世の幸運は、以て悉く君に集まれるかの如き觀なくばならず、今や一千萬圓の巨款を擁して、無憂無慮に前進の事業、經營を果敢する君の運命は、樂しみ多きことなるべく、令弟、工學博士田中泰吉君の、川崎造船所に重役に就任し、新界のオーソリティーたるあり、家門の繁榮、眞に美望に堪へず云ふべし。

漁業界の巨頭 猪崎保直君  
南宇和郡西海外村

猪崎家は累代漁業就中松魚製造業を經營して名あり、頗る有数の資産家なるが、嚴父は新業の經營に富み漁業亦其に遠からず、夙に新業の發展に盡心して貢獻する所多く、知事より其功勞を表彰せられたる事屢あり、宛てて新業界の一大巨匠として推賞ありしも天永く君に壽を借せず、尙爲すべき多くの事を有し、且つ君に俟つべき猶多し多の事からさりし、突如として幽明度を隔つるに到りしは、同地方漁業界に取りて至寶を失へるもの云ふべく痛惜の堪へざる所なり、君嚴父の物故するを繼承を受け、志を繼承



改良に腐心し幾多の研究究を試みたる結果、品質大いに佳良なるを得て今や之が本場と稱せ

らる、土佐産松魚を凌駕するに至り需要大いに激増して、東京大阪の市場に於て大いに好評を博しつ、あり、蓋し今日の發展は當然の事云ふべく、將來の雄列なる發展亦期して俟つべきものあり云ふべし、君實性温厚にして兼ねて公共的觀念厚く、幾多の社会的事業に盡心し、功績大いに顯著なるものあり、兼て地方通信機關の敏速を期し地方人の利益を圖るべき三等郵便局長として自ら事務に執筆す、君の如きは亦縣下漁業界の巨匠たるのみならず、地方の模範的人物にして、噴々たる聲望あり、年齒未だ三十有六、前途有望の士たるを失はず亦君は在職中將校にして地方在職中分會長たり。

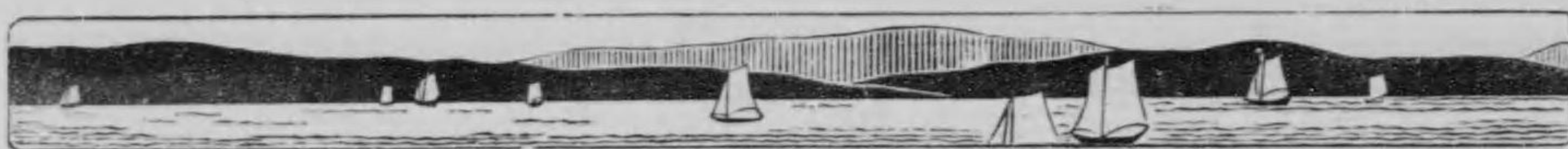
大阪電球株式會社社長 渡邊修君  
東京麹町區平河町

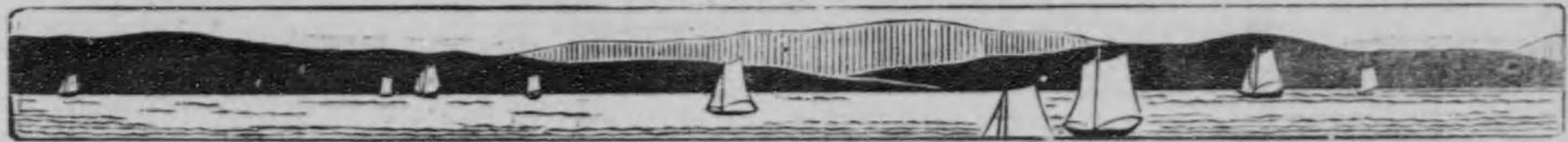
由來愛媛縣は實業界に輝々たる人材を輩出せる點に於て、四州に冠たるは故に驚かざるの要なきことなるが、近來近來新進の才幹として大いに實業界に活躍しつ、あるものは渡邊修君なり。君は愛媛縣の出身にして、少に實業に志あり、夙に學校教育を終るや、實業界に入り、不憚り思の意氣を以て、從順に健闘し、逐年新界に堅固なる地盤を作りつ、ありしが、今や、地方の實業界のみならず、大いに脚足を伸ばして華城の實業界に活躍し、兼に大阪電球株式會社社長、宇和水電株式會社社長等の椅子に坐し、得意の手腕を揮ひつ、あり、蓋し同社が今日電球界の霸王として、新業界に



推行する所以のものは、以て全く社長渡邊君の努力に負ふ所多し云ふべし。

は、電球業界の重鎮として元來電球製作業に多大の興味を有し、自ら技術、職工を督して、頻りに電球の製造に全力を傾注せしが、未だ本邦に於ては、海外先進國の夫れに比して、最上級の電球を得ざるを以て、大いに之を研究すべく、先年技術、其他社員を伴ふて、電球の製造を視察し、専ら新業の研究に努力し、大いに得る所あり、歸朝、製品に幾多の改良を加へ、今や我國電球界のオーソリティーとして、聲譽を擁するに至れり、同社將來の發展思ふ可き也。君、實性温厚、敢て首を斬はず、勤精勵、終始一日の如く倦む所を知らず、君の如きは實に我が實業界古希の巨頭として君の前途亦活目に値すべきものあり。





帝國商業銀行頭取 高山長幸君

東京中津谷

君は愛媛縣喜多郡の出身にして夙に實業界乃至政界に活躍し、同僚の代表的人物として盛名の頗る...

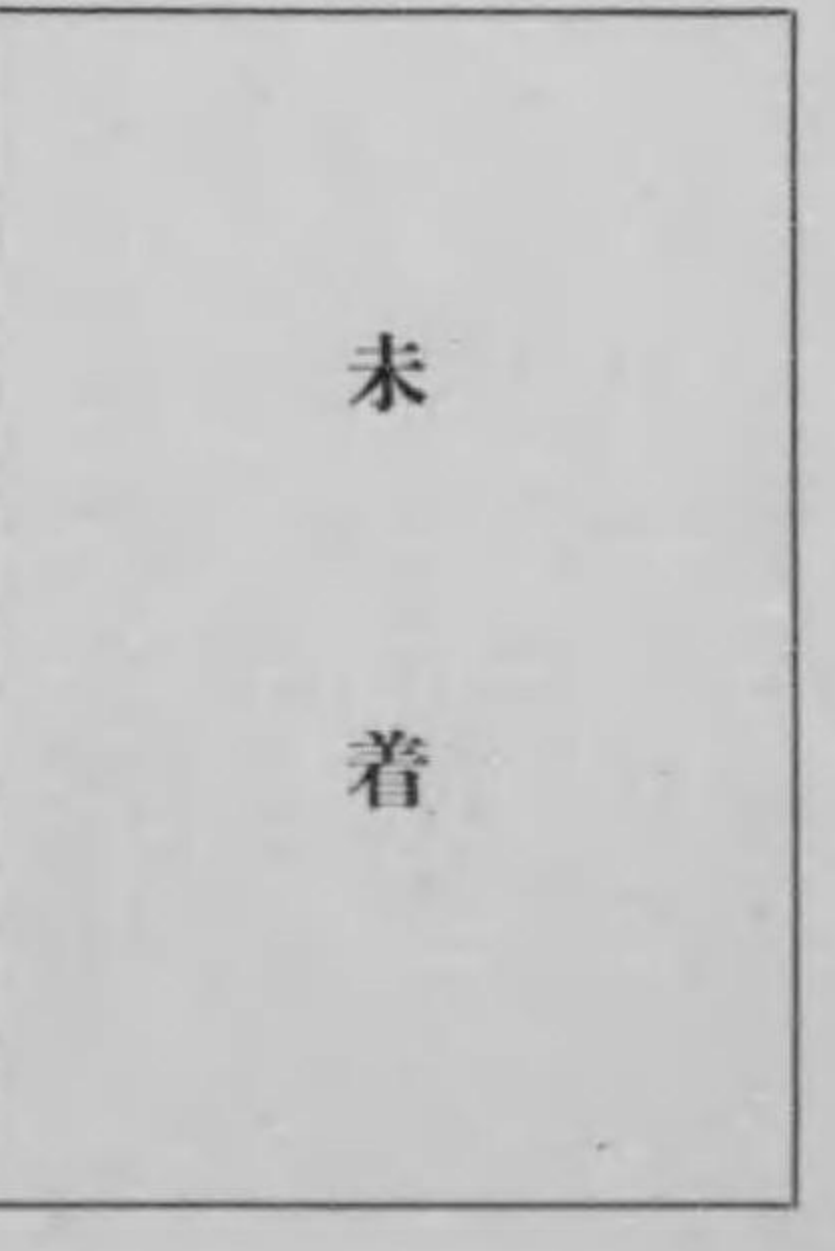


くさくさ可ならざるはなしと雖も、在來の經歷上、學識最も深く、情理に精通せるものは製糖事業なり...

製糖業代表議員 矢野莊三郎君

兵庫縣武庫郡御影町

君は關西に於ける著名の製糖業にして、矢野製糖株式會社(所在地大阪北區)を設立し全國に百二十有...



人物たるが、學問に歸り、教育、産業、救濟、慈善等の事業に於て多くの財力を費して之を奮勵し...



醬油醸造業 八木榮十郎君

越智郡波止濱町

君は累代醬油醸造業を家業とす、夙に先考の遺業を繼承して括弧經營、其間幾多の改良を施し、下天...

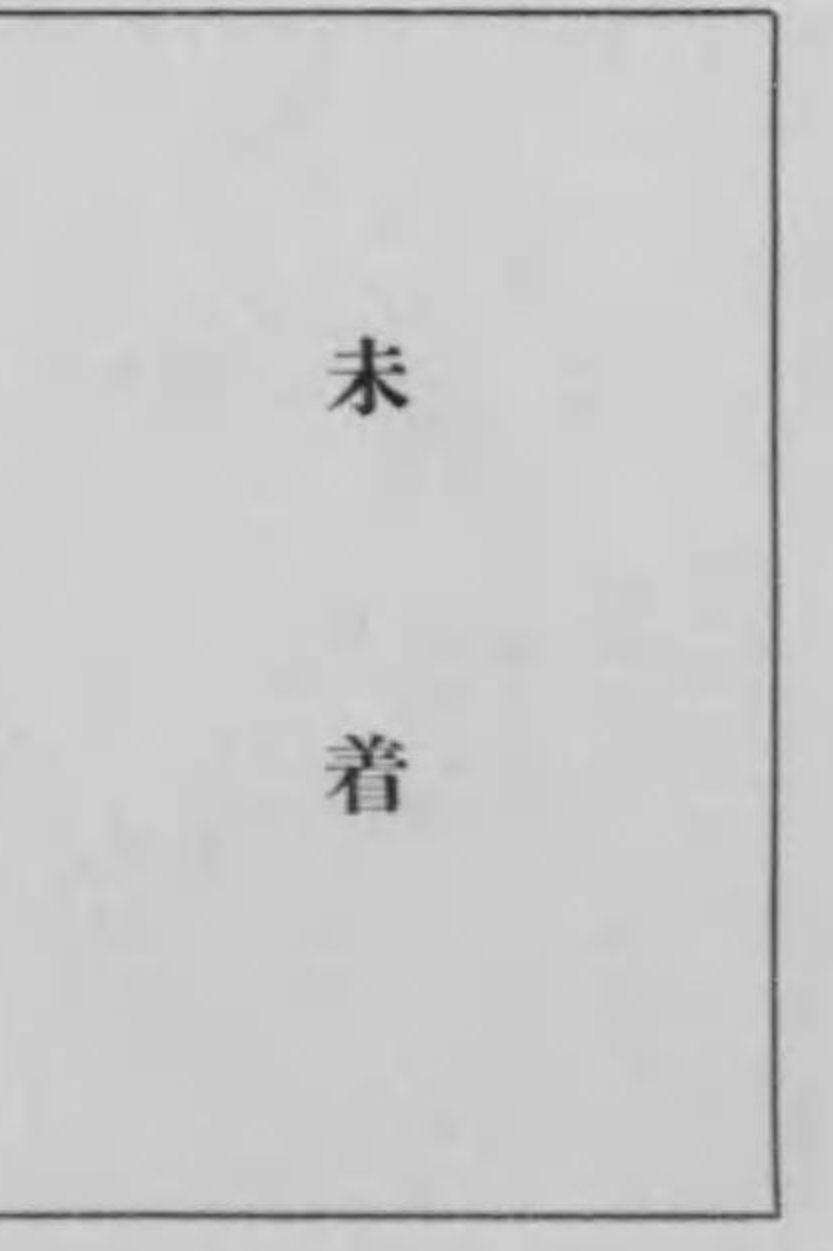


しが、明治の初年遂に其が事業を總覽する以て今日に及び、蓋し君が醸造に係る醬油の特長たるや、...

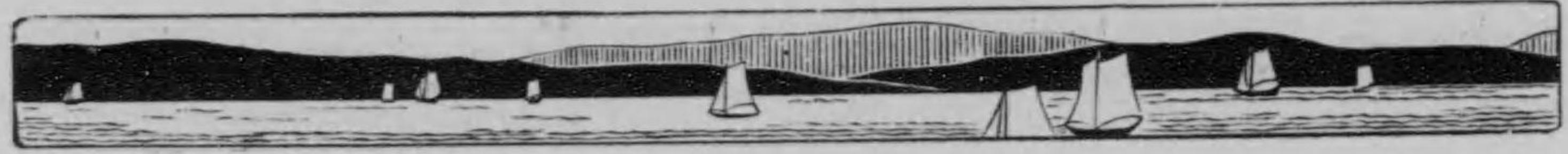
扶養生命保險會社社長 松木折三郎君

東京本郷

君は伊豫國國郡河村の出身なるが、松木家は同地方屈指の豪門家なり、長じて實業界乃至地方政...



のオノリチーとして、多大の聲名あり、多く其の將來を囑目せらる。



### 山下造船株式會社重役 松木幹一郎君

東京 麻布 筭町

我國海運界の大立物たる山下造船株式會社は、今や旭日昇天の盛況を呈せしつゝあるが、同社總務課長の要職に在りて、山下社長を輔佐し、其難任に參じて刺策する所あり、同社をして今日あらしむるに負ふ所多かりしものは實に松木幹一郎君なりとす。

君は伊豫國周桑郡楠河村の出身にして、遂に、東京電氣局長、鐵道院參事として聲名あり、大いに官界に將來あるの人なりしを、山下氏が識つし來つて、現任の椅子を譲へたる人なれば、その手腕の非凡なるは愛に

贅言するの必要あるを  
見ざるなり  
元來山下氏  
船は、關西  
に於ける人

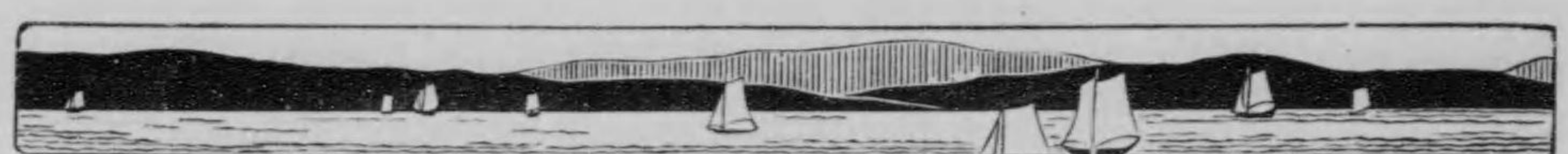


未着

物の測るた  
るものにし  
て、新人物  
にして手腕  
あるものは  
風を隨んで  
來り投ずる

を以て、高尾越材實に星の如きものあり、戦後、船船界の盛況に伴ふて、專ら人材の吸收到心し、事業界の編上たる鈴木、久原二氏が爭奪に奔命したるは、世間周知の事實なり、蓋し山下氏が、氏を聘して特に總務課長の要職を與へたるは、以て君が如何に手腕才能の人なるかを推して知るを得べし。

由來、事業の盛衰興亡は、以て從業者の手腕如何に由因するものなりと云ふは、古訓かすべからざる眞理なり、山下氏が今日、船船界に争動するに至れる所以は又以て、氏が能く人材の吸收到心に苦心したる努力の賜と云はざるべからず、君が今や、同社の柱石として、鈴木に於ける金子君と同一立場に在り、内外の重宝ある決して偶然に非ざるなり。



### 東京三菱重役 三宅川百太郎君

東京市牛込區余丁町

君は我國實業界に於ける驍將にして、三菱製煉株式會社常務取締役、三菱商業株式會社取締役、日華製油株式會社監査役たり、夙に人材に最濃を稱せらるゝ三菱系の高材選定して重宝あり、其の任にあるや情勢稍變、努力を以て信條とし、致々懇々として忠實業に服して倦むことを知らず、且つ手腕頗ぶる非凡にして、事に當るや必ず成功を奏せざることをなし、君が専ら經營刺策の術に當りつゝある三菱製煉今日の發展は實に君が努力の手腕に負ふ所たるや少からずと云ふべし。

君は愛媛  
縣越智郡高  
田村の産に  
して明治二  
年を以て生  
る、明治二  
十五年東京



高等商業學  
校を卒業す  
るや一年志  
願兵として  
軍務に服せ  
しが、退營  
後は専ら實

業界に活躍し、二十六年十一月三菱銀行部(前身第十九國立銀行)に入り、二十八年十月三菱銀行支店の設置するに共に、選拔せられて支店長代理として赴任せしが、三十年大阪支店に轉じ、三十五年三菱製煉所副支店長となり、三十九年漢口支店長に榮轉し、更に上海、北京、兩支店長を兼任せしが、大正元年本社に復歸し營業部副長たりしも、又出で、門司支店長となり、若松支店長兼船渠課長に就任、同五年再び本社に歸り東洋課長たりしも、翌六年に至り現職に榮轉し以て今日に至り、君は現代的人物にして社交に長け頭腦は極めて明晰なり、亦好箇の實業家たるを失はず、趣味として読曲、棋將を好み、且つ酒を嗜す。亦君は脚堂に於て多大の信望を有せり。

### 御莊銀行頭取 小西莊三郎君

北宇和郡岩松村

君は同地方に於ける唯一の豪封家にして大地主なるが、夙に公共事業に志し貢獻するところ少からず、且つ大いに農事の改良發達に志しつゝありしか、最近社會の趨勢に鑑みるに、産業の發達は以て地方を開拓伸張せしむる所以なるを思ひ、事業界に投じて現に御莊銀行頭取、伊豫國下銀行宇和島銀行、二十九銀行、愛媛貯蓄銀行等の取締役に就任して、大いに産業金融上の利便を圖り、兼ねて地方金融の

潤滑を期せ  
り、誠中、  
各種工業の  
發展を招來  
せん事は、  
一種の國家



小西莊三郎君

的觀念を以  
て、金融上  
の利便を圖  
るの必要あ  
り、然して  
御莊銀行業  
に従事する

もの、公正な責任なるを思ひ、極力之に放資して、其發展に資するところ少からず、同地方金融界に盡して功績の頗ぶる顯然たるものあり、多額積蓄として同に噴々たる信望を有せり。

君資性濃厚にして高雅、所謂且那風の人にして小事に拘泥するところなく、誠心誠意、忠實ならず、然も毫末も幼年に誇る事なく、身を持するに謙直にして、慈悲心厚く、小作人に對しても、或ひは境遇に依つてその加減を軽くし、或ひは之を免する等奇特の行爲からざるものあり、蓋し君の如きは南條に於ける代表的人物たるに共に、同然金融界に於ける大御所たるの感なくばあらざるなり。

### 南洋郵船株式會社取締役 佐伯俊太郎君

東京市牛込區余丁町

海國の進運が海運の發達に因由するは論を俟たず、轉近南洋國輸出入貿易の増進せること著しきものありて之に従ふ海運業の盛んに各航路の運航に従事するもの會社と云ふはす個人と云ふはす其數を知らず、然して今我國海運者の主なるものにして知られたるもの日本郵船、大阪商船の大を數せる外南洋郵船會社あり、まことに政府命令航路に従ひ南洋諸島へ向寄客の運搬をなし一觀海運業者の時に運賃の競争にあつて其高

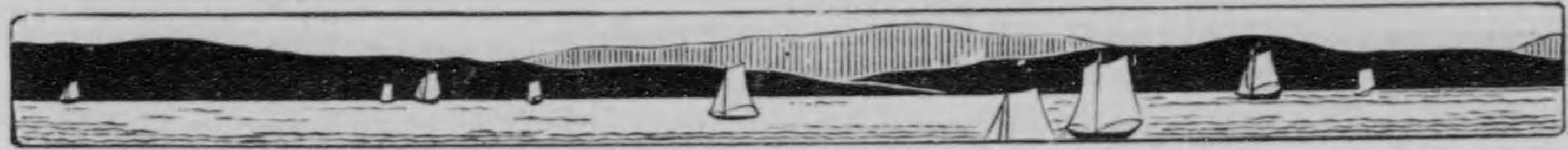
中外に超然  
として確定  
の利益を得  
て社運の基  
礎實に向



未着

へり、同社  
の支持をし  
て其人ある  
ば佐伯俊太  
郎君にして

社創設に當り入つて創立者となり經營の任に當り爾來今日に至り同社取締役として神戸支店に在勤し常に社員の節表として精勵怠らず、自ら事務の機密に涉り能く之を整理す、資性剛直にして果敢能く人を解して人を愛し慈愛の念に富む氏の影に依つて世に出でたるもの其數ありと、又其人格を知るに足る。



### 西村久子君

西宇和郡八幡濱町

西村家は縣下有数の資産家なるが、理彦主久子は彌三郎氏の末子なり、然して父は養子にして西村家に入りたる人にして、當時輿論を驚かしつゝ、ありしが明治三十八年享年五十八才にして黄泉の人たりしは實に惜むべきなり彌三郎氏死後同業を中絶し以來月雪花を樂むの佳境も亦所以なきにあらざるべし久子に二女ありスナ子云ふ、曩に八幡濱高等女學校に學び才媛の間に高かりしが、今や業を了へて養子西村君を迎へ琴瑟相和し、家門大いに隆昌に輝きつゝあるが、悲劇的運命の跡を脱しめざる小壯麗の人物にて、久子未亡人を輔けて家政に精勵しつゝあり、蓋し同家の今日あるを得たるは、久子未亡人が、婦人に稀に見る決斷力に富み而機を逸せず努力加勵したるが爲めなり云ふべく、稀に見るの賢婦人云ふべく子は亦地方公共に富み一般に厚し。



### 田中長太郎君

南宇和郡一本村

君は地方稀に見る篤農家にして幼より農業に従事し、専ら農事改良、耕地整理等に關して熱心に専修し功績頗る顯著なるものあり依つて大正三年三月三十日縣知事の名を以て篤農家として表彰せられ、本村一帯を密贈せられたり、以て君が如何に農事に熱心なるかを知るに足るべし、君、嘉永元年を以て生る、實性温厚にして質朴

### 未着

奇を衒はず世に媚びず専ら致々然々其の業に勤勉し出で、公共事業に貢獻する、三十年一日の如く、絶へて倦むことあるを知らず、君の如きは實に一世の模範人物と稱すべきものなるべし、されば徳風ならず必ず備めり、今や大いに噴々たる聲名を博し、地方民衆の中心たり同地方に於ける農事施設の出来大いに面直を一新し、發達の見るべきものあるに至れるが如き亦君に負ふ所多し云ふべし。



### 小笠原長道君

北宇和郡宇和島町

君は宇和島藩士として名門の家柄なるが王政復古と共に農に歸し専ら農事に精勵しつゝあるが、無算識階級目されつゝある窮民に於て方に難詰の一語も稱すべき學識ある篤農家にして夙に農事の改良に努力する所あり、且つ公共的自業に盡心し、功績頗る顯著なるものあり、郡民の輿望頗る高く明治三十年愛媛縣會議員に當選して以來、引續いて其任にあり、實性温厚にして温情に富み且つ慈善心頗る篤く、能く私財を割いて之を救助したること屢々枚舉に遑あらず人に接見して其の域を設けず能く語り能く談ず、されば徳聲自然に來つて、人悉く君に信服し且つ一人の敵を有せし事なし又世の指彈を受けたる事なし、蓋し地方の模範人物たるを失はざるなり嘉永二年を以て生る。



### 高須峰造君

松山市二番町

君は越前郡近江村の産、夙に松山に於て醫士を業としつゝあるが、一面又大いに實業界に活躍し、其重なる關係を築くれば愛媛鐵道株式會社社長、米穀取引所理事長、等にして其他四國に於ける諸會社の關係は枚舉に遑あらず、夙に君は實業界に於ける立物たり、實性温厚にして、能く人を容るゝの雅量あり、平生精勵、精勵以て効卒に誇らず、致々として事業に熱中し、倦むことを知らず手腕の非凡なるものあるのみならず、先天的實業家の素養を帯びる且つ君は政治に興味を有し、夙に憲政會に入黨して大いに其の議論の如きは同縣實業界乃至政界の中心人物たるを失はず、聲望の隆々たるものある決して過言にあらざる也。

### 岡田恒太君

越前郡今治町

君は一農家に生れしが明治十九年同地織布界の始創として知られたる故矢野七郎氏の屬人となり親身的に努力せる結果、深く機業上の經驗を積み三十五年獨立して事業を開始し、手機僅かに十台を握る之れに依つて奮勵努力したる結果、勢空しからず、漸次發展して今や、手機二百台、動力機四百三十台計六百三十台を有し年産額五十萬反、價格百三十萬圓の生産能力を有するに至れり、然して工業は理論的施設を施して間然する所なく年々機業の發展を招來しつゝあり、殊に特筆大書すべきものは君が工業工女を優遇し専ら工程能率を發揚せしめつゝあることにして蓋し空手空來以て今日巨萬の富を得たるが如きは、斷じて當世の成金と同様に談すべきものに非ず、君が人格と手腕は之を推して知るを得べし又機業界の大成功者にして南西工業界の大立物として前途を望み云ふべきなり。



### 仲田博之丞君

松山市府中町

君は縣下有数の資産家にして各種の銀行會社に關係し、同地方實業界に於ける稀有の代表的人物たり、即ち明治四十年地方金融の圓滑を期するため仲田銀行を起し自ら經營の衝に當りつゝあるが、明治四十三年愛媛縣銀行取締役となり、大正五年遂に同行頭取として行務に執掌し、大いに好況を招來せしめたり亦、松山勸業株式會社、伊豫鐵道株式會社等の取締役たり、尙且つ松山勸業銀行頭取にして、大いに手腕を揮ひ其先天的實業の才能は、能く龍驤虎搏、意の如くに實業界を券許し、今や大いに聲望を騰ち得たり、且つ君も効卒に誇る所なく致々として努力を傾注す、君の如きは亦求め多く得難き人材たり、實性温厚にして、豪も門閥を空にせず、極めて平民的人物なるを以て、人皆君に推服す、從て朝野の信望最も高く銀行界の模範人物たるを失はず君の活躍亦大に見るべきもの有らん。







代議士 成田榮信君

東京市芝罘町

君は伊豫國北宇和郡下灘村の産にして目下同國温泉郡道後湯之町に住宅を有す、明治二年十一月の生れなり、少小十六歳にして志を立て、東都に笈を負ひ、苦学大いに勉勵する所あり、夙に政治に興味を有し、將來の大政治家を以て自ら任じ、常に高言論論、好んで時事を論ず、然る其の説く所、常に一貫論を論へ、先天的政治



あるを發見したるを以て之が未然に防止すべく極力整理に勉めたる結果、日ならず面目を一新するに至れり、同行の今日ある一に君が手腕に負ふ賜なり、然して君は別所の復活するを見て之を辭し、現に多額銀行頭取たり、又一面朝鮮慶尚南道に大浦水利組合を組織し、合長たるが大正六年にはこれが爲めに十五萬圓を得たりと云ふが、十年後には七十五萬圓の利益を得たりと云ふ蓋して君が計画的如何に明瞭なる頭腦を有せるかを知らるに足るべし、人物手腕も窺するに難からざる也、地方の聲望亦厚し

株式會社多額銀行頭取 村上丈夫君

東京都大洲村

村の家は同地有数の豪家なるが、四才にして嚴父の死に別れ、母室の手に養育せらる、夙に篤學の士なれば幼にして笈を東都に負ひ、攻玉社東京物理學校、東京統計學校等に學び業を了ふるや郷里に歸り、明治二十四年大洲銀行重役となり、三十二年には推されて事務取極役に就任せしが當時同行は行現甚だしく弛緩するもの



あるを發見したるを以て之が未然に防止すべく極力整理に勉めたる結果、日ならず面目を一新するに至れり、同行の今日ある一に君が手腕に負ふ賜なり、然して君は別所の復活するを見て之を辭し、現に多額銀行頭取たり、又一面朝鮮慶尚南道に大浦水利組合を組織し、合長たるが大正六年にはこれが爲めに十五萬圓を得たりと云ふが、十年後には七十五萬圓の利益を得たりと云ふ蓋して君が計画的如何に明瞭なる頭腦を有せるかを知らるに足るべし、人物手腕も窺するに難からざる也、地方の聲望亦厚し

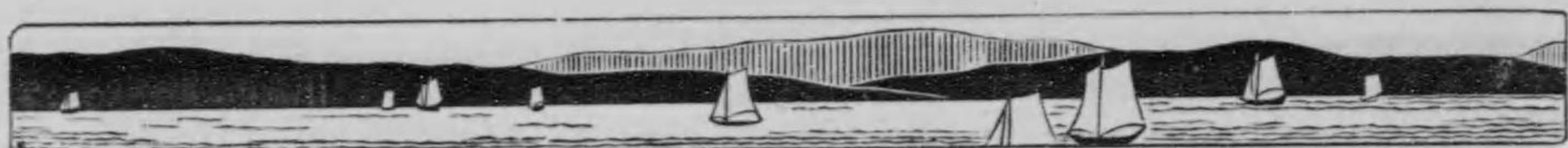
篤志家 矢野眞平君

越智郡近見村

矢野君は十一代三百年の歴史を有する舊家に於て、縣下有数の地主たり、資性濃厚にして漢林、夙に公共事業に熱心し多くの財財を劃て、物質的方面は勿論精神的方面に貢獻する所多く、且つ性來慈善に富み、貧窮者を扶持したる一三枚車に遑あらず、爲めに急病を望を加へ、今や嘆かたるものあり、君亦夙に教育方面に其味を有し



學校の施設其の他に多くの財財を劃て寄付しつゝあるが、亦入りては自家に弟の教育に力めたる結果、一に勉一君をして帝大工科を卒業せしめ化學機械の研究に没頭せしめ、遂に發明を完成し世界のオートリリーたるが次男眞一君をして海軍に入らしめ、現に機監少監として大いに將來を囑せしむるに至れり、積善の家に餘慶あり、蓋し君が家門の光榮云ふべし。



三井合名會社不動産課長 矢野亮一君

東京小石川區原町

君は明治二十七年東京小石川區原町東大法院政治科の出身にして卒業後官界に入り、鐵道院に任官して書記、事務官等に應任し

末着

大いに手腕を揮ひ聲望ありしも大正二年に至り病氣の爲めに辭職し爾來實業界に入り三井合名會社に入社し夙に情熱積極の聞へあり、斯界に馳逐して手腕大いに圓熟し、社内の重望を負ひ、今や不動産課長として名を馳はるゝに至れり、君は伊豫今治町の出身にして明治元年を以て生る即ち年僅五十有一たり、資性濃厚篤實、稀に見る奮闘力行の人、蓋し君が今日を獲ち得たる所以のものは、素より其の非凡なる手腕に負ふ所多し、蓋し君が奮闘努力の賜ならざるを以て將來の大成功を窺知するに難からざるものあり、目下東京小石川區原町一三四に現住し、散策、徒歩を好み、碑を

株式會社 柳瀬義之君

越智郡今治町

君は東海鐵道會社の小壯人物として其聲望を知られ業は先考の業を承繼し、現に株式會社柳瀬義之社長、今治商業銀行監査役に就任し、大いに實業界に活躍しつゝあり、君は伊豫國今治町に於て明治廿七年八月二十七日を以て生る、其の須磨浦尋常居學校を卒業するや、兵庫縣立第二師範學校に學び、更に慶應義塾大學部理財科を卒業し、學校教育を了るに共に向ち實業界に活動進出したるものにして、未だ日淺きを以て、社會的聲望に乏しきものあり、蓋し、今幾年を

末着

經んか、君が實力と手腕は大いに斯界を奮闘するに至るや必せり、蓋し何事によれ老蒼若輩たる我國に於て、此の新進鋭の小壯實業家を以て既に今日の地歩を占め得せしめたるは、以て青年の爲めに萬丈の氣を吐くもの云ふべし、資性濃厚にして著實、唯奇を折ふことなく、寧ろ地味にして深謀遠慮あるその方針は、小社氣鋭、徒に功に急ぐ青年中種に見る所にして、今日夙に大成すべき素質を有し、蓋し君が今後の活躍振りは吾人の大いに興味津津たるものあらん。

今治商業銀行頭取 八木春樹君

越智郡今治町

君は代々清酒醸造業を經營し之れ嚴父の遺業を繼承せしものにして、夙に會社銀行に關係し、愛媛電氣株式會社頭取、今治商業銀行頭取、四國酒造組合會評議員、愛媛縣酒造聯合會副會長、今治町會議員、越智郡酒造組合長等に應任して、大いに實業界に活躍しつゝあるが、他面又地方政界に入り、現に縣會議員、縣參事として地方自治に貢獻する所餘からず、資性、圓熟にして志向なき現代的平民型の人物にして、社交に長じ、嘆かたる聲あり業て實業に對して非凡の手腕を有せり、蓋し同地方の一流人物たるを失はざるなり



君は漢籍を博識、石山先生に師事して造詣する所深く、且つ趣味として、謠曲を好めるが、持筆に入れるを以て知らる。



從四位勳四等 松木茂俊君

關東郡 楠河村

君は明治元年の出生にして、明治二十七年東京帝國大學法科大學を卒業するに共に官界に投じ大蔵省に入りしが、廿九年に至つて北



海道廳長として卅年以來前部中學及商業學校長、鹿児島縣視學、長崎縣第一部長大阪府事務官等を経て四十二年十月臺灣南廳長に任ぜられ高等官三等に叙せらる、備任にある一三七九年、夙に精勤

三菱工業株式會社 船田一雄君

東京本郷區青木町

君は東洋唯一の豪商たる、三菱工業株式會社の船田長兼、長子として敏腕の間にあり、人材高足星の如き三菱部内に於ても、



りしが、尙らば先づ大樹に倚らざる可からずとなし、三菱工業株式會社に入り、夙に精勤、大いに努力し遂に今日あるを得たり、君は一見若牛肌にして淡白、社交は其最も長所とする所なり、然して特筆大書すべきは、君が水く異郷にあるに拘らず、郷里を忘れず、常に公共の事業に盡力し、私財を割いて之が費に充つるが如き

小西萬四郎君

北宇和郡岩松村

君は四宇和郡八幡濱町の出生にして、家業たる酒造業は先代の創業せるものを我が繼承するに至れるものなるが、先天的的の酒造業を有し常に工夫を凝らして之を改良し苦心したるを以て大いに製品の改良するに名を得、今や我が國産に保る酒造業は最も佳良なるものにして且つ経済的なりとし、大いに江湖に好評を得し家業に隆昌に達しつゝあり、君元來、胆氣雄渾常に略略の妙を得、繁榮上の施設に萬端なきを期せるは勿論なりと雖も、最も危険なる方法を用ふるにこそなく、卒直に事業に精進し十年一日の如く奮むところを知らず、爲めに金を借借を博し、今日に於ては陸然たる一勢力を得るに至れり、且君は公共事業に盡力するに多年、其の



功勞は實に没すべからざるものあり、又君の如きは稀に見るの高傑なる人物にして朝野の仰望極めて高し。

赤松忠兵衛君

北宇和郡下灘村

赤松家は同地方屈指の豪族にして先代より漁業を以て今日の富を致せしものにして、先代の没後、之を繼承し而に自家の致富を成すに止まらず、武勇の致富を貢獻する所あり、地方警察の人民を扶くるに少からず、爰に地方人より神の如くに崇奉せられつゝあり、君は實性朴直にして慈善心頗る篤く、夙に貧窮者を見ては之に生活の保障を與へ、實に苦むものあるを見ては之に施の法を講ずるな特志の行爲多きのみならず、かねて公共事業に志ろざし第くして、産業に其他に貢獻する所少からず、誠中漁業界の發達に貢する所多きは實に人の知る所なり、今日の同地方の漁



の如きは又以て漁業界に於ける模範人物と稱し可なり。

阿部光之助君

越智郡今治町

同家は元酒造業なりしも後、業を廢して各種の名譽職、議員、會社重役等に就任し公私の爲めに盡力する所少からず、二十三年今治町長、二十五年愛媛縣議員、三十年郡議員及議長代理、農工銀行取締役、三十四年愛媛縣警務局長、海洋漁業組合頭取、今治米穀同業組合長、三十五年伊豫郡三ノ川同業組合理事長、今治商工會長、三十九年今治市電氣株式會社取締役社長、後、電氣水力株式會社に



併合し同社長となれり、四十二年下灘同業組合聯合會副組合長、四十二年今治市市場取役、大正五年伊豫郡警務局長、に歴任し商工業方面のみならず、地方政界の口頭として大いに影響する所あり、現に愛媛水電社長、愛媛電氣取締役、今治商工會長、今治商會組合長、阿部株式會社取締役として、同地方に一大勢力を有しかねて噴々たる聲ありて先づ東洋の元老たり。

越智和太郎君

川桑郡王生川町

君は先代の時代より兩端の製造及び肥料の販賣業を営みつゝあるものにして明治二十年の創業に係る、斯業界唯一の老舗として知ら



れ厚譽を垂書し稱し、大いに信用あり、最近頗る好意を招來し、市運の隆々たるものあり、君は實性温厚にして人情高潔なる人物にして無間努力を信託しし意に今日あるを得たる人にして、其の過去及び現在に於ける業績は以て實業家の模範たるに足るなり、今日の偉大なる發展は又以て偶然ならずと云ふべし、殊に特筆大書すべきは君が八面玲瓏たる人格は、大いに徳望を有し人を推服せしむるの徳あるを以て、一人の敵なく自由に驍足を伸ばし威權無量に活躍しつゝあり、蓋し君が將來の發展は又進歩するに疑からざるべし、年齒四十有七、前途尙大いに春秋に富めり。





株式西南銀行頭取 佐々木長治君

西宇和郡伊方村

君は地方有数の豪族にして學校教育を了するや、大いに實業界に活躍し西南銀行頭取、日本鐵道株式會社取締役に就任、亦一面郷土に於て公共的事業に最も興味を有し専ら之に盡心し其功勞多しとせず、父が地方教育の濟美を期し、農事に必須なる知識を授くるべく私財を投じて設立したる財團法人佐々木愛郷會の事業を父君の物故以來繼承し之を私立實踐農學校と改稱し、夙に鐵腕の剛の高き小島寅作氏を聘して校長に推戴し、君亦自ら教職の任に當り、大いに地方教育界に貢献しつゝあり、資性温厚にして人格崇高、現に伊

未 着



方村郵便局長として専ら通信機關の完備に努力す、大正五年四月東京高等商業學校の出身にして年齢未だ二十有五、前途大いに春林に富む蓋し君が小社既に今日の如くなるに於て、其將來の大成や真に斷るべからざるものあり、又前途有望の士と云ふべし。

一千九銀行頭取 菊地清平君

西宇和郡川ノ石町



君は株式會社一千九銀行頭取、愛媛農工銀行監査役として夙に財界に活躍しつゝあり、同銀行は明治十年の創業に係り、現在資本金

百萬圓を有せる地方有数の大銀行にして、其の堅實なる營業方針着々として財界に鞏固なる地盤を獲得し、新生面を開拓して、今や大いに發展の見ゆるべきものあり、夙に地方財界に重きを爲し、産業金融上に寄與する所少からず、頭取菊地君は、資性才氣煥發、積極に活動して大いに公共觀念の熾烈なるものあり格勳勳勳非凡の才能を活躍して勳業昭著、熱心に同行の發展を期しつゝあり、蓋し今日の旺盛熾烈なる發展は全く君に負ふ所のものなるべし雖も、唯幕に參り、權限を離れて大いに之を助成したるものに與ひ、支配人たるは没却すべからざる事とす、君資性温厚にして社交にを通じて斯業上超見たる手腕あり、且つに重篤であり又以て好飲の女房役たるを失はず

名 望 家 吉良鱗太郎君

南宇和郡一本松村



君は文久二年の生にして夙に豪傑を以て知らる、義に及を負ふて東都に遊び應酬飛躍に厚しが、其業を了するや郷里に歸り農業に従事し専ら之が改良進歩に努力するのみならず、村民の指導進歩に盡す所少からず、就中公益事業に選擇したる功績は最も顯著なるものとす、殊に二十八年國道を村内に布設すべく村内に興起せるや、君は夙に之が急先鋒となり東西に奔走し磨滅するの遠なく、遂に之が布設の運びなるを以て、所有の土地六反歩を割きて之を寄附し村内の利便を圖りたるが如き、最も功績の最たるものにして、村民大いに之を徳とし、神の如くに尊崇し聲名實に噴々たるものあり、資性温厚謙直、現に郡會議員たり、又地方に於ける模範的人物たるを失はずと云ふべし。

故 清水静十郎君

東宇和郡卯之町



君は製茶、養蠶を業として斯界に重きを爲し又夙に地方政界に大いに活躍する所あり、功績頗る顯著なるものあり、偉大なる手腕を以て重きを倚らつゝありしが、一臂の犯す所となり明治廿一年十一月十五日、大いに、多量なる前途を残して、遂に白下橋中の一人となりしは、清水家のために斯亦社會のために痛惜に堪へざる所

なり、蓋し君が生前の功勞多しして特記すべきものは、宇和町長として施設經營しきを以て、町政を大いに振起せしめたること、夙に蠶種改良を期し、研究所を設けて完全なる設備を施し、模範的優良蠶種を生産せしめ、斯界のために貢す所少からざりし等、其最も顯著なるものこと、天若し君に命燈をばかを借せば、更に大いに發揮すべかりしに、かへすくも惜むべき也。

七四

油屋メリヤス商會主 菊地満平君

西宇和郡八幡濱町



君は油屋メリヤス商會を經營せるが、同商會は明治三十八年の創業にして戦下、手袋の製造販賣を主とす、蓋し本郷下に於ける新業の嚆矢たり、然して君は多年の経験に加ふるに新業に對しては元來専門的技術の素養あり、從つて製品は極めて優秀にして實用に優美さを具備し夙に江湖の賞讃を得し、既に早く軍需品として陸海軍に納入しつゝありしが、最近に到り需要大いに激増し生産能力の不足を訴ふるに至れるを以て、今回現狀を擴張なし輸出向け手袋の製造を開始せしが、斯は戦時の一時的現象にあらずして、遂大發展に呼ばるべしとす、君は戦時の際に、  
は吾人の價は  
て疑はざる所なり、  
蓋し君は實に  
は實に  
同地方メリヤス工業

宮下久誠君

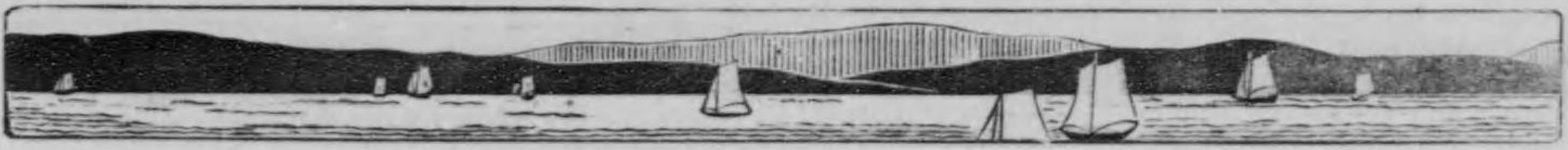
南和郡内海村

君は縣下有数の豪族にして、夙に農事の改良に盡心する所少からざるが、君の熱心は將來大いに養蠶業の有望なるに著目せしが、除に之を自家の胸襟に極するに忍びず、大いに之が農家の副業として有利なることを力説し、村民に基礎的知識の普及に盡す所あり、自ら率先して之を創行するに至りたるを以て、平素君の言動に人格に私淑せる村民は漸次に從事するに至り、今や家内工業として、内海村の養蠶界は大いに見るべきものあるに至り、然かも君が先見は大いに的中して今や新業は各地に勃興し需要又漸くに激増して、村民は以て多くの利益を擲得するを得たり、同村新業今日の開展は全く君が偉大なる功績たらざらばあらざるなり、君の噴々の聲望ある決して所以なきに非ず、年齢四十有三年前途未だ



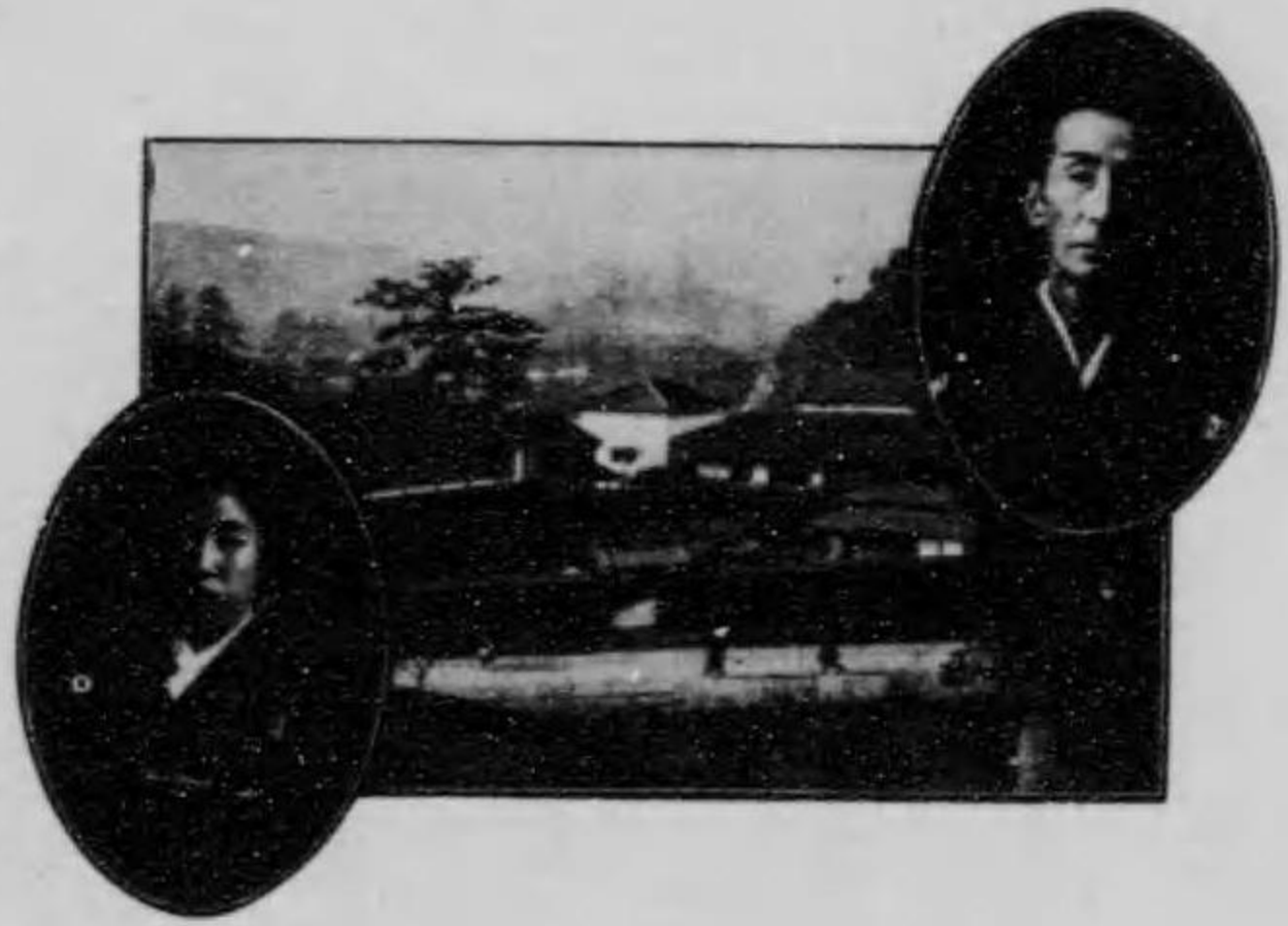
七五





### 下井小太郎君

喜多郡大洲村



下井君は、夙に實業界に發展すべき宿願ありたるを以て、公務を辭し、其の餘力を以て之を辭し、大規模なる實業の經營に着手し、又續いて養蜂の研究に志したるが、養蜂業は在官中多年の経験を得たるを以て、其成果は豫想以上の好成績を挙げしが、一方養蜂に到りては不幸にして大いに振はさりし、君の獨眼は此時早くも、將來養蜂業の發達に伴ひ果敢の必要を感ずるべきを思ひ、先此方面の新聞拓に着手せり、時方明治三十六年、爾來専ら新業に邁進して、結核病を患へ、下井君は必要期間に信用借款を授け、各處に必要の大資本を充すの高揚旺盛なる發展を招來するに至り、蓋し其此處に到る亦ソノ夫人の内助に依つもの多し云ふべく、我々實業界の一異彩たるを失はず云ふべきなり。

### 酒造家 杉野勘左衛門君

周桑郡國安村



君は、酒造の酒造家として知られたるが、新業は廣文利吉氏の辭業せるものにして、乃父の遺業を共に三十七年之が職業を結成したるが、君は斯業に關して夙に苦心研究するに少くならず、酒造運ひ舟車を重ねて製品の優秀を招致し、今や君が醸造に依る酒造の正法は、縣下唯一の優良酒造として、各地の博覽會、共進會等に出品して、金銀牌賞状を受けたるに、既に江前、好評を博し、家運大いに隆昌に達し、蓋し新法は君が苦心研究の賜にして、今日の發展は又以て當惑の事、云はざる可からざるなり、君は、年齒五十有七、今日の發展を以て之を想見すれば、將來如何に大成すべきの信心を確するべからざるものあり、氏は公共に盡す功績から、現に選ばれて木村長として自治に熱誠を凝らす稀に見る模範人物たるを云はざるなり。

### 日本サイデル株式會社事務取締役 鈴木秀助君

松山市唐人町



君は明治二十三年頃、突如病に犯され病床に呻吟せしが當時知人より勸告してラムキを飲られたるを以て之を飲用したるに、風味頗る佳良なるを以て之が製造を企圖するに至りしものにして、斯は實に君が新業を經營するに至れる動機なり、然して三十六年に至り、友人二三名を誘ひ、若千の資本を支出し、遂に新業を經營するに至りしも、元來、何等の素養なかりしものなるを以て、感嘆面白からず、間もなく之を解散する事となりたるに依り、君は之れを實業として獨立經營の衝に當り、大いに苦心研究する所あり、遂に優良製品を生産し得るに至り大いに好成績を招來するに至れるが時勢の要求は現在を許さずして、現を擴張するの必要なるを見、遂に株式組織に變更し、以て今日に及べり、蓋し君が今日の成功は以て一誠、萬機に克つもの云ふべく、今尙幼きに誇らず、益々努力を怠らざるを望むべき人物云ふべし。君は實業努力の人物進歩に値すべし。

### 海運界元老 末永四郎平君

喜多郡長濱町

末永家は屋敷を魚屋云ひ、累代同酒店及仲買業に従事す、君は實に家祖より四代目に當る、夙に先代の事業を継ぎ、更に大阪商船株式會社の代理店を引受け、現に汽船數隻を所有して近海航路の海運業をも開始しつゝあるが、君が奮闘努力は時局の好響に相俟つて、遂に巨萬の富を擧げ、同地海運界の巨人として知られ、店運大いに發展しつゝあり、君は資性温厚にして著實、勇氣激進にして意氣斷界を吞吐するものもある、然も、思慮精密にして遠慮深慮あり、先天的に海運業者の素質を帯べり、今日の發展は又以て君が努力の收穫たるべきもの多し、且つ君かねて亦公共事業に盡心し、功績少からず、重宝亦益々噴々たるを加ふ、蓋し君前途の發展や明して俟つべきもの多し云ふべし。

### 末 着

君は愛媛縣松山市の出身にして、慶應義塾に業を了ふるや、後に株式會社五十二銀行重要椅子を占め、其計數的才能、明敏なる頭腦を以て、積極擴張すること多年、現に同行頭取にして行内、外に多大の信望を銀行家として殊に見る人物たり、蓋し同行の今日を致せるは、亦以て君の手腕に負ふもの多し云ふべきも亦同行女房役たる村田豊二郎君の敏腕に相俟つて同行の前途多し云ふべし。

### 株式会社松山商會 五十二銀行頭取 石原操君

松山市三番町



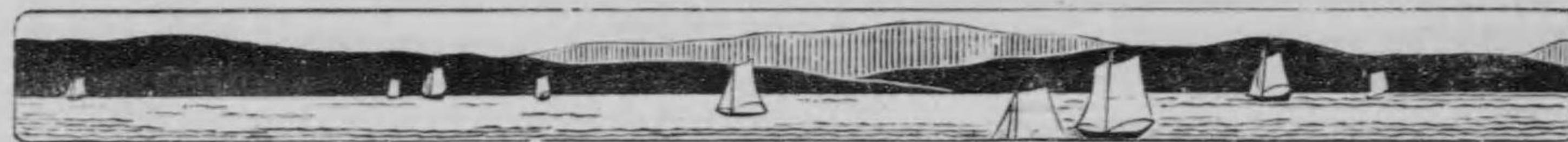
君は愛媛縣松山市の出身にして、慶應義塾に業を了ふるや、後に株式會社五十二銀行重要椅子を占め、其計數的才能、明敏なる頭腦を以て、積極擴張すること多年、現に同行頭取にして行内、外に多大の信望を銀行家として殊に見る人物たり、蓋し同行の今日を致せるは、亦以て君の手腕に負ふもの多し云ふべきも亦同行女房役たる村田豊二郎君の敏腕に相俟つて同行の前途多し云ふべし。

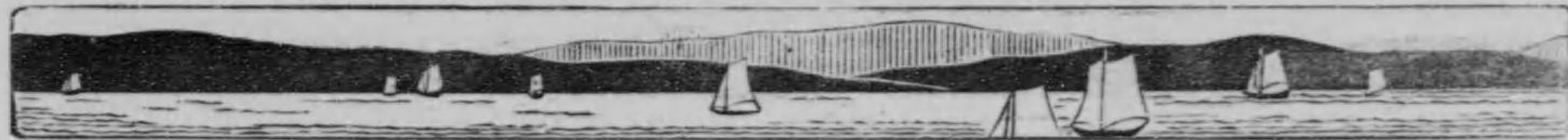
### 今井時太郎君

周桑郡丹原町



君は愛媛縣立農業學校卒業後、東部に殘るを以て、私立東京農業大學に學び、四十四年四月業を了へて、同年七月之を辭し、専ら實地に農業を經營せり、資性温厚にして遠慮あり、且つ、同地信用購買組合理事、町會議員の公職に推され、公共事業に専ら盡心す、年齒尚三十、氏の行跡亦殊に富むものあり。





### 神戸米取引所仲買人 今井新五郎君

神戸市兵庫水木通三

君は東海で神戸伊豆今治町に於て米穀商を営みつゝ、ありしが、無然志を立て、神戸に來り、米穀仲買人となり、鋭意事業の經營に努力し、其間精進固苦み戰ひ且つ幾多の難況に陥りしも、不撓不屈、初志を離すことなく、多々益の富を種に若れり、資性豊かにして不屈の人、今日の功亦所以なきに非ず、其前途尙然に富む。



々々開し、今や兵庫の米業界に於て唯一の大立物となり、噴々の信望を得日萬

### 伊豫米酒株式会社社長 井上 要君

松山市豊坂町

君は愛媛縣喜多郡喜田村の出身にして、麗に松山市に於て應慶士を開業せしこあるも元來政界に志あり、夙に縣會議長として、地方政界に活躍せしが、理想は遂に實現して代議士となり日比谷原頭得意思ふ可きものありしも、其任期満ちて實業界に入るや、伊豫水電あらしむるは以て君の手腕押して知るべきも亦君にして自ら大器を氣取るの弊は往々對人に禮を失するの癖ひあるが如き兎角の批評は免れざる處にして遂に君の人格と聲望とのに伴はざるは切に惜むべき也



社長となり同社整理の衝に當り大いに手腕を揮ひ巧に難局を切り抜け、遂に今日

### 温泉部長後六位勳六等 井上恒藏君

松山市港町

君は山形縣西村郡寒河江町の出身にして多年官界に在り、夙に奈良縣選出部長として國體奉獻なる施設振を發揮して部長の許ありしが、曩に轉任して温泉部長に就任し、大いに國體の手腕を揮ひて部政を料理し、聲望噴々たるものあり、資性極めて濃厚にして社交的手腕あり、一見極めて柔順なる人物ながら、君が施設振を見るに果斷進行、練腕思ふべきもの斯界に其人多し云ふべからず、但し選材は即ち適所たるべしと雖も、君の才能は水く理職に専らしむべく餘りに器の大なるを思はずんばあざる也。



少からず、蓋し、手能し腕を顯するもの云ふべきか、毛も角、君は部長として好箇の選材云ふべく求めて

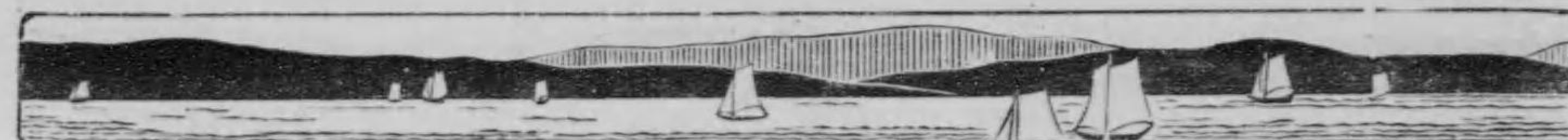
### 日清生命保取締役 池田龍一君

東京本郷區飯倉片町

君は愛媛縣喜多郡喜田村の出身にして、目下東京市飯倉片町三丁目に住し、日清生命保取締役職に就き、年獨逸に留學し、斯業の研究究深頭するこ當にヒケ年ドラトルオブニューコースの學位を有し、保險事業に精熟關的人物なるを以て、夙に社内に重望あり、年齒未だ四十有七、而も才力三十五をべし



通せり、資性淡泊にして人々語つて此の誠性を説けず、幸而銀行の



### 製糸業 西松岩太郎君

上浮穴郡久方町

君は郷里の小学校卒業後酒造業に従事しつゝありしが、將來生糸製造を目論見つゝ、ありし欠先、明治四十三年、久萬生糸株式會社の創立を見るに至り、推されて取締役に就任し、斯界に活躍する所ありしも、同社は翌年遂に解散したり、資性濃厚にして、著實なる手腕を以て知らる、年齒三十有八。



るを以て其後を繼承し、主として生糸製造業に従事して今日に至れ

### 製糸業 程野宗兵衛君

伊豫宇和島町

君は同地方に於ける機業界の重鎮として知らる、嘉永三年六月八日に生る、明治二十三年見所あり大洲町に製糸業を創業せしが、當時、経験淺く施設の當を得ざりしものあると共に機業界の不況時代なりしを以て、業遂々として振はず、何等見るべきものなかりしが、君刻苦奮闘大いに苦辛經營する所あり漸次順勢を以て同機業界の好況を呈する共に熾烈



なる勢振を相來し今や縣下有数の大工廠にして、大洲宇和島、吉田各町に工場を

未 着

### 今出銀行頭取 新野米太郎君

温泉郡垣生村

君は同地方の豪農にして、幼時より農業に専心を有して、長じて地方の農事改良等社會公共事業に盡力して大いに功績ありしが地方金融の潤滑を期するは獨り殖産興業の發達を招來するの所以なるを思ひ、銀行界に入り重なるものは伊豫今出銀行頭取伊豫山田君に繼いで執着すること多しこの世評なきに非ざれども、此評決して當らず何んれば君は實業あることには巨財を投じて些かの節約する所なければなり、亦同地方に於ける一人材たるを失はず。



て奮勵或いは

### 兵頭棧太郎君

伊豫八幡濱町

伊豫は由來綿布製造業の旺盛なる所にして、新業の巨額亦少からず、就中兵頭棧太郎君の如きは其最も雄たるものす、君が新業を創始したるは、大正二年一月にして、日赤が没し、元來繁昌運轉なる製業方針の下に頗る手堅き經營振を發揮しつゝ、あるに加ふるに常に奮闘を以て終始し、信用を重んずる觀念深く日つ製品の改良に専心しつゝあるを



今や九州全島

未 着



兵頭眞一君

西宇和郡川之石町

君は安政元年の生れにして、夙に南進に於ける實業界の重鎮として知らる。實業界に於ける香煙業は近來著しく勃興し、其發展は實に驚くべきものあり、然れ共、之が唯一の根元たるべき、良好なる香煙の良好なるもの少からざる爲めに、折角大いに發展すべき事業をして電角遠逝の色あるは大いに遺憾とする所なり、蓋し斯業の根元も稱すべき香煙の製造業者に合資會社日進館あり、代表社員兵頭君が、大し、夙に身心を傾注せるものにして、同館の香煙が優良にして江湖に多大の好評を博せるは當然の事由にして同館の發展亦當然なりと云ふべし。

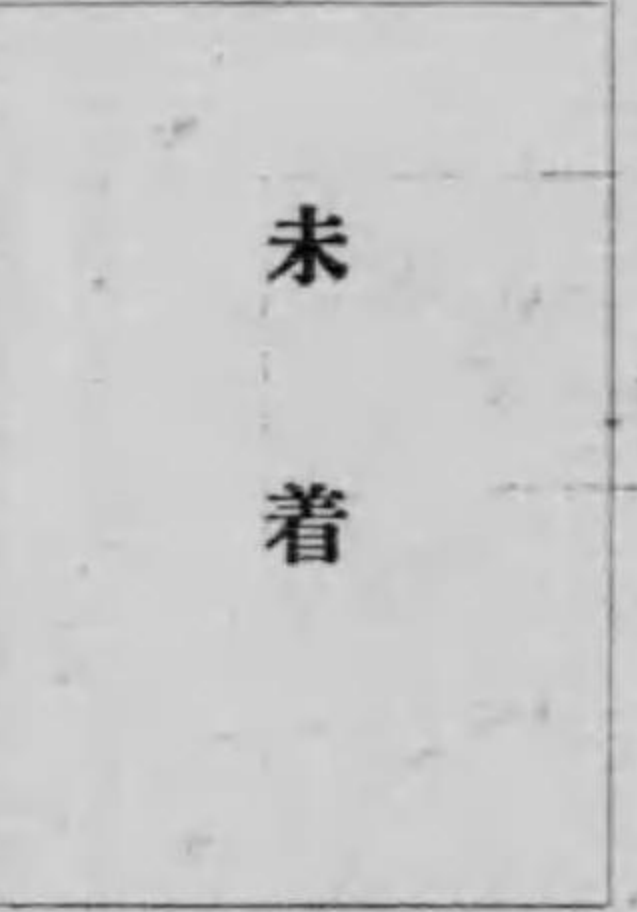


未着

緒方陸朗君

南宇和郡野村

君は郡内多数の豪族にして自治制施行以來、幾多の公職に就き、現に縣會議長及郡會議長たり、夙に公共的事業に専攻し、日づ農業改良に貢獻したる所少からず、曾ては先年日本農會總長高橋下り、名譽賞牌を賜り其の功勞を表彰せられたる事あり、人物は朴實實のり、人なれども、一見極めて豪邁たる所あるを以て往々にして人に接し人格を認識せしむ、蓋し君にして大いに反省する所あり、その性格を改むる所あらば、爲めに信望を加ふる更に難信、自己を利するも亦少ならずべし、萬延元年の生れなり。



未着

尾崎周治君

南宇和郡平城

南進の南端に一小都邑あり之を平城の都にして此地に第一業目をひく漁具一式和洋雜貨其他何品でも有る極めて便利なる店が有る、之れ即ち尾崎君の經營に係る本店である、店主尾崎君は資性温良朴直なる人に華客店舗に出をなす信望は旭日昇天の概あり、君は亦地方公共事業に専攻して其功績しませず、蓋し君の聲望は以て人格を高め地方稀有の人物として斯界に勢力を有し前途多なる君と云ふべし。



未着

岡田兵馬君

松山市大字南八坂町

君は兼て親友佐伯氏と共同し、佐伯工所を經營しつゝあるが、斯業に關する學識として見るべきものなし、雖も、然も先天的才能あり、且つ頭腦明晰にして工夫の天才あるを以て、苦心研究の結果各種の機械專年松山市長より其の功績を表彰せらるる亦一種の奇才たるを失はず從て地方聲望し。



未着

別宮周二郎君

北宇和郡宇和島町

君は安政元年の生れにして、夙に南進に於ける實業界の重鎮として知らる。實業界に於ける香煙業は近來著しく勃興し、其發展は實に驚くべきものあり、然れ共、之が唯一の根元たるべき、良好なる香煙の良好なるもの少からざる爲めに、折角大いに發展すべき事業をして電角遠逝の色あるは大いに遺憾とする所なり、蓋し斯業の根元も稱すべき香煙の製造業者に合資會社日進館あり、代表社員兵頭君が、大し、夙に身心を傾注せるものにして、同館の香煙が優良にして江湖に多大の好評を博せるは當然の事由にして同館の發展亦當然なりと云ふべし。

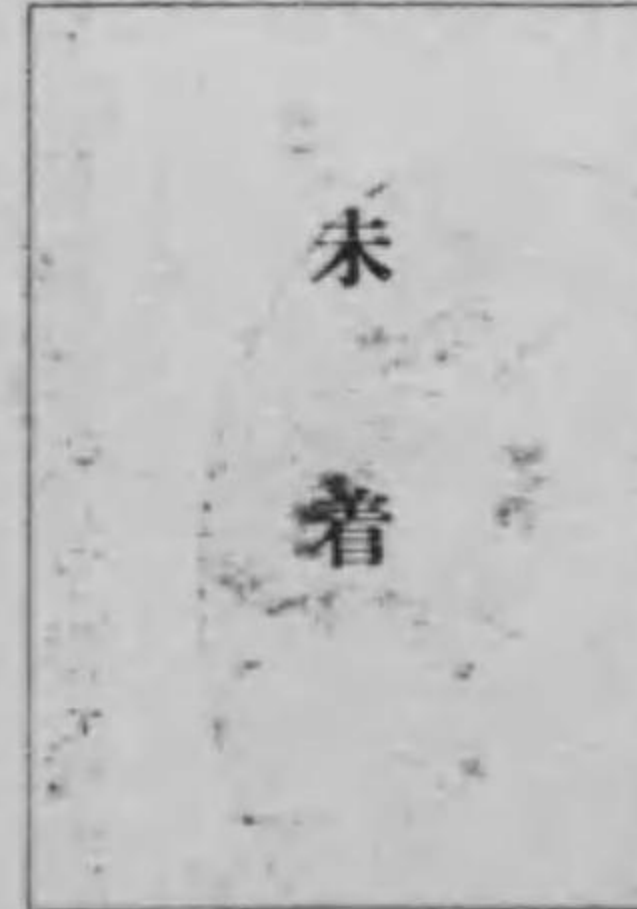


未着

大西林太郎君

西宇和郡御莊村

君は性温厚にして勤勉努力の人にして特に此才通達せり、多年村會議員、郡會議員等の公職に擧げられ、地方公共事業に貢獻する所少からざるものあり、家業は肥料及古物商なるが人物は剛毅にして社交にして一點伏しきころなく、事務至誠に出でたるものなるを以て、亦所謂知己の人少からず、電も角君の如きは夙に地方一家として、有爲の人物たるを失はざるべし、應慶元年生れ。

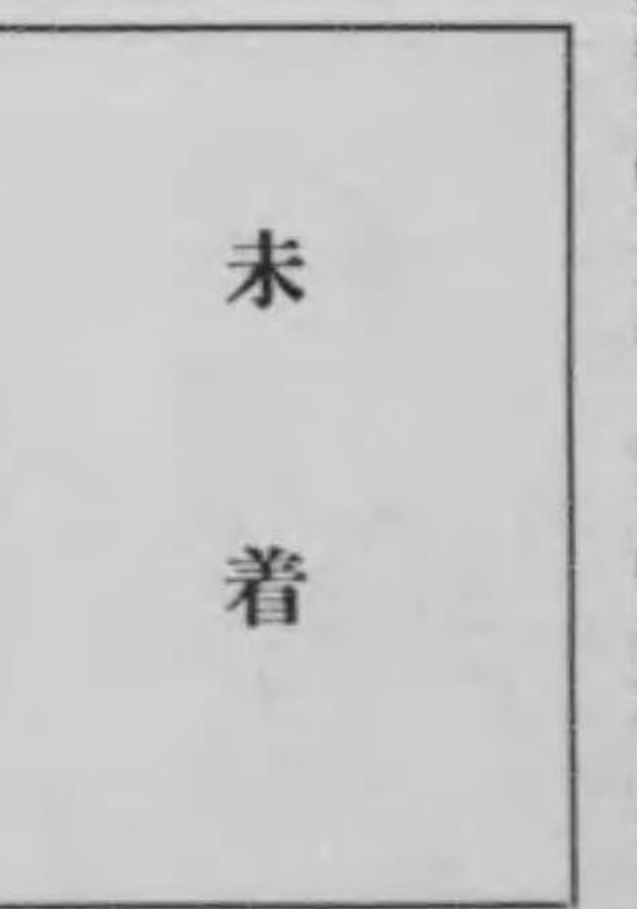


未着

大西一嘉君

大阪南區安堂寺橋通一

君は伊豫國上浮穴郡久萬町の出身にして郷里に於て酒造業を經營し、年額千石以上を消費し、新業界の今をたりしが最近時勢の推移に鑑みる所あり、株式會社に變更して、更に規模の擴張を圖り、面目を一新するに至れり、之より先、四十二年十二月大阪に出、現在の所に店舗を設けて、某氏と共に合資會社組織の下に、鐵類、金物商を經營し、商號を興業るゝに至れり、最近造船用諸機械の製造販賣を開始せり、蓋し同店鐵類はカナクを以て特色とし夙に江湖に信用せらる。新進有爲の小壯實業家にして年額千石以上と云ふべし。



未着

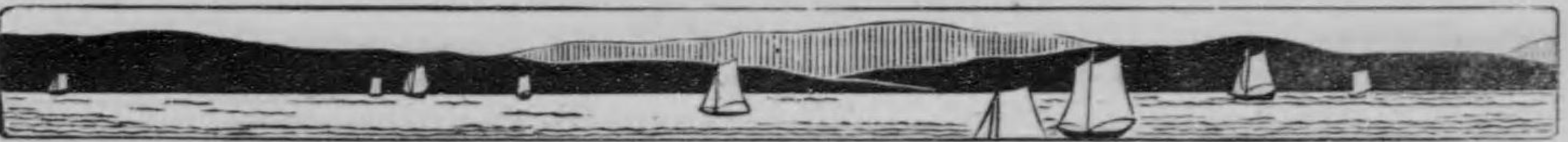
岡田虎三郎君

西宇和郡八幡濱町

君は南進地方に於ける實業界の大立物にして夙に西宇和郡同業組合長に就任し、斯界の爲めに盡す所餘からず、大正二年縣より選拔せられて海外機業界を視察して大いに得る所あり、今や斯業界に於ける最て斯界に活躍すべしと傳へらる、資性温厚實朴の人、年齒四十有七氏の前途や大いに見るべきものあり。



未着



渡邊 魏君

周桑郡石根村



君は地方屈指の豪農にして、村長、農會役員等に推されて農事の奨励に資し、且つ...

渡邊 静一郎君

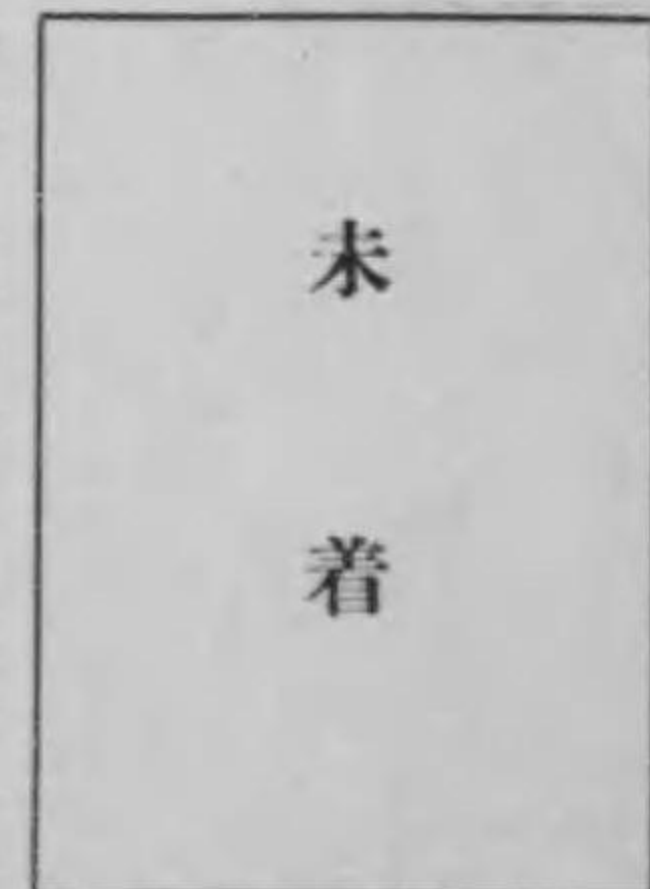
周桑郡三芳村



君は同地方に於ける唯一の名門にして、父君、農務局長、農會役員等に推されて...

愛媛紡績株式會社 専務取締役 渡邊 勉君

大阪府東成郡住吉村



君は奈良縣磯城郡の産、農に早稲田大學政治経済科に學び、優秀の譽あり、其の愛媛紡績株式會社に...

製糸界の巨頭 河野 駒治郎君

喜多郡大洲町

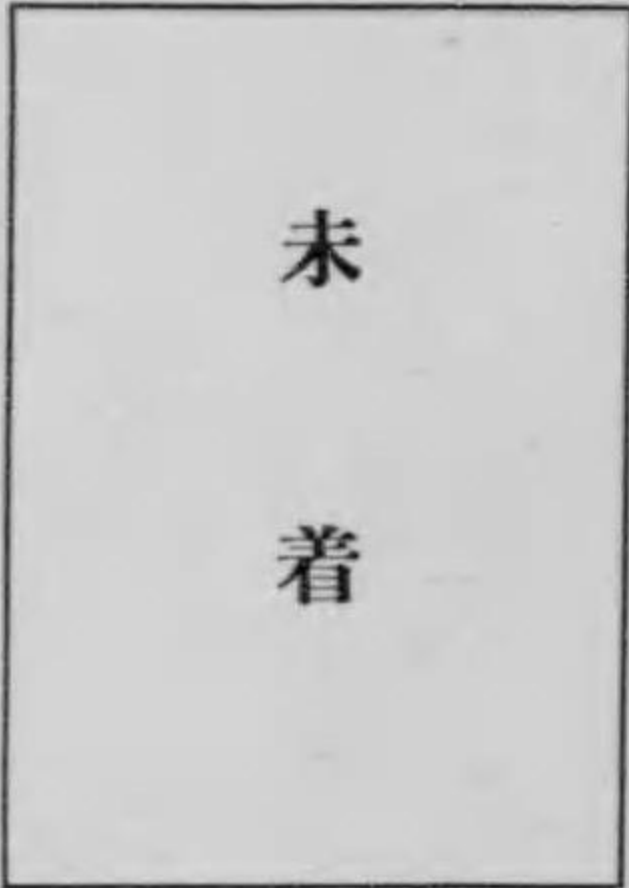


君は先代以來生糸製造業を經營し、同社の重鎮として知らる、明治二十七年組織を變更して合資會社...



伊豫長濱銀行頭取 龜岡 哲夫君

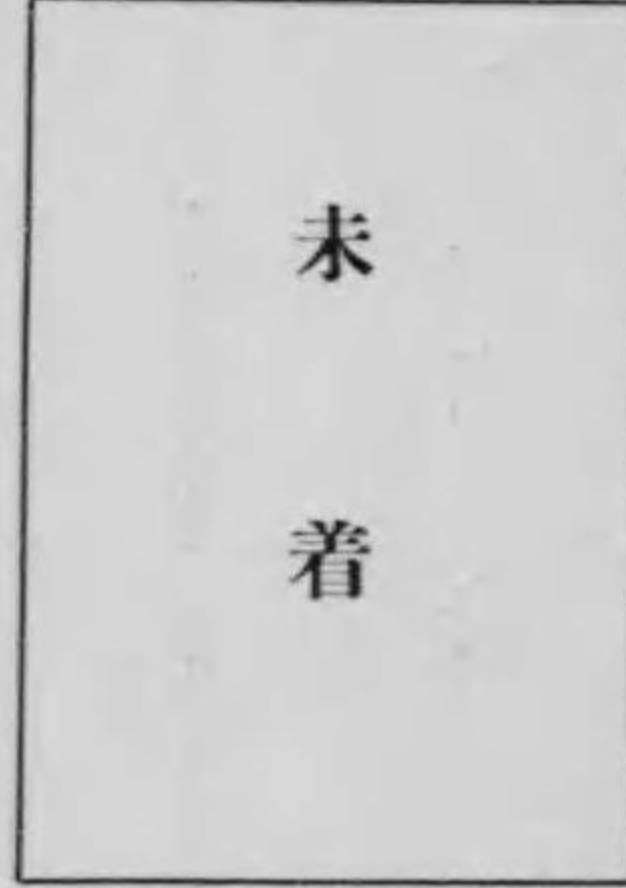
喜多郡三善村



君は安政三年の出生にして、同地方の名望家として知らる。資性濃厚にして、人格亦優れたる人物なる...

時計商 梶田 八束君

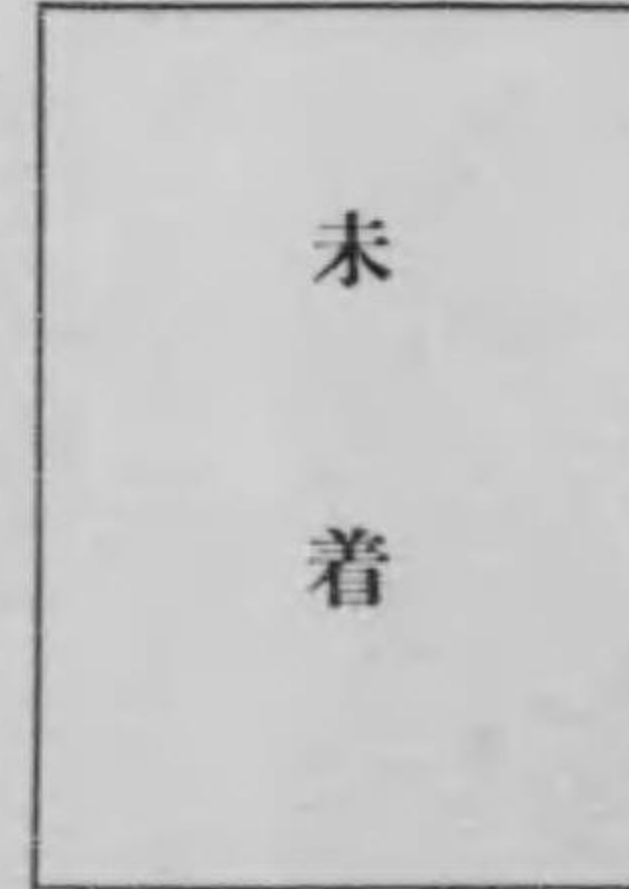
八幡濱新町



同家は商號をカジタヤと稱する地方有数の時計商にして、明治三十九年來斯業を經營せるが、薄利多量主義を以て營業方針とし、夙に確實なる商舖として信望あり、然かも君、資性濃厚、斯業に關する道義深く天賦の商才ある人物にして、世人が時之を云ふに對して、勤之金、勉之金、時ありとも勤勉せずんば何くんぞ金を得んやとて、汝々として奮闘針は更に磨て一大發展を招來するに致ることを敢て囑々するの要を見ず、君年齒未だ二十有八、多量の前途を有するの人、將來は大いに日に植するものなくんばあらざる也。

製糸業 龜岡 佐太郎君

喜多郡栗津村



君は明治四十二年製糸業に従事しつゝ、あるが、夙に斯業に關する道義深く、従つて製品又極めて優秀なるを以て、大いに發展を招來し、喜多郡に本工場八十一、川之治間に分工場五十を有し、規模の宏大なる...

篤農家 田中 賢吾君

南宇和郡津幡村



田中家は地方有数の豪農なるが君は、明治十六年の頃、同家に奉公しつゝ、ありし際、機動積極にして努力を以て生命とし、有爲の材幹たるを見抜かれ遂に田中家に養子として入家したるが、道が堅忍不拔の君も、慣れざる野郎仕事に苦痛に堪へずして一度も死を決したることもありし、自ら稼所あり、年を終るに従つて所謂小作三合云々の懸念無き人となり、誠すべからざるなり、先考又先見の明を感じて地下に得意の機軸亦能はざるものあるべし、地方聲望と共に表彰に置すべきなり。



教育家 田村清就君

松山市 魚町三丁目

君は山口縣鹿毛郡佐賀村の出身にして、明治三十三年東京國學院大學を卒業して以來、専ら教育界に没頭し三十九年私立佐賀女學校を結成するに及んで、自ら教鞭を操り、良妻賢母主義を以て、婦女の教育に努力する所ありしが、成績も角面白からず、經營上幾多の難局に際したるも、勉大いに努力し、今や校基漸くなりて、二百有餘名教育界に盡せる功勞顯著なるを認め、賞に之を表彰したるが、君の如きは又以て小社有爲の教育者云ふべし、目下松山神宮郡聖徳支部に在勤す。 年四十四有一。

未着

の生徒を收容するに至り蓋し此種の學校は松山市唯一の學校にして實に之が嚆矢たり、設備亦固然たる所なしされば願ひても君が

高木和市長

松山市 三番町

君は伊豫郡松崎村の出身なるが夙に、松山市に出で三番町に住す、實性謹直にして、頗る優格の人物なれども、多年社會の習俗に染まれ、世俗の辛懐を嘗め盡したる、苦勞人なるを以て、人の戀に戀ひ、人の悲しみに、悲しみに人情に、もろし、従つて平生、慈善の事業に對しては、率先して奔走盡すは勿論、私財を削いて、窮民を何あらんも、表面より救助を頼まれば地獄なる慈善的良心は、之を否むる能はざるなり、君より實業なりと雖、財に於ては以上の者少からず、君の如きは又稀有の特志者と稱して可なり。

未着

あらず、時には我が慈善的人物なるを知り故意に窮民を憂ひ、欺瞞されたる事無に非ざるも君は假令表面は如何あらんも、表面より救助を頼まれば地獄なる慈善的良心は、之を否むる能はざるなり、君より實業なりと雖、財に於ては以上の者少からず、君の如きは又稀有の特志者と稱して可なり。

玉井重吉君

松山市 大字魚町

君は明治十七年の生れにして玉井名會社を經營し伊豫郡の製造及卸賣に従事しつゝあるが同氏は明治九年の創業に係り工場を松山市春日町に有し、規模頗る宏大にして、優良製品を生産しつゝあるを以て夙に江湖に多大の好評を得し、販路漸次擴大して、今や非常な盛況を招来するに至れり然して君は斯業に對して遠慮する所なく、且依るころ多し云ふべし、毛も角君の如きは南蠻に於ける機業界の新進人物云ふべく、君が將來は大いに題目に値するもの無くんばあらざる也

未着

つ研究熱大いに旺盛なるものあり、始終に之が改良を企圖して幾むころ無し君が今日の盛況を招来したる所以のものは、又以て之に

谷田良好君

松山工業株式會社 専務取締役 温泉郡 栗野村

氏は南蠻に於る實業界に其人を知れたる今を五十年前より酒造業を經營し來りたるが元來研究的人物なるを以て在來の酒造法に幾多の改良を施し極力製品の優良を期す所ありたるを以て家業亦大ひに盛況を招来しつゝあるが氏は先天的に實業家的の才能あり僅々一事業に離れて能事終れりとする人物に非ざるを以て明治四十三年松山製紙株式會社を創設に之を推回せしむるに至れり亦君は大正七年資本金七萬五千圓の松山工業株式會社を創設し製紙製造を目的とし氏は其責任を負擔し大に努力する所あるも創業の尙遠く見る可き無し君もその前途亦題目に値すべきものあり云ふべし

未着

經營大ひに努むる所ありしも時偶々不況時代なりしを以て割當多きは難し、一時非常なる苦境に陥りしも氏が必死の努力を以て是を脱する所あり

都築修藏君

北宇和郡宇和島町



君は明治二十年米織物業を經營しつゝあるが、頗る斯業の熱心にして、兼て之が發達を期し、同志を糾合して愛媛織物業組合を組織すべく大いに東西に奔走する所あり、成立を告ぐるに共に推されて組合長に就に至れり、實性温厚にして善實、稀に見るの人格の士たり、年四十四有六、南蠻機業界少壯の大立物たり、蓋し君の抱負亦遠大にして近き將來大に題目に値すべきものあらん

任し、斯業の改良發達に功績する所少からず、今や南蠻機業界の中心人物として噴々の聲名を博する

夏井保四郎君

温泉郡 松山市



君は温泉郡三津濱町の出身にして愛媛縣南國郡松崎村を家後明治十一年に學び、業を終ふるや松山市に於て製紙工業を開業せるが固地法曹界の雄たる者、一面政界に活躍して議員に推され、議長たるに幾年、縣政の發達に寄與するころ多かりしが、後代議士に

中尾猪一君

南宇和郡御莊村



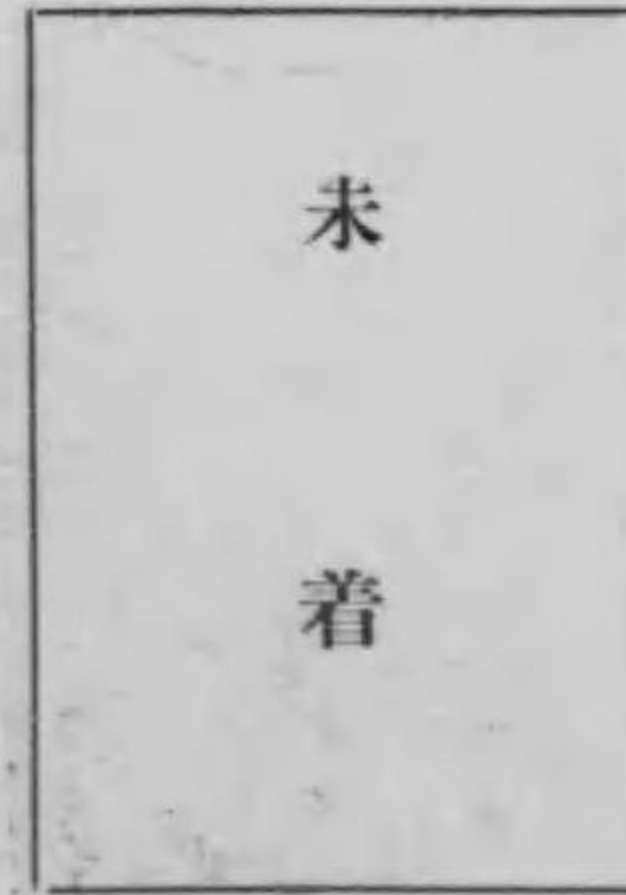
君は明治二十年米織物業を經營しつゝあるが、頗る斯業の熱心にして、兼て之が發達を期し、同志を糾合して愛媛織物業組合を組織すべく大いに東西に奔走する所あり、成立を告ぐるに共に推されて組合長に就に至れり、實性温厚にして善實、稀に見るの人格の士たり、年四十四有六、南蠻機業界少壯の大立物たり、蓋し君の抱負亦遠大にして近き將來大に題目に値すべきものあらん

未着

みならず、郡村に於ても亦夫れの殊に甚だしきを見るは大いに遺憾とする所なり、君夙に平城郵便局長に職を奉じ、實務に熟練しつゝあるが、實性温厚廉實

中平清次郎君

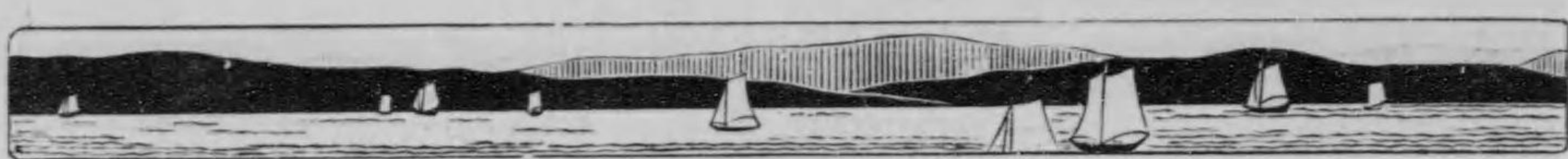
安治川二丁目



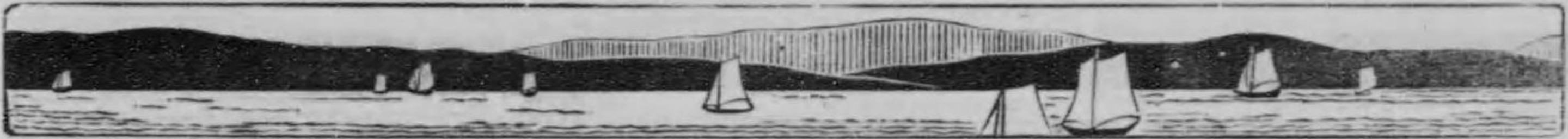
君は伊豫郡宇和島の生、明治十六年歳十六にして大阪に來り西村三郎氏の店に入り不況の立自營今日に至れり、氏は熱誠の人にして業務に堅實たるは言を依たるも氏が今日あるの修養は遠く幼少時代の人格あり主義ある活動的人にして認めらるゝ所以のものは宗教思想の實に負ふ處多く、氏は日蓮主義に歸依し、自覺によつて總てを理解し吾國民思想の覺醒に努力しつゝありて、日曜日の如きは題目と共に千日前の街頭に立ち喇叭を吹みつゝあり以て氏の理性の一環を知るに足るべし

未着

より孤獨的生涯の人となり、弱者、萬難に遇ひ克く之を排して漸く基礎を作るに至り益々奮闘して之れが勝利者として今日あるの地處に至れるなり而して君は







製衣家 中尾 一 二 君

氏は同地方に於ける有数の資産家にして資性温厚にして着實、既に郷黨の信用篤き能なるが、從來主として農業に従事し且つ専ら公立的事業に盡力して熱心なかりしが、時勢の推運は大いに産業の發展を促すこと念ふものありて、地方有力者の袖手爲すな技術者を使用しつゝあるを以て、明年ならずして一大發展を招きし、今や南宇和郡の中心として重要な位置に至れり、然して同地方は氏の企業に依つて職を生きたるを以て遊民なく、貧乏を以て殖産に努め家計概ね豊かなり云云、又氏が餘德を云ふべきなり。



未 着

村上長治郎君

君は同地方に於ける實業界の元老にして現に大洲銀行取締役たり氏は地方の金融界に貢献多大にして功勞夥からず、資性温良にして、家に百萬の資産を蓄へ、木履製造業に従事せるが、平生公共事業に盡力し且つ社會の代表たる人云ふ可き也(嘉永六年の生)



喜多郡大洲町

未 着

氏は明治二年を生れしにして第一高等學校に學び優秀の譽ありしが、歸來、銀行業に従事し、伊予農業銀行を創設して之が取締役頭取たり、君は資性温厚且つ、實直の人物にして、實業的手帳頗る非凡なるものあり、常に温厚なる營業方針を以て同行を以て公共の事業に盡力す、就中農事改良は氏が心血を注いで奮命することにして功績、亦從つて偉大なるものあり、且つ愛媛縣信用組合會長、産業組合中央會愛媛支會副會長愛媛縣愛媛特別公同たり、愛媛三月の併同を能くし、縣下世界の開拓たるに功あり



八六

製衣家 中尾 定 吉 君

氏は地方に於ける名士として代々庄屋たりし家柄なるが、資性温厚にして熱心なかりしが、從來主として農業に従事し、功勞頗る顯著なるものあり、明治二十九年大洲和口共有資産取扱い人に推されて以來、大洲和口區會議員、御莊村會議員、南宇和郡所得税議員、南宇和郡農會會長、等に應任せしが、目下愛媛縣議會議員、愛媛縣産業調査委員、所得税調査委員、御莊村村會議員等の公職にある外、南宇和郡輪船株式會社取締役たり、地方に於ける實業界乃至政界の大立物として知らる、明治三年生れにして今年四十餘九歳の前途や亦動日に進すべきものあり

株式伊豫農産銀行頭取 村上 半 太 郎 君

温泉郡垣生村

株式内子銀行專務取締役 宇都宮 直 七 君

喜多郡内子町



氏は家業にして封建時代に於ける庄屋の名門にして、亦舊封家にして知らる、明治十九年に銀行の創立するや同行監査役、支配人たりしことありしが、明治四十年專務に就任し専ら同行經營の衝に當り、あり、資性温厚にして、銀行業に關しては多年の経験あるのみならず、且つ非凡なる手腕あり、同行今日の發展は亦以て氏の手腕に資す所多し、君生來計數的頭腦に富み現在の機軸は悉く材選りこみぶべきなり。



株式會社實業銀行頭取 宇都宮 貞 一 君

西宇和郡川之石町



氏は川之石町に於ける實業界の重鎮にして、既に合名會社宇都宮實業部を經營し新業界に活躍しつゝある外尚る株式會社實業銀行頭取(川之石町所)在、頭取、株式會社第(二十九銀行(同地所)在)取締役たり、資性温厚多し、目下川之石町長にして自治政の衝に當たり、施設當を得て町民に歡迎され稱頌甚だ多し。

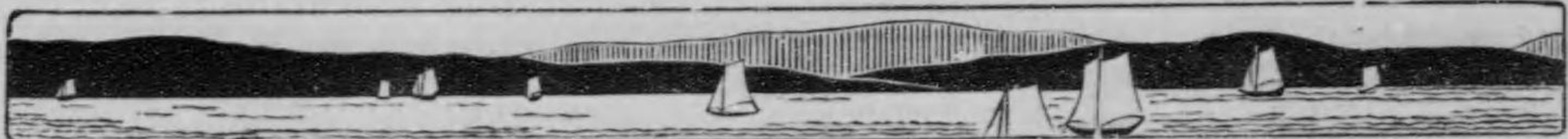
篤農家 野田 峰 次 郎 君

周桑郡中川村



君は安久元年の生れにして資性温厚の人物にして、明治十四年野田文治氏の養子となり、爾來の業を種々勤業を譽み大いに事業の發達に意を注ぎ製品の改良に努むる所あり殊に在來種の種實は品質相悪にして且收量少かりしが同君の取進めによりて在來種に接木し、好成绩を得たれば村内之を獎勵し目下計種に勵むるものなし之を王體云ふ、又君が新業に熱心なるを知るべきにして、地方領袖人物として聲望高し。

八七



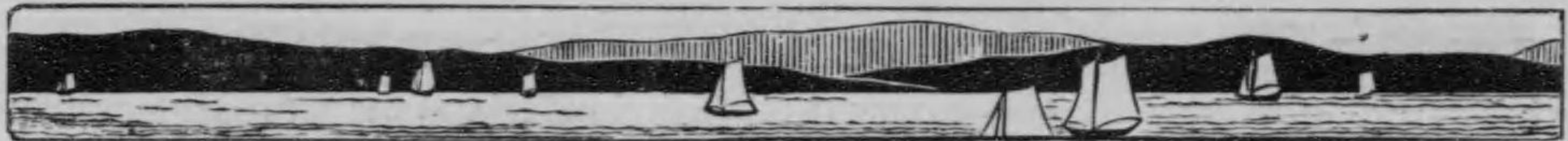
縣會議員 浦中 友 次 郎 君

西宇和郡八幡濱町



氏は同地方に於ける有数の資産家にして、既に事業界に活躍し、現に伊豫農産株式會社取締役たる外各種の事業に關係しつゝある一面、鑑に推されて縣會議員となり、地方政界に盡すこと少からず、亦、公共事業人、蓋し當代八幡濱に於ける一流人物たるを失はざるなり。

未 着



東字和郡長 國安清治君

東字和郡 宇和町

君は愛媛縣宇和郡吉田町の出身にして明治十四年十月本縣選を拜命し二十六年十一月警部に進出... 明治三十五年二月警部に進み、大正二年四月愛媛縣東郡長に就任せり、資性温厚篤實にして、人情崇

未着

越智郡長正 黒田懿十郎君

越智郡 今治町

君は石川縣金澤百石坂下の出身にして、夙に官界に在り、富山縣警部、福井縣警部を経て愛媛縣警部... 君が手配は他々序として可ならざる

未着

伊豫八幡濱町 山越喜助君

伊豫八幡濱町



伊豫八幡濱町に新時代に適合せる和洋食品店あり、之を經營し呼ぶ、山越喜助君が經營せる店舗にして、夙に好評あり

未着

宇和島電話株式會社社長 宇都宮二郎君

宇和島電話株式會社社長



本社は大正四年六月創業に係るものにして資本金一萬三千五百圓にして全部株式同社は創業當時より年一割の配當を繼

未着

喜多郡長正 倉根是翼君

喜多郡 大洲町

君は同縣松山市の出身にして、慶應元年の出生なり、夙に官界の入り同縣警部、内務部等に勤務し、大いに練成を博し、明治十九年出で、伊豫郡長に就任し、大いに實績を實現するものあり、郡

未着

實業家 窪田節二郎君

松山市 二番町

氏は伊豫國田村の産にして、夙に地方政界に入り、松山市會議員に選任せられ市會議員として松山市の權威たること數

未着

合名會社松山商會社長 山本盛信君

松山市 櫻町



君は合名會社松山商會社長にして印刷業に従事し、現に松山商會會長、商業銀行取締役、松山電話株式會社取締役其他諸會

未着

矢野通直會社社長 矢野通直君

矢野通直會社社長



君は明治三十八年早稲田大學專門部法律科の出身にして、資性温厚なる現代人物なるが、明治四十一年父の死去するに共

未着



### 矢野通直君

越智郡波止濱町



氏は縣下屈指の實業家を有する豪族にして明治三十九年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し、歸來母に先代の繼承たる實業家を經營し、製鹽業に従事しつゝあるが、氏が非凡なる手腕に依つて近來大いに發展の壯氣鋭の實業家を以て大いに信望ありて、大いに其の作業を囑目せらる。年餘未だ三十有八。

### 八束喜藏君

松山市港町



君は南豫實業界の重鎮にして明治十九年有志と共に伊豫鐵道株式會社を創立し、廿一年十月事業を開始するに共に重役に就任せしが、大正六年の重役改選に際して社長となり、同社經營の衝に當れるが、天賦の才十二銀行監査役たり、資性濃厚にして兼て公共事業に功績あり。

### 山中好夫君

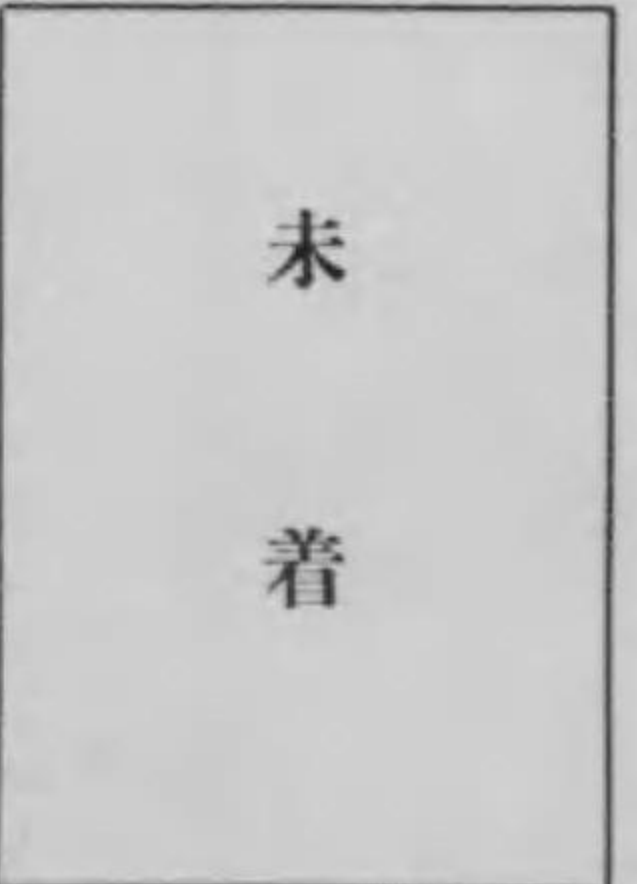
宇摩郡土居村



君は嘉永五年九月に生る。氏が祖先は任官を勤め、村内の豪族にして信望あり、幼少小松町近衛邸を設立して公共の便に資する等以て氏の人格を知るべし、官廳議員、郡會議員、所得税調査委員たり、現に三島銀行頭取、縣農工銀行監査役、赤十字社支部評議員、村會議員の榮耀にあり、去る御大典に際し大勳章を授けられたるの榮を有せり。

### 松田虎次郎君

北宇和郡宇和島町



君は山口縣阿武郡福町の出身にして安政三年に生る。明治二十一年島根縣警部を辭職せしが、警部を経て三十四年警視に昇進し、愛媛縣に赴任し松山警察署長となりしが、四十年に擢せられて、大分縣警部長に就任し大正元年伊豫郡長を経て北宇和郡長となり今日に至れり。資性濃厚にして且つ温情に富、施設當を得たるものあるを以て、其るは、地方發展を勵むるの所以なりと、自ら率先して官費民車等の弊風打破に努むる處あり、従つて官民の間極めて能く、治績大いに見るべきもの少からず、位階正五位勳五等を有す。

### 二神駿吉君

名古屋市東區撞木町



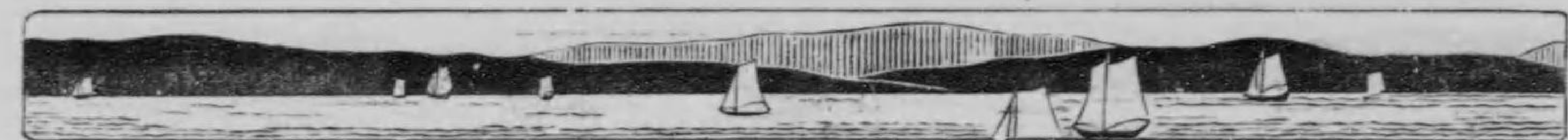
三井物産名古屋支店長 君は明治元年六月八日伊豫南宇和郡波止濱村に於て孤々の聲を聳く、幼にして學を好み長じて京を東都に負ひ中央大學に學び、優等の成績を以て業を了ふるの聘せられて三井物産株式會社に入りしが、夙に格別精勵にして、努力奮闘する處あり、且つ手腕非凡なる者有り、大いに社内信望を得て、累進し、今や同社名古屋支店長として自過す。雖も、之を談笑の裡に處理して、幹々たる金融を示す、又非凡なる手腕ある人に非ざれば能くせざる所なり、同支店の業績近來大いに著しきものある又偶然に非ずと云ふべし。

### 二神傳藏君

南宇和郡波止濱村



勤七等 氏は土地の高等小學校卒業後、郡書記、銀行員たりし。あり、入營して陸軍一等若衆長となり日露の役に従軍して殊勳を奏し勳三等勳章を授けられたる。日下種書文房具、書籍、肥料商を經營し、實業界に活躍しつゝ、ある一方、在郷中人會長、青年團長、營業稅調査委員、村會議員、南宇和郡商工會長等の公職に就任し、平生公益來極めて熱誠にして大いに商才あり、實業界に活躍して非凡の手腕を揮ひ、家業連日發展し、今や多大の産を積むに至れり、蓋し小社極右の實業家を以て前途最も有望の人たるを失はず。



### 江口守夫君

北宇和郡岩松村



製糸業 君は濃厚の人物にして、夙に公共事業に盡力する所あり、明治三十四年岩松村助役に就任し翌年村長に推され、大正三年八月辭職せしが、其間の功績は甚だ顯著なるものにして夙に村民間の尊重あり、生糸製造業のみしも經營しきを得て遂に今日の躍進を得たり、又非凡の手腕を有する人ミニ云ふべし、年齒四十。

### 越智俊逸君

越智郡下朝倉村



今泊商業銀行重役 越智家は十二代連綿たる舊家にして、藤堂公に仕へて忠勤を抽じ、大いに名譽の歴史を有す。君は越智を能くす、亦氏は公共事業に盡力するを最も樂事とし、大いに功績あり、甚だ尊重を負占め業人界の奇才として其の名甚だ高し、最も氏の十八番の腕は絶えぬを願ふならん。



**製糸家 赤松晴雄君**

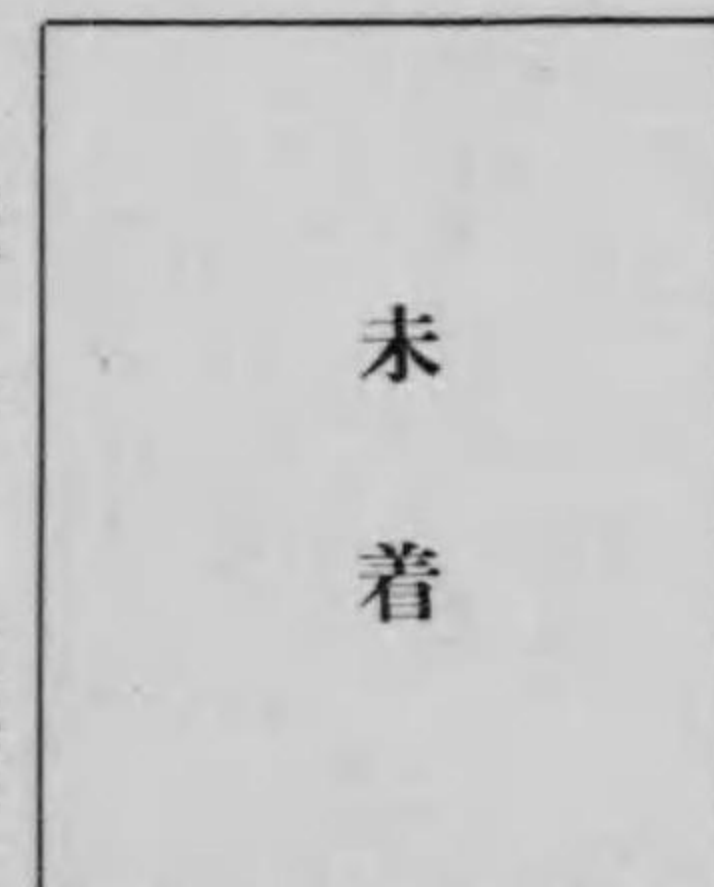
北字和字和島町



君は明治十二年和島製糸株式会社が解散せるを以て之を賣却し製糸業を經營するに到りしが夙に  
 斯業の進歩する所深か  
 りしに、無類大いに努  
 むるころありたるを  
 以て、當時僅かに五十  
 餘なりしものが、今や  
 百五十餘を数とするに  
 及び、青竹温泉の人の年齢四十三

**字和製糸株式  
会社社長 赤松泰苞君**

北字和部 畑池村



未着

君は同地方製糸界の大立物にして、かねて御馬場に響流、産産業を經營しつゝある外、漁業界に活  
 躍し且つ大正四年字和島製水株式會社を組織して之が社長たり、資性豊富の爲に士人にして公共的事業に  
 盡力して功績あり、現  
 に郡會議員兼役員を  
 兼ね、且つ字和島漁業  
 組合會長たり、蓋し同  
 郡人物少からず、蓋し  
 君の如き、亦其の最も  
 雄たるものにして、噴  
 き雖も向は氏が手腕に俟つべきもの又少からず、君たるもの地方實業界のために更に奮闘するの覚悟な  
 かるべからざる也

**製糸家 赤松則敬君**

北字和字和島町



未着

君は明治二十年赤松文平氏の創業に係る製糸業を、四十五年父の没するに、共に承て之を繼承し  
 以て今日に至りたるものなるが資性濃厚にして頗る精力主觀の小社社長にして、多く將來を顧みせ  
 られつゝあり、由來固  
 地方の實業界が近世大  
 いに發達し來りたるは  
 事實の示すところにし  
 て、何人にも背負す  
 る處なるべし、雖も  
 保守的の人風に依りて、  
 亦、蓋し斯は同地方實業界のために遺憾に堪へざる處なり、今小社社長の人赤松君の如きが製糸業の改  
 良進歩に努めしつゝ、あるかを見るは、吾人の大いに意を強ふるところなり。

**篤農家 阿部武平君**

越智部下朝倉村

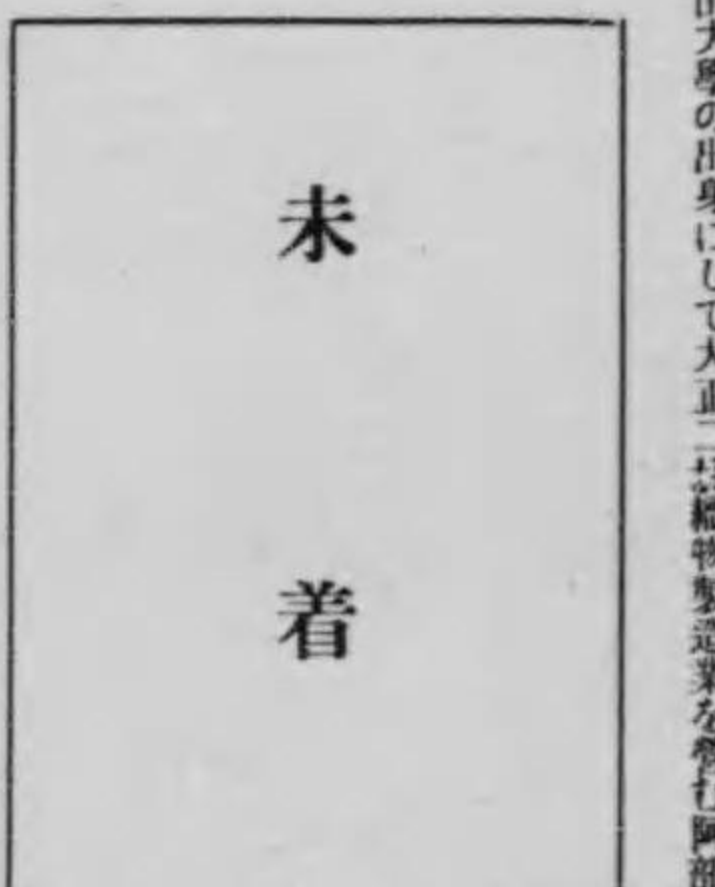


未着

君は文久元年の生れにして、養父なるが篤農改良に盡力する二十年一日の如く、後々して修めず功績  
 大いに著しきものあ  
 り、地方篤農家にして  
 知らるゝ、明治四十三  
 年郡會議員となり、又  
 大いに公共事業に奔走  
 を失はざるべし、氏の如き篤農改良に盡力すべき人物たるを失はざるなり

**阿部株式會社  
専務取締役 阿部惠一君**

越智部下朝倉村

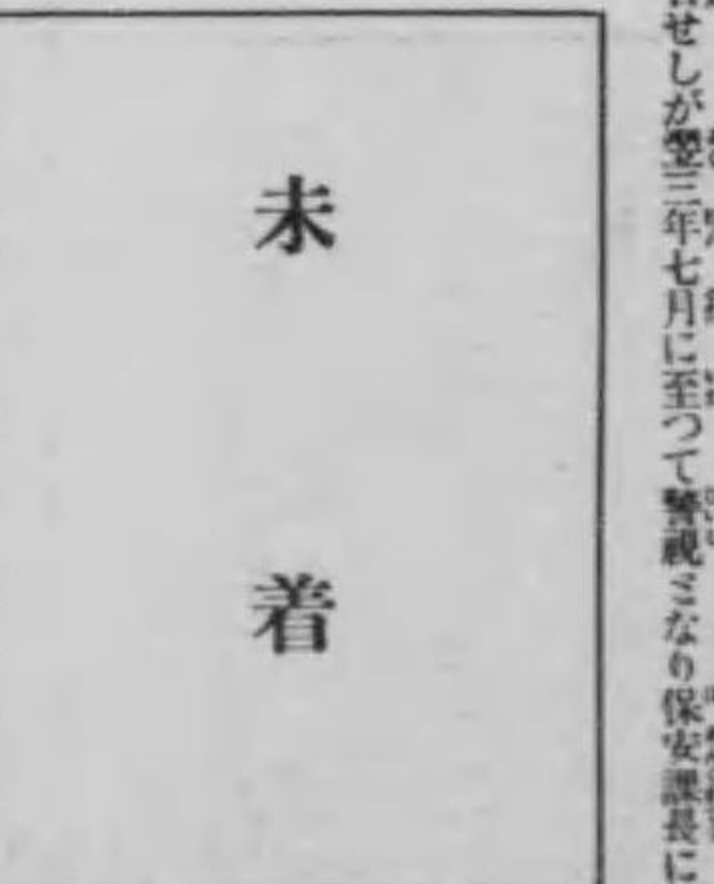


未着

君は明治十三年早稻田大學の出身にして、大正一、二、三、四、五、六、七、八、九、十年、各年、専務取締  
 兼支那人として經營の  
 衝に當りつゝあるが、  
 誠實なる誠實、深遠な  
 なる學識、非凡なる  
 手腕は、同社をして遠  
 日進歩なる發展を招來  
 せしむるに至り、實  
 の人云ふべし、然して小社未だ三十年有三、社會に出で、歲月淺し、雖も、能く世事に通じ、人情を穿  
 ち、人に接して、辭令頗る叮嚀を極むるものあるを以て、夙に世に信望あり、亦當風介にあらざるを  
 思はずんばあらざる也

**農務部長 天谷虎之助君**

周桑郡丹原町



未着

君は天谷郷、周桑郡丹原町の出身にして、大正二年東京帝國大學法政科大學を卒業するに、共に官に入  
 同年十一月愛媛縣廳に仕官せしが翌二年七月に至つて警視廳となり保安課長に就任、同六年警視廳に榮  
 轉し、間もなくして周  
 桑郡長兼警視廳長のもの  
 て官界に入りて僅々五  
 年にして業遂に顯く  
 べきものあり、蓋し如  
 何に學識あり、は、云へ  
 極有のこに屬す、然  
 郡長たるを失はす、此處にして止むべきならんは、内務に郡長たり、府に知事たるを失はして速に去  
 るべく、前途最も有望の小社社長的人物と云ふべし

**松山紡績株式會社  
専務取締役 浅田廣太郎君**

松山市 船屋町



未着

君は東京市麻布區三軒家町に生れたる江戸っ子のチャキリにして、東京英和學校同攻玉社理科を  
 卒業し、獨來實業界に投じて到るころ手腕を發揮する所あり、後、松山紡績株式會社に入り、現に専  
 務取締役として、經營  
 の衝に當りつゝあるが  
 頭腦鋭敏にして、斯業  
 に獨特の手腕を有し、  
 勤勞努力に當るの人  
 なるを以て業續大いに  
 繁がり、氏が就任以來  
 介にあらざるを思はずんばあらざる也、年數十や四十路、所謂男の働き盛りなり、同社將來の發展亦明  
 して俟つべきものあるべし

**慈善家 佐賀金吾君**

松山市本町一丁目



未着

君は安政五年の生れにして夙に父の職業を受けて呉服物業を經營せしが後實業に轉じ以て今日に至  
 り、資性濃厚にして  
 兼ねて公共事業に盡力  
 する所少からず、大い  
 に功績あり且つ頗る慈  
 善心に富み、慈善事業  
 を失はざるべし、蓋し君の如き眞に稀に見る慈善家たる望を盡せり。

九三





### 織物界の開祖 佐伯行義君

松山市南八坂町



君は國産大柵伊豫綿の發明者として著名なる人にして、夙に明治の初年に於て從來小柵の伊豫綿あるも、大柵のものなきを遺憾とし當時頗る進んで在りしも身邊を顧慮する所なく之れが發明に没頭し、苦心研究の

結果、遂に該發明の完成を見るに至れるものにして、家業又年々共に大いに發展し、今や南條織業界の元老と稱せらるる也。

君は風に美術的才能あり、十三歳の頃彫刻を出で、漆器の本場たる能登に到り多量の工夫を凝らして幾多の改良を加へたれば製品は實用的にして且つ優美を極め、優に本場製品を凌駕せるものあるに到り、店運大いに隆昌し、目下南條津に出張所を設けて頗る手広く販賣し、江湖の好評を博しつゝあり、蓋し君の如きは實に今日新業界の重鎮たるのみならず、當世立志傳中の一人として推稱するに値らざるなり、年五十五

### 漆器製造業 齋藤磯次郎君

越智郡櫻井町



君は風に美術的才能あり、十三歳の頃彫刻を出で、漆器の本場たる能登に到り多量の工夫を凝らして幾多の改良を加へたれば製品は實用的にして且つ優美を極め、優に本場製品を凌駕せるものあるに到り、店運大いに隆昌し、目下南條津に出張所を設けて頗る手広く販賣し、江湖の好評を博しつゝあり、蓋し君の如きは實に今日新業界の重鎮たるのみならず、當世立志傳中の一人として推稱するに値らざるなり、年五十五

### 織業界の花形 櫻井勝太郎君

北宇和郡吉田町



君は地方有数の資産家にして夙に織物業に従事しつゝあるが、新業に關する意欲が大いに深く、且つ多年の経験を得、一見あるを以て、入りては、家業の発展に改良を加へ、専ら製品の能率増加に注力し、出で、は地方に於ける産業獎勵の空気に於て新開野になれ山さなれ式の人物多き中に於て、新業發達の爲めに赤誠を吐露し、家日なき君の多きは亦多く得難き人物なりと云ふべし、今日同地方に於ける織業界の大いに物興隆せる所以のものは又氏が如き公共觀念溢れる人物の盡身に負ふ所多しとす

### 絹木屋製菓店主 菊池大吉君

南宇和郡城邊町



君は實性朴直にして勤儉力行を以て唯一の信條とし、明治三十年三月長屋製菓物業を創始して以來此の信條に奉ずること篤く、大いに奮勵して店運に發達せり、且つ利益多量主義を以て顧客に接し、毫も商人性なく、不正の利得を受くることなきを以て

君は同郡唯一の巨商として嶺南新業界に一角を擔げり、されば同郡に於ては絹木屋と云へば、能く之を知悉する所なりと云ふべく、君が手腕人物は擧げて知るに足らざるなり

### 郡會議員 菊池清太郎君

西宇和郡八幡濱町

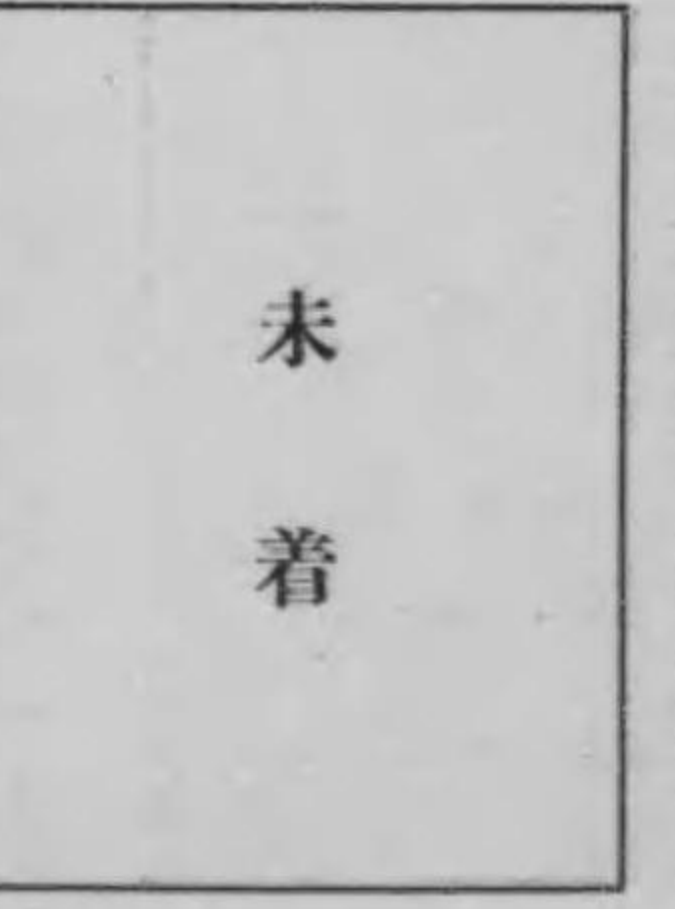


君は地方有数の資産家にして人物温厚の人風に精神修養に趣味を有し、且つ貯蓄獎勵に盡力する所からず、義に聖徳記念貯金會なるものを設け、勸誘に至らざるなく、又自身率先して範を示しつゝあり、されば近來八幡濱銀行取締役として實業界に飛躍し一面郡會議員として公共事業に奔走し兼て徳澤園たり。

同地方の勸業貯蓄に莫大の功績を有し、風大ひに見るべきものあるに至れり、蓋し君の如きは君が努力の賜と云ふべし、君は目下

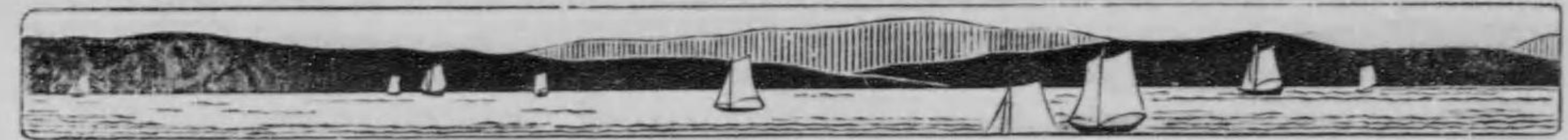
### 醬油醸造業 木村虎太郎君

松山市木屋町



氏は愛媛縣の鹽邊に於ける最も新進の人物にして明治十九年醬油の醸造に從事し以て今日に至れるが、君は新業に對して多年の経験あり且つ新業の發展に於て、從來の醸造法に幾多の改良を加へ、製品の優秀を期したるを以て、品質大いに向上し近來需要著しく激増し販路亦大にして常に需要過多を許ふるの盛況を大いに新業の信望を有す、君性質、淡泊にして、敢て名に拘はらず、徳を積り、其間豪も醜態を設くることなし、蓋し現代的人物の輝々たるもの三稱し得べきが、年餘未だ三十五三。

松山市木屋町に本店を有せる外、松山市に支店を、高知縣長川郡池田町に出張所を設け、頗る手広く營業を営し



### 三菱銀行都京支店長 三宅川保一君

京都市上京區岡崎町



君は愛媛縣越前郡田村の出身にして、明治三十七年東京帝國大學法科大学を卒業し、一時官界に入りて司法官たりしことあるも、朝氣剛敏の君が氣象は水く剛直なる官僚の人非ざる自覺すると共に、出で、實業界に入り四十年三菱銀行に勤務するこゝなり、爾來同社の大阪、神戸支店を経て大正六年十月同社の京都支店長の要職の要職に昇られたるが如き、餘程の手腕強き者にあらざれば能くする能はざるべし、又以て君が非凡の手腕を推知するに難からざるものと云ふべし、年餘尚は四十有一。

### 縣會議員 三瀬俊藏君

喜多郡大谷村



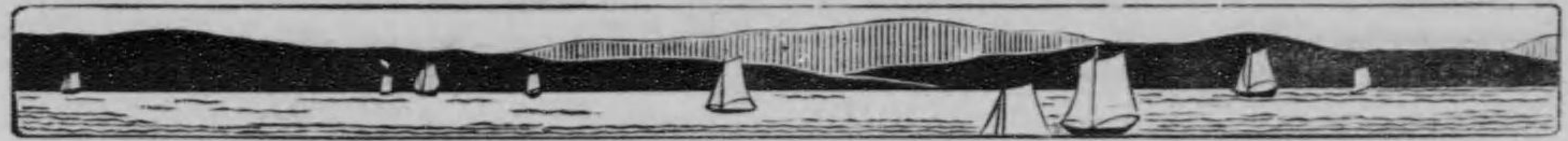
三瀬氏は同地方の名門にして、酒造、農業、牧畜等を業せり、然して君元來、新業に端大の抱負を有し、常に農事改良、畜産獎勵等に盡力するこゝろ、少からず、産業界に寄與せる功績は甚だ顯著なるものあり、且つ君は人格剛直、目として愛媛縣會の議長たり、蓋し君の如きは同地方の代表的人物たるを失はず、於て、君の手腕強き者にあらざれば能くする能はざるべし、又以て君が非凡の手腕を推知するに難からざるものと云ふべし、年餘尚は四十有一。

未 着

未 着

未 着

未 着



### 八幡濱商頭取 三好甚三郎君

西字和郡三類村

君は安政四年の生れにして、縣下有数の資産家なり、七代前より木綿製造業を經營し、氏は斯業に關する經驗家にして、斯業界に重きを爲せるが、曩に八幡濱商業銀行頭取に就任し、亦大いに財界に馳騁しつゝ、あるが、地方の便益を謀るべく三類村に同行支店を開



設し、大いに地方の金融上に貢獻せるが、元來公共的事業は好む所なるを以て亦大いに盡心し、兼ねて設立ある濃厚の君上人として知らる。

### 愛媛縣會議員 白石大藏君

温泉郡赤鷲村

君は郡内屈指の豪農にして夙に愛媛縣會議員たり、地方政界の大立物として知らる、資性、温厚篤實にして人格豪邁、紛々たる政治的の味なく平生専ら公共的事業に盡心して周旋がまの



選なく、大いに功績あり、信望を受くること篤し、然して最近實業界に活躍し、幾多の會

### 製糸家 三好威一君

北字和郡宇和島町

氏は明治元年農家に生れたるが夙に時勢に感する所あり、舊業の業を承けて明治四十二年兄弟共同經營の下に五十番を掛け製糸業に従事したるが、後事業を分離する事となり、内二十五番を分ちて爾方斯業の經營に没頭せしが、元來斯業の素養ある上に頗る熱心家にして、常に工夫して改良する所少からず、施設の完全を期せしむる



す、蓋し斯は全く君が奮闘努力の賜たるに非ざる手腕の然りしめたるものに他ならず云ふべし、今にして既に多數の斯業者中全然頭角を擡げる君が將來の發展は亦速著するに疑からざる也。

### 酒造家 白石隆一君

西字和郡川之石町

君は明治十八年來釀山業を經營せるが、夙に實績顯著なる營業方針は逐年發展を招來し、縣下有数の釀山家として知らる、に至れり、併して四十二年釀酒業を創設し、酒「富士川」を發賣す



優秀にして、縣下の釀酒中に殊に頭角を擡げり、君は亦資性温厚にして兼ねて公共事業に盡心し、信望を以て製品極めてなるを以て製品極めて

### 松山市會議員 白石務君

松山市二番町

君は文久三年の生れにして、同地方に於ける相當の資産家なるが、業に製材に従事し、夙に斯業界に關しつゝあるが、由來同地方に於ける製材業は盛々として振はず、偶、斯業を營むものあるも、規模頗る小さくして、何等見るべきものなく、彼の機業界の盛況に比し大いに遜色あるは免れざる所なり、君夙に之を遺憾とし、大いに



斯業の勃興に努力する所少からず、且つ之が基礎たるべき植林事業の必要を力説すること十年一日の如く、且つて他む所知らず、蓋

### 西字和郡長 新名鍋吉君

西字和郡八幡濱町

君は周邊郡小松町の出身にして、小學卒業後小松町養成所に入りて漢語を修め大いに進歩する所あり明治二十五年警察界に投じて愛媛縣巡査を拜命せしが、三十四年十一月警部に昇進し、縣下各所、三ツ濱、宇



は生來活動的人物にして超凡の手腕は今や本郡政の精理は皆々見るべきものあらん

### 實藤道久君

南字和郡内海村

氏は同地方に於ける小壯實業家にして、夙に農業、漁業、眞珠養殖業等を經營しつゝあるが、頗る事業に熱心家にして、格別勤勞勵斯業の發展を期せるを以て、近來大いに見るべきもの少からず、大いに前途を嚆矢するに足れり、資性朴直にして淳良、曩に宇



郡在郷軍人分會長に就任して大いに後進青年の啓蒙に努力する所あり、且つ公共事業に盡心し功績頗る

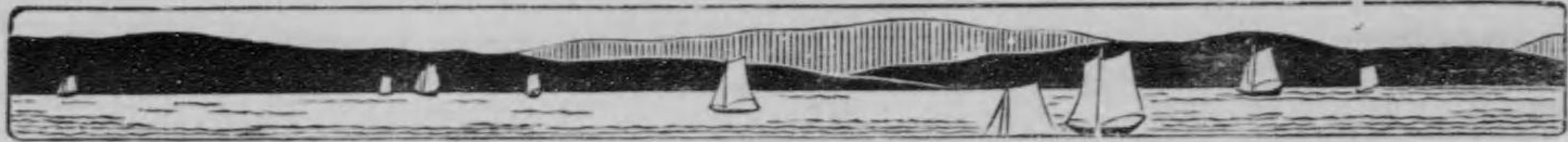
### 株式會社頭取 檜田一君

喜多郡大洲町

君は慶應二年八月農家に生る、明治二十三年師範學校を卒業し一時小學校に教職を授けしこあり轉じて郡學務課に入り教育界に貢獻する所少からざりしが、後、志を換へて實業界に入り大洲銀行員として明快



頭取の椅子を占むるに至れり、蓋し同行今日の發展は以て君が手腕に負ふ所多し云々べく朝野の聲望を博せり





### 平井定次郎君

上 分 町

和紙関係、繊維製造業をなし、郡内多数の財力家たり、以前、製紙製造業を業とせしが、漸くなるに及び現在の業を専ら事務の整理に伴ひ合名会社組織となし、金々健實たる營業振興、新業界の刷新、其品質精良にして需用に適し、他品に優れたるは已に好評噴々たるも、あるによつて知るべし、氏が人格として上分町が人物に乏し、且つ所謂格の悪き利己主義の住民に獨り懸して清潔の理想家たり、温らず、前途益々隆昌の感に向ふもの、如し、因に和紙の取引地は、大阪、神戸、東京、九州、朝鮮、北海道其他全国一般に渉紙業界、一位の業者なり、尙氏の製造に係る晒粉は、

### 未 着

### 製 糸 家 攝 津 靜 雄 君

西 宇 和 郡 双 岩 村



君が經營せる攝津製糸工場は、夙に君の嚴父の創業に係る規模宏大にして、製品の優秀なるを以て、江湖に多大の好評を博しつゝあるものなるが、氏は明治三十年、嚴父の卒と共に其事業を繼承して今日に至り、君元來責任濃厚にして、新業に深慮亦非常なる手腕なるを以て、

### 未 着

### 大洲商業銀行頭取 須内實三郎君

善 多 郡 大 洲 町



氏は安政二年の生れなるが、幼にして父を喪ひ、苦學奮闘して實業界に入り大洲銀行大坂支店長として職務を揮ひしが、現に大洲銀行頭取たり、君は責任濃厚にして夙に公共の事業に専任し、金融上の利便を與へ、地方産業の發達に資す所少からず、亦君は右の外、慈善事業を經營し、且つ朝鮮釜山に酒造業を經營せる等、實業界上の手腕、亦推して知るに足るべし。

### 名 望 家 菅 久 太 郎 君

周 桑 郡 石 根 村



氏は同地方に於ける唯一の名望家にして、祖先の代には小松藩の重臣として、大いに功績ありたる家柄なり、君亦責任濃厚の君子にして常に農業に従事し、地方の農政改良等に奔走する等、少からず、夙に信望あり、

### 愛媛縣東宇和郡立農學校校長 末 光 績 君

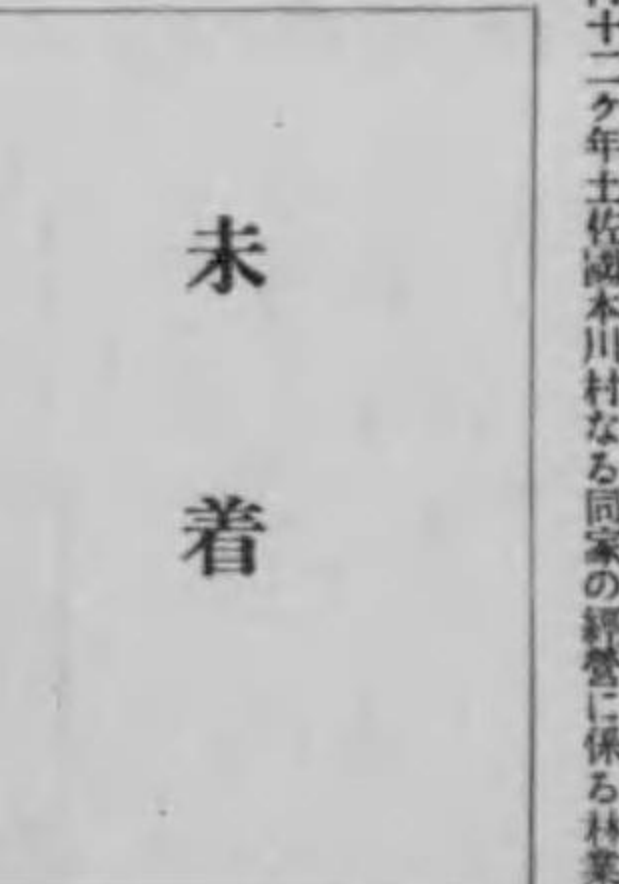
東 宇 和 郡 宇 和 町



君は明治三十三年京都同志社中學校を卒業し、明治三十九年札幌農學校をへ、一年志願兵として兵役に徴せられたるが、歸來、同校教授に就職し、夙に學問ありしが、大正三年現職に榮進して今日に至り、實、稀に見るの教育家にして教育方針は實際的の人物を養成するを主眼とするものなるを以て、汚物取扱ひの如き、ざるを知るべく、人物も亦推して知るに足るべきなり、愛媛縣宇和郡宇和町に任ぜらるが、出生地は同縣宇和郡吉田町にして、文久三年の生れなり、實に現代の教育界に稀有の人材たるを先はず。

### 石 川 昇 平 君

新 居 郡 角 野 村



君は安政三年七月居村に生れ明治十年、駅前住友左衛門、被服人となり住友別子鐵業所勤務來三十五年間に至り、勤勞せり内十二年土佐國本山村なる同家の經營に係る林業を擔任せり、氏は主業として、一方村の公益事業を助け、村會議員を経て、二回郡會議員に舉げられ、次で村長に推選せられ、村治に貢献せらるるものありしも、轉じて、君は至誠勤直の人にして、一度彼れを職ものは其信用ある言動に感ず、こいふ、

### 製 糸 家 末 光 寅 君

北 宇 和 郡 宇 和 島 町



君は明治二十二年頃、未だ同地の機業界が今日の如くならず以前に於て、僅かに三臺の機械を振付け製糸業を經營するに到りたるが、三十五年に到りて、優秀なる製糸機械の發明せらるゝあり、銀行より之を招來し、今や一大發展を招致して現在百五十臺を振付け宛然面目を一新するに至り、蓋し君が今日の發展は多年苦心奮闘たる經營、努力の賜なると共に、又非凡なる手腕の然りたるも云ふ。

### 未 着

### 未 着



井上忠治兵衛君

西字和郡五反田

氏は大正二年三月以来、綿糸採用の地産製造に従事し、あるが、品質優良なる、價格比較的廉價なるを以て、漸次好況を招き、今や販路は九州一圓に及び、常に製品の不足を訴へ、頗る繁忙を極め、性温厚にして、實直、所謂士魂而才ある人物にして、常に博利多量を手眼とし、鮮やかなる利益を以て、顧みざるを以て、絶對的の希望を得るに至りしものにして、氏が今日の發展も、又以て之に起因する所多しと云ふ可し、亦一種の地方的商界の源物たるを失はず。

未着

池原鹿之助君

兵庫縣淡路郡魚崎町

氏は愛媛縣島根郡小松町の出身にして、年少既に大志あり長じて及を東都に負ひ、中央大學を卒業して、官界に入り、農商務省試補、内務省、奈良縣、参事官たりしも、後辭して大阪市助役たりしことあるも、然る實業界に入り、藤田組理事として、今や名ありしが、今や之も辭して、急形勢を觀望しつゝあり、蓋し、往く所にして可ならざる君の手腕は、今後實業界に燃焼すべきか、將亦官界に歸り戻るべきか、一躍政界に投ぜんか、蓋し、興味津津たるものなくんばあらず、趣味として政治、馬、茶道、園藝を好み、年齒四十有八歳。

未着

西村扇藏君

北字和郡岩松村

氏は西字和郡八幡町の産にして、字和島中學に業をすへ、造酒業を經營しつゝあるが、夙に斯に業を志し、研究に没頭することあり、其功空しからずして、氏が醸造に係る酒は、地方有数の優良品として、江湖の好評を得しつゝあり、資性温厚にして、朴直、平生公事に奔走して功績亦少からざるものあり、夙に努力精進の偉績として知らる、家業今日の高揚此君を招き、せる又所以なきに非ざる也、年齒未だ三十有六。

未着

岡本景光君

北字和郡三間村

氏は萬曆時代、代々庄屋を勤めし、縣下有数の豪族にして、夙に造酒業を經營せるが、近來造酒業の勃興に伴ひ、大いに之が改良の必要を感じ、大正六年三月、製酒研究所を設けて之が改良率、進に資すべく、組合名義を以て、農商務省の許可を受けたるが、組合に其責任を以て氏は私財を削いで之を完成し、現に斯界の發達に貢獻しつゝある一方、愛媛縣同業組合長、北字和郡同業組合長、そして志持する所少からず、重要あり、資性温厚にして、實林の人、年齒四十九。

未着

稲田周太郎君

伊豫郡中町

氏は明治四十一年の松山商業學校の出身にして、父の經營に係る業たる米穀肥料精米事業を加勢し、以て今日に及び、君、性來豪敏、幸風にして、その超凡の手腕は、運次業の發展を招き、産亦從來に依せり、年齒未だ二十有六、小壯氣鋭の實業家、也氏は淨瑠璃を嗜し忙中閑之に没頭せり云々。



未着

萩尾繁馬君

石炭商

大坂市の中央代崎橋の東詰に高壯なる洋式事務所を建設し、石炭商を營み、信用實力共に、斯界に知られたる氏は愛媛縣東部の産なり、年齒未だ四十を越へざるの努力盛なり、其活動の鋭敏にして、建實なる營業は、日と共に益々隆盛に向へり、此の濃潤たる氣性を有し、然る剛直にして人々を感服し、能く理窟に通じて難量あり、斯界の重鎮として將來の望みを屬すべし、自宅は天下茶屋にあり、又自二階の欄出あり。

未着

堀部彦次郎君

北字和郡和島町

氏は同地方實業界の重鎮にして、常に事業の中心となりて活躍し、現に字和島株式會社社長、株式會社字和島銀行頭取、和島運輸株式會社社長、字和島土地株式會社社長として、かねて腕腕を揮ひつゝあり、人物は八面玲瓏たる才士にして、略略策に非凡なる才能あり、業績大いに見るべきものあり、雖も、自己的打算の弊に陥らざるは、君の一大缺點たるを失はず、君自ら反省して、亦武勇の氣に貢獻すべき也、萬曆元年の出生。

未着

香川熊太郎君

松山市末廣町

氏は慶應元年を以て生る、明治三十九年温泉郡小野村を出で、現在の所に移り、米穀取引所仲買人となり、斯界に没頭し、大い手腕を揮ひ、著々堅實なる地歩を占め、今や同取引所理事の要職にあり、斯界の重鎮として知らる、年齒未だ三十有六、至れり、向は、大正三年松山、新株式會社取締役たりしが、大正五年遂に同社長の椅子を占たり、資性温厚にして、天資快調、議事に臨んで誠心誠意之を貢獻せざれば、止まざるの人、今日の成功は偶然に非ざる也。

未着

今村八郎君

所仲買人

氏は伊豫郡の産家は酒造業にして、資産あり、中堅事業を了へたる氏大に爲す處あるを感じ、獨士を志して、華城大坂に住し、仲買人となり、現在に至る由來仲買が營業の性格よりして、信用に缺けたる行爲は、殆んど慣習的なるに、然して正義を重んじ、顧客に誠意を以て迎へるものあり、氏は人格を知るもの、認むる處あり、斯して氏の成功は日々、騰出を極めり云々、年齒未だ壯なり。

未着

西村兵太郎君

喜多郡長濱町

氏は長濱町に於ける名士として、夙に地方の公共的の事業に活動し、功績著なるものあり、嘖々たる聲譽を有す、推されて、現に長濱町長たる外、長濱信用組合長、長濱漁業組合長、伊豫信用購買販賣組合長、愛媛信用購買販賣組合長、愛媛信用購買販賣組合長、愛媛信用購買販賣組合長、亦、實業界方面に於ては、伊豫製水株式會社役員として、大いに活躍しつゝあり、君は極めて才士的人物にして、精もすれば、誠意を缺くものあり、は大いに惜むべし、君、部長は君が其職も好む所なり、年齒未だ三十有五、前商會長に當り。

未着

蝶幸吉君

大坂市西區西道頓堀

君は愛媛縣宇部郡川ノ江町の出身にして、年少實業に志して、大坂に來り、進出商店に入り、大いに活動精進、實業界に活動し、販賣の間にあり、終始三年の久しきに亘りて、勤勞眞に一日の如く、致々として、進出商店の信用厚かりしが、突如物故するに至り、長男理兵衛其遺業を繼承して、依然、製糖業に従事するに及び、君は、之を轉作して、理に及ばざるなく、大いに活動を振んじつゝあり、蓋し、同業今日の盛況は君が努力に資すところ多しと云ふべし、本年四十七歳。

未着

河内字十郎君

喜多郡新谷村

氏は同地方指の資産家にして、元治元年に生る、夙に酒造業を經營せる、而して株式會社新谷銀行頭取として、行務に執事しつゝあるが、格闘、精進の努力は、實すべし、雖も、餘りに營業の力、新谷銀行、行務の發展を、進々として、振はざるは大いに遺憾する所なり、資性温厚にして、精進なるも、精進なるも、謙ひあり、されど、平生公共事業に活動し、現に、同銀行役員及事務長たり、蓋し、君にして、人物今少し、我利心を脱し、關照にして、此事に通ずるものあり、徳望期せずして、來るべく、事業亦多いに見るべきものあり、に惜むべき也。

未着





紙業界之功勞者 吉岡平衛君

喜多郡内子町

君は昭和二年を以て生る、現に父房其製紙業を經營しつゝ、あるが...



君は昭和二年を以て生る、現に父房其製紙業を經營しつゝ、あるが...

高橋初次郎君

新居郡水見町

君は昭和二年を以て生る、現に父房其製紙業を經營しつゝ、あるが...

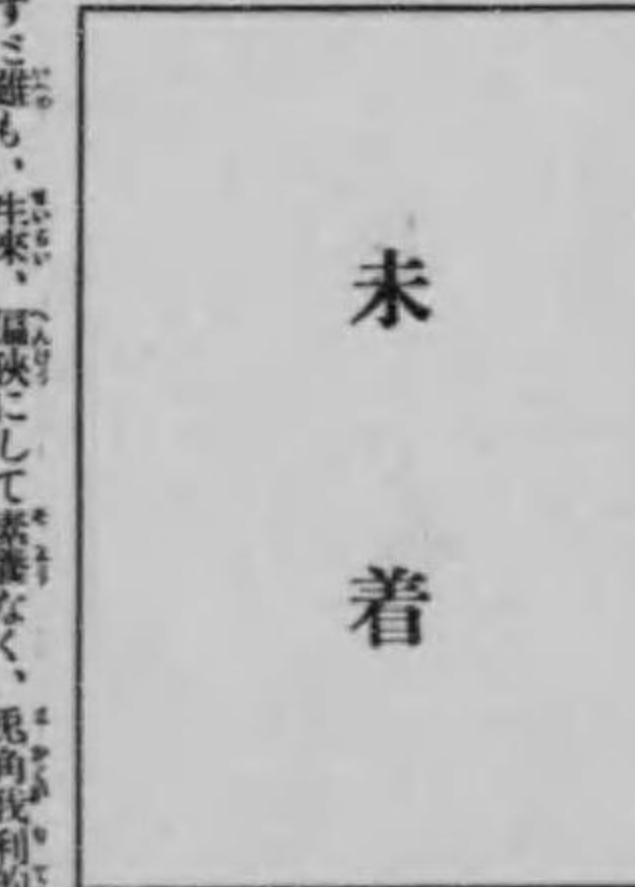


君は昭和二年を以て生る、現に父房其製紙業を經營しつゝ、あるが...

縣會議員 芳我數衛君

喜多郡内子町

君は昭和元年の出生にして酒造業を經營し地方自治の推進に...



君は昭和元年の出生にして酒造業を經營し地方自治の推進に...

模範教育家 露口悦次郎君

越前郡日吉村

君は伊豫郡南伊豫村の出身にして愛媛縣師範學校を卒業後明治二...



君は伊豫郡南伊豫村の出身にして愛媛縣師範學校を卒業後明治二...

大阪製糖株式會社 立花訓光君

會社常務理事

君は伊豫郡宇和島の出身にして最初師範學校に入らんとて初等...



君は伊豫郡宇和島の出身にして最初師範學校に入らんとて初等...

中平商事株式會社社長 中平常太郎君

北宇和郡宇和島町

君は現に愛媛縣物産會社宇和島支部長 日本織布株式會社監査...



君は現に愛媛縣物産會社宇和島支部長 日本織布株式會社監査...

津田正厚君

株式會社 津田勝五郎商店

君は愛媛縣津田郡三津濱町石崎庄長崎氏の裔にして明治十九年四...



君は愛媛縣津田郡三津濱町石崎庄長崎氏の裔にして明治十九年四...

宇和島町長 中原涉君

宇和島町

君は昭和五年の生れにして、藩校明倫館に入り漢語を學び、...



君は昭和五年の生れにして、藩校明倫館に入り漢語を學び、...

株式會社 長濱銀行事務取締役 黒田伊勢松君

喜多郡長濱町

君は長濱町長濱の人にして人柄亦高邁にして一見識あり、明治二十...



君は長濱町長濱の人にして人柄亦高邁にして一見識あり、明治二十...

波止浦船運事務所長 八木光三郎君

越前郡波止浦町

君は弘化四年の生れにして資性濃厚、常に地方の福利増進に盡す...



君は弘化四年の生れにして資性濃厚、常に地方の福利増進に盡す...

伊豫日々新聞株式會社社長 柳原正之君

松山市西堀端町

君は昭和九年を以て生る、性來、文章の才能に長じ、國中俳句を...

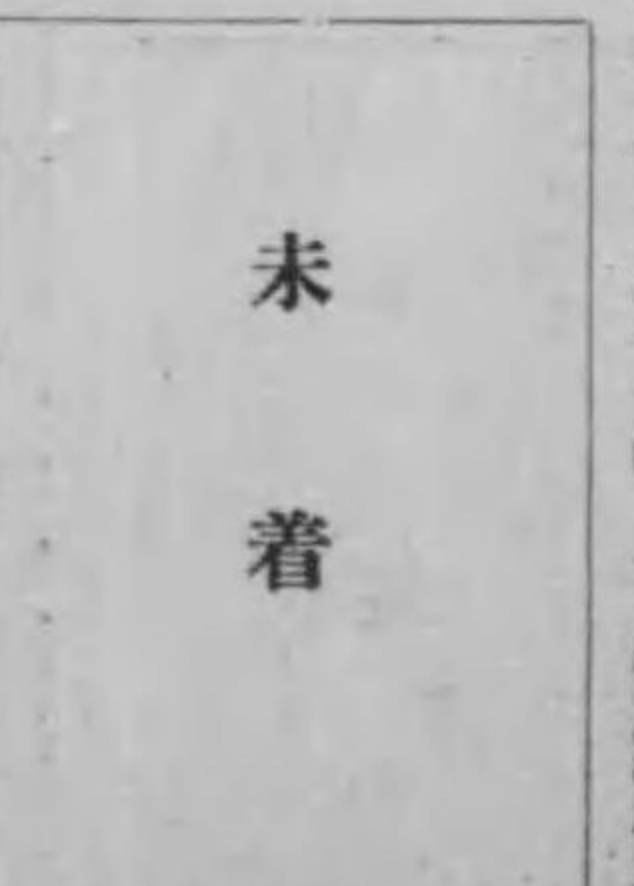


君は昭和九年を以て生る、性來、文章の才能に長じ、國中俳句を...

前谷久平君

宇摩郡三島町

君は地方有数の豪族なるが、風之に之れに愛するに父祖の業たる...



君は地方有数の豪族なるが、風之に之れに愛するに父祖の業たる...

### 眞鍋龜太郎君

新居郡西條町

氏は新居郡多喜村の出身にして夙に實業界に傾倒し、若年奮闘遂に今日の地位を占めたる人にして、地方の名望家として知られ、現に伊豫製紙株式會社専務取締役役に就任し、専らその天賦の才能を傾注し、努力を盡し拮据經營の衝に當りつゝあり、又一面公益の増進に盡力して幾多の功績あり且下所得稅調査委員たり、實性淳良質朴、聲威に接して人に好感を興ふ、蓋し氏が社交に長けたる人物なるを一見にして知るを得べし、應慶元年の出生なり。

未着

### 小泉瀧藏君

喜多郡内子町

氏は明治三十五年松山中學校の出身にして晒及生糸の製造業に従事しつゝ、あるが、資性濃厚にして資質、人格又頗る高く、入りては家業に精勵し入りては公共事業に盡力し、殆ど家日なく、その努力は他に多く匹敵すべきものを見ず、大正四年内子銀行取締役に就任し地方の金融に盡力せるのみならず、現に町會議員、學務委員、學校組合委員として公共事業に奔走し其の功績没すべからざるものある徳業家として知らる、年齢三十六歳。

未着

### 眞鍋榮一郎君

宇摩郡川之江町

氏は新居郡西條町大町村の出身にして、明治十二年五月株式會社西條銀行の前身たる第十四一國立銀行に入りしが、同社は明治三十二年二月に至つて特別法に依り、株式會社西條銀行に改稱せしが氏は引續いて在勤し、△に格別精勵の功績高かりしが、大正二年に至つて同行川之江支店長に榮轉し以て今日に至り、蓋し△の如きは眞に同行の元勳と稱すべく其の發展に寄與する所無からざるもの云ふべし資性濃厚熱心の人、安政四年九月を以て生まる。

未着

### 近藤正平君

温泉郡三津濱町

氏は年少にして既に漢學に趣味を有せしが、明治四十年東京高等商業學校を卒業するや、大正二年九月三ツ濱煉瓦株式會社を創立して、専務取締役となり専ら經營の衝に當りつゝある外、株式會社水産社長及び三ツ濱煉瓦株式會社長と兼り、實業界に盡力し、現に其任にあり、君は先天的實業に天賦あるに加ふるに特種實業高等教育を受けたるを以て手廻るを以て、各關係事業は遠日遠列なる發展を招來しつゝあり、資性濃厚にして實業の人、年齢未だ三十有八。

未着

### 小林信近君

松山市御室町

實業功勞者  
小林家は同地方屈指の名門にして其は天保十三年を以て生まる、肆に新居に活躍するに三十二年、大いに實業界の勃興に資する所無からず、五十二歳立銀行、伊豫鐵道電氣會社を創立し大いに實業界に貢献したるは能く人の知る所なり、濃厚實業の人にして徳業あり夙に經營購置して名あり且目前國立銀行の身にあり。

未着

### 越智恒次郎君

新居郡水見村

氏は年少の頃より農業に趣味を有し、其の學校教育を終るに共に農業に従事するに到るが、能く勤懇、よく努力して、世人は時之金云ふも、氏は勤之を以て、勉之を以て、時之金も勉之も惜まらず、驚かして其業に努力し、其間に農事の改良に對する等公共に盡す事多く、△に村内の女子教育の必要を説き率先して女學校建設を以て風紀振興に資を用ひ、又郡政に熱心なり、推されて現に町會議員、町會議員たり、小社有士として大いに其の將來を瞻望せらる、資性濃厚の人、本年三十三歳。

未着

### 青木正志君

北宇和郡好麻村

氏は明治四十一年の東大農科の出身なるが、夙に地方産業の發展に資す所あらんし、川畑の小作經營、造林、羅漢の製造等に拮据經營せるが道に斯界の學識深甚なる人物なるを以て、今や商に自家の巨富を爲すに止まらず、兼ねて政黨の政務に貢獻しつゝあり、資性濃厚にして努力主義の人、年齢未だ三十四歳蓋し雲の土たるを疑はざるなり



未着

### 菊地清治君

西宇和郡八幡濱町

君は明治四十四年の帝大理科大學出身の理學士にして、現に八幡濱町長なるが、平生學識あるを以て之を以て之を尊ぶるの風あり、從つて人々敬愛するも頗る積極にして鼻につく事甚だしく、人の觀察を貴ふこと任々あるは君の爲めに惜むべき事にして、更に世事を解し人に押れて、總論の美徳を垂らし須らく其の主角を飾きて以て圓轉背腹の人たる可からず、蓋し味嗜の味嗜きは上味嗜に非ず、君の自ら識見學識を吹聴して人の心腹を貫かば大いに懽まざる可からざる所也

未着

### 清家爲次郎君

南宇和郡内海村

君は應慶元年の生世にして、農業及び漁業を業とし、てに相當の資産を有す、資性濃厚にして一見保守的人物の如き感あるも、事實は大いに之に反し進取の手腕を以て、家業の如きも、君が繼承して以來其の非凡なる手腕、不拔の努力に依つて、大いに面目を一新し、熾烈なる發展を招來するに至り云々、又以て氏が人物の如何に進取の氣血に富める手腕なるかを指し示すに足るべし。

### 宮内小三郎君

伊豫郡郡中町

君は同地方に於ける大地主として兼ねて名家として知らる、兼に郡中町長として町政の衝に當り大いに人望を得つゝありしが、今や町會議員にして、専ら公共的事業に盡力しつゝあり、君資性濃厚にして、慈善心篤く、人の悲しみに悲しみ貧困者を見ては、之を垂視すること能はず、私財を削いで之を救ひたること枚舉に遑なし、蓋し世に愷然冷然の人多し稱せらるる地手中に於て君の如きは又稀に見るの人云ふべし。

未着

### 己原傑君

北宇和郡宇和島町新町

己原氏は稱し大正三年來船具材料、漁具一式の營業を經營しつゝ、あるが、營業の方針堅實にして、且つ博利多獲主義を信託し専ら商業の秘訣を心得、克己精勵に至るなきを以て開業日尚ほ淺し、雖、家運頓に發展を招來し同町第一流の商舖として江湖に多大の聲名を馳するに至れり、君、資性豪放にして熱心、年齢未だ三十小壯健にして前途有望の實業家たり、將來至大の發展を期しつて候べきなり。

未着

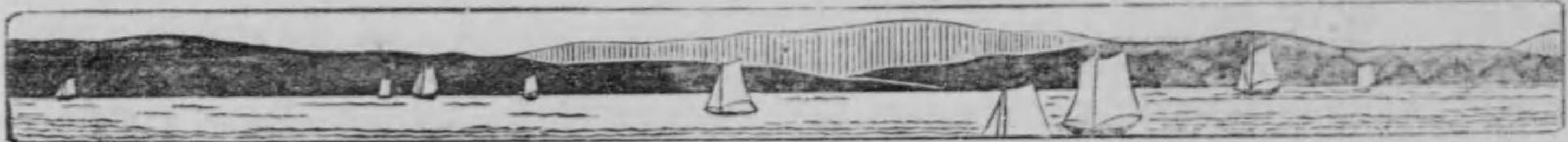
### 三宅猪藤太君

西條支店長  
新居郡西條町

君は香川縣丸龜市の出身にして、其の學校教育を終るや、官界に入り、現に西條支店長たり、明治三十二年長崎縣警務局長に在勤するに到り、爾來、丸龜縣警務局長等に轉じたるも、終始、任に恪勵奮闘明瞭にして手腕の見るべきものありたるを以て、將來有望の人材として囑望されつゝありしが、大正二年辭して實業界に入り、資性濃厚の人、年齢四十八。

未着





功あり本土を領して守護職となり四州を管領し、小笠原姓を背し後

三好氏の祖なる、豊臣起るに及び小笠原の同族一宮氏北朝に服事  
中、後室明正御前に至り執權細川頼春四國を管領するに及び備前備後  
に構へてより地方の豪族靡然として服屬したりしも應仁以來實權は  
重臣三好氏に移り三好長盛の威大に振るふ、幾もなくして保長治に  
至り將士離散内相敵ふを以て長曾我部元親に乗せられ形勢一變し  
天正十年八月勝興寺及勝瑞城は血河尾山修羅の巻に化して三好氏に  
び、其後豊臣氏織田氏に代るに及び一舉元親の破り、蜂須賀正勝功  
を以て阿波に封ぜられ子政家封内を統一し銳意民心の收攬に努  
め殖産興業の基礎を立つ元利、寛永に至りて上下治平徳武の政業天  
下に行はるゝや不慮を遂て四世忠英に至り美濃、製鹽、織物の國産  
を増殖し徳島を繁榮を添ふ、忠英幼にしてつぎ次々父祖の遺業を守  
る爾來世守保天明の艱險に天保の凶作を以てし怨望の聲内に滿ち  
憤慨の徒外に起るに及び忠英漸くにして國恩の徳字を救恤し、  
爾來勲徳治産の美風を訓致したり忠英より光隆、綱通、吉武、宗英  
宗嗣、至英、重喜、治明、齊昌、齊祐を経て十六代徳川将軍時徳の  
變遷に際し大勢の嚮ふ所を取取し、盛に勤王の志を鼓吹し、大義  
滅親を以て藩論を定めぬ一書を著す、明治二年六月封土藩藩  
を奉還し徳島縣と稱し任ぜられて藩知事と爲る、三年藩政を改革し  
民政体を設け郡町村を總管し、郡に大里長、町に里長を置く、四年  
七月藩政阿波國一圓十郡及び淡路國二郡を管轄し徳島縣と爲る十一  
月十五日徳島縣を改めて各縣と稱し阿波國二圓十郡を管轄し  
五年縣内を十六區、各小區に劃割し、大區に區長小區に戸長及び副  
戸長を置く、六年二月二十一日香川縣を廢し讃岐一圓を各縣の管  
轄に合併す、八年九月讃岐國を削き香川縣を置く、是の年警備巡査

を置き、翌九年徳島に警備第一出張所を置き各名、西坂野、勝浦郡  
賀、海部、六郡を管轄せしめ同十年瀬太各郡に設置す、九年八月二  
十一日名東縣を廢し阿波國は高知縣に、淡路國は兵庫縣に合併せら  
れ十月十六日高知縣徳島支廳を徳島に置き、阿波國を支配す同十一  
月廿五日支廳を廢し出張所を置く、十二年郡町村編成法に依り郡  
制實施八郡  
後所の下に  
二百三十七  
戸長を配置  
す十三年三  
月再び徳島  
縣を置き阿  
波國を管轄し  
五月始めて  
郡制を開く  
本縣は香川縣に比し二倍以上の面積を有し人口は之れに及ばず、  
南瀕太平洋に臨み、東は根柢の間に伊予沿岸と相對し、通商  
客貨の積聚繁ならず、北、西の兩面は峻たる山嶽を以て他の三縣  
と殆ど交通を絶ち、從而人心悠緩にして道らず、積極的の精神  
なく殊に古來より四國管領府の所在にして徳に典章雅致の美風を存  
し四縣人中最も開明にして且つ賑らざるの美點を有するに同時に一  
面に於て進取の民魂の乏しきは亦過むを得ざる所に於て、農業生産  
の状態他他の三縣に及ばず本縣は阿波國全部を管轄し、一市十郡に  
別ち縣廳を徳島市に置き海部、那賀、板野三郡は其の行政廳と國道



所役市島徳

### 行政と自治

郡廳出は土木費九萬九千餘圓、教育費四萬三千餘圓、勸業費  
四萬五千五百餘圓を主とし總額二十三萬四千三百餘圓なり。  
市町村廳出は役費三萬六千四百五十餘圓、教育費六十七萬七千  
七百餘圓、土木費二千四百四十八百餘圓、衛生費十一萬三千九百餘  
圓、諸費及負擔十八萬九千八百餘圓、公債費十九萬七千八百餘圓等  
を主とし總額三百一十九萬九千餘圓なり。  
之れを要するに、直接税の負擔現在一戸當り約三十一圓、一人當  
り約五圓、縣賦  
税、市町村稅  
は四國各縣中  
最重の負擔を  
なせり。  
縣收金財產  
は總額百十三  
萬二千七百餘  
圓の内二十四  
萬五千七百餘  
圓は現金にして十六萬九千六百餘圓貸出金其他有價證券なり郡收金  
財產は有價證券四萬六千四百餘圓、現金百一萬二千五百餘圓なり。  
市町村基本財產は一般のもの五十五萬八千七百餘圓の内十萬八千  
九十餘圓は有價證券、一萬三千五百餘圓は現金に屬す特定の目的の  
爲めに備へられたる基本財產は十二萬六千六百餘圓にして内二萬四千  
三千餘圓は有價證券、六萬九千九百九十餘圓は現金を以て蓄積す、其  
他部外財產ありて市町村内の各區に於て管理せるもの總額百四萬  
二千五百餘圓に達せり、而して其の多くは土地價格、其の額は土木費



三人にして年俸總額四萬四千七百二十圓なり、市町村長は市長一  
町村長百三十四、助役百七十一、収入役百三十、副収入役三、其他  
五百六十九名計一千六十六人(内名譽職百八十八人)にして年俸總額十  
三萬二千二百七十八圓なり  
●議會 貴族院、多額納稅者議員選舉資格を有せるものは徳島  
市三人、名東郡一人、勝浦郡三人、板野郡五人、阿波郡一人、麻植  
郡一人なり、衆議院議員は徳島市一人、其他各郡を通じ五人、合  
計六人にして選舉有権者一萬七千四百七十六人なり、縣會議員は定  
員三十人にして選舉有権者三萬三千二百卅人、被選舉有権者一萬七  
千七百四十二人なり、郡會議員は定員二百二十六人、内名譽職參事  
會員五十六人にして、選舉有権者三萬二千五百五十三人、被選舉有権  
者二萬四千二百八十八人なり、市會議員は徳島市三十六人にして、  
選舉有権者三千二百九十三人、町村會議員は定員二千二十八人して  
て、選舉有権者六萬九千三百餘人なり

### 財政

四縣中最も産業の振はざる本縣は財政計畫上生産力に對し、他の  
三縣に比し負擔の重きを耐ふるを得ず。比較的人口稀薄にして行  
政區域廣汎、加ふるに吉野、那賀、勝浦等の諸川の木支流の水路整  
理、補修等々多大の經費を要し、財政上一層の注意を要するもの  
ありて應費、役所費、役場費等に於て非常に節減の行はれつゝあ  
るを見る。  
●縣廳出は土木費七十九萬六千六百餘圓、教育費二十五萬五千五百餘圓  
警備費十五萬五千九百餘圓、勸業費十二萬三千七百餘圓、縣債費八  
萬六千二百餘圓、郡役所費六萬千餘圓等を主とし總額百七十五萬六  
千五百餘圓にして特に治水費等に於て多大の支出を要せり。

### 財政と産業

郡廳出は土木費九萬九千餘圓、教育費四萬三千餘圓、勸業費  
四萬五千五百餘圓を主とし總額二十三萬四千三百餘圓なり。  
市町村廳出は役費三萬六千四百五十餘圓、教育費六十七萬七千  
七百餘圓、土木費二千四百四十八百餘圓、衛生費十一萬三千九百餘  
圓、諸費及負擔十八萬九千八百餘圓、公債費十九萬七千八百餘圓等  
を主とし總額三百一十九萬九千餘圓なり。  
之れを要するに、直接税の負擔現在一戸當り約三十一圓、一人當  
り約五圓、縣賦  
税、市町村稅  
は四國各縣中  
最重の負擔を  
なせり。  
縣收金財產  
は總額百十三  
萬二千七百餘  
圓の内二十四  
萬五千七百餘  
圓は現金にして十六萬九千六百餘圓貸出金其他有價證券なり郡收金  
財產は有價證券四萬六千四百餘圓、現金百一萬二千五百餘圓なり。  
市町村基本財產は一般のもの五十五萬八千七百餘圓の内十萬八千  
九十餘圓は有價證券、一萬三千五百餘圓は現金に屬す特定の目的の  
爲めに備へられたる基本財產は十二萬六千六百餘圓にして内二萬四千  
三千餘圓は有價證券、六萬九千九百九十餘圓は現金を以て蓄積す、其  
他部外財產ありて市町村内の各區に於て管理せるもの總額百四萬  
二千五百餘圓に達せり、而して其の多くは土地價格、其の額は土木費



影遠之城島徳

### 農業

●農業 吉野、那賀、勝浦、海部諸川の流域を以て主要農作  
の沃地とせざる本縣は、之を林地反別に對比すれば耕地區域狭小な  
るも、作付反別は五萬七千五百二十三町、不作付反別六千七百三十三  
町、合計六萬四千二百五十五町を有し、農業従事戸數は専業農業  
業を合せ八萬五千五百一十七戸、平均一戸當り七反八畝に相當す、耕  
作人員は専業農業と兼業を合せ三十五萬七千七百餘人、内自作十三萬二  
千二百餘人、自作兼小作十四萬三千二百餘人、純小作人八萬一千六  
百餘人にして、總生産額千七百二十萬五千餘圓なり。  
●米 梗米作付反別一萬五千五百一十九反、糯米作付反別一十八  
五町三反、合計三萬六千九百八十八町にして收穫高梗米五十四萬四千  
四十餘石、糯米六萬一千四百五十餘石、除米一萬九千二百石價格約  
八百四十一萬八千七百七十二圓なり、那賀、板野二郡に於て約全產額  
の半數を産せり。



産 業

● 麥 大麥、小麥を合し作付反別三萬五千八百四反、收...

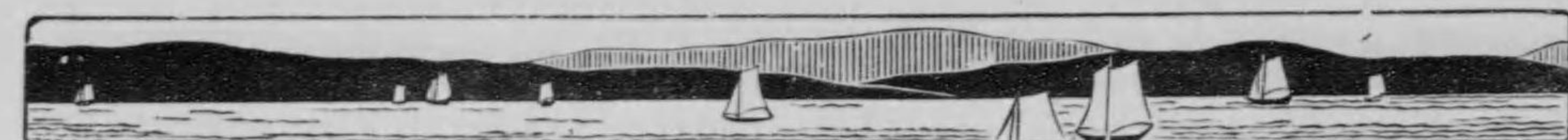
● 大豆 作付反別三萬四千四百三反、收獲高二萬二千...

● 小豆 作付反別五千四百七反、收獲高三千六百餘石、...

● 甘藷 一作付反別五千七百五十一反、收獲高一千九百七...

● 林業 太古層、古生層を以て峻山丘陵を構成せる本縣は...

● 製糖 本縣の工業は最近一ヶ月生産額千三百七十六萬三...



製造、製糖を主とし、名西郡、阿波郡、麻績郡、美馬郡等は、生...

● 製糖 本縣の工業は最近一ヶ月生産額千三百七十六萬三...

● 紡績 綿糸、絹糸、絹織物、絹織物、絹織物、絹織物、絹織物...

● 製糖 本縣の工業は最近一ヶ月生産額千三百七十六萬三...

會 社

● 德島水力電気株式会社

德島市、島町



阿波門

● 阿波公共製紙株式会社

德島市、島町

● 阿波共同汽船株式会社

德島市、島町

Table with names and roles for various companies.



阿波門

● 水産 三面海を環らしたる沿海の曲折六十餘里、幾多の島...

● 工業 本縣の工業は最近一ヶ月生産額千三百七十六萬三...

● 製糖 本縣の工業は最近一ヶ月生産額千三百七十六萬三...



金融機關、銀行

同 竹原武吉郎 監査役 稻富市郎
同 坂東信樹 同 日野英一郎
支 配 人 新居圭藏

●阿南鐵道株式會社

創立明治三十四年十月、資本金三千五百萬圓(拂込額)一、株五十圓
取 締 役(代表) 生田和平 同(同) 宮本幹三郎
同 庄野琳藏 同 森吉兵次郎
同 和田宗近 同 島田豊理
同 和田義公 同 増田豊八
監 査 役 島田雅雄 同 美馬晴二
同 湯淺宗一郎

●神通電力株式會社

創立明治三十五年四月、資本金二千五百圓、一、株五十圓
取 締 役(代表) 多田忠七 同 渡邊正清
同 近藤爲五郎 同 藤川佐太郎
同 西山寛次 同 濱口恒十郎
監 査 役 橋野嘉太郎 同 高島傳藏
同 森西龜十郎

金融機關

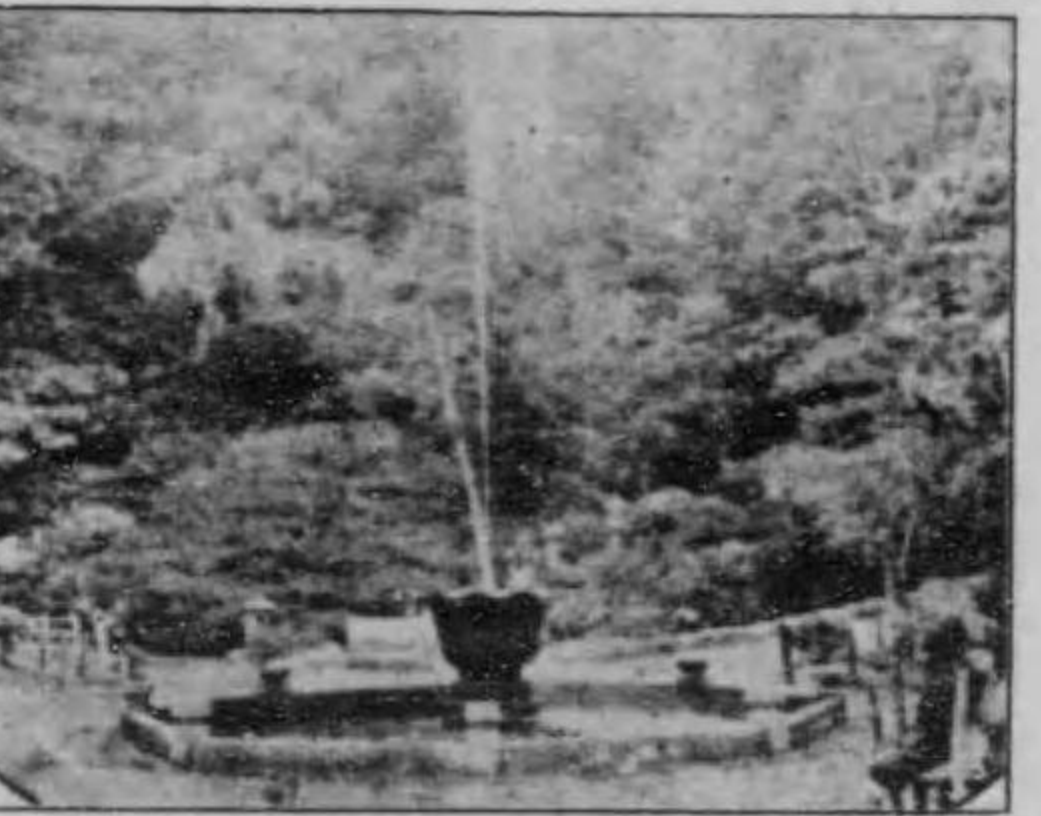
阿波國一市十郡内良徳島市に銀行ありて、支店を郡部八ヶ所に設くるに過ぎず、金融上不便を糾するに難からず、一々年間の總預



徳島公園千秋閣

入高貯蓄部を合はせ官公金

五百二十一萬、餘額當座其他を合はせ四千四十四萬餘圓にして、年末現在公金三十九萬四千七百七十八圓、預金五百九十九萬九千九百六十四圓、貸付金二百八十八萬二千三百二十八圓、通貨三千七百八十八百圓なり、殊に銀行貯金は地理不便に基き郵便貯金の半額に達せざる状況にあり



徳島春日公園

銀行

●株式會銀徳島銀行

創立明治十五年五月、資本金五百萬圓、一、株五十圓、拂込額多士壹萬貳千五百圓、諸積立金八萬四千二百圓、利益配當額前年八分五厘、前々期八分

頭 取 大串龍太郎 取締役 宮本賢次郎
同 久米田雅太郎 同 山本儀平
監 査 役 蜂須賀敏太郎 同 向赤次郎
同 日根貞三郎 支 配 人 平岡平四郎
同 無差支店 板野郡無差町 主任 大串龍次郎
同 海部支店 海部郡川村 主任 佐藤完治

●株式會社西貯蓄銀行

創立明治三十三年二月、資本金五百萬圓、一、株五十圓、拂込額千九百圓、諸積立金六萬圓、諸預り金三十九萬六千七百八十一圓、利益配當額前年八分

●株式會社阿波農工銀行

創立明治三十三年七月、資本金四百五十萬圓(拂込額)一、株二十圓、諸積立金八萬七千一百圓、諸預り金八萬一千五百四十二圓、利益配當額前年八分

●株式會社阿波商業銀行

創立明治廿九年六月、資本金五百萬圓、(拂込額)諸積立金四十四萬七千圓、諸預り金八百五十七萬九千九百圓、利益配當額前年一分、前々期一分



徳島城之遺跡

交通

▲小松島支店 勝浦郡小松島町
▲池田支店 三好郡池田町
▲鳴島支店 麻植郡鳴島町
▲羽之浦支店 那賀郡羽浦村

國の西部は概ね地盤隆起し、會々小川の川途あるも、吉野川流の氾濫に浸され島道散在し人跡を絶したり、明治十八年三好新道開鑿の議成り工費二十萬餘圓を投じ三十八年四國鐵道線として竣工を告げ、池田町を中心地としては車は徳島の江に西は徳島に南は高知に、北は琴平に連り、南部海岸線は吉米八阪八流の稱を傳へ一上一下崎嶇たる石徑を攀ち沮洳たる砂道を蹴し、迂回曲折の行路なりしが明治三十八年以來、工費十萬圓を投じ改修成り徳島、小松島、富岡、日和佐、穴吹より高知に通過し吉米線と海路に委したる沿岸の來往も漸く安に陸上の交通を完するに至れり、徳島より北は無差に至る淡路國道あり、大阪城を通過して高松に至る淡路國道あり、要は吉野川を挟んで南岸に國道伊豫街道あり、池田に至りて三好街道に會す、更に海峯街道は脇町にて分岐し清水橋を経て讃岐に



株式會社西貯蓄銀行



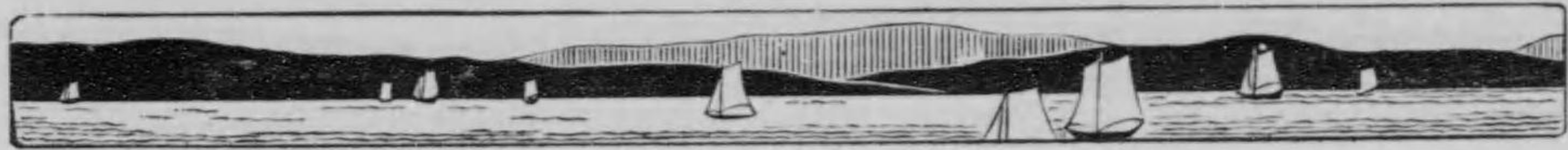
阿波十郎兵衛屋敷全景(板野郡島)

里道延長七百七十九丁、十間にして、平地二百五十里、五十五間山、地四百六十七里、八丁十五間、橋梁千四百、十九中著大なものは二千一箇所にして内石橋二、鐵橋四、木橋十二、木鐵橋三、其の他は土橋なり。
車輦業用馬車五十四、荷積用三百四十一、人力車一千六百九十一、荷車大車百一十一、同小車一萬九千四百二十五、牛車六百六十三、自轉車五千三百二十二、其他三千一、總計一萬七千六百三十輛なり。
●鐵道 鐵道院徳島線は明治廿二年一月の敷設にして徳島市、寺島町を起點とし吉野川南岸を過り徳島、藏本、府中、石井、牛島

金融、交通

同 大瀧半三郎 藤川佐太郎
支 配 人 庄野昌三郎
頭 取 美馬儀一郎 取締役 星合長藏
同 西野謙四郎 同 三木六三郎
同 久米木定助 同 西野嘉右衛門
同 山田庄五郎 監 査 役 美馬友七
同 坂東信樹 同 坂東安一
預金係主任兼貯蓄部預金係主任 豊田秀一郎
爲替係兼計算主任 杉本定雄
貸付係兼貸付主任 吉田種藏
會計係主任 吉田武雄
庶務係主任 三木友次郎
▲大 阪 支 店 西區北地江通五
▲撫 養 支 店 板野郡撫養町
▲富 岡 支 店 那賀郡富岡町
▲脇 町 支 店 美馬郡脇町





### 實業界之巨頭 高木次郎君

徳島市寺町



徳島縣に於ける實業界の巨頭として高木次郎君の聲名は既に著したるものあり、凡に群小實業家の譽を摩して、今や徳島の高木たるは四國の高木ならず、本邦實業界の高木たるに確り、今や中央實業家と比肩して、唯々斯界に活躍しつゝあり、蓋し、一種の壯觀たるべき事せず、其資性濃厚にして、夙に明敏なる手腕と巨富とは行くさうりして、益々益々なるし。今より七八年前、高知市に在つて、高知銀行の非理に抗議するや、入りて快刀亂斬を斷ち能く整理を排して、發展の礎地を築き、以て同行をして今日ありしめたるを初め、現時同地製紙界屈指の土佐紙會社の創立に參與せること少からず、且火災後の土佐セメン

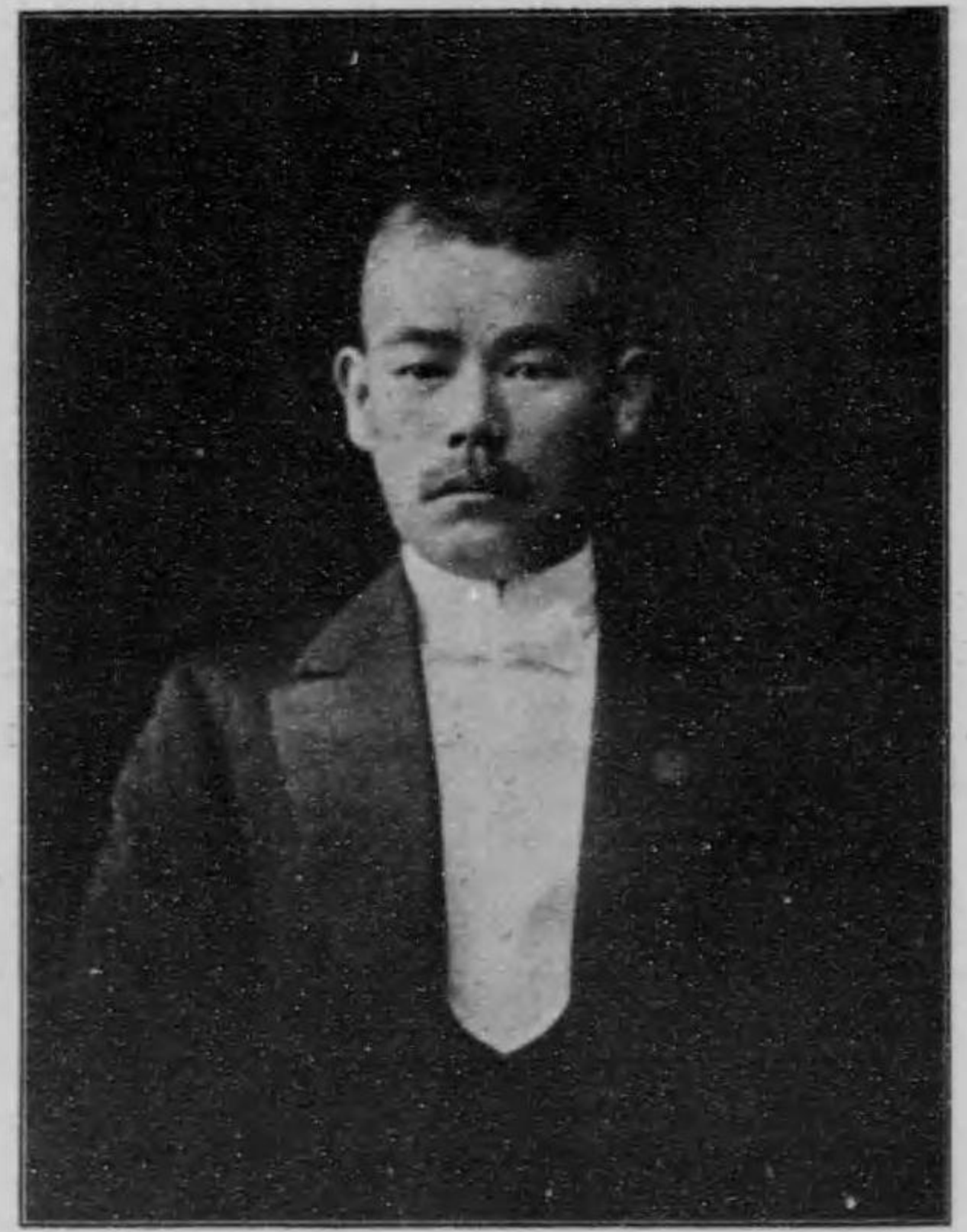
金十萬圓とし、大正二年十二月本店を現在の徳島市徳島町に移して、諸般の施設方針を改革し、大正三年七月、土佐銀行の總支店出張所を同行に併合するに共に更に資本金を五十萬圓とし、現在、金二百六十萬圓、貸出し二百七十萬圓に及び、餘下唯一の金融機關たりしむるに至りたるが近時財界の動亂に伴ひ、近く一躍資本金を二百萬圓とし、關西商業銀行と改稱し大いに面目を一掃せしむるに至りしが、尙今次の歐洲動亂は、我國各種事業の向上を促し來れるを以て、資本金五十萬圓を以て内外商事信託株式會社を組織し、各種製

造工業品の賣買、有價證券賣買、金融貸付等を營みつゝある外最近に致つてはプレス製、セラチンの製造に着手せるが、事業の發展と共に、大正七年三月資本金を一躍二百萬圓とし、大いに發展を來し、最近の決算に於て年一割五分の配當を爲せしが、近く更に規模を擴大して中央財界に雄飛すべく、現に高木君が社長たる内外物産株式會社(資本金一百萬圓)を合併すべく既に商議ありたるを以て早速實施するべきものあるを初めとし、元原田善三郎氏の經營しつゝありし徳島縣徳島郡三山村大字山田山其他數ヶ所を併せて總額約五十五萬圓を實收繼承して大正六年十月、資本金一百萬圓を以て内外物産株式會社を創立せるが、各種工業界の勃興と共に大いに熾烈なる發展を招來したるを以て、近く一大増資を敢行し資本金を三百萬圓とし、斯界に雄飛すべしと云ふ、其他資本金一百五十萬圓のコンビラ製紙株式會社を創立して社長となり、經營の任に當りつゝあり、爾來尙、株式會社明見銀行、土佐製紙株式會社、内外物産株式會社に社長たり、株式會社後援銀行、徳島製紙株式會社、相模製紙株式會社、阿波電氣軌道株式會社、愛媛製紙株式會社、國東鐵道株式會社、阿波製紙株式會社、日本電氣製紙株式會社に取締役たり、資性、熱誠、勇進、赤胆、目すべきものあり。



### 貴族院議員 三木與吉郎君

板野郡松茂村字喜來



同家は喜來の三木が、三木の喜來が稱する、由緒正しき名門にして、播州三木の城主別所三郎長治の裔なり、天正年中三木の落城して長治一門の自盡するや、一族現治密かに逃れて荒木村を頼み、秀吉を討たんと企てたるも、事成らずして二三の從者を率ひて喜來村へ除通す。時須賀家の、徳島に封ぜらるゝや喜來村を率ひて、松尾藤田氏の舟師に屬せしむ、後慶長十九年大阪の役起るに及んで、規治、其舟師に從ひ、浪華に至り、豊臣家に往年の仇を報ひ、父兄の深怨を慰むるは實に此時にありし、身を挺して屢々奇功を奏す、徳川家康、爲めに藤田氏を賞す、爾

之れ即ち三木家初代の祖先にして當代與吉郎氏は第十一代約三百年、世を遂絶して農を業とし以て當代に至り、今や縣内屈指の大地主たり先代與吉郎氏、多額納税者として、貴族院議員たること三

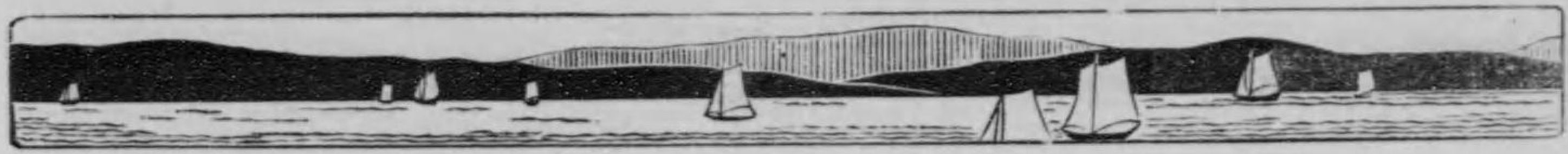
期、東京大阪に支店を設けて藍の染業に従事せるが、其後を享けし理主與吉郎君は、四十一年家督を相続して以來祖先の遺業たる農を本位とし、自ら農園を作つて其業を示す等一畝半心其の發揚に力の協ら製造業を營みつゝあるが、時代の趨勢に鑑みるにころなり、且

つ最近事業の發展は、更に規模の擴張を爲さざる可からざるに至りたるを以て、本年資本金一百萬圓の株式會社三木商店を創立し、東京日本橋區本町に本店を、大阪に支店を設け、専ら藍、染料工業製品の賣買に従事せるが、最近、一般工業界の好況に伴ひ、近日高橋鐵道の發展を招來して、今や本國、印度方面に直取引を開始し、常に輸入の防壁に資すところあるのみならず、進んで輸出を爲すに至り、蓋し輸出貿易は國富の増進を圖る唯一の途にして、今、其の如き、富強に依つて、着實な發展を爲すの下に、銳意努力しつゝあるは、邦家のために愉快に堪へざるころなり、蓋し、斯業に精通せる人材を推せる三木王國の發展は眞に驕目に値するものあるべし。店主與吉郎君は資性濃厚謹直の人なり、雖も没々たる氣骨を有す、兼に縣會議員、代議士に就任されしことあり、現在貴族院議員として上院に奉事を爲せり、因に株式會社三木商店の重役を列舉すれば即ち左の如し。

**東京本店**  
 ▲社長 三木與吉郎、常務取締役 大伏字之吉、三宅彌平、取締役 増谷五郎、監査役 三木相治

**大阪支店**  
 (大阪西區北堀江通五丁目)  
 ▲支店長 大伏字之吉





製薬家 犬伏元貞君

板野郡藍園村

板野家は同地方の豪農なるが、専ら製薬業を営みつゝあるが、斯業は今を去る二三十年前即ち元名三年、同家の祖たる大伏九郎右衛門元貞なる人が創業せられたるものにして、累代之を継承擴張して以て今日に至れり、古語軒は其の商號たり、然して同家の製薬は、活丹丸、紅丸丸、敬露丹、呼吸丹の四か方劑なるが、就中活丹丸(赤玉)は下痢に奇功を奏するものにして、大伏製薬の誇りとする所なり、元來同家の方劑は、家傳にして、渺たる化学の力のみありしものに非ずして、一種の神祕藥として、製薬界に超然たるものなるが、當主元貞君は時勢に感みる所ありて、之に最新たる高價藥の原料の精選に留意しつゝあるを以て、方劑の價値は年々共に上がり、大いに世に好評を得し、需要漸次増加して、販路の如きも、今や全國一國に亘るに及び、從來僅に一の家内工業に過ぎざりし規模を大いに擴張して、面目を一新するに至り、逐年高價藥の發展を招來しつゝあり、君は資性温良賢敏にして、人格高き所謂君子人として時流に超然たる所あり、夙に公共事業に志し、理に推されて郡會議員に就任し議長の要職に在り來ある亦所以なきにあらざるなり、年齒尚ほ四十有一才春秋の前途あり。



力を應用して、奏功を更に一層顯著ならしむべく、専ら研究に没頭するに共に

阿南鐵道株式會社社長 代議士 生田和平君

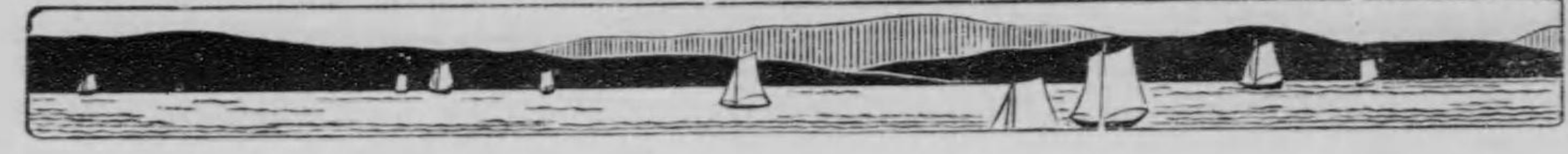
名西郡石井町

德島鐵道に依つて德島驛を過ぎ石井驛に到る手前、宏壯な目を驚かすに足るべき大建造物を見るべし、之れ即ち東生田の製氷工場にして、生田和平君の經營する所なり、生田家は地方屈指の實業家に於て國産製業者たりしも、最近來化學工業の發展に伴ふ染料に傾倒せられて、高進しつゝある趨勢にあるをみて四十三年前、生田君は生糸を廢して生糸製造業に従事するに



し大いに設計し大いに設計し大いに設計し

の改造を遂げ、大規模に完成せしものにして、同業は主として合衆或右衛門君の經營、専ら經營の衝に當り努力精勵し、やがて盛況を見るに至れり、或右衛門君は資性温厚にして商運の機運に應ずるに至つては人後に落ちるゝもなく、奮勵努力するのみならず且つ先天的新業の技藝に製品頗る優秀なるを以て市場に發價を博しつゝあり、蓋し將來の發展期して快つべく小社機業として前途多かり。



阿波會社株式會社社長 麻植鹿多郎君

勝浦郡多良良村

麻植家は同地方に於ける豪農なるが其は幼にして實業に趣味を有し且つ先天的識見に富み頭腦を有し夙に斯業界に入りて活躍し、理に公道無私株式會社社長、阿波鐵道株式會社專務取締役、會社株式會社社長、内外商事情況株式會社取締役等に就任し、一面、四國事業界の巨頭として知らる、高木大郎氏の事業に參與、し氏を補佐して大いに實業界に活躍しつゝあり、君は明治十九年勝浦郡多良良村に生る、明治四十二年及



や大阪商船株式會社に入り内務課庶務課等に在りて、格別精勵大い

に其の才能を發揮して、社内を重望あり、未來の内航課長に授けられつゝありしが、素志ある君は何ぞ永く池中の蛟龍たるべき、折角編ら得たる位置を放棄の如く去つて願ひ、獨立一個の天地を開拓して今日に至れるものにして、其の奮勵努力、確たる不拔の意志、明敏なる手腕は、今や大いに鋭鋒を現して、龍捲虎掃、以て斯界を卷舒しつゝあり、君資性、剛毅、氣宇宏闊なる人物にして、毫も圭角なく八面玲瓏にして、社交に長じ、世事に通ず、蓋し小社三十有三歳にして既に今日の位置を占めたる君の前途は大いに多望なりと云ふべく、雖も是は四國の麻植たり、關西の麻植たる亦決して遠きにあらざるべし。

高知商業銀行取締役 宮本幹三郎君

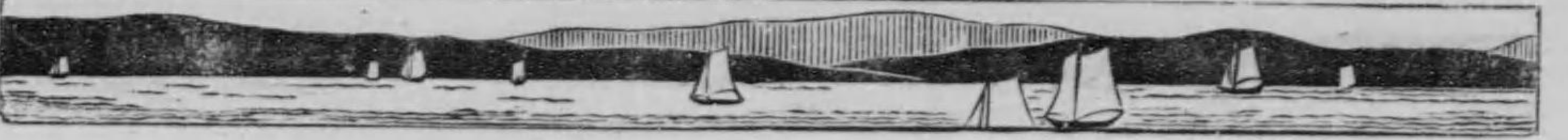
勝浦郡小松島町

君は幼に於ける有数の豪農にして、夙に農事の改良、産業の發達、教育の刷新等に志して其功績大いに顯著なるものあり、而小松島町會社に就任して町政其他に幾多所業からざるものありて、大いに地方民の信望を得つゝあるが、最近事業界に傾倒して、理に高知商業銀行取締役、阿南鐵道株式會社取締役等に就任し、將來大いに斯業界に活躍すべく地盤を基礎を造りつゝあり、君は資性温厚にして勤儉力行、豪も浮薄なる時代の風潮に於ては自ら本家の主義を以て漸進的、着實なる下に、子女繁々として、若々樹立を實現しつゝあり、然りとも



決して保守的の人物にあらず、時勢を測りて之に處するの方策を樹立し

て願ふことなし、蓋し君が小社三十有五にして夙に早く今日を得たる所以にして、君が將來は多々益々多望なるものありと云はざるべからず、然して君は、本文の初頭に記せしが如く先づ奮勵努力の結果たる巨富を推し、所謂、華靡び禮節、けさも悲しみます、水鏡雲を別に存を置くの地味にありとも、其の努力勤勉は以て其の活動に依つて生くる確々たる一介の農人、采擷のもの、雖も尙且満足はざるものあり、富豪の子弟繁々多きを例とする中に於て、亦君の如き成功の可能性を帯びたるは蓋し、一異彩たりと云ふべし。



### 井上嘉次郎君

名 西 郡 高 志 村

君は板野郡の農家に生る、資性温厚にして朴直の人なり、幼にして學を好み漢籍を修めて道誦する所深し、長じて井上家に入り、專ら

### 未 着

ら同家の經營せる青島製造業に従事して努力奮闘、産を倍して家門の隆昌を招來せしむる所ありたり、後町村制の實施せらるゝや推されて村會議員となり、更に郡會議員に就任し大いに地方公共の爲めに奮闘する所あり、然も從らに大言壯言を爲すことなく、黙々として實際的功績を挙げ職を廢せず、人に接して謙遜極めて厚く且つ宗教に歸依し禮法以て言動を讀む底の人物なるを以て、人呼んで小聖人云ふ、然して家族は頗る多人數なるも和氣藹々として禮法の如く、且つ後序整然たるものあり、君の如きは又地方風範的人物云ふべし、一千省一郡君、君が多年調育の効空しからず、資性温厚にして徳馨風を在郷軍人會長に推され亦地方青年の模範人物として推稱されつゝあり、家門の繁榮茂盛に堪へず云ふべきなり

### 戸田 萬平 君

名 西 郡 高 志 村



阿波の徳島が藍の産地たることは人口に膾炙されつゝあるが同家は四代以前より藍の製造業を營み君に到れるものにして、斯業の経験深く平生之が改良進歩に努力しつゝあるを以て、逐年製品の優良なるを得て、今や益々大いに激増する共に販路亦著しく擴大して熾烈なる發展を招來するに至れる、君は資性温厚にして實材、専ら斯業の經營に努力精勵しつゝある他、地方政界に活躍し夙に郡會議員にして議長たり、平生公共事業に専情し、私財を投する等功績の著しきものあり、聲名大いに喧々たるものあり、而して亦君は地方政界の顯士として敢て辯説の士に非ず、雖も、赤誠を吐露して郡民の福利増進を圖る人なるを以て、當然たる一勢力を有し政界に重きを爲せり、慶應元年の生世なり

### 板東 信樹 君

板 野 郡 川 内 村

君は松野郡小杉村板東の人にして、夙に志意にして知らる其學校教育を了ふるも、専ら農業に従事し、孜々懇々業に精勵するの勞あり、聲望の喧々たるものあるが、他亦實業界に活躍し、阿波商業銀行監督役、阿波共同内船株式會社監督役等に就任しつゝあり、資性温厚篤實にして、事に臨んで熱誠を披瀝し、精勵克己、恭儉己れを持って、苟くも世の指揮を奪るが如きことなく、その言動は、以て社會の模範とするに足るものあり、然も富貴に在りて淫せず、

### 未 着

多くの利財を削りて慈善事業を講ずる等亦奇特の行爲少からざるのみならず、亦も効平を誇らず、益々自ら修養して其其進歩するを恐る、君の如きは亦一實は志願の下の精進かなの句思ひ合されて奥床しき人物云ふべし、蓋し積善の家には必ず餘慶あり、徳亦決して孤ならず、家門の多々益々隆昌に達しつゝ、ある亦偶然にあらず云ふべし、君年未だ三十五、斯進氣鋭の人、其の將來の大成は遙かすに懸からざるなり。

### 富松 武助 君

名 東 郡 國 府 町



君は四國に於ける製糖界のオソツチにして五國内外十六ヶ郡を製造發賣せるものにして、同郡の創業は今を去る三二百年前即ち享保元年の頃より代々連続して變りなく噴々なる發展を遂げ今日に至るものにして、現主武助君は時代の變遷に應じて一意思心積極的有功業の提供に苦心の結果、常に品質を精進し、之に伴ふ施設を完成し、大熾烈なる發展を招來して今や同郡納税額の三分の一以上を占め、明治四十年頃より、米國、支那、滿鮮等に輸出を試み大いに聲譽を博するに至れり、更ば需要の激増に伴ひ規模の擴張を必要を感じ、日子三ヶ年に行る工場建築にして、之即ち國府町半町手前南方に遷移する、大建築物たるなり、併して業務の擴張に伴ひ最近大阪支店を設くるに至れり、君は資性温厚にして現代的人物にして夙に兩名製糖同業組合長たり百萬の富を成す、亦四國に於ける新界の一巨頭たるを失はざるなり、年齒四十三前春林に富む

### 西野 嘉右衛門 君

名 西 郡 小 松 島 町

西野家は十五代連続たる舊家にして且つ四國に於ける第一流の實業家なるが、夙に國産藍の製造、酒造業を營みつゝあり、國中酒造業は頗る、大規模なるものにして該郡の琴平町に酒造場あり、同家の醸造に係る酒造業は琴平宮の御酒に司ひられ優良品として其名あり然して其の酒造業は非常なる額に上り、販路は全國一圓に亘り、向年々需要増加の趨勢を示しつゝあり、君は明治十一年の生れにして夙に志意を奮ふて東洋に學び東京専修學校を了へ、一年志願兵として入隊し、陸軍三等主計に任官して日露役に従軍せしが功に依つて一等主計に進み歸來、郷里にあり實業界に活躍して阿波國銀行、阿波商業銀行等に監督役たり、資性温厚謙直の人にして益々家門を榮えしむるべく事業に努力精勵する三十二年一日の如く

### 未 着

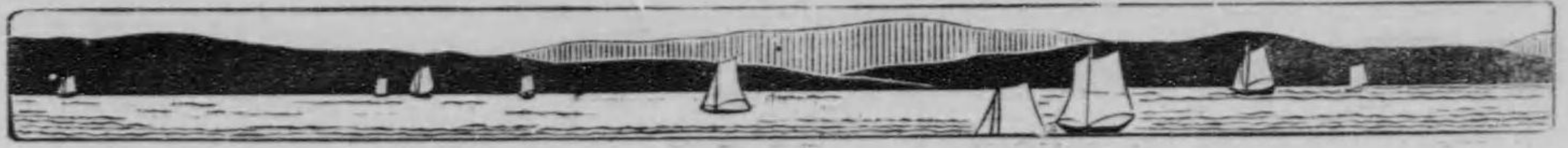
一實業家の改良進歩に努力しつゝあり、蓋し熱誠は萬機に充つ、今や、家業大いに隆昌に輝き産亦倍に倍せり、君の手腕と誠意は又以て地方實業界の雄たるもの云ふべし。

### 大串 龍太郎 君

名 西 郡 一 條 村



君は同地方有数の實業家にして明治二年の生世なるが、性温良にして人を容るゝの雅量に富む大器にして徳島縣實業界に於ける開祖にして知らる、即ち明治十年地方金融の便益に資すべく徳島銀行(現在資本金五十萬圓)を創立して之が頭取となり、大いに金融界に密與するに至りしを初めし、二十八年電氣事業の必要なるを先覺し徳島電氣會社(現在の徳島水電)を創設し二十八年交通機關の不便を慨して阿波鐵道を布設し四國鐵道建設ならむべく創立委員となり、大いに奔走する所あり徳島鐵道會社の成るに及んで社長に就任して積極經營に努め、又明治三十三年阿波鐵工銀行を創立し近頃は大正元年八島電機株式會社を創立し理に取組む社長たる等、縣下の各種事業は殆んみな君に依つて爲されたものならざるはなく、其功は没すべからざるものあり、然も資性温良にして益々効平に誇らず、眞に徳島縣を徳島水電に導與するに際し君が多年の功勞を思ひ、萬金を贈與せんとしたるが辭して受けざりしが如き、亦君の人物を推知するに足るべし君老たりも尚も尚壯者に優るあり



### 岡 順次君

板野郡大津村



岡家は縣下有数の豪族にして、君は農科大學林業科に學び大いに非凡なる識見あり、後、陸軍に入りて砲重兵中尉たりしが、退役後郷に歸り、専ら農事改良に盡力し、其の功績顯著なるものあるのみならず、亦地方の後進青年の指導に盡すところから、されば地方民の信望頗る篤く、殆んご親の如き關係にあり、君風に政治に趣味を有し、先づ倫理、凡ならざるものありしが、明治四十四年推されて縣會議員の椅子を占め、且つ副議長に就任し、郡政を料理して、諸施設上、郡民の福利増進に努め、其の功勞又著しきものあり、同縣下に於ける小政治家として大いに將來を囑目せらる、蓋し近き將來に於て代議士として日比原頭侃堂等の論陣を漲り大いに憲政の發達に努力するの目來るべく、君が前程は多々益々多量ありまぶべし、年齒四十有、資性濃厚正直の人、讀書、繪畫に趣味を有せり、位階は從七位、勳等、勳六等、夙に大津村在郷華人分會長たり大正八年亦推されて縣會議員に就任前途遠大なり

### 小口 卷太君

名東郡加茂名町

小口君は先づ小口君が農に香葉業の發達に作り製米業の大いに有望なるに著目し、明治十年、製米を經營するに到りしものなるが、明治四十一年に至り、大和五條町にありし工場を修し同所の創業を初めしものにして當時發數僅々九十七個に過ぎざりしが爾來日を逐ふて業務の發展するに伴ひ、今や四百六十一家を有し最近製産高一千五百噸、此價格百三十萬圓に達せり、併して同所は初代小口君重氏を主として共同經營に保るものなりしが、先考の物故する

### 未 着

に及んで其長男重氏親名して信州諏訪郡平野村の本店を經營し其の舍弟たる君は徳島の小口組徳島製絲所の所主として同所の經營に當るに至れり、君資性、明敏に士魂商才あり、大いに經營の才に長じ、且つ努力主義を奉じ、製絲の事に通せる人物にして同所今日の發展は全く君が經營に在るに依るものなるべし蓋も、一面支配人等原源十郎氏が、四十三年同所の開業以來信州より來つて、終始一日の如く協働努力し之を輔佐したるに負ふもの多し云ふべし

### 後藤田 千一君

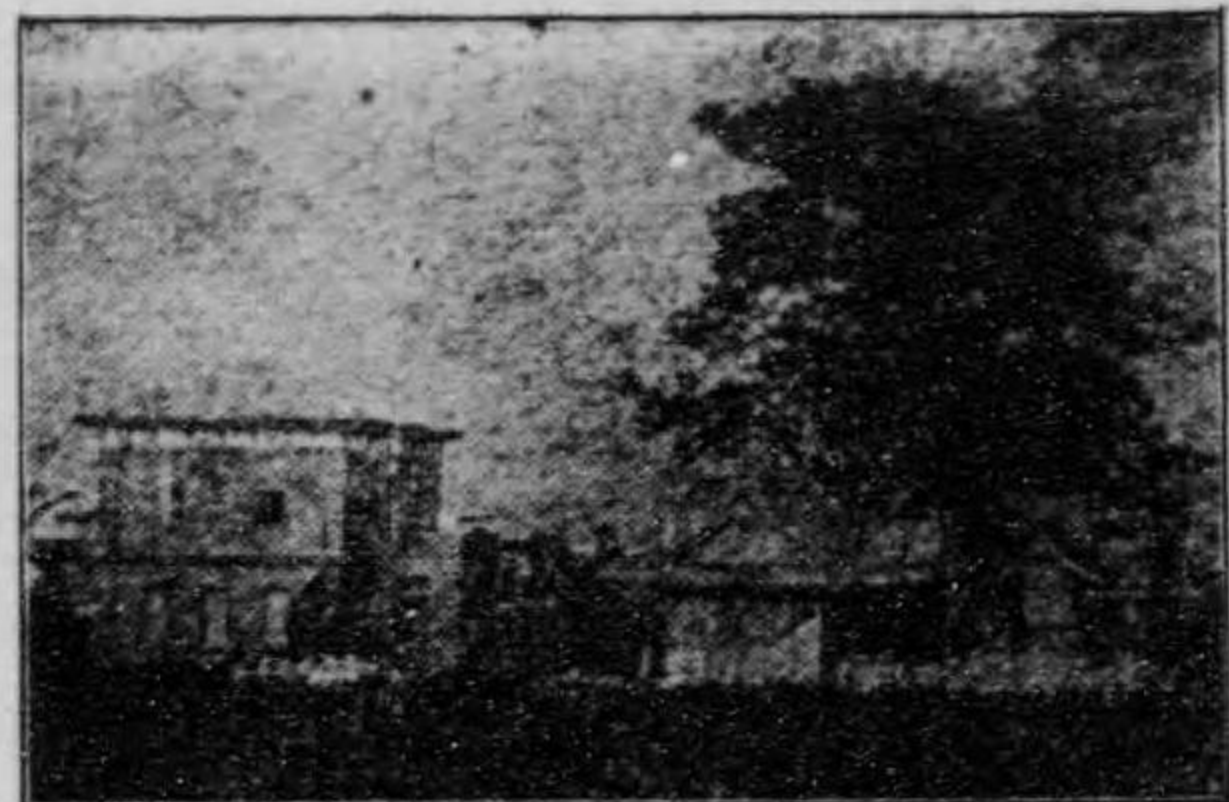
麻植郡川島町

同家は川島町にあり縣下有数の豪族にして、幼にして學を好み夙に漢語の流儀を極むる所あり、長じて實業界に入り、大いに活躍するに至れり即ち君が現に關係せるものは徳島水力電氣株式會社社長、内外商事信託株式會社取締役、阿波鐵道株式會社社長、福西銀行取締役、等を初め向他に數種あり、然して自ら後藤田銀行を經營し、地方金融の開發を期しつゝあるが、同行は君が非凡なる手腕と、聲望に依つて、頗る堅實なる發展を招きし夙に同地方財界の雄たり、君は亦地方幾多の公職即ち徳島商業會議所會頭、川島町會議員等に就任して大いに公共事業に盡力せり、資性濃厚廉潔にして頭腦極めて明瞭たり、君近來思ふ所あり關係を辭し公職を退いて歐州地へ引成種の事業を企圖せんししたるも、許されざりし云ふ、又以て其の信望を知るに足るべく向君の前途を期して大に見るべきものあり



### 石原 六郎君

麻植郡西尾村飯尾



石原家は地方有名なる飯尾家の末孫縣下の名門にして多額納税者の類に列せり氏資性一見温良なるも然らず氣骨あり剛氣凛々たる一奇人たるを失はず氏は書畫古文書、刀劍等に最も深き趣味を有し藏刀亦世に推賞さるゝ名刀多し氏の事業特筆大書すべきは徳島、岐阜兩縣に亘り約二千町歩の模範的森林を有し其他公共的事業も多大なる巨財を投じて盡其功績しませり現に當地農藝文庫に即ち御大典記念事業として氏の獨立建設に保るものにして多額の藏書ありて本邦詩歌専門の圖書館たり實に氏の如き地方稀に見る奇特なる人云ふべし

### 井内 太平君

徳島市西新町



徳島市西新町に本店及工場を有し製菓業を大阪西區九條中通に置き其生産能力の多き三品賞の優秀なるを以て本邦製菓界を霸王として知らるゝ井内製菓製作所主井内太平君は縣下有数のが實で徳島市参事會員、商業會々議所會頭として徳島市の爲めに盡す所従からず本年多額納税者の類に列せり當年五十六歳徳島市に於ける偉人たるを失はざるなり

### 一板 俊太郎君

徳島市出来島町



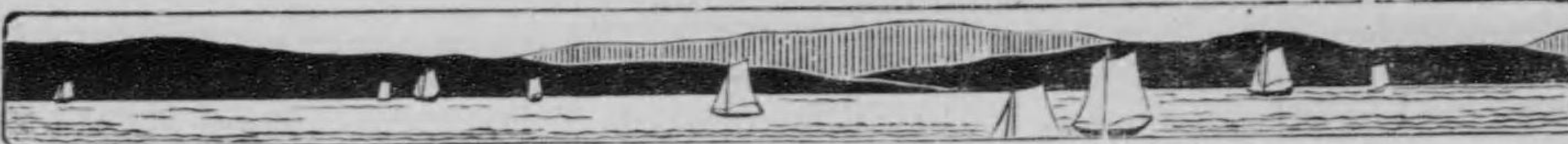
君は、安政三年を以て生るゝに官界に入り、司法官たり或ひは行政官たり、最近京都府に於て重要な位置を占め、敏腕の間、わ高かりしが、辭して郷に歸り、併ては推されて代議士たり政界に

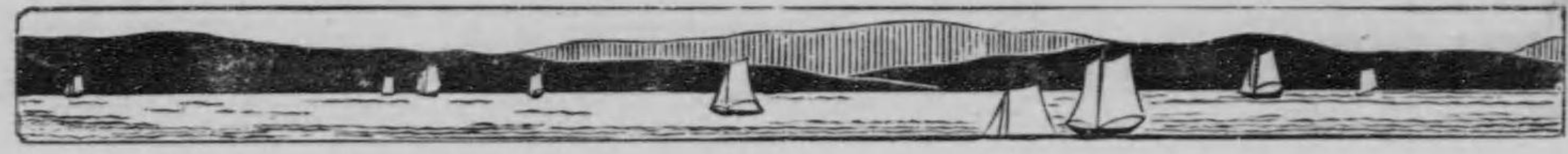
### 犬伏 宇之吉君

板野郡藍園村



君は嘉永元年板野郡藍園村犬伏系の名門に生れ、長じて製糖取産業を営みつゝありしが、君の著實なる性格三黨間には遠に同地方の富豪三木家に知られて聘せらる、當時君は年齒僅かに二十九才の小壯なりしに、非凡の手腕も格、勤精誠は能く先鞭を敬服せしめたり、明治十年に至つて製糖取産業を擴張し東京に支店を開設するや支店長に就長たり、君は資性濃厚にして、高潔、社内外の信望厚し、蓋し君は昔に同社大坂支店の今日あるに負ふところ少からざるのみならず、實に三木家の功勞者云ふべく、今日三木家の君を遇するの厚き決して過當なきにあらざるなり。





實業家 生田澤之資君  
美馬郡 駈町



君は美馬郡駈町に生る。天資濃厚著實の人にして地方開發の目的を以て各種の事業を企圖經營せしも天を知らず。一再ならず厄の不幸に遭遇し實現を得ざるは大に同情すべきなり。君は之を意に介せず。既に製米業を開始し十年一特の旨表彰されたる故郷に還らず。君の如きは稀に見る模範的實業家にして實業に勵むべきなり

化學工業家 富田久三郎君  
板野郡 明神村



君は遠州濱松の産。嘉永五年を以て生る。家は代々製薬業に従事せるを以て幼少の頃より製薬業に好況を呈するに至れるを以て。明治二十六年業務擴張のため阿波國板野郡明神村に工場を設け。次で本店をも此地に移し今や盛烈なる發展を招きし製薬界の巨魁たり。資性濃厚にして信用篤し。

政治家 原田佐之治君  
名東郡 國府町



氏は先天的政治家風の人にして年少政治に志あり。□に政界に入りしが三十六年縣會議員となり。大正二年縣會議長の椅子を占め。爾來引續いて其任にあり。夙に縣政の進歩に。公共事業に盡力して貢獻する所少からず。徳島縣政界の重鎮たり。君亦一面實餘り理論に走るの癖ひあるは惜むべきなり。君の偉大なる人格全數より見れば素より勝たる此一事に於て是非するの要を見ず。年齒未だ四十五。毛も角も本縣の政治家たり。

縣會議員 大久保義夫君  
美馬郡 駈町



君は縣下有数の素封家にして漢語の素養深く亦書道に通ず。氏は常に公共的の地方開發に資する所多く最近酒造會社を経營し利益配當の出來得る迄重役は報酬を受けざるが如き條件の下に組織されたる堅實なる會社に重きをなし。努力専心朝野の聲望厚く前途有望の少壯政治家たるを疑はざるなり。

阿波國總務 多田宗近君  
勝浦郡 小松島町



多田家は縣下有数の資産家にして先考昌正氏は有名なる皇軍將家として生前密特の行爲少からず。大いに聲名ありしが。君亦夙に先考の志を體し皇室を尊崇する。濃厚且つ頗る慈悲心に富み。地方の公共事業に。盡力して功績頗る顯著なるものあり。夙に實業界に入り活躍しつゝあるが。曩に阿波國道の創立せるや取締役に推され。線路布設に關し進んで土地性濃厚誠意の人なるも筋氣強盛せるの趣きあり。年齒未だ三十有。前途大いに春秋に富む新進氣鋭の人。氏の將來は實に多端なり云ふべく大いに注目して觀る所なくばあらざる也。

工業家 長尾傳藏君  
徳嶋市 西新町



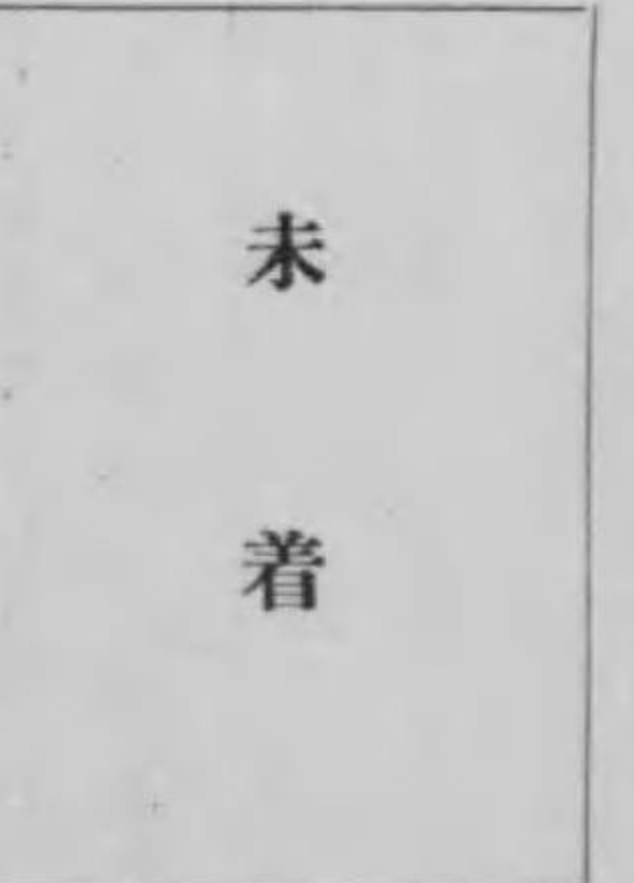
君は資性濃厚實業家の人にして常に氏は奮闘努力を人生の生命に唱導せり而して幼少の頃頃反物店の雇人となり一意専心の努力は遂に同店を隆盛ならしむるに至り遂に榮進して同店支配人となりや。同時に君の手腕し君の生命たる奮闘努力は遂に空しからずして。今や縣下一位の工業家として世人に知らる。に至りしは蓋し故なきにあらざるなり。

勝浦郡長 武井賢治君  
勝浦郡 小松島町

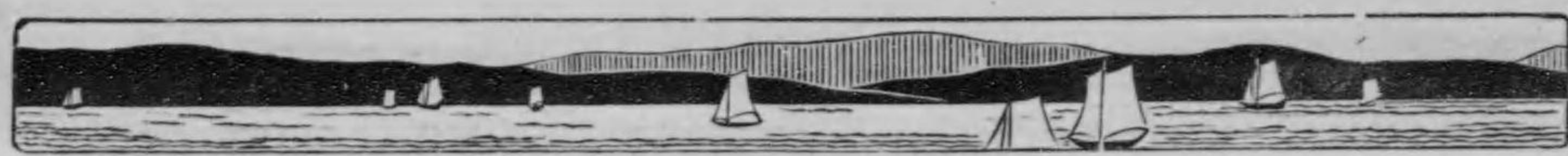


氏は徳島市大字宮三島町の出身にして。慶應三年を以て生る。夙に徳島縣師範學校卒業するや直ちに教育界に入り。小學校教員となりしが。理想高邁にして識見闊達。學識共に秀で。且海の如き慈愛に富むるを以て好箇の教育者としてあり。郡民を愛護する。濃厚。終始一日の如く勤懇誠實し施政宜しきものあるを以て。治績大いに譽り輿論の厚きを加ふ。君の如きは亦多を得べき政治家云ふべき也。

板野郡長 國友徳芳君  
板野郡 瀬美町



板野郡は徳島縣下唯一の産業發展の地なるが。戰亂以來。更に各種事業勃興著しきものあり。蓋し之を誘導し若しくは獎勵して今日に到らしおたる國友板野郡長の功は洵に没すべからざるもの云ふべし。君は美馬縣東茶屋郡小川町しが。向未だ日淺し。雖好評を以て郡政を料理せり。君は資性濃厚にして手腕なるのみならず。兼て社交に長け。郡治に慣る。蓋し今日大いに聲名あるは偶然ならず云ふべし。本年四十歳。





麻植部長 松浦並雄君

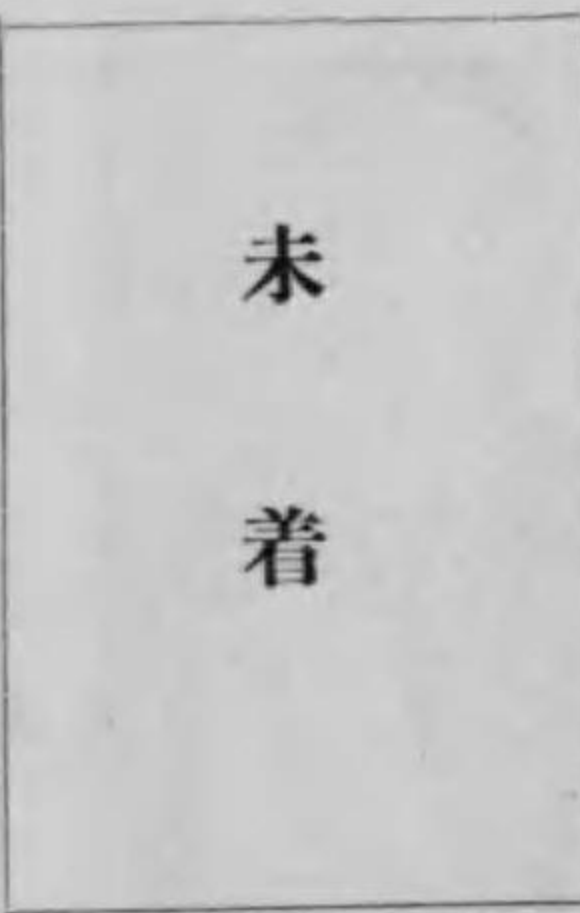
麻植郡川島町



君は慶應元年の出生にして夙に官界に入り、郡書記、縣議等を歴て麻植部長として、今日に至れるものなるが、君は學歴さして見るべきものなしと雖も、夙に實地の経験深く、施設常を得て漸らざるものあり蓋し實力の人の一日の如く、精勤大いに推稱するに足るものあり、今日の聲望ある所以なきにあらずるなり。

製糸家 福田清平君

板野郡大山村



君は同縣に於ける機業界の重鎮として知られつゝあるが、幼にして漢語を學び、長じて地方産業の發達に伴ふ製糸業の有望なるに奮目し、明治三十五年斯業に従事するに至りしものなるが、爾來躬身的に奮勵努力、致々懇々として業に勵み、専ら家業の發達に精勵する所なりたるを以て、日を逐ひ月を重ねるに從ひ遂に今日の聲望を招來するに至れり、蓋し斯は君が著眼の見なり、自我を張るこなきを以て一人の敏なく人皆君に推服し聲々實に噴々たるものなり、然れども君は元來意志堅固にして決斷力あり、自我を張るこなきを以て、決して意志薄弱にして自任なき所にあらずるなり、君亦、地方の機業界に於ける一商傑たるのみならず、人格者として求めて他に多く其人なきに實に高風欽すべく、稀に見るべき人物なりと云ふべし。

藤井省三君

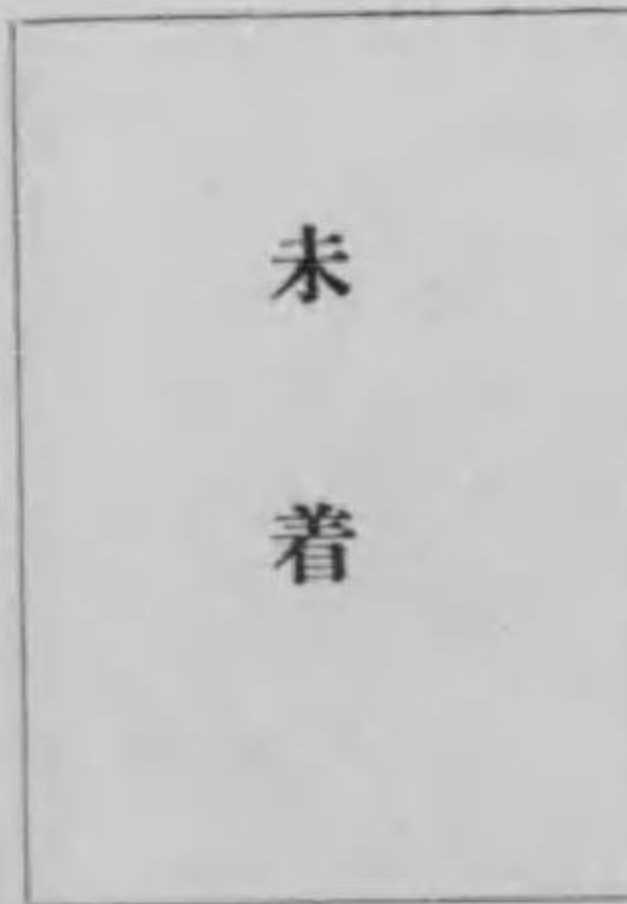
名東郡國府町



藤井家は縣下有数の大地主として、農に従事す、夙に農事の改良に専心し、且つ公共的事業に熱心する等地方開發に鋭意奮勵する三十年の如く、其の熱誠は大いに感ずるべきもの少からず、實性温厚にして任侠、慈善心に富み従來風を私財を削いて公益のために盡したるこ改舉に選ばるべきものあり、且つ元來專門的學校教育を受けたる人にあらずるも、任にあらず、君の如きは又以て地方の模範人物と稱すべきなり、年僅未だ四十四

日清汽船港口支店長 後藤富賀美君

名東郡上佐那河内村



氏は徳島縣名東郡上佐那河内村の出身にして、郷里の中学校卒業後、東京同文書院に學び業をふるや日清汽船會社に入り、海支店長として精勤奮勵する三十年、其の超風の手腕は實業を抜き興に社内を重寶ありしが、大正六年被擯せられて漢口支店長に就けられたるは、其例他に多きを見ず、又當代の聲望にして且つ小社氣の實業家と云ふべし、前途多々多難なりと云ふべし、年尚ほ三十三、幾時難に味をなす。

未亡人 手塚ヒデノ女史

名東郡國府町



手塚家は今を去る百十幾代の豪族にして國産製糸を發し故に三郎氏は縣下有数の商人たり、實性温厚にして常に公共慈善に盡力し、世人の聲望亦厚かりしが、大正三年四十有年にして不歸の客たりしは切に惜むべし、種に見る由緒たるを失はず、支配人田村君温厚補直にして同家の元勳たり、君は未亡人を補佐して誠意格勤現代稀に見る忠臣たるべきと云ふなり。

名東郡會議長 三木利五郎君

名東郡國府町



君は安政三年を以て生を農業を以て業とし、致々懇々として業に精勵し、夙に起き夙に寝ね所謂晨星踏月の人物なるが小壯時代より公共の觀念厚く平生農事に改良に熱中大に貢獻する所少からず、其他教育に産業に君が盡したる功績は實り、故に聲名頗る噴々たるものあり、從つて事業は悉く君に快たされ能はざる有様なるを以て信望頗る篤し、氏の如きは地方開發の模範人物と云ふべく、奇特の行爲は大いに推稱せざるばあらずるなり

阿波農工銀行頭取 志摩重三君

名西郡藍畑村



君は天保十年の生れにして家業は國産製糸と斯界の重鎮たるが、夙に地方金融の便益に資すべく自ら奔走し徳島農工銀行を創設すると共に之が頭取に就任せしが其の取置たる營業方針は逐年順調なる發展を招き云ふべし、實性温厚の士にして夙に縣會議員たり好んで公共事業に専心し熱誠盡す。

農業監督員 平野鍋吉君

麻植村山瀬村



君は麻植村山瀬村の實業家に生る幼にして漢語を究む、長じて明治三十二年成る勳氣を以て麻植村山瀬村に從事する事となり、當初麻植村三山村大内山瀬山瀬同種々區八萬二千餘坪を買収し、第二次明治四十二年海部郡淺川村淺川山瀬同種々區六萬三千餘坪を買収し、試掘に着手せし成績はヨリ以上良好なるものありて、遂に農業に味を覺へ、直にして、朝氣に富む常に公共事業に盡して其功少からず、既に推されて縣會議員となり、議院中、夙に地方開發に資する所多し、人格聲望共に高く氏の前途や許々たるものありと云ふべし。





行政自治

土佐全国一市七部にして、高知市に置き、各市行政廳へは、國...

官吏 職員は委任官一、委任官廿六、委任官百廿四、其他...

自治 市町村官吏は市長一、町村長百九十三、助役百卅...

天産 其の多くは産業比較的發展し、然して交通、衛生等の施...

財政

天産 其の多くは産業比較的發展し、然して交通、衛生等の施...



油發動機、水力發電機、車動機を合せて八十餘機、三千五百三十餘...



高知本町橋詰

會社

産業

農業 本縣は一箇年中、大部分は急激的氣候にあるを以て...



高知公園外園の花

工業 古來土佐紙の名は岡州、美濃、伊豫と共に全國に高...

會社

の面目を失ふに至るも、多岐多岐、安藝郡地方には遠く中央山系...

白洋汽船株式會社

創業大正二年一月、資本金二百萬圓(總込)一、株五、十圓...

株式會社濱崎造船所

創立大正六年六月、資本金五十萬圓、一、株五、十圓、總込高十、萬五...

土佐捕鯨株式會社

創立大正六年九月、資本金一百萬圓、一、株五、十圓、總込高十五、萬圓...

土佐紡績株式會社

創立大正六年七月、資本金三十萬圓、一、株五、十圓、總込高七、萬五千圓...

取締役 池田安兵衛 同 利岡楠吉

農事

農事 農戶数は農業を以て八萬三千五百餘戸、從...

米

米 農産の約半額を占め、作付二萬八千六百四十八町一反、收獲...

麥

麥 作付一反別二萬五千五百七十七反、收獲高、大、小...

工業

工業 古來土佐紙の名は岡州、美濃、伊豫と共に全國に高...

土佐防水布株式會社

創立大正六年十二月、資本金三十萬圓、一、株五、十圓、總込高七、萬五千...

土佐紙株式會社

創立明治二十三年五月、資本金一百萬圓、一、株五、十圓、總込高百十二...

土佐紙系紡績株式會社

創立大正六年四月、資本金二十萬圓、一、株五、十圓、總込高五、萬圓...

土佐紙業株式會社

創立大正七年一月、資本金七十五萬圓、一、株五、十圓、總込高十八、萬七千...



金融

社 長 岡林起盛 常務取締役 宮地清氣
取締役 井上重次郎 同 高橋幸太郎
同 森津常吉 同 關朝治
同 高橋榮太郎 常務監査役 小川豊
監査役 今村忠夫 同 大久保誠義
同 森淳太郎 技師顧問 横川博恵
同 井上和水
▲高知支店 須崎支店

▲土佐運輸株式會社 高知市農人町

創立大正三年九月 資本金一千萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 白井鹿太郎 同 西山豊次
同 一柳助太郎 同 中村辨次
監査役 眞鍋喜八 同 隔田龜次郎

▲土佐現株仲立株式會社 高知市通戸町

創立大正六年九月 資本金二千萬圓(拂込額)一億五千圓
立金二千五百圓、利益配當期一年一割
社 長 今井儀平 事務取締役 川村寅次郎
取締 野村重猪 同 川村常吉
同 野村六助 監査役 濱田龍之助
同 山崎長太郎 同 岩戸楠吉

▲土佐電氣鐵道株式會社 高知市本町

創立明治三十六年七月 資本金一千五百萬圓(拂込額)一億五千圓
積立金四百七十七萬四千五百圓、利益配當期一年一割(前期年一割二分)

社 長 齋藤利西 取締 役 宇田友四郎
同 松村寛三 同 川崎壽三郎
同 野中幸右衛門 同 濱口恒十郎
同 今岡宇太郎 同 西山豊次

▲株式會社上田商店 吾川郡伊野町

創立大正六年七月 資本金五百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 上田哲次郎 同 上田榮治
同 上田孝夫 同 北添春喜
監査役 上田重八 同 今村一正

▲高知金融無盡株式會社 高知市種崎町

創立大正二年十一月 資本金三百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 廣末常三郎 同 橋本又右衛門
同 小松時次郎 同 深瀬信澄
監査役 岡村林藏 同 春泉寺春吉

▲株式會社高知製糸所 土佐郡野田村

創立大正六年七月 資本金三百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 役 川崎三郎 同 野中幸右衛門
同 宇田友四郎 同 井上善次
同 三浦重作 同 西山豊次
監査役 水田正夫 同 深瀬眞澄
支配人 下元鹿之助

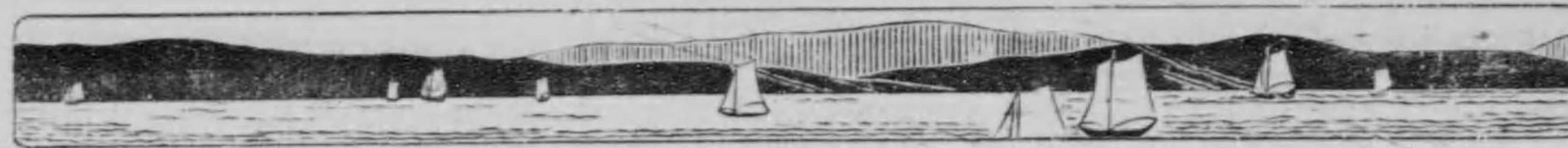
▲赤岡織布株式會社 香美郡赤岡町

創立大正六年十二月 資本金三百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 役 藤田喜全 同 久武勝美
同 池田永馬 同 磯達祥吉
同 郡積吉次 監査役 橋本清良
同 宮地元治 同 河村義徳

▲北原水力電氣株式會社 高知郡高岡町

創立明治四十五年七月 資本金二千五百萬圓(拂込額)一億五千圓
積立金六千二百三十圓、利益配當期及前々期年九分

金融機關及會社

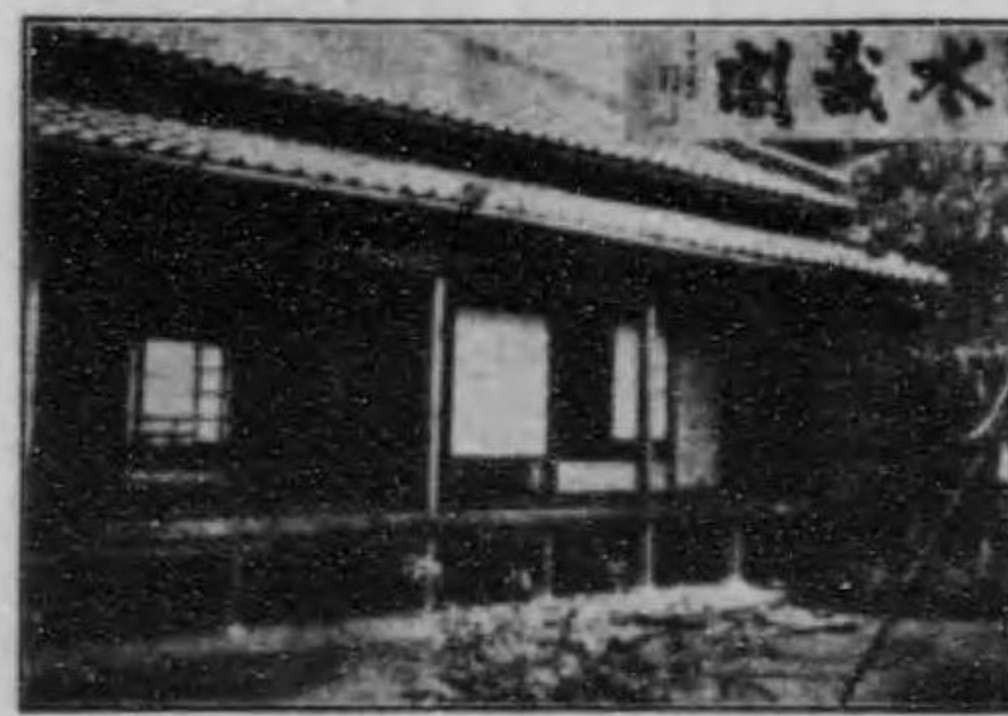


▲土佐産業株式會社 高知市蓮池町

創立大正四年七月 資本金二千萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 佐藤安右衛門 同 井關藏治
同 島本壽龜 同 高橋卯太郎
同 岡林爲吉 監査役 伊野部兵馬
同 小笹伊八
▲支店 大阪

▲宮城製紙株式會社 土佐郡野田村

創立大正六年十月
資本金六十萬圓、一
株五十圓、拂込額三十
五萬圓
取締 役 西原貞力
同 宮崎 植伍
同 田所 藤吉
同 深瀬 眞澄
同 前田 政吉
同 濱本伊與次
同 瀧田 浩 監査役 高見 盛章 同 杉村 政心



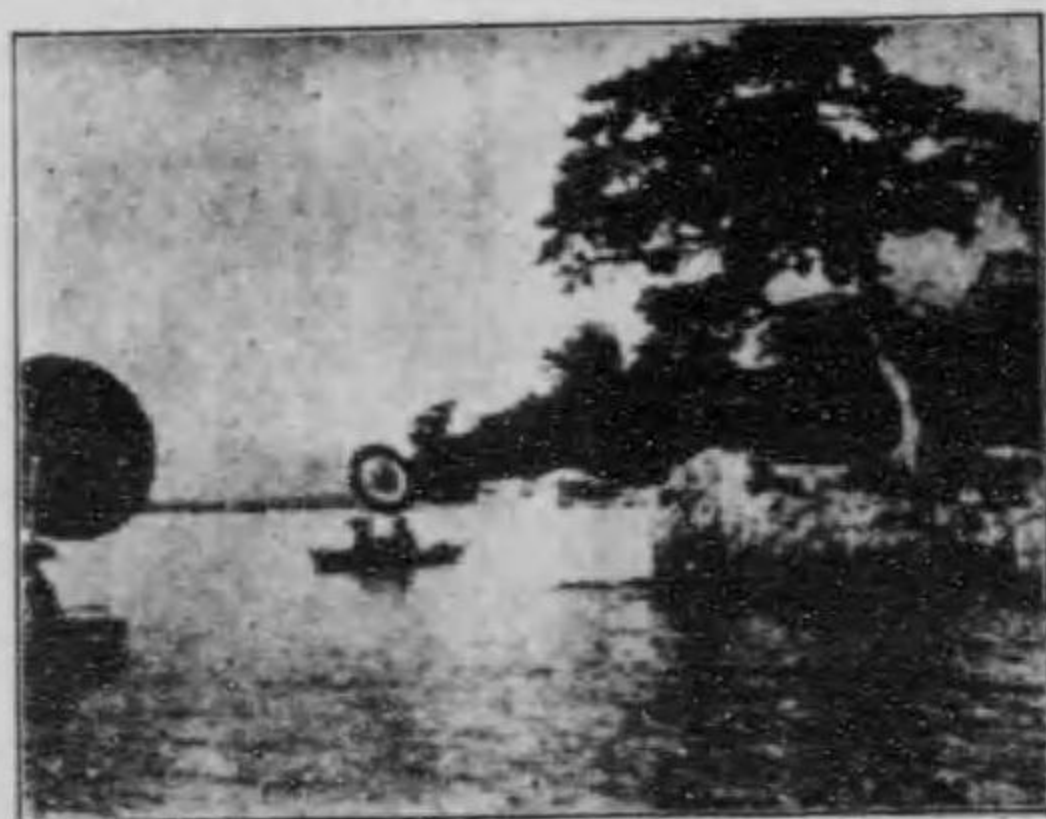
(園哉水内邸侯内山)

▲土佐製紙株式會社 土佐郡野田村

創立大正三年六月 資本金五百萬圓(拂込額)一億五千圓
積立金一萬七千圓、利益配當期一年一割
取締 役 野中幸右衛門 同 町田仁仙太
同 横山慶爾 監査役 水田正夫
同 濱口恒十郎

金融機關

社 長 岡林起盛 取締 役 清上與三郎
同 竹村誠十郎 同 森 義雄
同 川野佐助 監査役 千阪眞幸



景之江吸知高

銀行

▲土佐農工銀行 高知市本町

創立明治三十一年十一月 資本金八十萬圓、一、株二十圓、拂込額五
十一萬五千圓、積立金三十七萬五千二百七十七圓、諸預金六十五萬
九千六百九十二圓、利益配當期及前々期年九分
頭 取 山本 忠秀 事務取締役 宮地 元治
取締 役 深瀬孝太郎 同 田島 下學
同 松岡佐太郎 監査役 井上作次郎

▲土佐舎密株式會社 高知市本町

創立大正六年八月 資本金五百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 役 岩藤勇吉 同 高塚安次郎
同 中村直次 同 河崎助太郎
同 深田正利 監査役 太田顯藏
同 西原直方

▲土佐セメント株式會社 土佐郡野田村

創立明治四十一年八月 資本金二百萬圓(拂込額)一億五千圓
積立金十萬七千二百九十五圓、利益配當期及前々期年三割
社 長 宇田友四郎 取締 役 野村六助
同 中川喜義 監査役 竹村與右衛門
同 吉川滿次 監 督 川崎慶太郎
支配人 弘瀬重正
大阪出張所 東京出張所 門司出張所

▲越知製糸株式會社 高知市種崎町

創立大正六年九月 資本金二百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 役 岡林起盛 同 北川英和
同 泉瀬幸太郎 同 西 養吉
同 岡村隆彦 同 武山儀七
監査役 清上與三郎 同 三宅 亘
同 藤崎登弘

▲南海釀造株式會社 高知市要道寺町

創立大正六年七月 資本金四百萬圓(拂込額)一億五千圓
取締 役 西山豊次 同 南 鹿藏
同 濱田幸衛門 同 濱口恒十郎
同 野村六助 同 村田光敬
同 吉田忠亮 同 威能幸男
監査役 平井敬太郎 同 栗尾鬼之助

▲株式會社土佐銀行 高知市種崎町

創立明治十九年三月 資本金二百萬圓(貯蓄金)一億五千圓、
積立金一百萬圓、諸預金四十六萬圓、諸預金六十八萬八千圓、
利益配當期及前々期年一割
頭 取 大島 慶司 事務取締役 小野松彦
取締 役 川崎保太郎 同 谷 流 水
同 横山榮枝 監査役 岡本直信
同 片岡啓太郎 同 武内駒喜
▼大阪支店 ▼寶戸支店 ▼安曇支店
▼赤岡支店 ▼後免支店 ▼山田支店
▼本山支店 ▼伊野支店 ▼高岡支店
▼須崎支店 ▼久禮支店 ▼中村支店
▼佐川支店 ▼上町支店

▲株式會社土佐貯金銀行 高知市八百屋町

創立明治二十年
九年三月 資
本金十萬圓、
十株百圓、拂
込額五萬圓、
諸預金十三
萬四千圓、諸
預金一百七十
四萬一千五百
四十圓、利益
配當期及前
々期年一割
行 銀 佐 土 社 會 式 株



行 銀 佐 土 社 會 式 株

二三三





常務取締役 吉本菊馬 取締役 山本忠衛  
同 西山覺次 同 井上作次郎  
同 瀧田幸右衛門 監査役 西内清  
同 池忠彦 支配人 楠湖正水  
本町筋出張所

▲株式會社高知銀行  
創立明治三十三年三月  
資本金 二百萬圓  
金 一百萬圓  
一株五十圓  
博込高百二十  
五萬圓 諸積  
立金三十六萬  
圓 諸積金一  
千萬圓 利息金  
配當金及前  
期一割



行銀佐土社會式株

頭 取 安田善三郎 常務取締役 實田道經  
取締役 西山覺次 同 井上作次郎  
同 瀧田幸右衛門 同 若菜福朗  
同 井上作次郎 監査役 金原 誠  
▼大竹支店 ▼徳島支店 ▼松山支店  
▼八幡支店 ▼宇和島支店 ▼宿尾支店  
▼中村支店 ▼須崎支店 ▼佐川支店  
▼高岡支店 ▼伊野支店 ▼木山支店  
▼後免支店 ▼山田支店 ▼赤岡支店  
▼安藝支店 ▼上町出張所 ▼松丸出張所

三浦出張所 下田出張所 上川口出張所  
久禮出張所 越智出張所 田野出張所  
實戸出張所 津呂出張所  
▲株式會社高知商業銀行 高知市稲屋町  
創立大正六年一月 資本金 百萬圓 一株五十圓 博込五十萬圓  
諸積金四十八萬六千九百七十五圓

▲株式會社赤岡銀行 香美郡赤岡町  
創立明治三十二年二月 資本金五十萬圓 一株五十圓 博込高二十  
萬圓 諸積立金六萬八千五百五十圓 諸積金八十八萬圓 利息金配當  
前期年八分前々期年一割

頭 取 大脇顯跡 常務取締役 吉田忠弘  
取締役 宮地元治 同 片岡啓太郎  
同 弘田徳三郎 同 岡村秀盛  
監査役 寺尾梅太郎 同 今井米五郎  
同 池田金吉  
▼和食出張所 ▼香宗出張所 ▼野市出張所  
▼山田支店 ▼美良切支店 ▼大橋支店

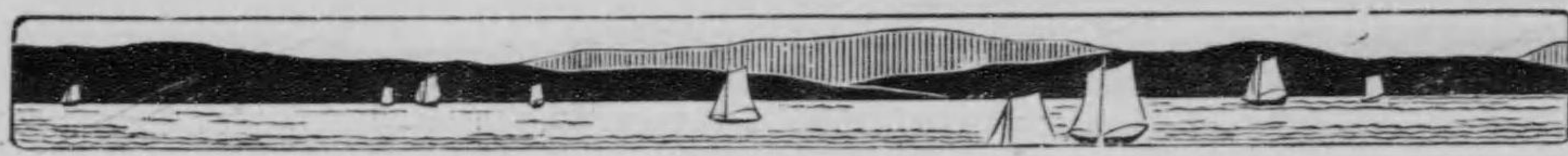
▲株式會社宿毛小野銀行 宿毛郡宿毛町  
創立明治三十三年一月 資本金五十萬圓 一株五十圓 諸積立金三  
萬四千五百圓 諸積金十六萬四千六百四十圓 利息金配當前期及前  
期年八分前々期年一割



交通  
高知市は、北に大川あり、南に津川ありて市街は其の下流に沿て形成す、四方に地勢をあげるのは水害の非常に多かる爲なり、而して岡市は岡内第一の都邑にして陸に離道なきも海に汽船ありて各地への交通頗繁なり。

里木御所跡 宿毛郡佐賀村にあり、正史に載すべきものなし、雖も、後醍醐天皇の御時、皇子一宮尊良親王を本國に遷され給ひしに云ひ、その御蹟なりと傳へらる。

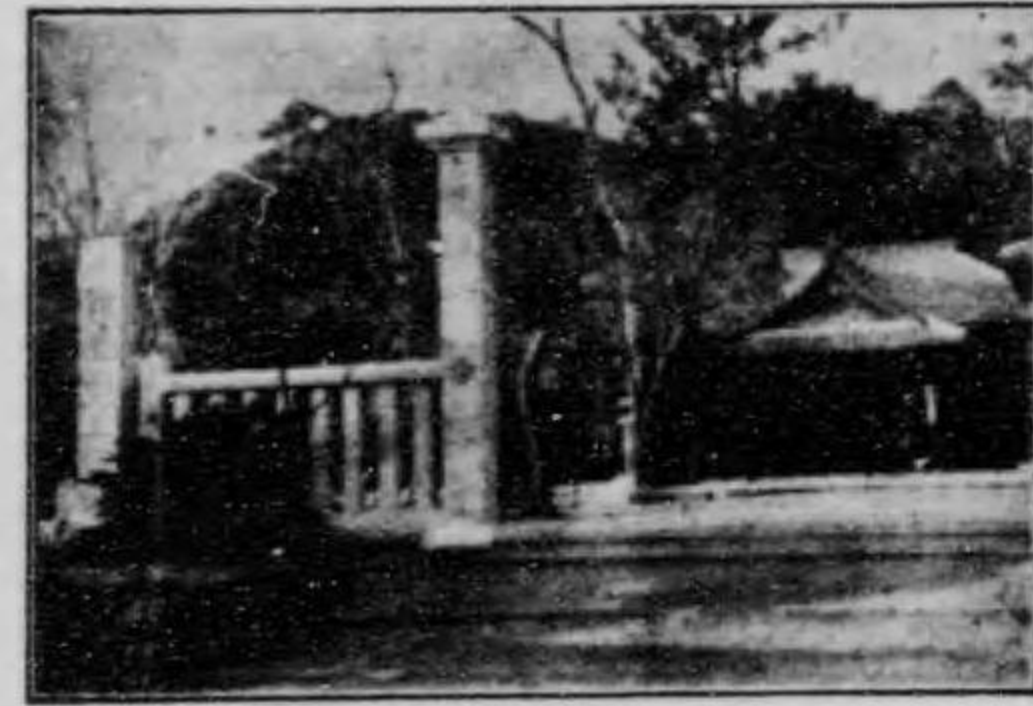
高知城址 始め山内一豊本城に治し、後遠州の掛川に移され、慶長五年再び高知に移封せられ、明治に列りしも、城址の今日に存するを城跡と名づけ、地は現に公園なる。



高知より東北に渡り、長門郡吉野川流域に沿ひ徳島縣池田を經香川縣通寺に向ふ、合計四十六里、千五百町なり。縣道は高知より西に至り或は海岸に沿ひ或は内地に入り極西宿毛に達し、一路は須崎より起り山間に入り伊予和町に達し、一路は山間を經ひ國境を越へ伊予松山に至る更に高知より東北に進み物部川流域に沿ひ香美郡に至るものあり、以上を幹線とし其他各所に連絡縣道有せり、合計百七十七里六町なり。里道は國道より分岐し町村各部を連絡し山地千二百四里、千町、平地千六百九十五里、三町、合計一千八百九十九里、千三町にして内幅員一間以上のもの五百六十九里、町なり。

教育

本縣の中等以上の教育は地積の度比して學校數不足り、乃ち師範學校は單に校内に女子部を置くに過ぎず、中學校、於學校、實業學校は、一市七郡を通じて中學四、高女二、實高女二、實業學校四を數ふるのみ。普通教育は各都市を通じて四百二十三分教、博八十三、學級千九百十五にして、學齡兒童九萬五千三百六十八人中、就學者一千二百十三人にして就學率九七、六七を示す。公學校數は總數十八萬九千



寺溪雲山福高郡川吾

教育、社、宗教、都邑、名所舊蹟

社寺宗教

由來國運の隆昌は人心の歸趨にあり、人心の歸趨なくんば國運たる意草も一片の空葉に終らんのみ。本縣社寺の現況を見るに、他の各府縣に大いに其の趣を異にし、神社數非常に多くし、寺院數少し、それ本縣人が神社崇の念の熾烈にして、嘗て當局の神社合併方針の妥當なるを思はずんばあらず即ち國幣中社一、縣社一〇、郷社二〇、材社二七四、無格社三四一〇、合計四、九〇五なるに對し寺院は、天皇家四五、真言宗三九、淨土宗一七、臨濟宗一七、曹洞宗一九、真宗八一、合計一四七、之れに依つて之を見れば、本縣は神社數及無格社數多く而して寺院の三分の一に無任にして他の業極を受くるの状況にありて、敬神し信仰に非常の軒軋あるを見るべし。



社神見重津三梅

都邑

高知市 舊山内氏の城下にして高知縣の所在地なり、位



株式會社 取締役社長

### 長野源吉君

高知市蓮池町三

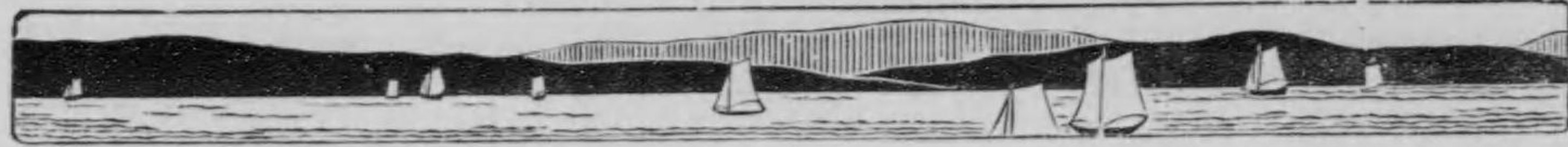
長野源吉君の先代が時勢に鑑みたる所あり、祖先傳來の業を廢し、明治二十三年高知市に出で、當時日本基督高知教會の有志が發起を以て組織せる地産商會の餘り振はざるを譲り受け創業せしものにして、凡の千の字の商標は、相愛商會時代より已に使用しつゝありしものなり、然して先代は、夙に土佐紙の聲譽をして業内に譽揚せしむる事に努力し、當時香風の極に達せし紙業組合を率先破産して、斯る健全なる今日の土佐紙業組合を建設し、又最も早く海外輸出に著目して、國內外の有力なる同業者を圍り、横濱市に日本紙輸出合資會社を起し、純日本紙の聲譽を海外に譽揚せしむるに至れり、（現在の横濱市東區にある土佐紙株式會社支店は即ち其の後進にして、現社長の令弟源吉君自らつて支店長となりて今日に迄べり）斯くて、事業の發展するに隨ひ、大阪、札幌、伊野に支店を置き其他全國極要の地に皆く取引を爲すに到りしが、日清戰役後、更に土佐實業界の先覺者數名と計り、奉議



教育の建設には最も與つて力あり、又、彼の有名なる三建白雲事件の際、黨の子弟を率ひて先半片岡源吉氏に従ひて、船を國事に奔走し、政界に在りても、信望最も厚きものあり、土佐紙業今日の發達に幾少からざりしに、今や即ち榮も、惜みても尚餘りあること云ふべし

實に於て先考の遺業は同一代源吉の君に依りて繼承せられしが、君が能く先考の志を心に銘して努力奮闘せるに依り逐年順調の發展を遂げ、明治四十四年九月、合名會社組織となし、大正七年二月更に株式組織に改め同時に、高知、藤原の兩地に支店を増設して、大いに業務の擴張を圖り、時勢の遷変に伴ふ機宜の施設修繕を講じず多々益々隆々たる業績を挙げ以て今日に迄べり、然して同社製品の聲譽は夙に江湖周知の事實に屬すれども、創業以來、内外地産實業の品評會等に於て、優待を授けられたるに、故に遠くならず最近高知市三百年祭に當り、勳章を授けられしは、以て、殊に貴重するものならずんばならず、同社今日の發展亦決して偶然に非ざるなり。

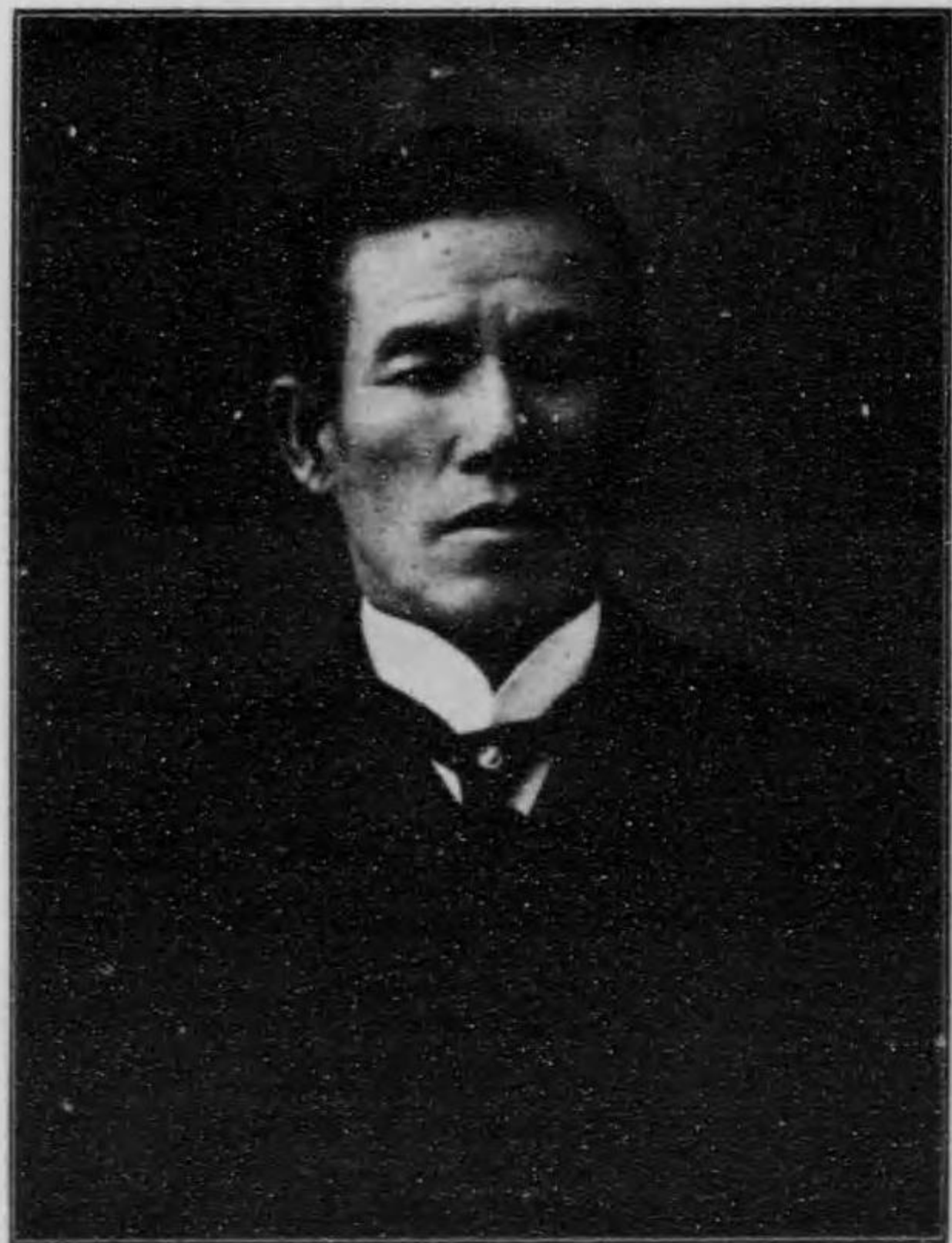
社長源吉君は昔年遺子たる人格者にして、事業の發達に隨ひて平生並進するところからず、功績あり現に土佐紙業組合長に推され、信望頗る厚し、蓋し事業に對する努力精進は以て同社今後の偉大なる發展を招致するに明して快すべきものあるなり



白洋白船株式會社社長

### 宇田友四郎君

高知市東唐人町



土佐の實業界に於ける重鎮として海運業界に覇を構へ近來聲名顯赫たるもの宇田友四郎君は、君は高知縣香美郡本町の出身にして先代は同地に於ける名門なるも、君は次男にして、家を繼ぐべき人に非ざるを以て、單身實業界に飛躍し、始の赤岡町に販物商を開業せしが、志氣高昂り、全然失敗を招きたるため、轉じて高知市に移り、實業界の脚跡を白紙し居れる折柄、君が非凡の才能あり將來大成すべき人物なるを知つて、

設立して、社長に就任し、感服の聞は高かりしも、最近セメント業の有利にして盛業あるに著目し、入りて、土佐モメント株式會社社長となり、一面、莫逆の友たる川崎三郎氏と提携して白洋白船株式會社

會社高知支店に入社し、大いに手腕を揮ひつゝありしが、後、大阪商船株式會社に入り、手腕漸次圓熟し、果して支店長となり、多年の懷抱を實現しつゝありしが、土佐商船株式會社の創立せらるゝや、推されて取締役となり大阪支店長を兼ねたるも、同社の大阪商船に買収せらるゝや、自ら電燈株式會社を創

社を起し大いに海運業界に活躍を演ずるに至れり、其後間もなくして、歐洲戰亂勃發し、事業界が未曾有の活況を呈し、従つて、セメント並に海運界の活況を帯ぶるに及んで、君が多年、各種事業に關係して、幾多の損失を蒙りしものを償ふて、著々確固たる地盤を作り

一躍して百萬の富を成し、今や我が海運業界の重きを爲し、現に白洋白船株式會社社長、合資會社宇田商會代表者、土佐モメント株式會社取締役、土佐電氣鐵道株式會社取締役、須崎水力電氣株式會社取締役、樟多水力電氣株式會社取締役、土佐東部電氣株式會社取締役、若狹水力電氣株式會社取締役たるの外、土佐石灰輸出同業組合長、商會會議所特別議員、高知市會議員、市參事等自こして、地方の公共事業に參與して、大いに功績あり、資性溫和にして、事に臨んで果敢を示し、常に轉々たる職務を有す、蓋し其の才幹は、以て當代第一人と稱すべく、土佐實業界の代表的人物なりこと云ふべし。

それにして、我國海運業の將來は、多々益々好望にして、君が努力の結果たる白洋白船株式會社の將來は、一大好況を呈すべきは極めて明瞭なること、君が四國出身の海運業界の先驅たる山下、藤田兩君三佐して、經營の爲めに氣を吐くこと、決して遠きに非ざるべく、其の將來は、大いに活況に値するものなくばあらざるなり。



### 一柳助太郎君

高知市細工町

君は愛媛縣宇摩郡長田村の出身にして、幼少の頃歐文に從ふて高知市に來つて居す。初の一小舗の丁種となりたるも、數年後同商店が失敗のため閉店するや、赤貧洗ふが如き實業に歸りて、漸くにして歐文に從ひ歐文の製造に従事し、細心の利を重ね、其製造に係る「大つふ菓子」は大いに江湖の評を招來するに至れり、其後砂糖消費税の値上げを聞くや、四圍の情勢より必ず若かあるべしとなし、多數の砂糖を賣り占む一時に巨利を得るに至れり、斯の如く君は商に努力奮闘を以て始終したるのみならず、性來の商才を活かして運用の宜しきを得たるを以て、今や巨富を築み高知商界の重鎮として稱する者なり

#### 未 着

州航株式會社社長、土佐航船株式會社取締役

君は高知縣安藝郡川北村の出身なるが、小壯より政治經濟の學を修め、其學校教育を了るに共に高知に歸り十甫新聞の主筆となり、温健の筆致を以て知らる。明治二十三年渡歐に遊びて大いに開眼する所あり、歸來、高知新聞を起して、創立するに及んで、社手業主となり、大いに人望あり、明治四十一年初めて、衆議院議員に當選せしが、爾來、四圍の總選舉に當選の榮を獲りて今日に至れり、然し代議士となり中央政界に入りて以來、新政黨の組織に盡心し、或は國民黨の創立、同志會の組織、黨政界の樹立等何れも其の中軸となりて活躍し、常任幹事又幹事長の地位を期待せらる。今夏、新に日本高速鐵道株式會社、資本金三百萬圓を起して創立するや、社長に就任し、大いに實業界に新生面を開拓しつゝある、資性、圓満厚の士にして、毫も主角なく、且つ多年政界に於て洗練されたる政治的手腕は、又多に圓熟し來れるの數あり、熱誠を吐露した、國家百年の長計を論じて、議政壇上に放吼するに方自強たる其反對黨たるを問はず、大いに人をして感動せしむ、彼大隈は君の最も私淑せる人物にして、君の所謂高遠の理想も彼大隈の一點點細相通するものなくんばあらず、蓋し土佐を代表する當代政治家の第一人たり當、年四十七歳

### 富田幸次郎君

東京牛込區若宮町



占行理に憲政會社、高知縣の議員たり、小壯政家として、大いに其の將來を

君は高知縣安藝郡川北村の出身にして、幼少の頃歐文に從ふて高知市に來つて居す。初の一小舗の丁種となりたるも、數年後同商店が失敗のため閉店するや、赤貧洗ふが如き實業に歸りて、漸くにして歐文に從ひ歐文の製造に従事し、細心の利を重ね、其製造に係る「大つふ菓子」は大いに江湖の評を招來するに至れり、其後砂糖消費税の値上げを聞くや、四圍の情勢より必ず若かあるべしとなし、多數の砂糖を賣り占む一時に巨利を得るに至れり、斯の如く君は商に努力奮闘を以て始終したるのみならず、性來の商才を活かして運用の宜しきを得たるを以て、今や巨富を築み高知商界の重鎮として稱する者なり

### 濱口恒十郎君

高知市金の橋

君は高知縣安藝郡川北町の生れにして、慶應二年を以て生る幼名を百馬と稱し、十六歳の時家濱口家より入りて養子となり、後養父の名を襲いて恒十郎と稱す。天性、不羈、剛毅にして物に屈せず、金剛には當時の碩學伊藤蘭林先生に、師事して和漢の學を修め、大いに家業に勉勵せり、養父の病没後、其業を繼ぐに及び、呉服、雜貨商の外、金銀貸付けを開始し又、物業經營に志し、明治二十四年に物業を開始し、土佐木棉結城織を案出し且つ改良色織を興け、其後織二百の機所を開き教師を聘し女工を養成し、逐年其規模を擴大するに至れり、嘗て一面、旭製糸場社長、高知縣議員等の要職を占たるにありて夙業なるべきことを訓育して、之不指導に當り所少からず、蓋し君が運取の氣業の充満せるは川北人にして、極に見る所にして亦君が今日、方の覇を稱ふるに至りし所以たりんばあらず、又は右の外、向廣く實業界に活躍しつゝあり現に土佐製木株式會社監査役、徳島河川水産株式會社、土佐製紙株式會社取締役、大東通業株式會社取締役、等に就任せり、又一面、高知縣議員、川北町議員、所稱

#### 未 着

高知縣議員、川北町議員、所稱

君は高知縣安藝郡川北村の出身にして、幼少の頃歐文に從ふて高知市に來つて居す。初の一小舗の丁種となりたるも、數年後同商店が失敗のため閉店するや、赤貧洗ふが如き實業に歸りて、漸くにして歐文に從ひ歐文の製造に従事し、細心の利を重ね、其製造に係る「大つふ菓子」は大いに江湖の評を招來するに至れり、其後砂糖消費税の値上げを聞くや、四圍の情勢より必ず若かあるべしとなし、多數の砂糖を賣り占む一時に巨利を得るに至れり、斯の如く君は商に努力奮闘を以て始終したるのみならず、性來の商才を活かして運用の宜しきを得たるを以て、今や巨富を築み高知商界の重鎮として稱する者なり

### 川崎幾太郎君

高知市本町



君が現に關

君は高知縣安藝郡川北村の出身にして、幼少の頃歐文に從ふて高知市に來つて居す。初の一小舗の丁種となりたるも、數年後同商店が失敗のため閉店するや、赤貧洗ふが如き實業に歸りて、漸くにして歐文に從ひ歐文の製造に従事し、細心の利を重ね、其製造に係る「大つふ菓子」は大いに江湖の評を招來するに至れり、其後砂糖消費税の値上げを聞くや、四圍の情勢より必ず若かあるべしとなし、多數の砂糖を賣り占む一時に巨利を得るに至れり、斯の如く君は商に努力奮闘を以て始終したるのみならず、性來の商才を活かして運用の宜しきを得たるを以て、今や巨富を築み高知商界の重鎮として稱する者なり



### 井上作次郎君

高知市橋屋町

君は眞珠、珊瑚、琥珀、加工品の貿易を營なむ。本店を高知市橋屋町に、支店を東京神田今川橋、神戸、中山、手通、四丁目、出張所長崎、五島野、江尾に有し、我邦産業界の覇者として知らる。然して企業は其の先代が明治元年創設せしものを繼承し今日に至るものなるが、君は斯業に實際的経験豊富なる實業界の雄飛して高知銀行、土佐銀行、土佐製紙株式會社、土佐製水株式會社監査役、土佐貯蓄銀行取締役に就任し、一面商業會議所議員、高知縣物産陳列場出品協會會長として聲あり、風に土佐實業界の元老たり、本年四十六才。

未着

のみならず、商略に於ても非凡の才能あり、鋭意斯業に奮闘し遂に今日あるを得たるなり。現に本業の外國地方の

### 入交源十郎君

高知市本町

君は安藝郡畑村の出身にして明治二十九年、獨立し商業を開始せしが、三十八年に到りて將來海運業の有望なるに著眼し、同業業陶磁器商を營なむ以て今日に至れり、蓋し今日あるを得たる所以のものは一は先見の明ありしに基因するものなり、二は亦銳意奮闘努力せるの賜たらんばあるに非ざるなり、現に數隻の船隻を有し、今大の



戦時利得の著しきあり百萬の富を加へたるは能く人の知る所に於て、將來の繁栄すべき發展を期待せられつあり、實性、沈着にして

### 井上鹿次君

高知市高岡町

君は地方有数の資産家にして、今を去る六十年前先代が創業したる製紙業を繼承したるものなるが、時勢の進歩に伴ひ、其間幾多の改良を爲し、専ら製品の向上進歩の努力す、所あり、事業大いに振ふに在り、爾來大いに販路を擴張して、今や製紙輪を事業とし、製紙に重きを爲す、其性質まさるの氣概あり、蓋し斯くは君が今日を致せる所以にして、又大いに望み、將來に屬せらるゝの所以なり、君年四十八

未着

製紙業の雄飛して高知銀行、土佐銀行、土佐製紙株式會社、土佐製水株式會社監査役、土佐貯蓄銀行取締役に就任し、一面商業會議所議員、高知縣物産陳列場出品協會會長として聲あり、風に土佐實業界の元老たり、本年四十六才。

### 濱口駒次郎君

大阪市西長堀

君は海運界の雄飛したる同氏は高知縣高岡郡畑村の出身にして、獨り不遇に有る轉里に於て商を營なむし、意の如くならざるに決し、小輪士を去て神戸に來り知人の經營せる種互會社に勤め、後獨立して運見商を營むに至れり、時日落戦後は氏の事業に運の機を與へ相當の利益を獲得せり、後を見るに敵なる氏は海運界の現任將來に著眼し、船隻を購ひ以て海運業を營なむに至り、時局は斯業の好を有せず、常に言ふ處の運船したるもの其例の一屬にして、氏は吾人の財は之れ財界の財なり、則ち財界より依託を受け、之れを社會の公益に使用する可きものなれば、其用途に留意すべし、此の言や、見たり、蓋し以て浮薄なる成金者流の戒めとして、大に呼ばふべし、現に大阪市會議員の公職にあり。



### 濱川圭造君

安藝郡奈牛町

君は安藝郡奈牛の名家にして古より酒造を業せしも當代に至り、税制の改革に適ふや、之を廢して廣く實業界の人となりしものにして、明治三十九年頃より、掃蕩事業に精力を傾注する事あり、四十年五月に至り、現に土佐掃蕩會社創立し、其代現に奈牛町郵便局長の公職に在り、資性温厚にして、事に當つて忠實なるのみならず、仁懐の心篤く、俸俸の凌ぐたるものあり、大正二年五月、逓信大臣より褒状を受け、大正四年十月正八位に叙せらる、七之助と稱せしが、曩に圭造と改稱せり。



表社員たるが、其他、高知活動寫眞株式會社取締役、土佐石材株式會社監査役たり、尙平生公共事業に専修し、始の村會議員となり、更に郡會議員となり、

### 濱田幸衛門君

高知市浦戸町

君は香美郡浦戸の出身にして、現代幸右衛門氏の實弟なり、久元を以て生る、明治十九年、市内種崎町に炭炭商を開店し、漸次發展するに伴ひ、更に現在の所に移つて、以て今日に及び、幼名は吉吉と稱せしも、先代の物故するや、幸衛門と改めたる

未着



### 畠中半次君

高知市通町

君は香美郡畠中の家庭に産し、幼少の時志を立てて空手一貫以て高知の城下に於て獨力力行し、小賣行商を營む事久しかりしが、其努力無間の空しからず、遂に今日の如き縣下有數紙紙輸出、原料販賣業を經營するに至りしは、君の勇往邁進努力を以て聲名する又、空手宏業以て今日あるに至れる又、温良ならず、其性温良にして聲名厚く、手親と人格は亦推して知るべきなり。



の賜にして餘り他に之を見ざる長足の發展を招來し、支店を高知市、日ノ出に工場を同市通町四丁目、設け、大いに斯界に活躍せり、天資

### 徳平元太郎君

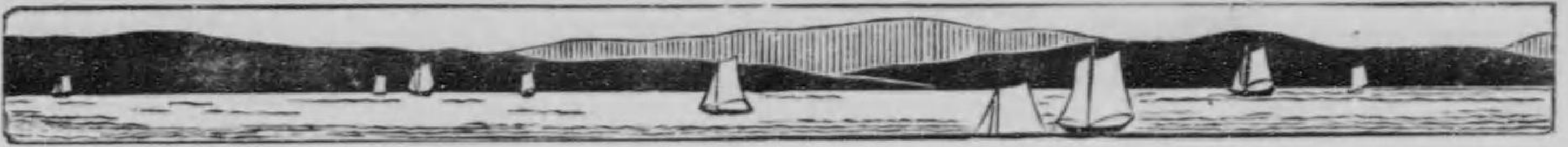
高知市北本公人町

君は高知有数の資産家にして明治二十六年製紙業を開始したるが、爾來、銳意奮闘せしむつ時に努邁するの施設經營を誤らざりしかば、家業大いに發展して、今や白熱的發展を招致するに目たり、古き製紙業にして聲あり、本年四十四歳。



至れり、資性温良にして、明敏能く時勢を遠觀し、斯業に一旦精力を傾注す、風に商業會議所議員





大阪電燈常務取締役 千頭茂樹君

君は高岡郡高石村の出身にして四十一年京都帝國大學法科を卒業直ちに實業界に入り、日本生命保...

未着

佐川郵便七位勲八等 川田豊太郎君

君は高知縣土佐市に生る幼にして學を嗜み中等學を了して明治二十九年佐川郵便局長...



横山榮技君

君は父宗太郎氏の長男にして年少の頃より實業に志し、第二中學校卒業後、更に慶應義塾に入り...

未着

貴族院議員 竹村與左衛門君

君は縣下屈指の實業家にして金物商を営みつゝあるが、資性温厚和藹の人格者にして重望あり、現に...



大谷順作君

君は高知縣安藝郡土居村の出身にして、明治三年に生る、舊に早稲田大學に學びしが業を了ふるや官...

未着

輸出紙商 刈谷勇馬君

君は夙に製紙業の有望なるに著目し明治二十九年新業を創設するに共謀之が改良進歩に努力...

未着

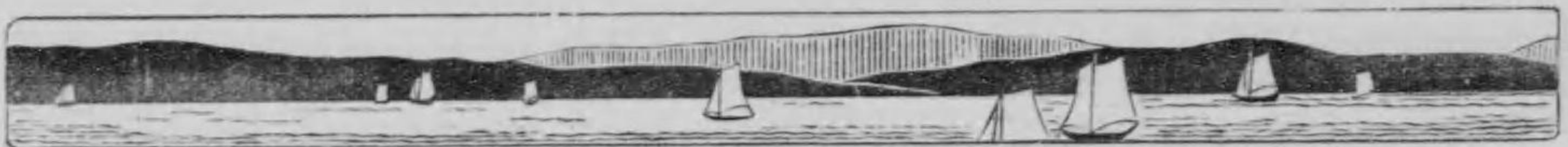
田中甚三郎君

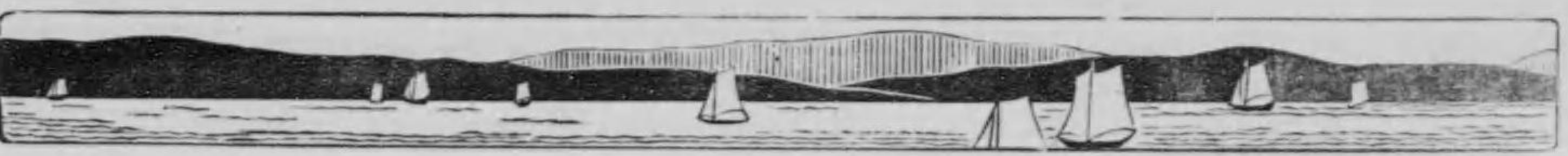
君は酒造及水産を業とせざるも、夙に政治に興味を有し、町會議員、郡務委員たりしこと前年、現に...

未着

製紙業 竹村金吾君

君は明治四十二年五月製紙業を創設せしが、元來斯業に多大の経験あるのみならず、現代的製造にし...





### 根來 鐵治 君

高岡郡高岡町

君は乃父鐵次氏の長男にして幼にして實業に志あり、乃父が大坂市に支店を設立するや、學を成して出て、自ら經營の衝に當りし。其ありしが、後年鐵次氏の引退するや、其紙業、糖業、肥料、木炭、礦山物業を繼承し、目下同市下知町兵庫川崎町、大阪西區古川町に支店を設け大いに新界に活躍しつゝあり、然して先年、東元三郎氏一派と結んで金融會社を起し、經營の衝に激りつゝあるが、右の外、神戶生命保險株式會社高知代理店主任たり、資性濃厚、國體總務にして何人に接すも、難極めて可成なるは、偶以て君が人物を知るに足るべし。年四十四有二。



未 着

### 輸出紙商 中田 虎之助 君

高知市通町

君は乃父虎次氏の長男にして幼にして實業に志あり、乃父が大坂市に支店を設立するや、學を成して出て、自ら經營の衝に當りし。其ありしが、後年鐵次氏の引退するや、其紙業、糖業、肥料、木炭、礦山物業を繼承し、目下同市下知町兵庫川崎町、大阪西區古川町に支店を設け大いに新界に活躍しつゝあり、然して先年、東元三郎氏一派と結んで金融會社を起し、經營の衝に激りつゝあるが、右の外、神戶生命保險株式會社高知代理店主任たり、資性濃厚、國體總務にして何人に接すも、難極めて可成なるは、偶以て君が人物を知るに足るべし。年四十四有二。

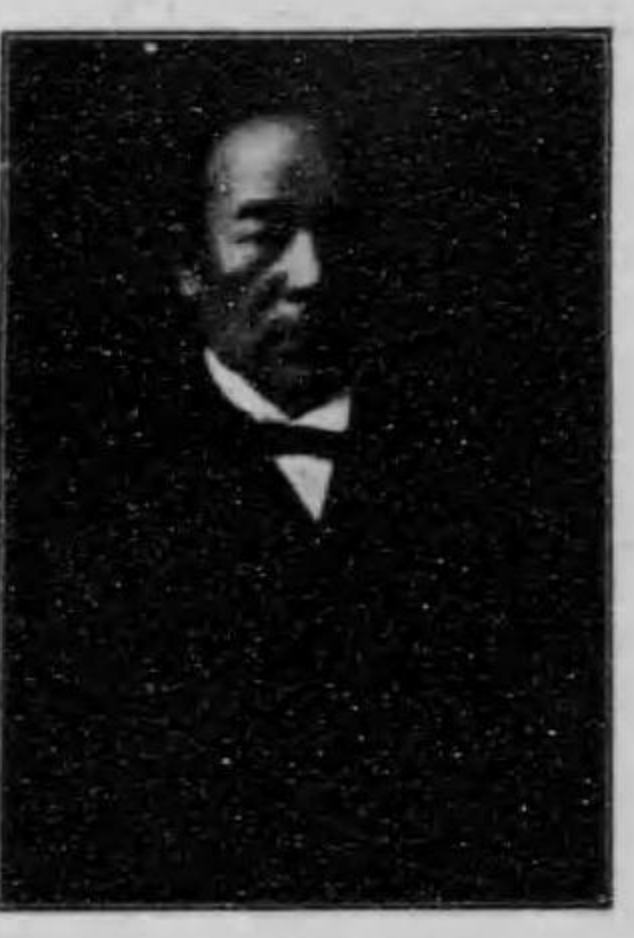


未 着

### 紙業界之元老 上田 哲次郎 田

吾川郡伊野町

君は安政元年を以て生る、夙に國産製紙業に従事し、漸次發展を招きたるを以て、今や組織を改め、資本五十萬圓を以て株式會社上田商店を經營しつゝあり、從來推されて幾多の公職及會社重役たりしが、現に吾川郡公署、商船運送組合事務たり、資性濃厚、夙に新界の元老たるを失はず。

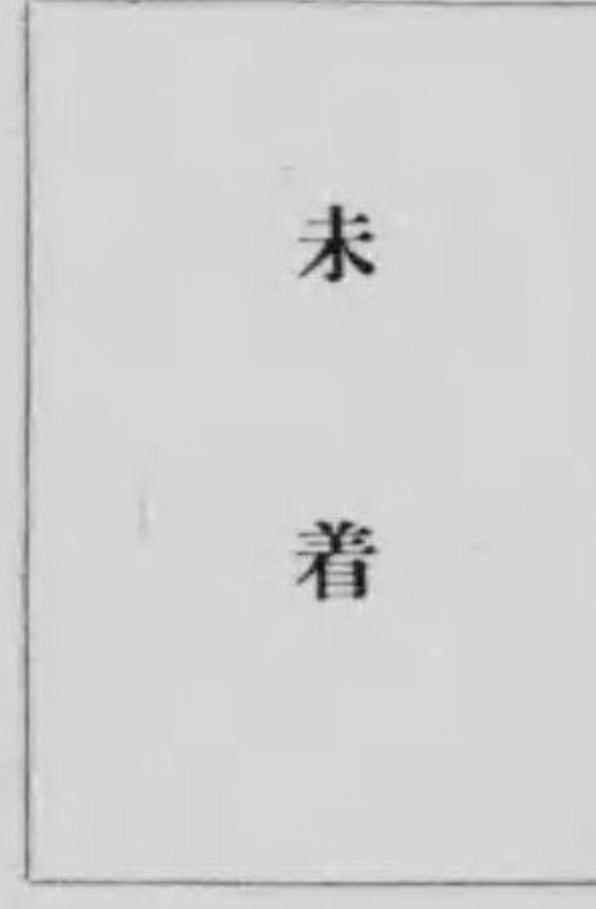


未 着

### 町田 仁仙 太 君

吾川郡伊野町

君は元伊野町實業學校長たり、轉じて伊野町助役、町長等に推され、或は所得税調査員となりて公共の爲めに功績は著しきものにして、其功勞は淫すべからざるものあり、其の後職然して實業界に入り、土佐製紙株式會社取締役社長に就任し、大いに奮み、初くも實業不振ならば之を知らざれば、斯は以て土佐製紙會社の品質改良進歩せしむるに資す所少なからざるなり、蓋し高知新界の重鎮たるを失はず。年四十四歳。

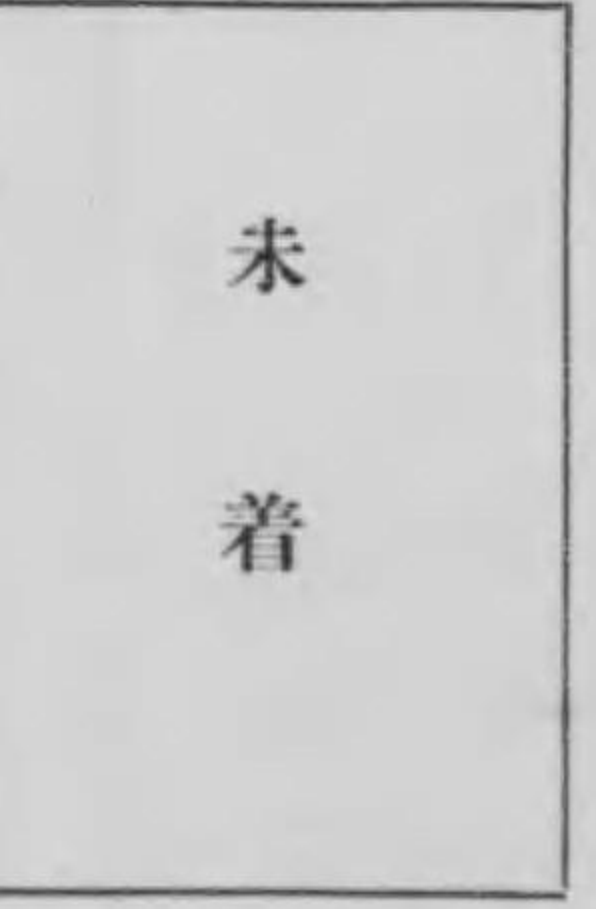


未 着

### 製紙輸出業 中平 傳吉 君

高知市通町

君は明治四十三年一月、製紙業の有志なるを見て、新業に従事し、糖紙の輸出、製紙原料を營みつゝあるが、兼ねて實地の經驗豐富なるのみならず、手腕に非凡なるものあり、且つ鋭意努力したるを以て、業務は漸次進展して、今や一大盛況を呈するに至れり、君資性濃厚にして努めて實業を旨とし、深く粗製濫造の弊弊あるを慨の致意に貢獻するの人なるを以て、信望の頗る高きものあり、高知市に於ける新界の重鎮と稱して知る、年三十一歳。



未 着

### 製紙輸出商 中田 鹿次 君

吾川郡伊野町

君は豊かなる家庭に成育され、幼少にして勉勵努力を以て生命をなす。其後、吾川郡伊野町に支店を東京日本橋區小堀町、大阪西區長崎北通町、高岡郡伊野町に有し、製紙工場を伊野町に設け、先年富成すに止まらず、實業の發展を招きたるを以て、信望の頗る高きものあり、高知市に於ける新界の重鎮と稱して知る、年三十一歳。



未 着

### 製紙業 前田 芳吾 君

高知市通町

君は吾川郡伊野町の一家村に生る、夙に實業に志あり、明治二十八年十月、製紙業を初めしが、爾來、斷斷努力、勲偉力行、幾多の幸蒙を蒙り、遂に今日あるに至れり、現に市議員、信用組合議員に推さる、蓋して以て範たるに足れり。



未 着

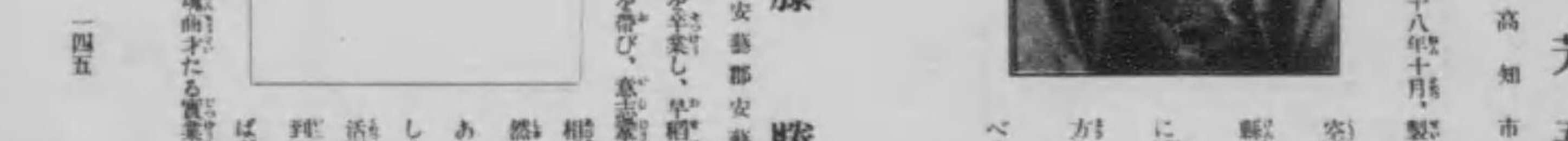
### 近藤 勝 君

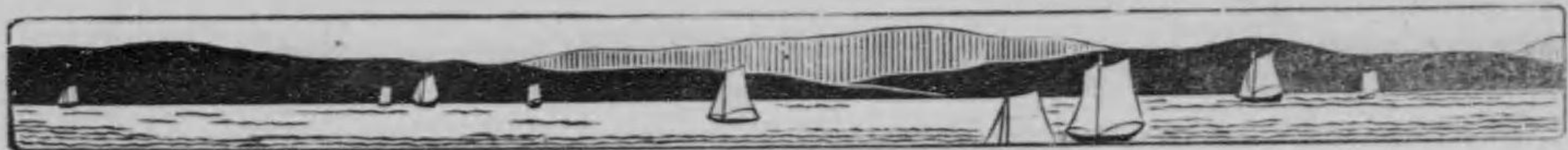
安藝郡安藝町東濱

君は年少にして既に實業界に志あり、明治三十六年第一中學校を卒業し、早稲田大學商科を出るや、直ちに實業界に入り、肥料商を經營せるが、君は先天的實業家の素質を帯び、意志堅固にして、能く艱難に堪へ、而も非難に堪へ、能く難關を解せりしかば、遂年實業に勵進の發展を招きたるを以て、今日あるに至れり、資性濃厚にして、謙遜の美德を有し、初くも人々の發展を招きたる所以たらんば、君の如きは、高知新界の重鎮と稱して知るべし。年三十四歳。



未 着





### 五藤正形君

高知市 帯屋町

君は安藝郡、土原村の出身にして慶應二年八月を以て生る。長じて中學を修めしが、曾て山之内侯に仕へし祖父が慶應後所領の財を以て山林及土地を購ひ、後年に保の長計を策し、之を先考に傳へしを、乃父の没後繼承して、林業の公営的事業なるを思ひ現に武揚協賛、高知實業高等女學校長たり、又曾ては推されて代議士、縣會議員、市會議員たりしこあり、其の公共事業に盡せる功績は故郷に遠あらず、好んで讀書に親む

未着

君は、農科大學林學科の出身にして、山林局技師、御料局技師たりしこあるも、事業界の傑物譽れ々たる一官吏に甘んぜんや、後辭して實業界に入り、自ら林業を經營して、自己が多年の遺業を傾注し其の理想指針の實現するに至り、今や雄大な發展を招來して、同地方林業界の重鎮たるが向々各種の事業に關係し現に安藝水力電氣株式會社取締役社長、土佐紡績會社取締役社長に立を擔持せり、蓋し君はがる地歩を占めつゝある人に似ず、小心冀々たるものあるは、君が大成する所以の途にあらず、吾人の大いに君の爲めに惜むべき所す、本年五十一歳。

### 從六位 北川格太郎君

安藝郡 安藝町

未着

君は、農科大學林學科の出身にして、山林局技師、御料局技師たりしこあるも、事業界の傑物譽れ々たる一官吏に甘んぜんや、後辭して實業界に入り、自ら林業を經營して、自己が多年の遺業を傾注し其の理想指針の實現するに至り、今や雄大な發展を招來して、同地方林業界の重鎮たるが向々各種の事業に關係し現に安藝水力電氣株式會社取締役社長、土佐紡績會社取締役社長に立を擔持せり、蓋し君はがる地歩を占めつゝある人に似ず、小心冀々たるものあるは、君が大成する所以の途にあらず、吾人の大いに君の爲めに惜むべき所す、本年五十一歳。

### 櫻木滿之助君

高知種 崎町

君は舊に海軍人たりんとして、海軍學校卒業後東京海軍に入學せんとして上京したれども、體格検査に於て不合格となりたるを以て、歸郷後商業機關に從事し、今日に至れり、年少の頃より情實明敏にして大志を抱き或ひは志學會を起して精神學術の修養に資し或ひは青年實業家を獎勵し實業青年會を組織せしが、明治二十八年高知縣實業同業組合長、高知商業會議所議員、土佐商工聯合會委員、高知市會議員たり、縣下實業界の白眉たり。

未着

### 製紙及原料商 鹽田儀之助君

吾川郡 伊野町

未着

君は、製紙輸出、原料販賣、米穀、肥料業を營みつゝある新進氣鋭の人物にして、其の温體なる事業るに至れり、然して近來何事かを觀察し衛生面を開拓せんとして、あるもの、如くなるが必ずや、將來躍目に繼



### 事業家 平井惣太郎君

吾川郡 伊野町



君は、製紙輸出、原料販賣、米穀、肥料業を營みつゝある新進氣鋭の人物にして、其の温體なる事業るに至れり、然して近來何事かを觀察し衛生面を開拓せんとして、あるもの、如くなるが必ずや、將來躍目に繼

### 合名森木商店代表者 森木吉馬君

吾川郡 伊野町

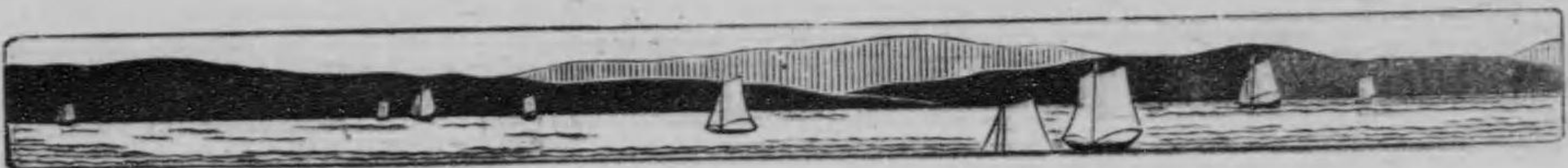


君は、製紙輸出、原料販賣、米穀、肥料業を營みつゝある新進氣鋭の人物にして、其の温體なる事業るに至れり、然して近來何事かを觀察し衛生面を開拓せんとして、あるもの、如くなるが必ずや、將來躍目に繼









藤村米太郎君

高知市農人町



君は安藝郡余利村の出身にして、嚴格なる父の訓育に依つて人となり、幼少の心友なる親友可治氏と共に、幾多の共同經營に従事し、其の利益を切...

溝上與三郎君

高知市小高坂村



君は高知縣高知郡高知村の出身にして、最初教育家たりし志し、明治二十五年、京府にて中央大學に入り、具さに苦學を重ねて、明治三十三年、第三位を以て卒業し...

大脇幾司君

高知市大川節



君は十佐財界の重鎮にして、十佐銀行が第七回立銀行と稱せし時代に入り、大いに手腕を振ふ所あり、四十四年に、輝つて同行取締役となりしが、...

武田鹿雄君

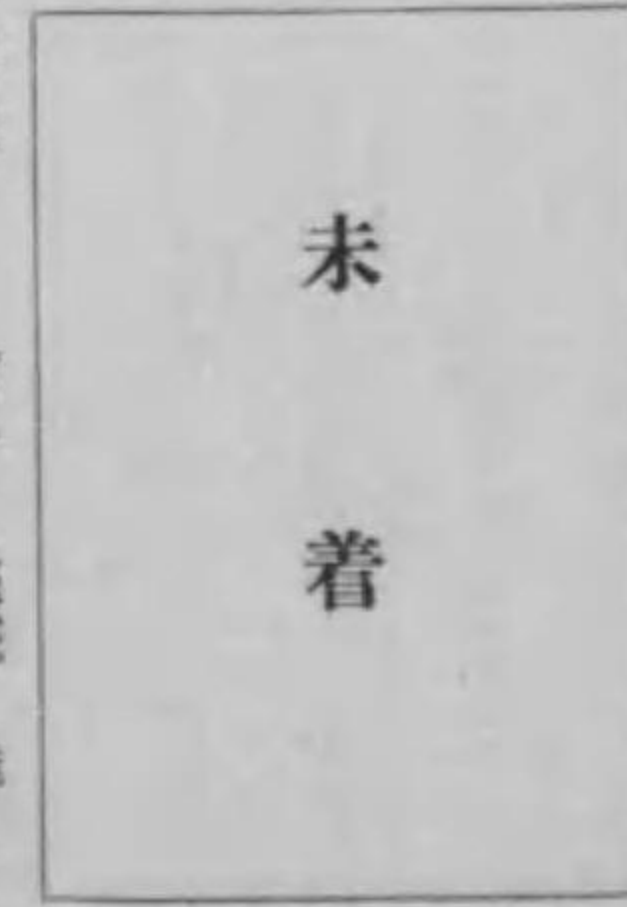
高知市中島町



君は同市北門前に於て生る、幼にして、志あり、長じて、初等及中等教育を了り、明治四十一年、京都帝國大學醫學科を卒業せしが、直ちに同大學病院に入り、...

松並喜七君

安藝郡安藝町



君は慶應元年の生れにして、風土生業製造に従事しつゝ、あるが、元來學問、事業等の見るべきものなし、雖も、天賦の明晰なる頭腦、非凡の手腕は、...

野中幸右衛門君

高知市水通町



君は高知縣に於ける實業界の立物にして、業界に知らる、現に十佐電氣鐵道株式會社取締役、白洋鐵船株式會社取締役、土佐製紙株式會社取締役、高知製紙所取締役、...

金子直吉君

兵庫縣須磨



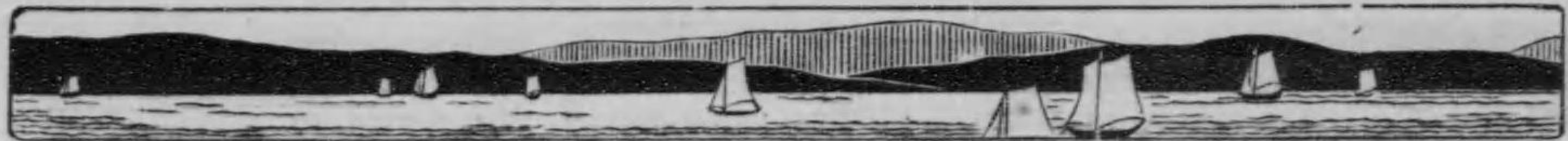
君は慶應二年高知縣安藝郡に生れ、壯にして家を轉きし、家運振はず、郷里某商店の小僧となり、其用の傍ら苦學なし、出世の志を立つ、元來機敏にして、才智に富むの氏は、神戶、神戸、木商店主に認められ、店員となり、君の偉才は遂に店務の重任を委せらるゝに至る、爾後主人没するの後は、同家の業務一切を擔ひ、自己の責任にして、店務の發展を、...

高木爲吉君

兵庫縣西ノ宮町



君は明治廿一年九月、徳島縣海部郡野村に生れ、實業界の中等校を卒業し、父を以て、京都に出で、正則英語學校に入り、修業成りて、後明治四十一年、鎌倉ライオンズ、石油株式會社、横濱支店に勤務し、爾後九州支店に轉勤、風土勤勞の樂ありしが、氏は實業に志す處あり、大正六年大阪の地に、高木商店を開設し、諸品販賣、輸入人業を營ひ、事多し、之が經營責任者として、活動なし、遂に、感奮し、向ひ同年四月、資本金百萬元の株式會社組織を、...





IT2V20

大正八年二月一日印行  
大正八年三月五日發行

非賣品

不許  
複製

大阪府北區上福島北三丁目五拾壹番地

著作兼發行人 熊澤壽太

印刷人 鹽見磨寄郎

大阪府東區農人橋筋七番地

印刷所 東亞活版印刷所

大阪府北區上福島北三丁目五拾壹番地

發行所 都大觀社出版部

終